

JP1 Version 8

JP1/ServerConductor/Control Manager

解説・操作書

3020-3-L51-30

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，
巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参
照ください。

対象製品

P-2418-6181 JP1/ServerConductor/Control Manager 08-03(適用 OS: Windows Server 2003, Enterprise Edition, Windows Server 2003, Standard Edition, Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition, Windows Server 2003 R2, Standard Edition, Windows 2000 Advanced Server SP4, Windows 2000 Server SP4)

P-2A18-6181 JP1/ServerConductor/Control Manager 08-55(適用 OS: Windows Server 2008 Enterprise Edition, Windows Server 2008 Enterprise Edition without Hyper-V, Windows Server 2008 Standard Edition, Windows Server 2008 Standard Edition without Hyper-V)

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

HP-UX は、米国 Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

Intel, Itanium および Intel Xeon は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Java 及びすべての Java 関連の商標及びロゴは、米国及びその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Microsoft Internet Information Server は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

MS-DOS(R) は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標若しくは商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

発行

2006 年 6 月 (第 1 版) 3020-3-L51

2008 年 12 月 (第 4 版) 3020-3-L51-30

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2008, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-L51-30) JP1/ServerConductor/Control Manager 08-55

追加・変更内容	変更箇所
Windows Server 2008 をサポートしました。	3.1.1 , 3.2.3 , 3.5 , 3.6 , 3.7 , 5.1.1
管理対象サーバの情報取得に関する次の機能を追加しました。 <ul style="list-style-type: none">・ 情報更新処理結果通知機能・ 情報更新機能・ リトライ機能	6.1.4 , 6.1.5 , 6.1.6
次のメッセージを追加しました。 KASN72201-I , KASN72202-W , KASN72203-E , KASN72301-I , KASN72302-W , KASN72401-I , KASN72402-W , KASN72501-I , KASN72502-W , KASN72601-I , KASN72602-W , KASN72603-W , KASN72604-E , KASN72701-I , KASN72702-W , KASN72801-I , KASN72802-W , KASN72901-I , KASN72902-W , KASN72903-E , KASN72904-I , KASN72A01-I , KASN72A02-W , KASN72B01-I , KASN72B02-W , KASN72C01-I , KASN72C02-W , KASN72D01-I , KASN72D02-W , KASN72E01-I , KASN72E02-W , KASN72E03-I , KASN72E04-W , KASN72E05-I , KASN72E06-W , KASN72E07-E , KASN72E08-E , KASN72F01-I , KASN72F02-W , KASN73101-I , KASN73102-W , KASN73201-I , KASN73202-W	6.1.4(3) , 6.1.5(3) , 6.1.6(3)

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容 (3020-3-L51-20) JP1/ServerConductor/Control Manager 08-03

追加・変更内容
クラスタシステムの運用に対応しました。
SMP 構成管理機能に対応しました。
日立総合インストーラに対応した新規インストール手順 , 更新インストール手順およびアンインストール手順を追加しました。
JP1 イベントを追加しました。

追加・変更内容

次のメッセージを追加しました。

KASN10322-E, KASN10622-E, KASN10F66-E, KASN1S799-E, KASN1S8BB-E, KASN1S8CC-E, KASN1SBDD-E, KASN1SCDD-E, KASN1SDDD-E, KASN1SEDD-E, KASN20037-E (jscmattachdisk コマンド実行時), KASN20384-E, KASN20385-E, KASN20386-E, KASN20387-E, KASN20388-E, KASN20389-E, KASN2038A-E, KASN2038B-E, KASN2038C-E, KASN2038D-E, KASN203ED-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時), KASN203ED-E (jscmsmp コマンド実行時), KASN207DA-E, KASN209C4-E, KASN20B54-E, KASN20BAE-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時), KASN20BAE-E (jscmsmp コマンド実行時), KASN20BBA-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時), KASN20BBA-E (jscmsmp コマンド実行時), KASN20BBA-E (jscmsmp コマンド実行時), KASN20BCD-E (jscmsmp コマンド実行時), KASN20BDB-E (jscmattachdisk コマンド実行時), KASN20BDB-E (jscmdetachdisk コマンド実行時), KASN20BDB-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時), KASN20BDB-E (jscmnpactivate コマンド実行時), KASN20BDB-E (jscmnprecover コマンド実行時), KASN20BDB-E (jscmsmp コマンド実行時), KASN20BDE-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時), KASN20BDE-E (jscmsmp コマンド実行時), KASN20E76-E, KASN20E77-E, KASN20E78-E, KASN20E79-E, KASN20E7A-E, KASN20E7B-E, KASN20E7C-E, KASN20E7D-E, KASN20E7E-E, KASN20E7F-E, KASN20E80-E, KASN20E81-E, KASN20E82-E, KASN20E83-E, KASN20E84-E, KASN20E85-E, KASN20E86-E, KASN20E87-E, KASN20E88-E, KASN20E89-E, KASN20E8A-E, KASN20ED9-E, KASN20EDA-E, KASN20EDB-E, KASN20EDD-E, KASN230G0-E, KASN301J9-E, KASN301JB-E, KASN301JC-E, KASN30297-E, KASN3S012-E, KASN3S0J9-E, KASN3S0JB-E, KASN3S0JC-E, KASN403A9-E, KASN403BB-E, KASN403CC-E, KASN40DBB-E, KASN501J9-E, KASN501JB-E, KASN501JC-E, KASN5S0J9-E, KASN5S0JB-E, KASN5S0JC-E, KASN5S1J9-E, KASN5S1JB-E, KASN5S1JC-E, KASN701J9-E, KASN701JB-E, KASN701JC-E, KASN702J9-E, KASN702JB-E, KASN702JC-E, KASN703J9-E, KASN703JB-E, KASN703JC-E, KASN704J9-E, KASN704JB-E, KASN704JC-E, KASN705J9-E, KASN705JB-E, KASN705JC-E, KASN706J9-E, KASN706JB-E, KASN706JC-E, KASN707J9-E, KASN707JB-E, KASN707JC-E, KASN708J9-E, KASN708JB-E, KASN708JC-E, KASN7S0J9-E, KASN7S0JB-E, KASN7S0JC-E, KASN907G0-I, KASN918G0-E, KASN919G0-E, KASN91DG0-I, KASN91EG0-I, KASN91FG0-I, KASN920G0-E, KASN921G0-E

プロセス一覧を追加しました。

追加・変更内容

次のメッセージを変更しました。

KASN10799-I, KASN108BB-I, KASN109CC-I, KASN10GAA-E, KASN10RAA-E, KASN1S111-E, KASN1S122-E, KASN1S133-E, KASN1S155-E, KASN1S1EE-E, KASN1S1FF-E, KASN1S222-E, KASN1S233-E, KASN1S244-E, KASN1S266-E, KASN1S277-E, KASN1S299-E, KASN1S2AA-E, KASN1S2BB-E, KASN1S2DD-E, KASN1S322-E, KASN1S333-E, KASN1S366-E, KASN1S388-E, KASN1S399-E, KASN1S3AA-E, KASN1S3BB-E, KASN1S3DD-E, KASN1S422-E, KASN1S433-E, KASN1S466-E, KASN1S477-E, KASN1S4DD-E, KASN1S522-E, KASN1S533-E, KASN1S544-E, KASN1S566-E, KASN1S599-E, KASN1S5AA-E, KASN1S5BB-E, KASN1S5DD-E, KASN1S622-E, KASN1S644-E, KASN1S666-E, KASN1S699-E, KASN1S6AA-E, KASN1S6BB-E, KASN1S6DD-E, KASN1S744-E, KASN1S7BB-E, KASN1S7CC-E, KASN1S7DD-E, KASN1S8DD-E, KASN1S9DD-E, KASN1SADD-E, KASN20037-E (jscmdetachdisk コマンド実行時), KASN203F0-E, KASN203F2-E, KASN203F4-E, KASN207D0-E, KASN20BCC-E, KASN20BCF-E, KASN20BD2-E, KASN20BDB-E (jscmnpswitch コマンド実行時), KASN20DAC-E, KASN250G0-E, KASN260G0-E, KASN299G0-E, KASN2FFFF-E, KASN3S022-E, KASN3S033-E, KASN3S043-E, KASN3S054-E, KASN3S065-E, KASN3S066-E, KASN3S06F-E, KASN3S087-E, KASN3S097-E, KASN3S0DD-E, KASN3S0ED-E, KASN408A9-E, KASN408BB-E, KASN408CC-E, KASN409BB-E, KASN40ABB-E, KASN40BBB-E, KASN40FBB-E, KASN4S076-E, KASN4S0A9-E, KASN4S0BB-E, KASN4S0CC-E

変更内容 (3020-3-L51-10) JP1/ServerConductor/Control Manager 08-01

追加・変更内容

日立サーバ仮想化機構に対応しました。

はじめに

このマニュアルは、JP1/ServerConductor/Control Manager の機能と使い方について説明したものです。

対象読者

このマニュアルは、Control Manager を使用して、JP1/ServerConductor の各種製品（Server Manager，BSM，および DPM）で管理しているサーバを統合管理するユーザーを対象としています。また、次の項目について理解していることを前提としています。

- Web について基本的な知識があることを前提としています。
- JP1/ServerConductor の製品である JP1/ServerConductor/Blade Server Manager，JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plus，JP1/ServerConductor/Server Manager，および JP1/ServerConductor/Deployment Manager についての基本的な知識があることを前提としています。
- JP1/Integrated Management - Central Information Master または JP1/Integrated Manager - Central Information Master と連携して使用する場合は、JP1/IM - CM について基本的な知識があることを前提としています。
- JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation と連携して使用する場合は、JP1/AJS2 - Scenario Operation について基本的な知識があることを前提としています。
- Microsoft Cluster Service を利用してクラスタシステムで運用する場合は、MSCS について基本的な知識があることを前提としています。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 概要

Control Manager の目的と特長について説明しています。

第 2 章 システム構成例

Control Manager を利用してサーバを統合管理する場合のシステム構成例について説明しています。

第 3 章 セットアップ

インストール、環境変数の設定、およびネットワーク構築の方法について説明しています。

第 4 章 クラスタシステムの構築

クラスタシステムでの運用、制限事項、セットアップおよび環境変数の設定について説明しています。

第 5 章 Control Manager の基本操作

Control Manager の Web コンソールでの基本的な操作方法について説明しています。

はじめに

第 6 章 管理対象サーバの情報管理

管理対象サーバの一覧を表示してサーバの詳細情報を参照する方法，Control Manager から管理対象サーバを操作する方法，および仮想化されたサーバを管理する方法について説明しています。

第 7 章 BSM Plus と連携した SMP 構成管理

Control Manager から BSM Plus と連携して複数サーバを SMP 構成管理する方法について説明しています。

第 8 章 JP1/IM - CM と連携した管理対象サーバの情報管理

JP1/IM - CM と連携して Control Manager の Web コンソールサービスを起動・終了する方法，およびホストの一覧を表示してサーバ情報を参照する方法について説明しています。

第 9 章 DPM と連携したデプロイメント制御

Control Manager から DPM と連携してシステムのデプロイを実行する方法について説明しています。

第 10 章 JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携したシステムの自動運用

JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携してシステム運用を自動化する方法について説明しています。

第 11 章 運用コマンド

Control Manager で使用できる運用コマンドについて説明しています。

第 12 章 トラブルシューティング

Control Manager でトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

付録 A Control Manager で使用するファイル，ディレクトリー一覧およびプロセス一覧

Control Manager で使用するファイル，ディレクトリー一覧およびプロセス一覧について説明しています。

付録 B ポート番号の変更

Control Manager で使用するポート番号の変更方法について説明しています。

付録 C メッセージ

Control Manager が出力するメッセージについて説明しています。

付録 D 障害対策

Control Manager が利用する DB をバックアップし，障害発生時にリストアできるコマンドについて説明しています。

付録 E 用語解説

このマニュアルで使用する用語について説明しています。

関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

JP1/ServerConductor 関連

- JP1 Version 8 JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド (3020-3-L52)
- JP1 Version 8 JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 メッセージ (3020-3-L54)
- JP1 Version 8 JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 リファレンス (3020-3-L55)
- JP1 Version 8 JP1/ServerConductor/Deployment Manager (3020-3-L53)

JP1JP1 Version 8 関連

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド (3020-3-K01)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager リファレンス (3020-3-K02)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager 機能拡張 (3020-3-K03)
- JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-K06)
- JP1 Version 8 JP1/Base メッセージ (3020-3-K07)
- JP1 Version 8 JP1/Base 機能拡張 (3020-3-K08)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 解説 (3020-3-K21)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド (3020-3-K22)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド (3020-3-K23)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド (3020-3-K24)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス (3020-3-K25)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 連携ガイド (3020-3-K27)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ (3020-3-K28)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation (3020-3-K42)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド (3020-3-K04)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス (3020-3-K05)

JP1JP1 Version 7 関連

- JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Console システム構築・運用ガイド (3020-3-F01)
- JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Console リファレンス (3020-3-F02)
- JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Console 機能拡張編 (3020-3-F03)
- JP1 Version 7i JP1/Base (3020-3-F04)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 解説 (3020-3-F06)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド (3020-3-F07)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド (3020-3-F08)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド (3020-3-F09)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス

(3020-3-F10)

- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 関数 (3020-3-F11)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 連携ガイド (3020-3-F12)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ (3020-3-F13)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation (3020-3-F23)
- JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Central Information Master システム構築・運用ガイド (3020-3-F21)
- JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Central Information Master リファレンス (3020-3-F22)

読書手順

このマニュアルは、次の表に従ってお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
Control Manager の概要について知りたい	1 章
Control Manager のシステム構成について知りたい	2 章
Control Manager のインストール、環境変数の設定およびネットワーク構築の方法を知りたい	3 章
Control Manager をクラスタシステムで運用したい	4 章
Control Manager の基本操作について知りたい	5 章
Control Manager で管理するサーバの情報を参照する方法、仮想化されたサーバを管理する方法について知りたい	6 章
Control Manager で BSM Plus と連携して、管理対象サーバの SMP 構成を変更する方法について知りたい	7 章
Control Manager で JP1/IM・CM と連携してシステムを管理する方法を知りたい	8 章
Control Manager で DPM を利用してシステムをデプロイする方法を知りたい	9 章
Control Manager で JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携してシステムを自動運用する方法について知りたい	10 章
Control Manager で使用できる運用コマンドについて知りたい	11 章
Control Manager の障害発生時の対処について知りたい	12 章
Control Manager で使用するファイル、ディレクトリ一覧およびプロセス一覧について知りたい	付録 A
Control Manager のポート番号を変更する方法について知りたい	付録 B
Control Manager が出力するメッセージについて知りたい	付録 C
Control Manager の DB 障害対策について知りたい	付録 D
Control Manager を使用するために必要な用語を知りたい	付録 E

このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。次に、製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を示します。

このマニュアルでの表記			正式名称	
Cosminexus Application Server			Cosminexus Application Server Enterprise Version 6	
			uCosminexus Application Server Enterprise	
			Cosminexus Application Server Standard Version 6	
			uCosminexus Application Server Standard	
HDvM			JP1/HiCommand Device Manager	
HiRDB Embedded Server			HiRDB Embedded Server Version 7	
			HiRDB Embedded Server Version 8	
JP1/AJS2 - Scenario Operation	JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager		JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation	JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation Manager
	JP1/AJS2 - Scenario Operation View または JP1/AJS2 - SO View			JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation View
JP1/AJS2	JP1/AJS2 - Manager		JP1/Automatic Job Management System 2 - Manager	
	JP1/AJS2 - Advanced Manager		JP1/Automatic Job Management System 2 - Advanced Manager	
	JP1/AJS2 - Agent		JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent	
	JP1/AJS2 - Light Edition		JP1/Automatic Job Management System 2 - Light Edition	
	JP1/AJS2 - View		JP1/Automatic Job Management System 2 - View	
	JP1/AJS2 - Client Toolkit		JP1/Automatic Job Management System 2 - Client Toolkit	
JP1/IM ¹	JP1/IM - M	JP1/IM - CC	JP1/Integrated Management - Manager	JP1/Integrated Manager - Central Console
		JP1/IM - Central Scope		JP1/Integrated Manager - Central Scope
	JP1/IM - View ²		JP1/Integrated Management - View または JP1/Integrated Manager - View	
	JP1/IM - CM		JP1/Integrated Management - Central Information Master または JP1/Integrated Manager - Central Information Master	

このマニュアルでの表記		正式名称
JP1/ ServerConductor	BSM	JP1/ServerConductor/Blade Server Manager
	BSM Plus	JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plus
	Control Manager	JP1/ServerConductor/Control Manager
	DPM SE ³	JP1/ServerConductor/Deployment Manager Standard Edition
	DPM EE ³	JP1/ServerConductor/Deployment Manager Enterprise Edition
	Deployment Manager Adaptor または DMA	JP1/ServerConductor/Deployment Manager Adaptor
	Agent	JP1/ServerConductor/Agent
	Advanced Agent	JP1/ServerConductor/Advanced Agent
	Server Manager	JP1/ServerConductor/Server Manager
Linux または Red Hat Linux	RHEL3	Red Hat Enterprise Linux ES 3
		Red Hat Enterprise Linux AS 3
	RHEL4	Red Hat Enterprise Linux ES 4
		Red Hat Enterprise Linux AS 4
Microsoft Internet Explorer		Microsoft(R) Internet Explorer(R)
Windows 2000 ⁴	Windows 2000 Advanced Server	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System
	Windows 2000 Server	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
Windows Server 2003 ⁴	Windows Server 2003 Enterprise Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition 日本語版
	Windows Server 2003 Standard Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition 日本語版
Windows Server 2003 R2 ⁴	Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版
	Windows Server 2003 R2, Standard Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003,R2, Standard Edition Operating System 日本語版
Windows Server 2008 ⁴	Windows Server 2008 Standard	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本 語版
	Windows Server 2008 Standard without Hyper-V	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) 日本語版
	Windows Server 2008 Enterprise	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本 語版
	Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) 日本語版

注 1

他マニュアルでは、JP1/IM を JP1/IM - Console と表記することもあります。その場合は、JP1/IM - Central Console および JP1/IM - Central Scope を指します。

注 2

JP1/IM - View には、「セントラルコンソール・ビューアー」、「セントラルスコープ・ビューアー」、および「セントラルインフォメーションマスター・ビューアー」の三つの GUI 画面があります。特に断り書きのない個所では、JP1/IM - View は「セントラルインフォメーションマスター・ビューアー」を指します。

注 3

DPM SE、および DPM EE を総称して DPM と表記することがあります。

注 4

Windows 2000、Windows Server 2003、Windows Server 2003 R2、および Windows Server 2008 を総称して Windows と表記することがあります。

なお、JP1/ServerConductor/Blade Server Manager および JP1/ServerConductor/Server Manager を特に区別する必要がない場合、総称して Blade Server Manager と表記します。

このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する主な英略語を次に示します。

英略語	正式名称
API	Application Programming Interface
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
BMC	Baseboard Management Controller
CIMOM	Common Information Model Object Manager
CLI	Command Line Interface
CPU	Central Processing Unit
DB	Database
DNS	Domain Name System
ECC	Error Check and Correct
EM64T	Extended Memory 64 Technology
GUI	Graphical User Interface
IA32	Intel Architecture 32
IIS	Internet Information Server
IP	Internet Protocol
IPF	Intel Processor Family
LPAR	Logical Partition
LU	Logical Unit
LUN	Logical Unit Number

英略語	正式名称
MAC	Media Access Control
MSCS	Microsoft Cluster Service
NIC	Network Interface Card
OS	Operating System
PC	Personal Computer
SAN	Storage Area Network
SMP	Symmetric Multiple Processor
SQL	Structured Query Language
SVP	Service Processor
TCP	Transmission Control Protocol
URL	Uniform Resource Locator
WWW	World Wide Web

このマニュアルで使用する記号
このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[]	メニュー，ダイアログボックス，ボタンなどを示します。

コマンドの文法で使用する記号
コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を，次のように定義します。

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し，項目間の区切りを示し，「または」の意味を表します。 例 「A B C」は，「A，B，または C」を意味します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目の中から，必ず 1 組の項目を選択します。項目の区切りは で示します。 例 {A B C} は「A，B，または C のどれかを指定する」を意味します。
[]	この記号で囲まれている項目は任意に指定できます（省略できます）。 複数の項目が記述されている場合には，すべてを省略するか，どれか一つを選択します。 例 [A] は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを意味します。 [B C] は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを意味します。

記号	意味
… (点線)	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できます。 例 「A, B, …」は「A のあとに B を必要個数指定する」ことを意味します。
— (下線)	括弧内のすべてを省略したときに、システムがとる標準値を表します。標準値がない場合は、指定した項目だけが有効です。 例 [A B] はこの項目を指定しなかった場合に、A を選択したと見なすことを意味します。

図中使用する記号

このマニュアルの図中使用する記号を、次のように定義します。

●PC, サーバ



●ユーザー



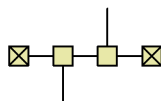
●サーバ



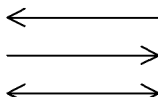
●ネットワーク WAN



●バス形のLAN



●制御の流れ



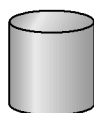
●データの流れ



●工程, 作業項目の流れ



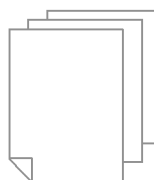
●ファイル, データベース



●プログラム



●シナリオ



●障害



Windows Server 2008 をご使用の場合の注意事項

このマニュアルでの操作手順は、Windows Server 2000 および Windows Server 2003 の場合で記述しています。Windows Server 2008 をご使用の場合は、OS に合わせて操作を読み替えてください。例えば、「アプリケーションの追加と削除」は、Windows Server 2008 では「プログラムと機能」となります。

常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語について

はじめに

は、常用漢字以外の漢字を使用しています。

個所（かしょ） 筐体（きょうたい） 桁（けた） 進捗（しんちょく） 汎用（はんよう） 必須（ひつす）

KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）, 1MB（メガバイト）, 1GB（ギガバイト）, 1TB（テラバイト）はそれぞれ
1,024 バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

目次

1	概要	1
1.1	Control Manager とは	2
1.2	Control Manager の特長	3
1.2.1	JP1/ServerConductor 製品との連携	3
1.2.2	JP1/SeverConductor 製品以外の JP1 製品との連携	6
1.2.3	障害対策	8
2	システム構成例	9
2.1	基本的なシステム構成	10
2.2	DPM と連携する場合のシステム構成	11
2.3	JP1/IM - CM と連携する場合のシステム構成	12
2.4	JP1/IM と連携する場合のシステム構成	13
2.5	JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合のシステム構成	15
3	セットアップ	17
3.1	セットアップの前に	18
3.1.1	前提環境	18
3.1.2	Control Manager の管理構成とセットアップの流れ	20
3.2	Control Manager のインストール	25
3.2.1	インストールされるプログラム	25
3.2.2	インストールの種類	25
3.2.3	インストール前の確認事項	25
3.2.4	新規インストール	26
3.2.5	更新インストール	28
3.2.6	パスワードの変更	30
3.3	Control Manager のアンインストール	33
3.3.1	アンインストールする前の確認事項	33
3.3.2	アンインストール手順	34
3.4	インストールまたはアンインストールでエラーが発生した場合の対処方法	36
3.4.1	Cosminexus のインストーラおよびアンインストーラのエラーコードと対処方法	41
3.4.2	データベースのインストーラのエラーコードと対処方法	42
3.4.3	データベースのアンインストーラのエラーコードと対処方法	43

3.4.4	データベースのセットアップのエラーコードと対処方法	44
3.4.5	データベースのアンセットアップのエラーコードと対処方法	45
3.5	管理対象サーバの設定	46
3.5.1	管理対象サーバの登録	46
3.5.2	管理対象サーバの削除	49
3.6	BSM または Server Manager の設定	51
3.6.1	BSM または Server Manager の登録	51
3.6.2	BSM または Server Manager の削除	53
3.6.3	BSM または Server Manager の変更	54
3.7	DPM の設定	58
3.7.1	DPM の登録	58
3.7.2	DPM の削除	60
3.7.3	DPM の変更	61
3.8	その他の JP1 製品と連携する場合の設定	66
3.8.1	JP1 ユーザーの操作権限の設定	66
3.8.2	Control Manager の構成情報を収集するファイルの配置	66
3.8.3	JP1/IM - View の設定	67
3.8.4	JP1/IM - M または JP1/IM - CC の設定	67
3.9	Control Manager サーバの IP アドレスを変更した場合の対処	69
3.10	Control Manager サービスの起動と停止	70

4

4	クラスタシステムの構築	75
4.1	クラスタシステムの概要	76
4.1.1	クラスタシステムとは	76
4.1.2	Control Manager をクラスタシステムで運用する仕組み	76
4.2	クラスタシステムへの Control Manager のインストールとセットアップ	79
4.2.1	インストール前の確認事項	79
4.2.2	インストール先	80
4.2.3	インストールおよびセットアップの流れ	80
4.2.4	現用系（実行系）ノード環境への Control Manager のインストール	80
4.2.5	予備系（待機系）ノード環境への Control Manager のインストール	88
4.2.6	系切り替えサービスの追加登録	90
4.2.7	同じクラスタグループに登録するリソースと依存関係	93
4.3	クラスタシステム運用時の注意事項	95

5

Control Manager の基本操作 99

5.1	Control Manager のログインとログアウト	100
5.1.1	ログイン	100
5.1.2	ログアウト	101
5.2	各部の名称	102
5.3	管理対象サーバの情報表示	104
5.3.1	サーバ種別の切り替え	104
5.3.2	詳細情報の表示	106
5.4	詳細メニューの実行	110

6

管理対象サーバの情報管理 111

6.1	管理対象サーバの情報更新	112
6.1.1	管理対象サーバの登録契機	112
6.1.2	取得できる管理対象サーバの静的情報	113
6.1.3	管理対象サーバの情報の再取得	117
6.1.4	情報更新処理結果の通知	118
6.1.5	情報更新および BSM との接続監視	129
6.1.6	情報収集処理のリトライ	137
6.1.7	管理対象サーバの情報削除契機	140
6.1.8	削除される管理対象サーバの静的情報	140
6.2	管理対象サーバの電源制御	143
6.2.1	運用コマンドで電源制御する	143
6.2.2	シナリオテンプレートで電源制御する	143
6.3	管理対象サーバに関する注意点	145
6.3.1	管理対象サーバを SMP 構成にした場合	145
6.3.2	管理対象サーバのパーティションが未確定になった場合	145
6.3.3	N + 1 / N+M コールドスタンバイ構成の場合	145
6.4	仮想化されたサーバを管理する場合の制限事項	146
6.4.1	動的情報の取得での制限事項	146
6.4.2	電源制御での制限事項	146
6.4.3	N+1 / N+M コールドスタンバイでの制限事項	146
6.4.4	運用コマンドおよびコマンドに対応した DPM シナリオの制限事項	147
6.4.5	LPAR 上で稼働しているサーバの設定での制限事項	148
6.5	LPAR 上で稼働しているサーバの削除	149

7

BSM Plus と連携した SMP 構成管理	151
7.1 SMP 構成管理機能の概要	152
7.2 SMP 構成管理機能で使用するコマンド	155
7.3 スケールアウトとスケールアップ	156
7.3.1 スケールアウトの流れ	156
7.3.2 スケールアップの流れ	158
7.3.3 スケールアウトとスケールアップの自動化	161

8

JP1/IM - CM と連携した管理対象サーバの情報管理	163
8.1 JP1/IM - CM との連携の概要	164
8.1.1 Control Manager が JP1/IM - CM に提供する機能	165
8.2 JP1/IM - CM からの起動と終了	168
8.2.1 JP1/IM - CM からの Control Manager の起動	168
8.2.2 JP1/IM - CM からの Control Manager の終了	169
8.3 管理対象サーバの一覧を表示する（JP1/IM - CM と連携した場合）	170
8.3.1 サーバを指定して表示する	170
8.3.2 サーババック（リソースバック）を指定して表示する	171
8.4 JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ JP1 イベントを通知する	174
8.4.1 JP1 イベントを JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する	175
8.4.2 Control Manager が JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する JP1 イベント一覧	176
8.4.3 JP1 イベントをフィルタリングする	179
8.4.4 JP1 イベントサービスが停止状態から復旧した場合	182
8.4.5 JP1 イベント通知に関する注意事項	182
8.4.6 JP1 イベントの属性	183
8.4.7 Control Manager が通知する JP1 イベントの詳細	186

9

DPM と連携したデプロイメント制御	221
9.1 DPM と Control Manager との連携の仕組み	222
9.1.1 DPM と連携したデプロイメント制御	222
9.1.2 SAN ブート構成のシステムに対する DPM シナリオの実行	223
9.2 Control Manager から実行できる DPM シナリオの種類	225
9.3 DPM と連携したデプロイメント制御を使用する前に	226
9.4 Control Manager で DPM シナリオを実行するまでの流れ	227

9.4.1	OS のクリアインストールの流れ	227
9.4.2	サービスバック / ホットフィックス / Linux パッチファイルの適用の流れ	229
9.4.3	インストール後のサーバとアプリケーション設定の流れ	230
9.4.4	バックアップの流れ	231
9.4.5	リストアの流れ	231
9.4.6	ディスク複製による OS インストールの流れ	232
9.5	DPM シナリオの実行	237
9.5.1	DPM シナリオ実行の手順	237
9.5.2	DPM シナリオ実行時の注意事項	242
9.6	DPM 連携時のエラーコードと対処方法	245

10	JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携したシステムの自動運用	249
10.1	JP1/AJS2 - Scenario Operation とは	250
10.2	JP1/AJS2 - Scenario Operation と Control Manager との連携の仕組み	251
10.3	Control Manager が提供するシナリオテンプレート	254
10.3.1	LPAR 上で稼働しているサーバおよび LPAR モードの物理パーティションにシナリオを実行するときの制限事項	256
10.4	シナリオテンプレート定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込む	257
10.4.1	シナリオテンプレート定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込むまでの流れ	257
10.4.2	シナリオテンプレート定義ファイルの格納先	258
10.5	シナリオテンプレートを利用したシナリオ実行までの流れ	259
10.5.1	電源制御, ディスク割り当て, N+1 / N+M コールドスタンバイおよび SMP 構成管理機能を実行する場合のシナリオ実行までの流れ	259
10.5.2	デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ	260
10.5.3	バックアップを実行する場合のシナリオ実行までの流れ	265
10.5.4	リストアを実行する場合のシナリオ実行までの流れ	266

11	運用コマンド	269
	コマンドの記述形式	271
	コマンドのデータ形式	272
	運用コマンド一覧	273
	OS ごとの運用コマンド一覧	275
	コマンドの同時実行可否一覧	278
	運用コマンド使用時の注意事項	280

jscmattachdisk	282
jscmbbackup (backup)	284
jscmdeploy (deploy)	286
jscmdetachdisk	288
jscmgetproperty (getproperty)	292
jscmgetslotinfo	300
jscmnpactivate	305
jscmnprecover	308
jscmnpswitch	313
jscmsmp -del (パーティションの削除)	317
jscmsmp -get (パーティション詳細情報の取得)	319
jscmsmp -new (パーティションの作成)	326
jscmrestore (restore)	332
jscmstartserver (start_server)	336
jscmstate (state)	338
jscmstopos (stop_os)	341
jscmstopserver (stop_server)	343

12	トラブルシューティング	345
12.1	対処の手順	346
12.2	トレースログの採取	349
12.2.1	トレースログの採取方法	349
12.2.2	トレース出力レベル	349
12.3	トラブルへの対処方法	351

付録	353
付録 A Control Manager で使用するファイル，ディレクトリー一覧およびプロセス一覧	354
付録 B ポート番号の変更	357
付録 C メッセージ	361
付録 C.1 メッセージの形式	361
付録 C.2 メッセージの分類	361
付録 C.3 Web コンソールに関するメッセージ (KASN1nnnn)	362
付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)	387
付録 C.5 サーバ制御に関するメッセージ (KASN3nnnn)	438

付録 C.6 デプロイ制御に関するメッセージ (KASN4nnnn)	441
付録 C.7 DB 制御に関するメッセージ (KASN5nnnn)	452
付録 C.8 ユーザー管理に関するメッセージ (KASN6nnnn)	463
付録 C.9 イベントログに出力されるメッセージ (KASN7nnnn, KASNAnnn)	465
付録 C.10 SVMCOM 制御に関するメッセージ (KASN7nnnn)	465
付録 C.11 JP1 イベントに関するメッセージ (KASN9nnnn)	470
付録 D 障害対策	471
付録 D.1 DB のバックアップを実行する	471
付録 D.2 DB のリストアを実行する	472
付録 E 用語解説	475

索引

481

図目次

図 1-1	Control Manager によるシステムの統合管理	2
図 1-2	Control Manager での資産情報の統合管理	3
図 1-3	DPM と連携したソフトウェアの配布管理の概要	4
図 1-4	SAN ブート構成に対する DPM シナリオの実行	5
図 1-5	JP1/IM - CM と連携した業務システムごとのサーバ管理の概要	7
図 2-1	Control Manager で統合管理する場合の基本的なシステム構成例	10
図 2-2	DPM と連携した場合のシステム構成例	11
図 2-3	JP1/IM - CM と連携する場合のシステム構成例	12
図 2-4	JP1/IM と連携する場合のシステム構成例	14
図 2-5	JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合のシステム構成例	15
図 3-1	Control Manager 管理構成の全体像(JP1/IM - CM および JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携しない場合)	21
図 3-2	Control Manager 管理構成の全体像(JP1/IM - CM または JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合)	23
図 4-1	フェイルオーバーの実行による物理ホストの切り替え例	77
図 4-2	Control Manager をクラスタシステムで運用する場合のインストールおよびセットアップの流れ	80
図 5-1	Control Manager のメインウィンドウの各部名称	102
図 5-2	[BladeServer] アンカー選択時	105
図 5-3	[Server] アンカー選択時	106
図 5-4	サーバシャーシ内のサーバー一覧の表示手順	107
図 5-5	サーバシャーシ内の各サーバの詳細情報表示	108
図 5-6	日立アドバンストサーバ HA8000 の詳細情報表示	109
図 5-7	詳細メニュー	110
図 7-1	SMP 構成管理機能の概要	153
図 7-2	スケールアウトの例	156
図 7-3	スケールアウトの流れ	157
図 7-4	スケールアップの例	159
図 7-5	スケールアップの流れ	160
図 8-1	JP1/IM - CM と Control Manager の連携	164
図 8-2	JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを起動する流れ	168
図 8-3	メインウィンドウ (JP1/IM - View でサーバを指定した場合に表示される画面)	171
図 8-4	メインウィンドウ (JP1/IM - View でリソースパックを指定した場合に表示される画面)	172

図 8-5	メインウィンドウ (JP1/IM - View でリソースパックを指定した場合のサーバモジュールスロット情報表示)	173
図 8-6	JP1/IM - M または JP1/IM - CC への JP1 イベント通知の流れ	175
図 8-7	JP1 イベントフィルタリングの流れ	180
図 9-1	DPM と連携したデプロイメント制御の概念図	223
図 9-2	DPM シナリオの実行と実行時の処理の流れ (SAN ブート構成)	224
図 9-3	OS クリアインストールの流れ (Windows の場合)	227
図 9-4	OS クリアインストールの流れ (Linux の場合)	228
図 9-5	サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイル適用の流れ	229
図 9-6	サーバとアプリケーションの設定の流れ	230
図 9-7	バックアップの流れ	231
図 9-8	リストアの流れ	232
図 9-9	ディスク複製による OS インストールの流れ (Windows の場合)	233
図 9-10	ディスク複製による OS インストールの流れ (Linux の場合)	235
図 10-1	JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携したシナリオ実行の流れ	252
図 10-2	シナリオテンプレート定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込む流れ	257
図 10-3	電源制御, ディスク割り当て, N+1 / N+M コールドスタンバイおよび SMP 構成管理機能を実行する場合のシナリオ実行までの流れ	259
図 10-4	デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ (OS クリアインストール (Windows))	261
図 10-5	デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ (OS クリアインストール (Linux))	262
図 10-6	デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ (サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルの適用)	263
図 10-7	デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ (サーバとアプリケーションの設定)	264
図 10-8	バックアップを実行する場合のシナリオ実行までの流れ	265
図 10-9	リストアを実行する場合のシナリオ実行までの流れ	266

表目次

表 3-1	インストールおよびアンインストール時に出力されるメッセージと対処方法	36
表 3-2	Cosminexus のインストーラ, アンインストーラのエラーコードと対処方法	41
表 3-3	データベースのインストーラのエラーコードと対処方法	42
表 3-4	データベースのアンインストーラのエラーコードと対処方法	43
表 3-5	データベースのセットアップのエラーコードと対処方法	44
表 3-6	データベースのアンセットアップのエラーコードと対処方法	45
表 3-7	Control Manager のサービスの一覧	70
表 3-8	イベントログに出力されるメッセージの一覧	71
表 4-1	同じクラスタグループに登録するリソースと依存関係	93
表 6-1	管理対象サーバの種類および取得できる静的情報	113
表 6-2	情報更新の契機と更新の概要	118
表 6-3	オプションファイルの設定項目と設定値	120
表 6-4	イベントログに出力されるメッセージの一覧	123
表 6-5	情報取得の契機と BSM との接続監視の概要	130
表 6-6	オプションファイルの設定項目と設定値	131
表 6-7	イベントログに出力されるメッセージの一覧	134
表 6-8	オプションファイルの設定項目と設定値	138
表 6-9	イベントログに出力されるメッセージの一覧	139
表 6-10	情報削除契機と削除 / 更新情報	140
表 6-11	管理対象サーバを電源制御する運用コマンド	143
表 6-12	管理対象サーバを電源制御するシナリオテンプレート	143
表 6-13	LPAR 上で稼働しているサーバおよび LPAR モードの物理パーティションで使用するコマンドおよび対応する DPM シナリオ	147
表 7-1	SMP 構成管理機能で使用するコマンド	155
表 7-2	SMP 構成管理機能を使用するためのシナリオテンプレート	161
表 8-1	Control Manager が JP1/IM - CM に提供する構成情報	166
表 8-2	JP1 イベント一覧	176
表 8-3	Control Manager でのイベントレベルと JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度の関係 (緊急性の低い順)	181
表 8-4	JP1 イベントの基本属性	183
表 8-5	共通情報の一覧	184
表 8-6	固有情報の一覧	184
表 8-7	Control Manager イベントと BSM アラートの対応	218

表 9-1	Control Manager のタイマ値の設定	244
表 9-2	DPM 連携時のエラーコードと対処方法	245
表 10-1	Control Manager が提供するシナリオテンプレート一覧	254
表 11-1	コマンドの説明で使用する記号	271
表 11-2	コマンドで使用する MAC アドレスおよび IP アドレスのデータ形式	272
表 11-3	管理対象サーバの情報取得および BSM 連携に関するコマンド	273
表 11-4	DPM 連携に関するコマンド	273
表 11-5	Control Manager で使用できる運用コマンド (OS 別)	275
表 11-6	コマンドの同時実行可否一覧	278
表 11-7	コマンドのタイムアウトの設定値	280
表 12-1	Control Manager のトレースログ	349
表 12-2	トレース出力レベルの一覧	349
表 A-1	パスの短縮表記	354
表 A-2	Control Manager で使用するファイルおよびディレクトリ一覧	354
表 A-3	Control Manager のプロセス名と機能	355
表 B-1	Control Manager で使用するポート番号一覧	357
表 B-2	ポート番号の指定可能な範囲	357
表 C-1	メッセージの分類	362

1

概要

この章では，Control Manager の目的と特長について説明します。

1.1 Control Manager とは

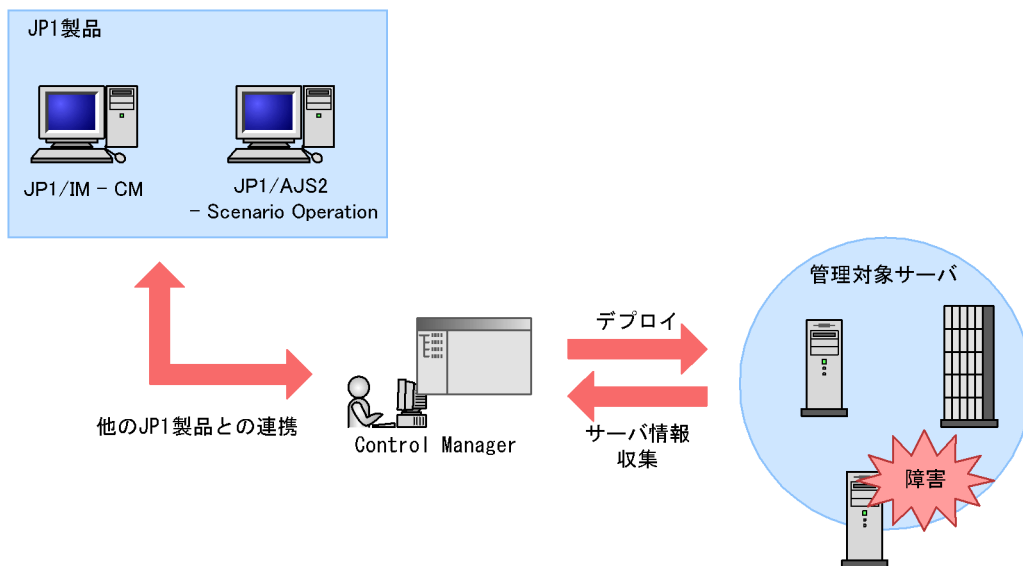
1.2 Control Manager の特長

1.1 Control Manager とは

大規模で複雑なシステムになると、管理対象サーバだけでなく、それらを管理する管理サーバの数も複数になり、また、それぞれ異なる場所に設置されている場合もあります。Control Manager では、このような大規模で複雑なシステムの場合でも、管理対象サーバを Web コンソールから統合的に管理できます。また、JP1/ServerConductor の製品だけでなく、そのほかの JP1 製品とも連携し、より高度にシステムを管理・運用できます。

Control Manager によるシステムの統合管理の概要を次の図に示します。

図 1-1 Control Manager によるシステムの統合管理



1.2 Control Manager の特長

この節では、Control Manager の特長について説明します。

1.2.1 JP1/ServerConductor 製品との連携

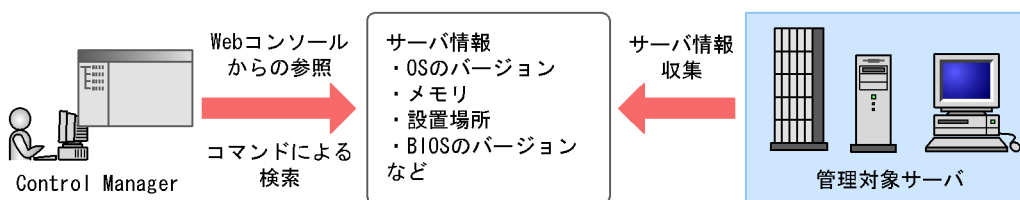
JP1/ServerConductor では、Server Manager、BSM および DPM によって、システム内の管理対象サーバの運用管理、障害管理およびデプロイメント制御を実行します。Control Manager は、これらの管理をまとめて実行するための機能を持っています。

(1) システムの資産情報を統合的に管理できます

JP1/ServerConductor で管理しているシステム内に複数の管理サーバがある場合でも、各管理サーバで管理している管理対象サーバの IP アドレス、OS のバージョン、ファンの状態などのインベントリ情報を Control Manager で取得し、Web コンソールで参照できます。また、取得した情報を基に、Control Manager のコマンドを利用して、管理対象サーバの中から条件に合うサーバを検索できます。

Control Manager での資産情報の統合管理を次の図に示します。

図 1-2 Control Manager での資産情報の統合管理



(2) 管理対象サーバの電源を制御できます

管理対象サーバの電源 ON、電源 OFF、リブート、シャットダウンを Control Manager のコマンドを利用して実行できます。管理対象サーバの電源制御は、コマンドだけでなく JP1/AJS2 - Scenario Operation のシナリオテンプレートでも実行できます。

(3) DPM と連携して管理対象サーバへソフトウェアを配布できます

DPM では、サーバの導入や管理に掛かるコストや時間の低減を図るため、サービスパックの適用、バックアップとリストアなどのソフトウェア配布機能を持っています。Control Manager は DPM と連携することで、管理対象サーバへのソフトウェア配布を一括管理できます。

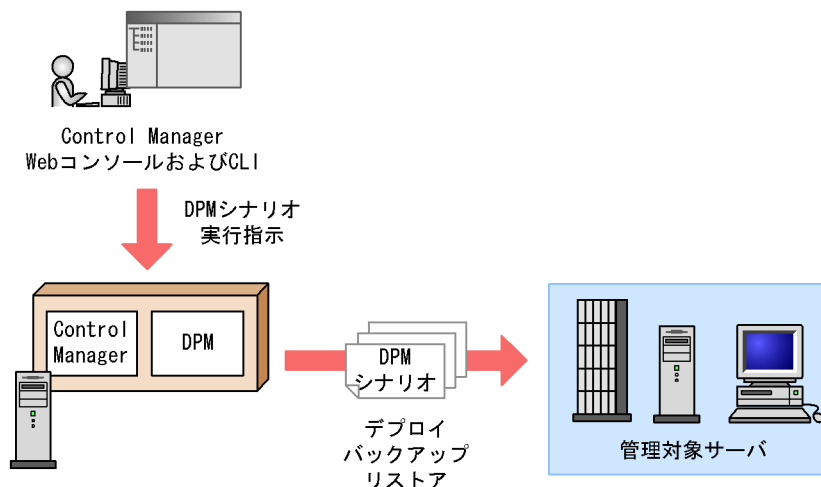
Control Manager から管理対象サーバにソフトウェアを配布するには、コマンドまたは DPM シナリオを利用します。DPM シナリオとは、OS をインストールするためのコマンドやアプリケーションを設定するためのスクリプトファイルを実行する手順を定義し

1. 概要

た、DPM 専用のファイルです。Control Manager は DPM シナリオを実行することで、ソフトウェアを配布するための一連の操作を自動的に実行できます。

DPM と連携したソフトウェアの配布管理の概要を次の図に示します。

図 1-3 DPM と連携したソフトウェアの配布管理の概要



(4) SAN ブート構成での DPM 支援機能を提供します

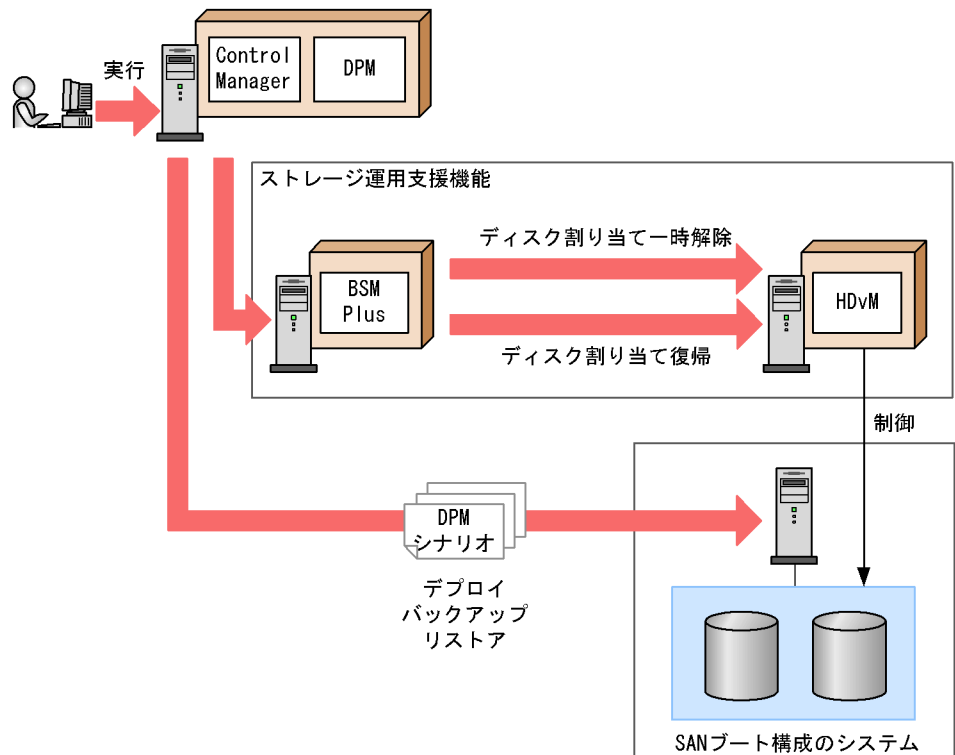
SAN ブート構成とは、業務に必要な OS やソフトウェアなどをサーバモジュールに接続した外部のストレージサブシステム内のディスクに格納し、そこからシステムを起動する構成です。

SAN ブート構成のシステムのサーバに対して DPM シナリオ（デブロイ、バックアップ、およびリストア）を実行する場合、事前にサーバに割り当てられた複数のディスクを一つに制限する必要があります。また、DPM シナリオ実行後、ディスク割り当てを元の状態に戻す必要があります。

Control Manager では、ディスク割り当て一時解除およびディスク割り当て復帰を実行するコマンド（DPM 支援機能）を提供します。これらのコマンドは、BSM Plus が提供するストレージ運用支援機能を使用します。

SAN ブート構成に対する DPM シナリオ実行の流れを次の図に示します。

図 1-4 SAN ブート構成に対する DPM シナリオの実行



(5) BSM Plus と連携して複数のサーバの SMP 構成を管理できます

Control Manager では、BSM Plus が提供する SMP 構成管理機能を、Control Manager のコマンドから実行できます。SMP 構成管理機能は、BladeSymphony で業務を運用している処理要件に応じて、サーバモジュールの構成を柔軟に変更できます。

Control Manager では、SMP 構成管理機能を利用するために、次に示すコマンドを用意しています。

- パーティションの作成
- パーティションの削除
- パーティション詳細情報の取得
- スロット情報の取得

また、JP1/AJS2 - Scenario Operation のシナリオテンプレートにシステムの運用を定義することによって、SMP 構成を変更することもできます。

(6) BSM Plus と連携して複数サーバで予備サーバを共用できます

Control Manager では、BSM Plus が提供する N+1 コールドスタンバイ構成に対する操作をコマンドで実行できます。N+1 コールドスタンバイは、BladeSymphony を使用し

1. 概要

て業務運用を行っているサーバモジュールに障害が発生した場合、現用系サーバモジュール（業務サーバモジュール）を予備系サーバモジュールに切り替える機能です。

Control Manager では、N+1 コールドスタンバイ機能を利用するために、次に示すコマンドを用意しています。

- 現用系サーバの手動切り替え
- 現用系サーバの復帰
- 予備系サーバの現用化

N+1 コールドスタンバイ機能の詳細については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド」を参照してください。

（7）Microsoft Cluster Service に対応した Control Manager の障害時のフェイルオーバーを実現できます

Control Manager は、MSCS（Microsoft Cluster Service）に対応しています。Control Manager をクラスタ構成にしておくと、片方のホストで障害が発生したときに Control Manager が動作するホストを自動的に切り替えて、Control Manager のサービスを継続して利用できます。

ただし、MSCS に対応したクラスタシステムを運用する場合、次に示す制限があります。

- Control Manager は、負荷分散を目的として構成されたクラスタシステムには対応しません。
- Control Manager では、Control Manager の情報を更新中および管理対象サーバの操作を実行中に、フェイルオーバーまたはフェイルバックが実行されない場合だけクラスタシステムを運用できます。

1.2.2 JP1/ServerConductor 製品以外の JP1 製品との連携

JP1/ServerConductor で管理しているシステムでは、JP1/IM・CM や JP1/AJS2・Scenario Operation と連携することで、システム全体の統合運用管理を実現したり、システム運転の自動化を実現したりできます。Control Manager は、JP1/IM・M または JP1/IM・CC に通知するイベント情報を発行したり、JP1/AJS2・Scenario Operation から管理対象サーバを運用操作するためのシナリオを提供したりする機能を持っています。

JP1/ServerConductor の管理対象サーバは、Control Manager を介して JP1/IM・CM や JP1/AJS2・Scenario Operation などと連携することで、それ以外のネットワーク上のサーバとともに、さらに統合して運用管理できるようになります。

（1）JP1/IM・CM から Control Manager の Web コンソールを起動できます

JP1/IM・CM と連携した場合、JP1/IM・CM から Control Manager の Web コンソールをシングルサインオンで起動できます。ログイン手続きが 1 度で済むためユーザーの手

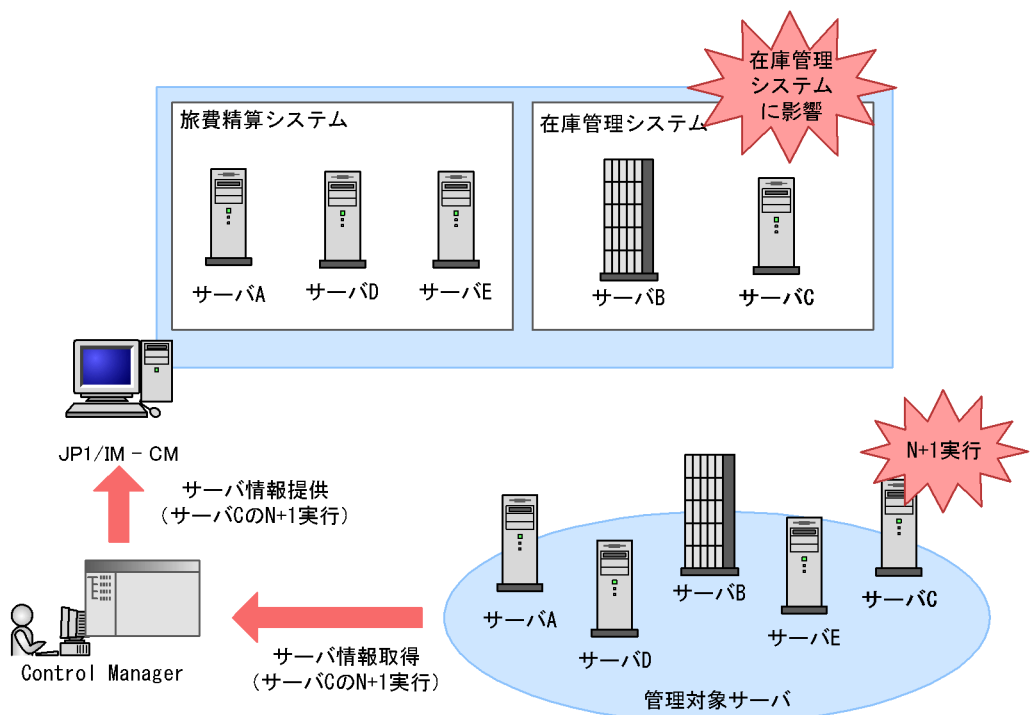
間が省けます。

(2) JP1/IM - CM と連携して業務ごとにサーバを管理できます

Control Manager は、JP1/ServerConductor で管理しているサーバのインベントリ情報を収集し、JP1/IM - CM に提供できます。JP1/IM - CM では、システム構成情報（サーバ、ディスク、ネットワーク装置など）を業務ごとにグループ化して管理できます。そのため、JP1/IM - CM と連携することで、JP1/ServerConductor で管理しているサーバの状態に変化があった場合、どの業務に影響するのかを把握できます。

JP1/IM - CM と連携した業務システムごとのサーバ管理の概要を次の図に示します。

図 1-5 JP1/IM - CM と連携した業務システムごとのサーバ管理の概要



(3) サーバの状態変化を JP1 イベントとして通知します

Control Manager は、管理対象サーバの追加・削除、デプロイメント操作の実行など、サーバの状態変化を JP1 イベントとして通知します。JP1 イベントを通知する際、条件を設定し、条件を満たすイベントだけを通知することもできます。

(4) JP1/AJS2 - Scenario Operation との連携でシステムを自動運用できます

JP1/AJS2 - Scenario Operation は、システム管理者やオペレータが持つシステム運用手

1. 概要

順やノウハウを GUI 操作によってシナリオとして蓄積し、蓄積したシナリオは必要に応じて自動実行できます。例えば、システム全体を停止させないでサーバを 1 台ずつ停止しながらパッチなどを適用するローリングアップデートのような複雑なシステム運用手順もシナリオを実行することで自動運用が可能です。

Control Manager では、サーバを管理・運用するためのシナリオテンプレートを用意しています。Control Manager で用意しているシナリオテンプレートを JP1/AJS2 - Scenario Operation に組み込んで実行することで、システム運用を自動化できます。

1.2.3 障害対策

Control Manager では、トラブルに対処するための情報として、メッセージやトレースログを出力します。トラブルシューティングについては、「12. トラブルシューティング」を参照してください。

2

システム構成例

この章では，Control Manager を利用してサーバを統合管理する場合のシステム構成例について説明します。

2.1 基本的なシステム構成

2.2 DPM と連携する場合のシステム構成

2.3 JP1/IM - CM と連携する場合のシステム構成

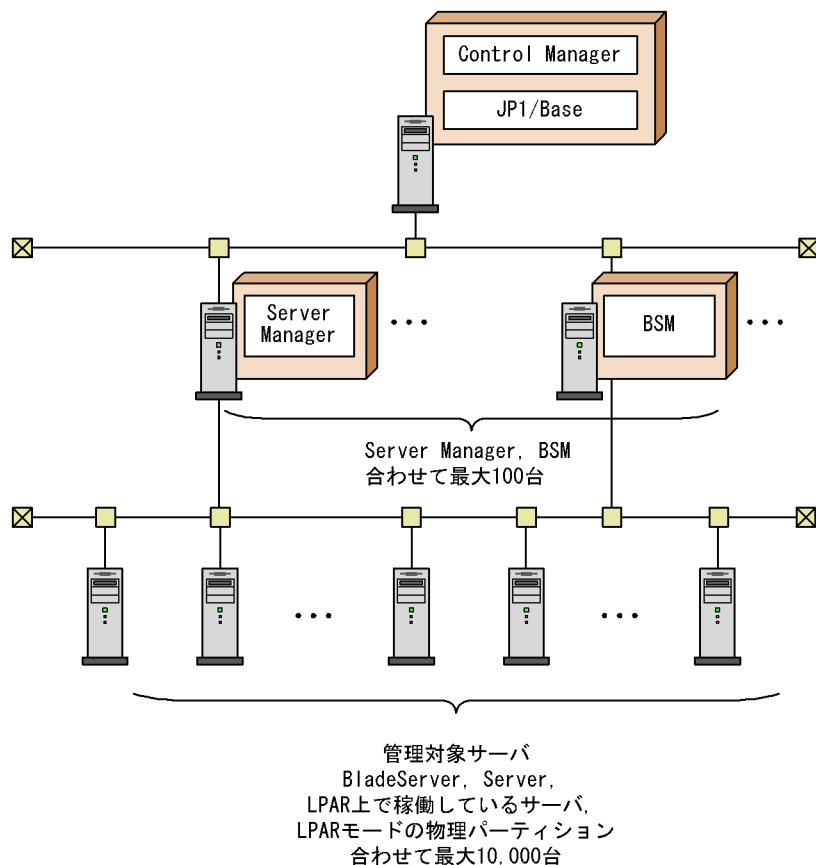
2.4 JP1/IM と連携する場合のシステム構成

2.5 JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合のシステム構成

2.1 基本的なシステム構成

JP1/ServerConductor で管理しているサーバを Control Manager で統合管理する場合の基本的なシステム構成例を次の図に示します。

図 2-1 Control Manager で統合管理する場合の基本的なシステム構成例



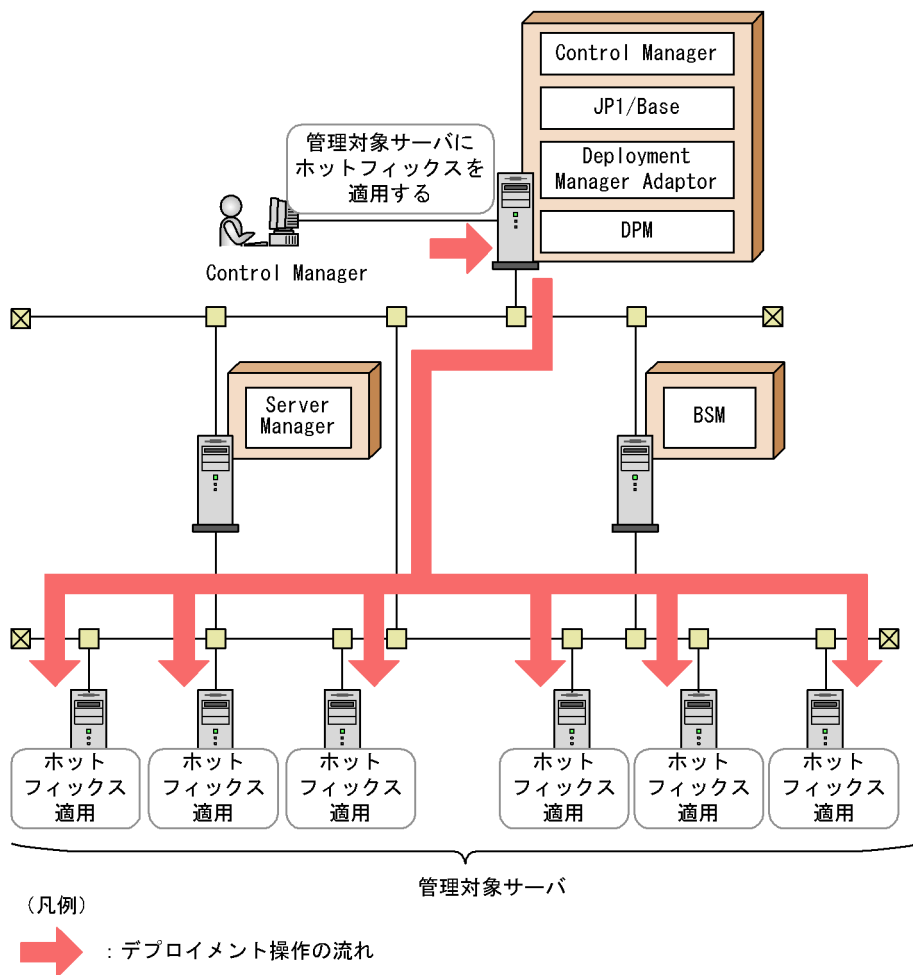
Control Manager に接続できる管理サーバは最大 100 台です。また, Control Manager では, 最大 10,000 台の管理対象サーバに対する監視および操作を実行できます。

2.2 DPM と連携する場合のシステム構成

DPM と連携すると、Control Manager から DPM シナリオを実行して、複数の管理対象サーバに対してソフトウェアの一括配布が可能です。

DPM と連携した場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 2-2 DPM と連携した場合のシステム構成例



図で示した流れについて説明します。

Control Manager からデプロイメント制御の操作を実行すると、DPM に登録されているシナリオが実行され、各管理対象サーバに対してデプロイメント操作が実行されます。

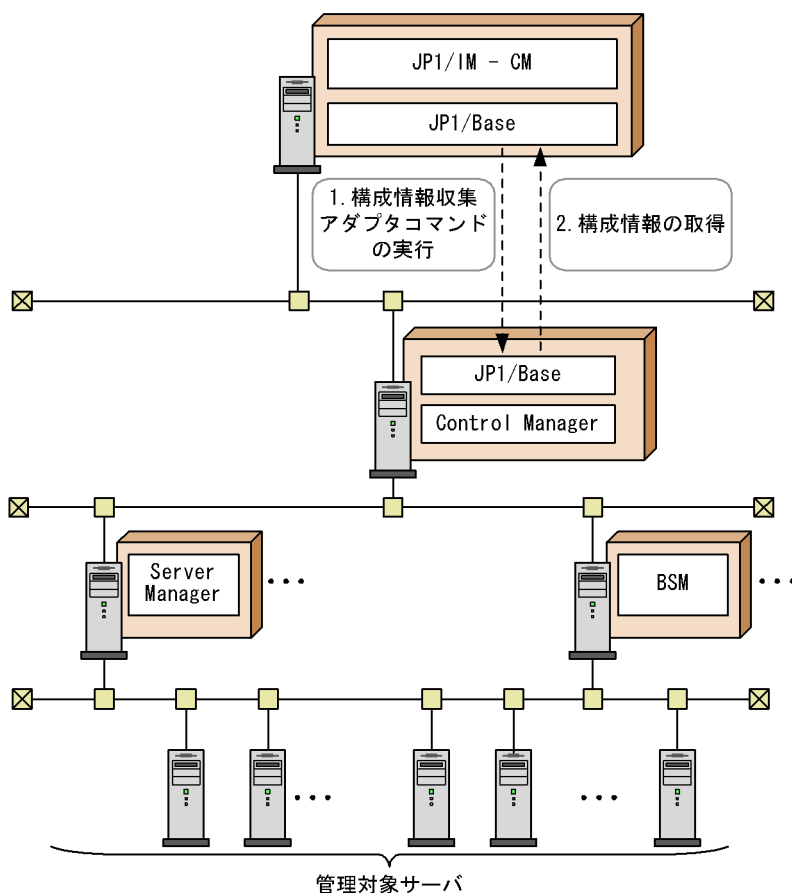
実行できるシナリオの種類、および各シナリオによって実行される操作内容については、「9. DPM と連携したデプロイメント制御」を参照してください。

2.3 JP1/IM - CM と連携する場合のシステム構成

JP1/IM - CM は JP1/Base が提供するプラグインサービス機能とアダプタコマンド実行機能を使用して、連携対象のプログラムから構成情報を収集します。Control Manager では、JP1/IM - CM と連携するプログラムの一つとして構成情報収集アダプタコマンドを提供しています。Control Manager が提供している構成情報収集アダプタコマンドは、管理対象サーバの情報収集およびリソースパック情報を設定する機能を持っています。

JP1/IM - CM と連携する場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 2-3 JP1/IM - CM と連携する場合のシステム構成例



2.4 JP1/IM と連携する場合のシステム構成

JP1/ServerConductor の管理対象サーバに関する情報のうち、JP1/IM・CM の管理対象になるのは、管理対象サーバのハードウェア構成やソフトウェア構成などの構成情報です。Control Manager はこれらの情報を JP1 イベントとして JP1/IM・M または JP1/IM・CC へ通知します。JP1 イベントとは、システムで発生した事象に JP1 で管理するための属性を付加した情報です。

Control Manager では、次のような場合に JP1 イベントを発行します。

管理対象サーバのシステム構成が変更された場合

管理対象サーバに対してデプロイメント操作を実行した場合

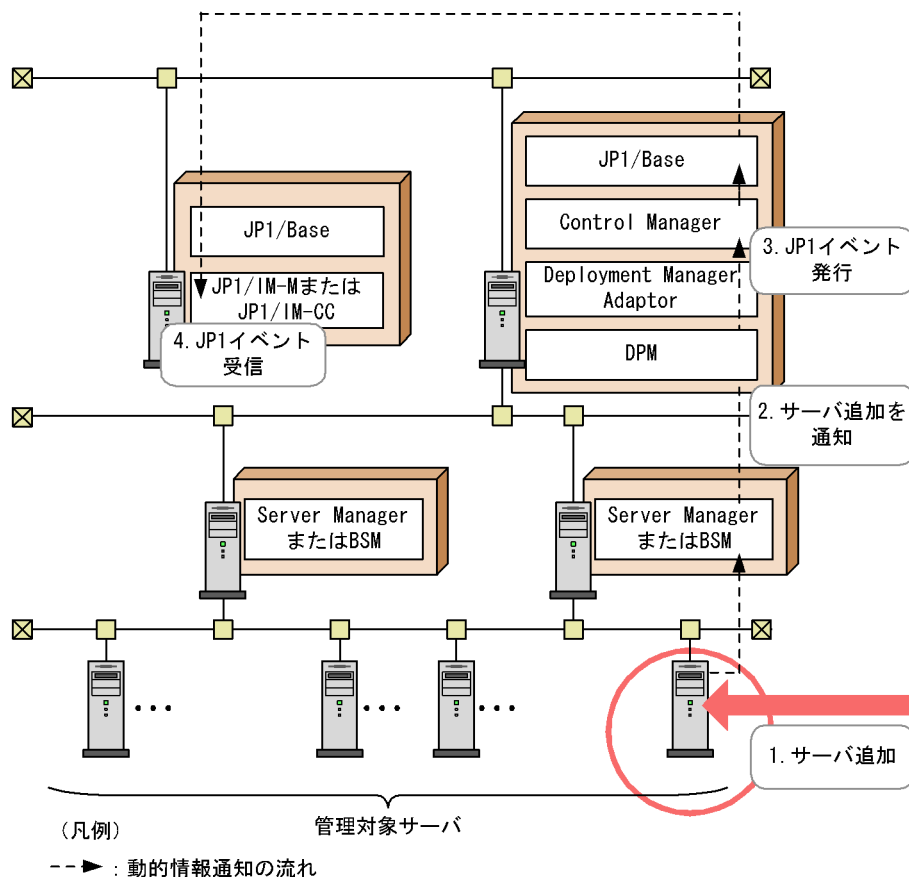
管理対象サーバに対して、サーバの起動や停止、電源断などの運用操作を実行した場合

Control Manager のサービスの状態が変化した場合

なお、Control Manager が発行する JP1 イベントは、フィルタリングできます。フィルタリングすることで、状態変更が発生した場合に、どのレベルの情報を通知するかを選択できます。フィルタリングの設定方法については、「8.4.3 JP1 イベントをフィルタリングする」を参照してください。

JP1/IM と連携する場合のシステム構成例を次の図に示します。この例は、システムの構成が変更になった場合の例です。なお、JP1 イベントをやり取りするためには、それぞれのホストに JP1/Base が必要です。

図 2-4 JP1/IM と連携する場合のシステム構成例



図の流れについて説明します。

1. 管理対象サーバにサーバが追加されます。
2. 管理対象サーバの構成が変更になったこと（サーバが追加されたこと）が，Server Manager または BSM から Control Manager に通知されます。
3. 管理対象サーバの状態変化を検知した Control Manager によって，JP1 イベントが発行されます。
4. Control Manager によって発行された JP1 イベントが，JP1/Base 経由で JP1/IM - M または JP1/IM - CC に通知され，受信されます。

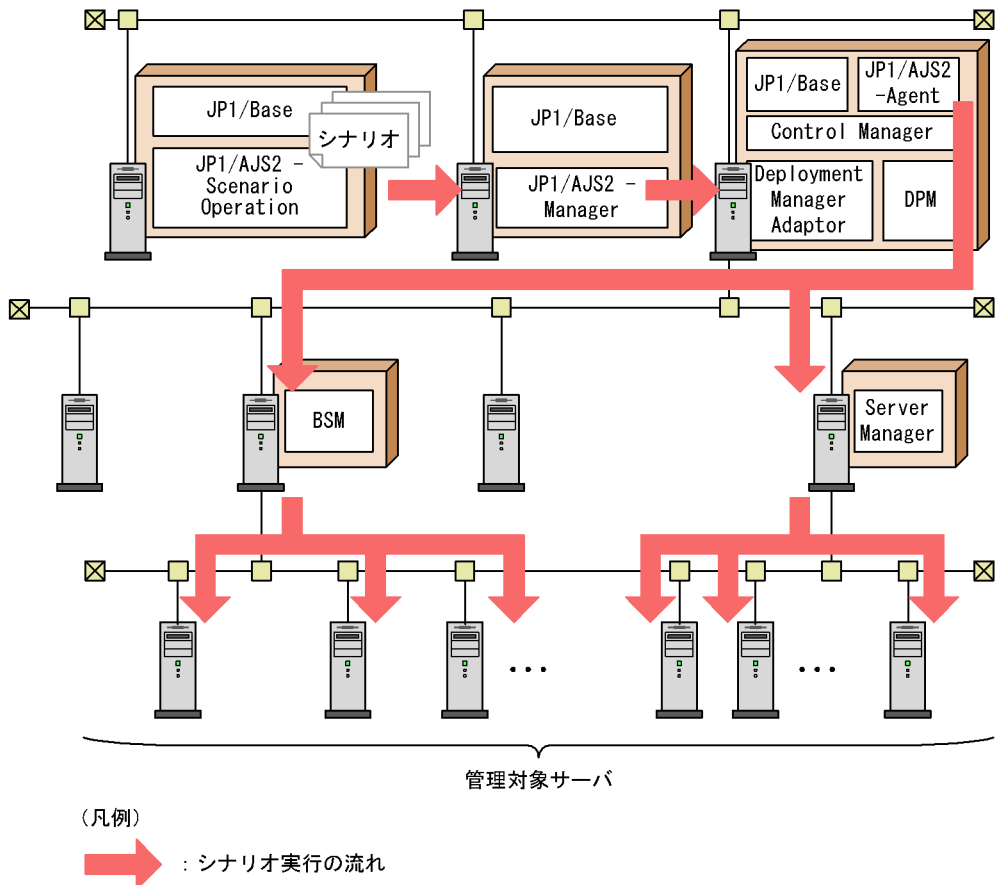
2.5 JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合のシステム構成

Control Manager では、JP1/AJS2 - Scenario Operation で実行できるサーバ管理に関するシナリオテンプレートを用意しています。シナリオを利用すると、Control Manager の管理対象サーバに対する運用管理操作およびデプロイメント制御を自動化できます。

JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携してサーバの管理・運用を自動化する場合のシステム構成例を次の図に示します。JP1/AJS2 - Scenario Operation の操作、JP1/AJS2 - Manager による自動実行の実行状態などを確認するためには、JP1/AJS2 - Scenario Operation View および JP1/AJS2 - View をインストールしたサーバが必要です。

なお、Control Manager が提供しているシナリオテンプレートの種類、および実際にシナリオを実行するまでの流れについては、「10. JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携したシステムの自動運用」を参照してください。

図 2-5 JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合のシステム構成例



2. システム構成例

図で示した流れについて説明します。

Control Manager が提供しているシナリオテンプレートに、JP1/AJS2 - Scenario Operation を使用して必要な情報を設定してから、JP1/AJS2 - Manager に登録します。JP1/AJS2 - Scenario Operation からシナリオの実行を指示すると、Control Manager と同じホストに配置した JP1/AJS2 - Agent によって、シナリオに従った処理が実行されます。

なお、Control Manager が提供する次のシナリオを実行する場合は、システムに DPM が必要です。

OS を含めたソフトウェアのインストール

バックアップまたはリストア

静的情報収集のシナリオ（ホットフィックス情報を参照したい場合）

3

セットアップ

この章では，インストール，環境変数の設定，およびネットワーク構築の方法について説明します。

-
- 3.1 セットアップの前に
 - 3.2 Control Manager のインストール
 - 3.3 Control Manager のアンインストール
 - 3.4 インストールまたはアンインストールでエラーが発生した場合の対処方法
 - 3.5 管理対象サーバの設定
 - 3.6 BSM または Server Manager の設定
 - 3.7 DPM の設定
 - 3.8 その他の JP1 製品と連携する場合の設定
 - 3.9 Control Manager サーバの IP アドレスを変更した場合の対処
 - 3.10 Control Manager サービスの起動と停止
-

3.1 セットアップの前に

セットアップの前に、Control Manager の前提環境、管理構成、およびセットアップの流れについて説明します。

3.1.1 前提環境

Control Manager の前提環境について説明します。

(1) 前提ハードウェア

Control Manager の前提ハードウェアは次のとおりです。

日立アドバンスサーバ HA8000

AT 互換機

(2) 前提ソフトウェア

Control Manager の前提ソフトウェアを適用 OS ごとに説明します。

(a) Windows Server 2003 および Windows Server 2000 の場合

Web ブラウザ ¹

Microsoft Internet Explorer 6.0 (サービスパック含む)

Microsoft Internet Explorer 7

ミドルウェア ²

実行基盤

JP1/Base 07-50 以降

JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合

JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation Manager 07-50 以降

JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent 07-50 以降

JP1/IM - CM と連携する場合

JP1/Integrated Manager - Cental Information Master 07-50 以降、または JP1/

Integrated Management - Central Information Master 08-00 以降

JP1/Integrated Manager - Veiw 07-50 以降、または JP1/Integrated Management -
Veiw 07-50 以降

JP1 イベントの詳細情報を表示する場合

JP1/Integrated Manager - Central Console 07-50 以降、または JP1/Integrated
Management - Manager 08-00 以降

ファウンデーションソフトウェア ²

日立アドバンストサーバ HA8000 を管理対象とする場合

JP1/ServerConductor/Server Manager 07-50 以降, または JP1/ServerConductor/
Blade Server Manager 07-50 以降
JP1/ServerConductor/Agent 07-50 以降

BladeServer を管理対象とする場合

JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 07-60-/A 以降
JP1/ServerConductor/Agent 07-50 以降

SVP/BMC エージェントサービスを使用して電源を管理する場合

JP1/ServerConductor/Advanced Agent 07-50 以降

デプロイメント制御機能を使用する場合

JP1/ServerConductor/Deployment Manager 07-50 以降 ³
JP1/ServerConductor/Deployment Manager Adaptor 08-00 以降

BladeServer の付加価値機能を使用する場合

JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plus 07-60-/A 以降

注 1

使用できる OS は各製品の仕様を確認してください。

注 2

使用できる OS およびハードウェアは各製品のバージョンに従います。また, 管理対象サーバの差異に対応する各製品のバージョンについては, 各製品のドキュメントを参照してください。

注 3

Web サーバ for DPM, コマンドライン for DPM, および管理サーバ for DPM を含みます。なお, 管理サーバ for DPM の設定で, 「クライアントサービス for DPM を用いた運用を行う」のチェックボックスにチェックを入れる必要があります。

(b) Windows Server 2008 の場合

Web ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 7

ミドルウェア ¹

実行基盤

JP1/Base 08-50-01 以降

JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合

JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation Manager 07-50 以降
JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent 08-50 以降

JP1/IM - CM と連携する場合

3. セットアップ

JP1/Integrated Manager - Cental Information Master 07-50 以降，または JP1/
Integrated Management - Central Information Master 08-00 以降
JP1/Integrated Manager - Veiw 07-50 以降，または JP1/Integrated Management -
Veiw 07-50 以降

JP1 イベントの詳細情報を表示する場合
JP1/Integrated Management - Manager 08-00 以降

ファウンデーションソフトウェア ¹

日立アドバンスサーバ HA8000 を管理対象とする場合
JP1/ServerConductor/Server Manager 07-50 以降，または JP1/ServerConductor/
Blade Server Manager 07-50 以降
JP1/ServerConductor/Agent 07-50 以降

BladeServer を管理対象とする場合
JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 07-60-/A 以降
JP1/ServerConductor/Agent 07-50 以降

SVP/BMC エージェントサービスを使用して電源を管理する場合
JP1/ServerConductor/Advanced Agent 07-50 以降

デプロイメント制御機能を使用する場合
JP1/ServerConductor/Deployment Manager 08-55 以降 ²
JP1/ServerConductor/Deployment Manager Adaptor 08-55 以降

BladeServer の付加価値機能を使用する場合
JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plus 07-60-/A 以降

注 1

使用できる OS およびハードウェアは各製品のバージョンに従います。また，管理対象サーバの差異に対応する各製品のバージョンについては，各製品のドキュメントを参照してください。

注 2

Web サーバ for DPM，コマンドライン for DPM，および管理サーバ for DPM を含みます。なお，管理サーバ for DPM の設定で，「クライアントサービス for DPM を用いた運用を行う」のチェックボックスにチェックを入れる必要があります。

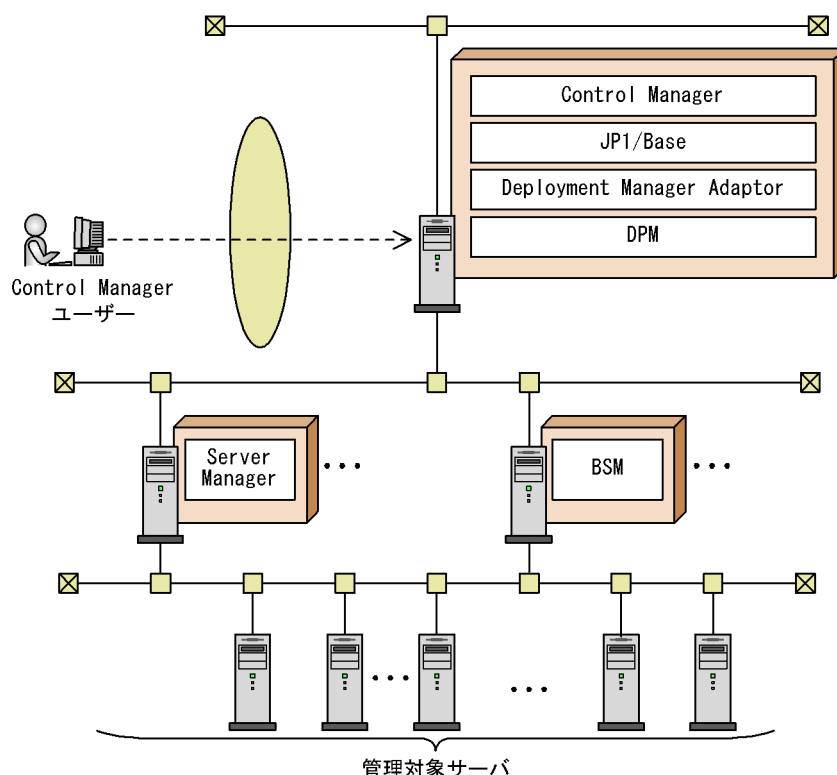
3.1.2 Control Manager の管理構成とセットアップの流れ

ここでは，Control Manager の管理構成とセットアップの流れについて説明します。
JP1/IM - CM および JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携しない場合と連携する場合で前提ソフトウェアが異なります。したがって，それぞれに分けて説明します。

(1) Control Manager の管理構成 (JP1/IM - CM および JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携しない場合)

JP1/ServerConductor だけで構成する場合の管理構成図を次に示します。

図 3-1 Control Manager 管理構成の全体像 (JP1/IM - CM および JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携しない場合)

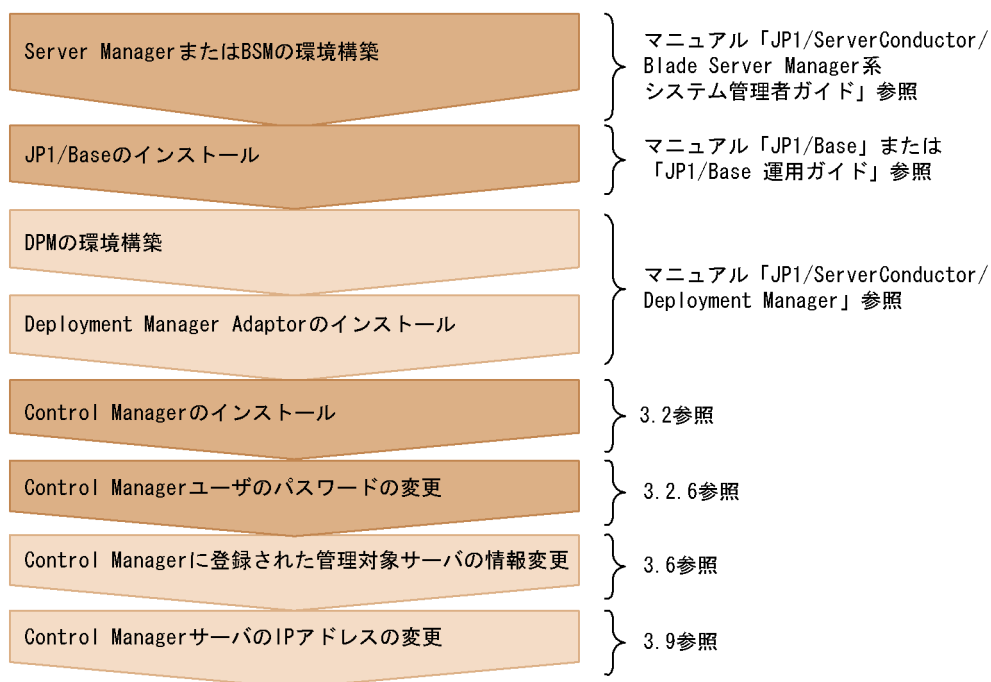


Control Manager をインストールする前に、Control Manager をインストールするサーバと、Server Manager または BSM がインストールされたサーバとを接続しておいてください。また、Control Manager をインストールするサーバに JP1/Base をインストールしておく必要があります。

管理対象サーバにデプロイ、バックアップおよびリストアを実行する場合は、Server Manager または BSM に加えて DPM が必要です。この場合は、Control Manager がインストールされているサーバに DPM と Deployment Manager Adaptor をインストールしてください。

以上のことを含め、Control Manager のセットアップの流れは次の図のようになります。

3. セットアップ



(凡例)



: 必ず実施する作業

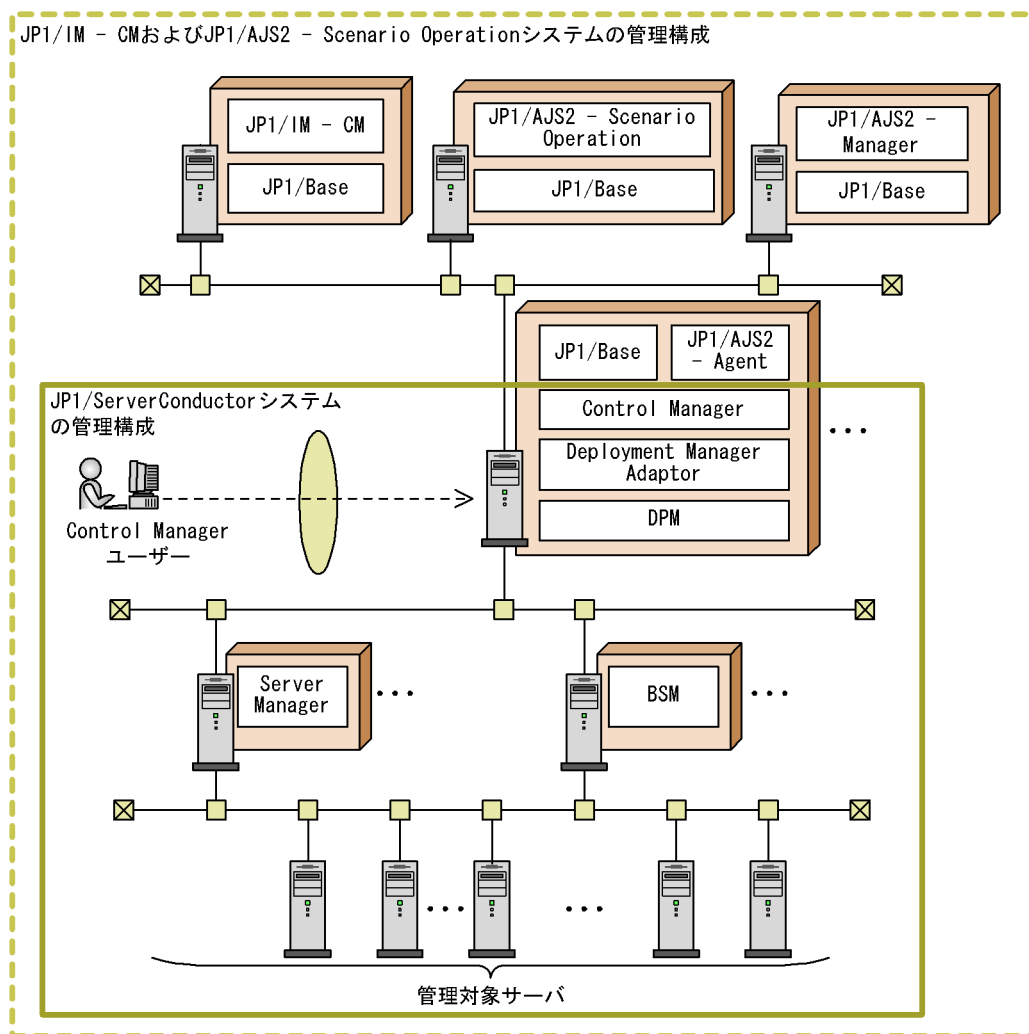


: 必要に応じて実施する作業

(2) Control Manager の管理構成 (JP1/IM - CM または JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合)

JP1/IM - CM または JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合の JP1/ServerConductor の管理構成図を次に示します。

図 3-2 Control Manager 管理構成の全体像 (JP1/IM - CM または JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合)



上の図にある JP1/ServerConductor システムの構築については、JP1/IM - CM および JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携しない場合と同じです。そのほかの構成は次のとおりです。

JP1/IM - CM と連携する場合

Control Manager がインストールされているサーバと JP1/IM - CM がインストールされているサーバを接続します。

JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合

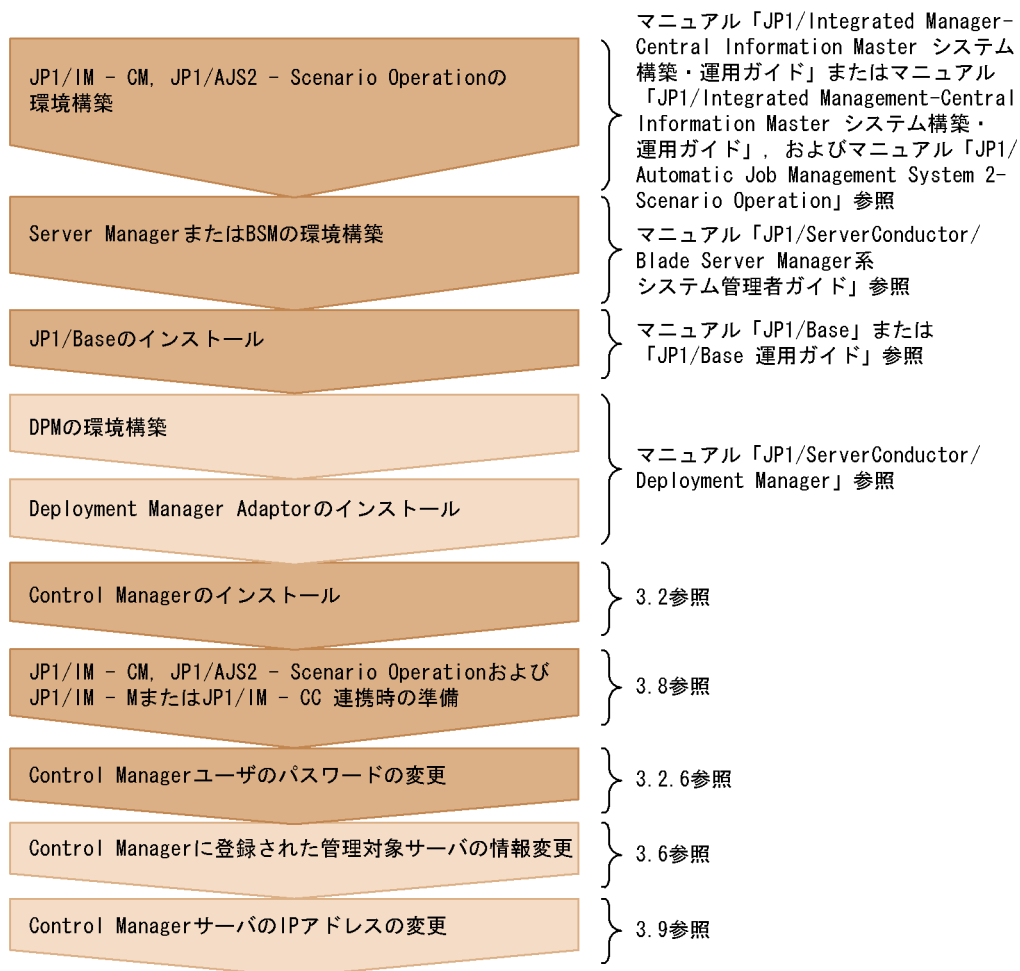
Control Manager がインストールされているサーバに、さらに JP1/AJS2 - Agent をインストールします。また、JP1/AJS2 - Scenario Operation のシナリオを実行する

3. セットアップ


ために JP1/AJS2 - Scenario Operation がインストールされたサーバおよび JP1/AJS2 - Manager がインストールされたサーバと接続します。


なお、JP1/AJS2 - Scenario Operation から OS インストール、バックアップ、リストアのシナリオを実行する場合は、JP1/ServerConductor システムに Server Manager または BSM に加えて DPM が必要です。この場合は、Control Manager がインストールされているサーバに DPM と Deployment Manager Adaptor をインストールしてください。

以上のことを含め、Control Manager のセットアップの流れは次の図のようになります。



(凡例)

 : 必ず実施する作業

 : 必要に応じて実施する作業

3.2 Control Manager のインストール

ここでは、Control Manager のインストール方法について説明します。

ただし、クラスタシステムを構築する場合、インストール手順が異なります。クラスタシステムを構築する場合のインストール手順については、「4. クラスタシステムの構築」を参照してください。

3.2.1 インストールされるプログラム

Control Manager のインストーラでインストールされるプログラムを次に示します。

JP1/ServerConductor/Control Manager

HiRDB Embedded Server

uCosminexus Primary Server Base

Cosminexus Developer's Kit for Java(TM) を含みます。

HNTRLib2 (日立ネットワークオブジェクトプラザトレース共通ライブラリ)

HNTRLib2 は製品のトレースログを採取するために使用します。

3.2.2 インストールの種類

Control Manager のインストールには新規インストールと更新インストールがあります。

新規インストール

新規に Control Manager をインストールする場合に実行します。

更新インストール

旧バージョンの情報をそのまま引き継いで Control Manager をバージョンアップしたい場合に実行します。インストールしようとしている Control Manager よりも上位のバージョンがすでにインストールされている場合は、更新インストールは実行できません。

P-2418-6181 から P-2A18-6281 への更新インストールはできません。

3.2.3 インストール前の確認事項

インストールする前に、次の点を確認してください。

- JP1/Base がインストール済みであることを確認してください。バージョンについては、「3.1.1(2) 前提ソフトウェア」を参照してください。
- インストール先のディスクに空き領域が十分にあるかどうかを確認してください。
- データベースのセットアップ処理には時間が掛かるので、注意してください。
Intel Xeon 3.2GHz の CPU で実行した場合、10 分程度の時間が掛かります。データ

3. セットアップ

ベースのセットアップ処理中は、「データベースのセットアップ中」と表示されます。

- インストールはアドミニストレータ権限を持っているユーザーが実行してください。
- インストール先、およびデータベース保存先のフォルダ名には全角文字を使用できません。
- インストール先、およびデータベース保存先にはネットワークドライブを指定できません。
- インストールパスを変更する場合は、一度アンインストールしてください。
- インストール後にシステムの時刻を変更すると、Control Manager で使用しているデータベースに影響する場合があります。特に、時刻を戻した場合は動作を保証できません。
- インストール中に次のメッセージが表示された場合、該当のファイルまたはフォルダを使用するプログラムを終了してから、リトライしてください。

メッセージ：

次のファイルまたはフォルダが使用中のため書き換えができません。

XXXXXXXXXX

Control Manager に関連するファイルおよびフォルダを閉じてください。

リトライしますか？

(XXXXXXXXXX は、ファイルまたはフォルダ名)

- OS を Windows Server 2008 にアップグレードする場合、Control Manager をアンインストールしてから OS のアップグレードを実施してください。また、Windows Server 2008 に対応した Control Manager を入手してください。

3.2.4 新規インストール

新規インストールについて説明します。

(1) 新規インストール時の注意

- インストール実行中にアプリケーションを正しく初期化できなかったという内容のエラーメッセージが表示された場合、OS のデスクトップヒープが不足している可能性があります。その場合の対処方法については、「12.3(1) Control Manager のデータベースのセットアップ時、OS 起動時または運用中にアプリケーションエラーが表示される、または、アプリケーションの異常終了が頻繁に発生する」を参照してください。

- Control Manager のインストーラによって次に示す Windows サービスがインストールされます。これらの Windows サービスの設定は変更しないでください。

Hitachi Control Manager

Hitachi Control Manager Service

JP1 ServerConductor Control Manager Web Server

HiRDB/ClusterService _SC0

HiRDB/EmbeddedEdition _SC0

Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor 2

(2) インストール手順

1. すべてのプログラムを終了する
スクリーンセーバなどの常駐プログラムも終了してください。
2. 提供媒体を CD-ROM ドライブにセットする
[日立総合インストーラ] ダイアログボックスが自動起動されます。自動起動されなかった場合は、「HCD_INST.EXE」を実行してください。
3. JP1/ServerConductor/Control Manager を選択し、[インストール実行] ボタンをクリックする
ダイアログボックスに表示される指示に従ってインストールを進めます。途中、次の項目を入力します。

ユーザー情報

アプリケーションを使用するユーザーのユーザー名と会社名を指定します。最小文字数は半角 1 文字です。最大文字数に制限はありません。デフォルトは OS に登録してあるユーザー名と会社名です。

インストール先

Control Manager をインストールするフォルダを指定します。

半角 17 文字まで指定できます。

デフォルトでは、C:\Program Files となります。

プログラムフォルダ

スタートメニュー内に配置する Control Manager のショートカットを格納するフォルダ名を指定します。

クラスタシステムの構築

組み込み HiRDB に対してクラスタシステムを構築するかどうかを選択します。ここでは、クラスタシステムを構築しないため、[使用しない] ラジオボタンを選択してください。

データベースの保存先

データベースの保存先に使用するフォルダを指定します。指定できる文字数は半角で 4 文字以上 128 文字以下です。デフォルトでは、<インストール先で指定したフォルダ> ¥HITACHI¥DB_SC0¥Area となります。

ポート番号

次に示すポート番号を指定します。

- ・ CM 内部通信用
- ・ BSM 連携用
- ・ データベース通信用
- ・ Web サーバ通信用
- ・ Cosminexus 用

ポート番号は、ほかのプログラムと重複しないことを確認して指定してください。なお、ポート番号の指定範囲については、「付録 B ポート番号の変更」を参照してください。

3. セットアップ

4. インストール完了後、OSを再起動する

Control Manager を新規にインストールした場合には、必ず OS を再起動してください。

システム環境変数「PATH」に次の値が追加されます。

PATH= <インストールディレクトリ>

¥HITACHI¥ServerConductor¥ControlManager¥bin;

注意事項

Control Manager をインストールしたあと、物理ホスト名および論理ホスト名を変更しないでください。物理ホスト名および論理ホスト名を変更する場合は、Control Manager をアンインストールしたあと、物理ホスト名および論理ホスト名を変更し、新規インストールしてください。

3.2.5 更新インストール

更新インストールについて説明します。

(1) 更新インストール時の注意

インストールする前に次の点に注意してください。

- Control Manager をインストールしたあとに各フォルダまたはファイルの属性を変更した場合は、変更した属性を戻してから更新インストールを実行してください。
- 更新インストールを実行した場合は、次に示すフォルダが一度削除されます。
 - < CM パス > ¥conf
 - < CM パス > ¥lib (インストールしたバージョンによっては、存在しません)
 - < Cosminexus インストール先フォルダ > ¥CC¥web¥containers¥ControlManagerこれらのフォルダに、必要なファイルが格納されている場合、更新インストールを実行する前に必要なファイルを別のフォルダへ退避してください。また、上記のフォルダ内には、読み取り専用フォルダやファイルは作成しないでください。読み取り専用フォルダやファイルがあると更新インストールの際、上記フォルダが削除できないため、更新インストールに失敗します。
- 更新インストールで障害が発生した場合に備え、更新インストールを実行する前にデータベースのバックアップを採取しておいてください。

(2) インストール手順

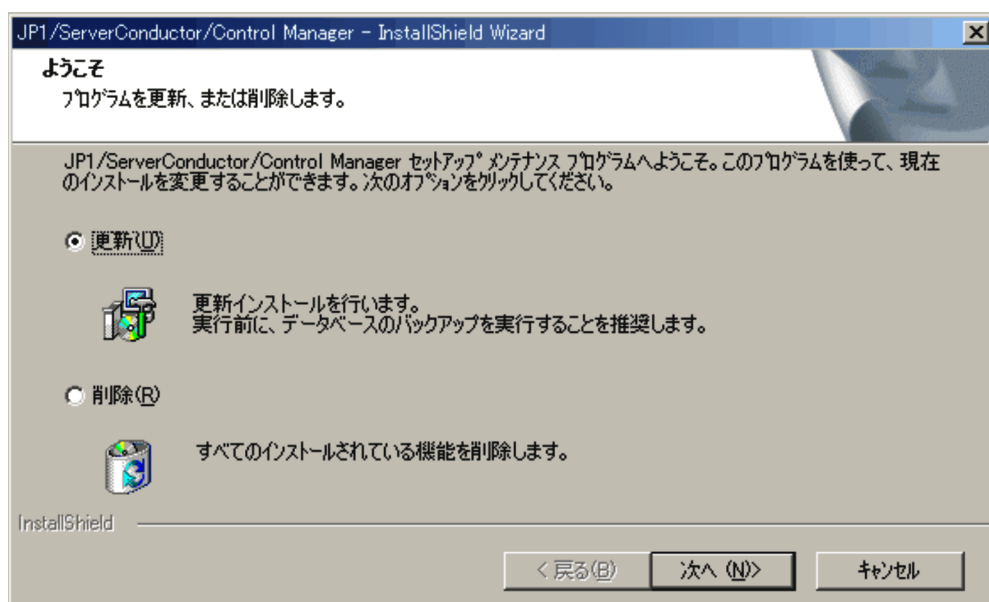
1. すべてのプログラムを終了する

スクリーンセーバなどの常駐プログラムも終了してください。

2. 提供媒体を CD-ROM ドライブにセットする

[日立総合インストーラ] ダイアログボックスが自動起動されます。自動起動されなかった場合は、「HCD_INST.EXE」を実行してください。

3. JP1/ServerConductor/Control Manager を選択し、[インストール実行] ボタンをクリックする
[更新] または [削除] を選択するダイアログボックスが表示されます。



4. [更新] ラジオボタンを選択し、[次へ] ボタンをクリックする
設定内容を確認するダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスには、新規インストール時の入力情報と更新インストールする前の環境から取得した情報が表示されます。
5. 設定内容を確認する
値が取得できなかった場合または無効な値が設定されていた場合は、更新インストールする前の設定値またはデフォルトが表示されます。その場合は、次に示すメッセージが表示されます。

メッセージ

aa...aa の値が無効値のため、置き換えます (n1 n2)。

aa...aa : 上記ポート名

n1 : 取得できなかった場合 -1, 無効値の場合, 読み取った値

n2 : 置き換える値

対処方法

更新インストールの最後に、次に示す参照先を確認し、値を修正後、Control Manager を起動してください。

- ・「9.5 DPM シナリオの実行」
- ・「12.2.2 トレース出力レベル」
- ・「付録 B ポート番号の変更」

6. インストール完了後、必要に応じて OS を再起動する

3. セットアップ

インストールが完了すると、OS の再起動が必要な場合と不要な場合があります。[メンテナンスの完了] ダイアログボックスの内容を確認してから必要に応じて OS を再起動してください。

注意事項

Control Manager をインストールしたあと、物理ホスト名および論理ホスト名を変更しないでください。物理ホスト名および論理ホスト名を変更する場合は、Control Manager をアンインストールしたあと、物理ホスト名および論理ホスト名を変更し、新規インストールしてください。

3.2.6 パスワードの変更

Control Manager ユーザーのパスワードはコマンドで変更します。デフォルトで設定されているパスワードは「password」です。インストールが完了したらデフォルトで設定されているパスワードを必ず変更してください。

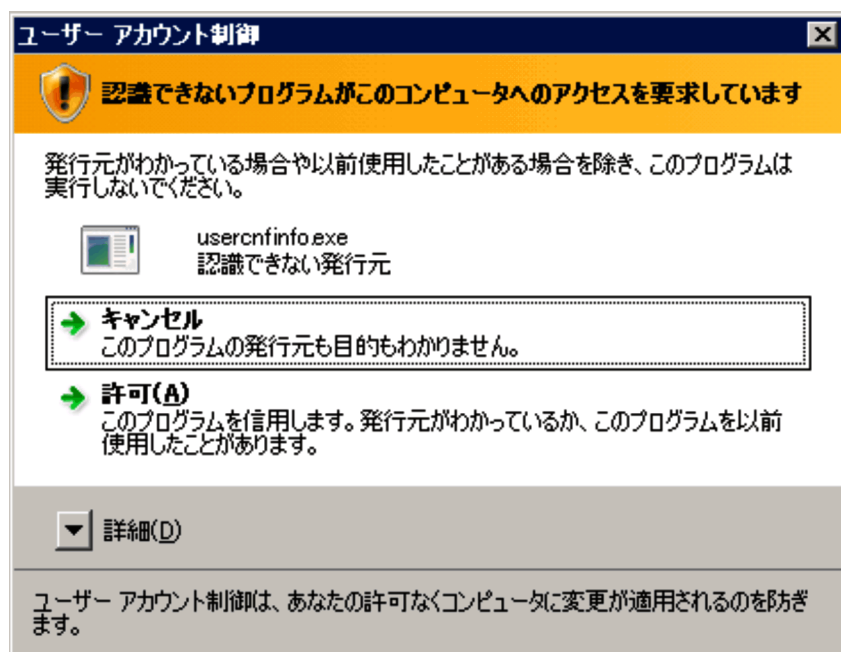
ここでは、Control Manager ユーザーのパスワードを変更するコマンドについて説明します。なお、Control Manager のユーザー名は「administrator」で固定です。

注意

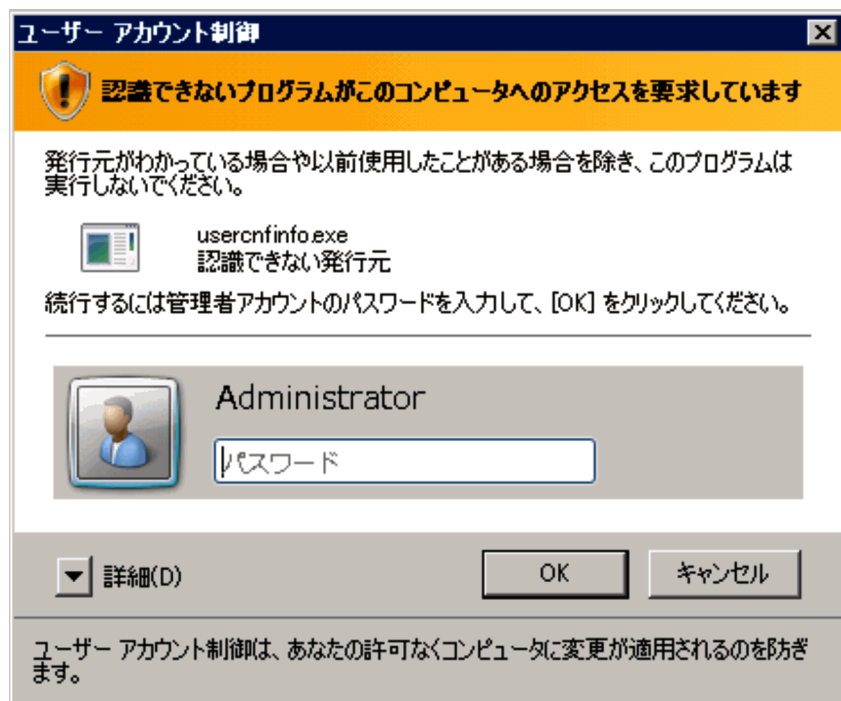
Windows Server 2008 で ControlManager のコマンドを使用する場合は、管理者権限のあるプログラムからコマンドを実行してください。例えば、管理者として実行したコマンドプロンプトからコマンドを実行してください。管理者権限がない場合、コマンドを実行した後に [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスが表示される場合があります。このダイアログボックスが表示された場合 [キャンセル] ボタンをクリックして処理を終了してください。その後、管理者権限のあるプログラムから実行し直してください。

[ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス表示例

- 管理者権限がある Administrator 以外のユーザ



- 管理者権限のないユーザの場合



3. セットアップ

形式

```
usercnfinfo -chg
```

機能

Control Manager ユーザーのパスワードを変更します。

引数

このコマンドを実行すると、次の値を要求されます。次の入力規則に従って入力してください。

- 変更するユーザーのユーザー名
Control Manager では、ユーザー名は「administrator」で固定なので、「administrator」と入力してください。
- 変更前のパスワード
変更前のパスワードを入力してください。
デフォルトで設定されているパスワードは「password」です。
- 変更後のパスワード
変更後のパスワードを 6 ～ 32 文字の範囲で指定してください。なお、「¥」、「/」、「:」、「.」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」、スペース、およびタブを含むパスワードは指定できません。
- 変更後のパスワード（確認用）

戻り値

メッセージ	対応
変更処理が完了しました	正常終了。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して、再入力してください。
指定されたユーザーに誤りがあります	入力したユーザー名が正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
指定されたパスワードに誤りがあります	入力したパスワードが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
指定されたユーザー名またはパスワードに誤りがあります	入力したユーザー名またはパスワードが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
データベースへの接続に失敗しました	データベースアクセス時に異常が発生しました。データベースが正常に起動および動作しているか確認して、再度実行してください。
内部エラーが発生しました	
データの変更に失敗しました	
データの取得に失敗しました	

3.3 Control Manager のアンインストール

アンインストールする方法について説明します。

3.3.1 アンインストールする前の確認事項

アンインストールする前に、次の点を確認してください。

- アンインストールは途中で中断できません。
- アンインストールは、アドミニストレータ権限を持っているユーザーが実行してください。
- JP1/Base をアンインストールする場合、Control Manager を先にアンインストールしてください。
- 「アプリケーションの追加と削除」を使用して Control Manager をアンインストールした場合、必ず OS を再起動してください。OS を再起動しないと「アプリケーションの追加と削除」が応答しなくなる場合があります。「アプリケーションの追加と削除」が応答しなくなった場合、「タスクマネージャ」を起動し、イメージ名「conime.exe」のプロセスを終了してください。ただし、「conime.exe」を終了した場合、それまでに起動中のコマンドプロンプトで日本語入力ができなくなります。日本語入力が必要な場合は、「conime.exe」終了後、コマンドプロンプトを再起動してください。詳細は、Microsoft の技術情報を参照してください。
- クラスタシステムでアンインストールするときは、データベースを停止後、クラスタアドミニストレータで次のサービスをオフラインにしてください。オフラインにする順番は次のとおりです。

1. JP1 ServerConducotor Control Manager Web Server
2. Hitachi Control Manager
3. HiRDB/ClusterService_SCx
4. HiRDB/EmbeddedEdition_SCx

注

SCx の x はクラスタ構成の識別番号です。非クラスタ構成の場合は 0 になります。

- アンインストールでは、インストールしたプログラムファイルだけが削除され、インストールしたあとに作成したファイルは削除されません。ファイルが残ったままの状態では、同一ディレクトリに Control Manager をインストールすると、インストーラで設定した情報が反映されない場合があります。したがって、アンインストールが完了したあとに必ず手動で削除してください。削除するファイルは次のフォルダに格納されています。

<インストールディレクトリ> ¥HITACHI¥ServerConductor¥ControlManager

3. セットアップ

<インストールディレクトリ> ¥HITACHI¥DB_SCx¹

<インストールディレクトリ> ¥Hitachi¥DB_SCx¹¥Area²

<インストールディレクトリ> ¥HITACHI¥ServerConductor¥CMCosmi

注 1

SCx の x はクラスタ構成の識別番号です。非クラスタ構成の場合は 0 になります。

注 2

インストール時に指定したデータベースデータの保存先です。ここでは、デフォルトのフォルダを示しています。

- アンインストール中に異常が発生すると、エラー要因が表示されたあとにアンインストールの中断または続行を選択するメッセージが表示されます。エラーの種類によっては、アンインストールが続行できないエラーもあります。その場合は終了してください。アンインストールを中断する場合は、「3.4 インストールまたはアンインストールでエラーが発生した場合の対処方法」を参照し、エラー要因を解決したあと、アンインストールを再度実行してください。なお、アンインストールを続ける場合は、インストールしたプログラムファイルの一部が削除されないことがあります。
- アンインストール中に次のメッセージが表示された場合、該当のファイルまたはフォルダを使用するプログラムを終了してから、リトライしてください。

メッセージ：

次のファイルまたはフォルダが使用中のため削除できません。

XXXXXXXXXX

Control Manager に関連するファイルおよびフォルダを閉じてください。

リトライしますか？

(XXXXXXXXXX は、ファイルまたはフォルダ名)

3.3.2 アンインストール手順

Control Manager をアンインストールする場合、コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] を使用する場合と、Control Manager の CD-ROM を使用する場合があります。

(1) コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] (または [プログラムの追加と削除]) を使用する場合

1. すべてのプログラムを終了する
2. コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] (または [プログラムの追加と削除]) をクリックする
[アプリケーションの追加と削除] (または [プログラムの追加と削除]) ダイアログボックスが表示されます。
3. JP1/ServerConductor/Control Manager を選択し、[変更と削除] ボタンをクリックす

る

確認メッセージが表示されます。

4. [はい] ボタンをクリックする
アンインストールが開始されます。アンインストールの中断はできません。
5. アンインストール完了後、OS を再起動する
システム環境変数「PATH」の次の値が削除されます。
PATH= < インストールディレクトリ >
¥HITACHI¥ServerConductor¥ControlManager¥bin;

(2) CD - ROM を使用する場合

1. すべてのプログラムを終了する
2. 提供媒体を CD-ROM ドライブにセットする
[日立総合インストーラ] ダイアログボックスが自動起動されます。自動起動されなかった場合は、「HCD_INST.EXE」を実行してください。
3. JP1/ServerConductor/Control Manager を選択し、[インストール実行] ボタンをクリックする
[更新] または [削除] を選択するダイアログボックスが表示されます。
4. [削除] ラジオボタンを選択して [次へ] ボタンをクリックする
確認メッセージが表示されます。
5. [はい] ボタンをクリックする
アンインストールが開始されます。アンインストールの中断はできません。
6. アンインストール完了後、OS を再起動する
システム環境変数「PATH」の次の値が削除されます。
PATH= < インストールディレクトリ >
¥HITACHI¥ServerConductor¥ControlManager¥bin;

3.4 インストールまたはアンインストールでエラーが発生した場合の対処方法

インストールおよびアンインストール時に出力されるメッセージと対処方法の一覧を次に示します。メッセージ中に表示されるコードについては、「3.4.1 Cosminexus のインストーラおよびアンインストーラのエラーコードと対処方法」～「3.4.5 データベースのアンセットアップのエラーコードと対処方法」を参照してください。

表 3-1 インストールおよびアンインストール時に出力されるメッセージと対処方法

メッセージ	対処方法
Cosminexus のインストーラでエラーが発生しました。コード：n	Cosminexus のインストーラのエラー。 コードと対処方法を参照し、原因を取り除いてください。 それでもエラーが発生する場合は、資料 ^{1 2} を採取の上、保守員へ連絡してください。
Cosminexus のアンインストーラでエラーが発生しました。コード：n	Cosminexus のインストーラのエラー。 コードと対処方法を参照し、原因を取り除いてください。 それでもエラーが発生する場合は、資料 ^{1 2} を採取の上、保守員へ連絡してください。
Cosminexus の個別インストーラでエラーが発生しました。	Cosminexus のインストール先ディレクトリおよび Control Manager のショートカット登録先ディレクトリを削除後、再インストールしてください。 それでもエラーが発生する場合は、資料 ^{1 2} を採取の上、保守員へ連絡してください。
Cosminexus 初期設定プログラムでエラーが発生しました。コード：n	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
Cosminexus の設定処理でエラーが発生しました。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
Cosminexus は既にインストールされています。	インストールされている Cosminexus 製品をアンインストールして、再度実行してください。
データベースのインストーラでエラーが発生しました。コード：n	データベースのインストーラのエラーコードおよび対処方法を参照し、原因を取り除いてください。 該当しないコードが発生した場合、または個別の対処方法を実行してもエラーが発生する場合は、資料 ¹ を採取の上、保守員に連絡してください。

メッセージ	対処方法
データベースのアンインストーラでエラーが発生しました。コード：n	データベースのアンインストーラのエラーコードおよび対処方法を参照し、原因を取り除いてください。 個別の対処方法を実行してもエラーが発生する場合は、インストールディレクトリ下の ¥HITACHI¥DB_SCにあるunsetup.errファイル および資料 ¹ を採取の上、保守員に連絡してください。
データベースのセットアップでエラーが発生しました。コード：n	データベースのセットアップのエラーコードおよび対処方法を参照し、原因を取り除いてください。 個別の対処方法を実行してもエラーが発生する場合は、インストールディレクトリ下の ¥HITACHI¥DB_SC¥pdistup¥spoolにある pdi_err.txtファイルおよび資料 ¹ を採取の上、 保守員に連絡してください。
データベースのアンセットアップでエラーが発生しました。コード：n	データベースのアンセットアップのエラーコードおよび対処方法を参照し、原因を取り除いてください。 個別の対処方法を実行してもエラーが発生する場合は、インストールディレクトリ下の ¥HITACHI¥DB_SC¥pdistup¥spoolにある pdirst_err.txtファイルおよび資料 ¹ を採取の上、 保守員に連絡してください。
データベース設定の初期処理でエラーが発生しました。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、またはOSの再起動後に再度実行してください。
データベースの初期設定でエラーが発生しました。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、またはOSの再起動後に再度実行してください。
トレース共通ライブラリのインストーラでエラーが発生しました。コード：n	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、またはOSの再起動後に再度実行してください。
トレース共通ライブラリのアンインストーラでエラーが発生しました。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、またはOSの再起動後に再度実行してください。
トレース共通ライブラリユーティリティでエラーが発生しました。コード：n	資料 ¹ ³ を採取の上、保守員へ連絡してください。

3. セットアップ

メッセージ	対処方法
JP1/BASE の設定処理でエラーが発生しました。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
aa...aa の起動に失敗しました。	aa...aa：プログラム種類、またはファイル名。 メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
レジストリアクセス中にエラーが発生しました。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
aa...aa ファイルの読み込みに失敗しました。	aa...aa：ファイル名。 メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
aa...aa ファイルの書き込みに失敗しました。	aa...aa：ファイル名。 メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
セッターはインストールを実行するために必要な aa...aa< bb...bb > を見つけることができません。	aa...aa：フォルダまたはファイル。 bb...bb：フォルダ名またはファイル名。 インストールデバイスを確認してください。
前提プログラム aa...aa がインストールされていません。またはバージョン bb...bb 以降ではありません。	aa...aa：プログラム名称。 bb...bb：バージョン・リビジョン。 前提となっているバージョン以降のプログラムをインストールし、再度実行してください。
環境変数 aa...aa を設定できませんでした。	aa...aa：環境変数名。 環境変数 aa...aa に設定されている不要なパスを削除して、再度実行してください。
サービス aa...aa を停止できませんでした。	aa...aa：サービス名称。 メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。

メッセージ	対処方法
サービス aa...aa を登録できませんでした。	aa...aa：サービス名称。 メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
サービス aa...aa を削除できませんでした。	aa...aa：サービス名称。 メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
この OS にインストールすることはできません。	この製品がサポートしている OS へインストールしてください。Administrators グループ権限のあるユーザーでインストールしてください。
Cosminexus を削除できませんでした。ここで処理を終了する場合はエラー要因を取り除いた後にアンインストールを再実行してください。 処理を続行する場合はアンインストール終了後 Cosminexus を手動で削除してください。 アンインストールを終了しますか？	Cosminexus を手動でアンインストールするには、エラー要因を取り除いたあと、次に示す内容を行ってください。 1. インストールディレクトリ下の ¥HITACHI¥ServerConductor¥CMCosmi にある insresult.dat ファイルをメモ帳などのテキストエディタで開く。 2. 2 行目にアンインストーラのコマンドラインがセットされているので、そのまま実行する。
データベースを削除できませんでした。ここで処理を終了する場合はエラー要因を取り除いた後にアンインストールを再実行してください。 処理を続行する場合はアンインストール終了後データベースを手動で削除してください。 アンインストールを終了しますか？	データベースを手動でアンインストールするには、エラー要因を取り除いたあと、次に示す内容を行ってください。 1. レジストリ HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥ServerConductor¥ControlManager ¥Installer¥RDBUninstaller の値を求める。 2. 1. で求めた値を、コマンドラインからそのまま実行する。
トレース共通ライブラリを削除できませんでした。ここで処理を終了する場合はエラー要因を取り除いた後にアンインストールを再実行してください。 処理を続行する場合はアンインストール終了後手動で削除してください。 アンインストールを終了しますか？	日立ネットワークオブジェクトブラウザトレース共通ライブラリ（HNTRLib2） ⁴ を手動でアンインストールするには、エラー要因を取り除いたあと、次に示す内容を行ってください。 1. レジストリ HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥HNTRLIB2¥HNTR1¥Uninstall¥UninstallPath の値を求める。 2. で求めた値を、コマンドラインからそのまま実行する。

3. セットアップ

メッセージ	対処方法
前回インストール時の情報取得に失敗しました。	アンインストールを行ったあと、新規にインストールしてください。 データベースの内容は、マニュアルに従い引き継いでください。 インストール後、設定内容を変更している場合は、再度設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> Control Manager の旧バージョンの情報を引き継ぐ方法については、「3.2.2 インストールの種類」を参照してください。
フォルダの削除に失敗しました。 aa...aa	aa...aa：削除に失敗したフォルダ名。 メッセージのフォルダおよびサブフォルダとファイルが、読み取り専用属性になっていないことを確認し、再度インストールを実行してください。この際、一部フォルダが削除されており、設定項目を取得できず、値を置き換えて使用する場合があります。このときは、インストール完了後、必要に応じて設定し直してください。
インストーラ情報ファイルの取得に失敗しました。 インストール / アンインストールを続行することができません。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
インストーラ動作に必要なメモリーの確保に失敗しました。 インストール / アンインストールを続行することができません。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
OS からのシステム情報取得に失敗しました。 インストール / アンインストールを続行することができません。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
フォルダの作成に失敗しました。 aa...aa	aa...aa：フォルダ名。 メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。

注 1

Windows テンポラリディレクトリ下にある @Inst@.log ファイルを採取してください。
Windows テンポラリディレクトリは、コマンドプロンプトで「ECHO %TEMP%」を実行すると表示されます。

注 2

インストールディレクトリ下の ¥Hitachi¥ServerConductor¥CMCosmi にある install.log ファイルを採取してください。

注 3

Windows テンポラリディレクトリ下にある hnt2PPName.log ファイルを採取してください。

注 4

日立ネットワークオブジェクトプラザトレース共通ライブラリ (HNTRLib2) は日立製品で共通に使用されます。アンインストールしてもほかの日立製品で使用されている場合は削除されません。

3.4.1 Cosminexus のインストーラおよびアンインストーラのエラーコードと対処方法

表 3-2 Cosminexus のインストーラ，アンインストーラのエラーコードと対処方法

コード	説明	対処方法
80	インストールの後処理エラー。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。それでも解決できない場合は、Cosminexus のインストール先ディレクトリおよび Control Manager のショートカット登録先フォルダを削除後、再インストールしてください。
81	メモリー不足。	
85	ディスクのアクセスエラー。	
86	ディスクの空き容量が不足しています。	容量を確保して、再度実行してください。
90	管理者権限なしのユーザーがインストール / アンインストールを実施した。	管理者権限を持つユーザーがインストールおよびアンインストールしてください。
91	サポートされていないプラットフォームでインストールを実施した。	サポートされているプラットフォームおよび OS にインストールしてください。
92	インストール先に、すでに別のエディションの Cosminexus がインストールされている。	すでにインストールされている別のエディションの Cosminexus をアンインストールしてから再インストールしてください。
93	インストール先に、すでに別のエディションの Cosminexus がインストールされている。	
94	共用モジュールのファイル転送で障害が発生した。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。それでも解決できない場合は、Cosminexus のインストール先ディレクトリおよび Control Manager のショートカット登録先ディレクトリを削除後、再インストールを実行してください。
95	Cosminexus の個別インストーラ / アンインストーラの起動で障害が発生した。	
96	構成 PP のイメージコピー処理で障害が発生した。	
97	その他の障害が発生した。	

3. セットアップ

コード	説明	対処方法
98	インストール先の文字数が制限値を超えた。	CD-ROM のデータをネットワークディレクトリまたは深い階層のディレクトリへコピーして、そのディレクトリから Control Manager の Setup.exe ファイルを起動した場合、このエラーが発生するおそれがあります。Control Manager の Setup.exe ファイルを CD-ROM から起動していない場合は、CD-ROM から起動してください。
その他	-	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。それでも解決できない場合は、Cosminexus のインストール先ディレクトリおよび Control Manager のショートカット登録先ディレクトリを削除後、再インストールを実行してください。

(凡例)

- : 特に説明はありません。

3.4.2 データベースのインストーラのエラーコードと対処方法

表 3-3 データベースのインストーラのエラーコードと対処方法

コード	説明	対処方法
81	インストールに必要なファイルが不足している。	インストールデバイスを確認してください。
83	レジストリアクセス中にエラーが発生した。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
85	ディスクアクセス中にエラーが発生した。	
86	インストール先ディスクの空き容量が不足している。	
88	起動オプション (パラメーター) が不正。	
8C	管理者権限なしのユーザーがインストールを実施した。	管理者権限を持つユーザーがインストールしてください。
92	サポートされていない OS にインストールした。	サポートされているプラットフォームおよび OS でインストールしてください。

コード	説明	対処方法
94	同じセットアップ識別子の組み込み HiRDB のサービスが「停止」の状態ではない。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
95	同じセットアップ識別子の組み込み HiRDB がインストールされていない。	
96	同じセットアップ識別子の組み込み HiRDB がすでにインストールされている。	
97	Windows ファイアウォールの例外リストへ登録中にエラーが発生した。	
9A	パッチ情報の削除に失敗した。	
9C	pdservice.exe プロセスが実行中。	
80	上記以外のエラーが発生した。	
その他	-	

(凡例)

- : 特に説明はありません。

3.4.3 データベースのアンインストーラのエラーコードと対処方法

表 3-4 データベースのアンインストーラのエラーコードと対処方法

コード	説明	対処方法
80	組み込み HiRDB が停止していない。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
94	系切り替えのサービス (HiRDB/ Cluster Service XXXX) が「停止」の状態ではない。 (XXXX : セットアップ識別子)	
9C	実行中のプロセスが残っていたため、一部のファイルが削除できなかった。	削除できなかったファイルは OS 再起動時に削除されるので、アンインストーラを最後まで実行してから OS を再起動してください。
その他	アンインストールが異常終了した。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。

3.4.4 データベースのセットアップのエラーコードと対処方法

表 3-5 データベースのセットアップのエラーコードと対処方法

コード	説明	対処方法
1	オプションの指定値が不正。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
2	指定できないオプションを指定している。	
3	指定されたディレクトリは、HiRDB 運用ディレクトリではない。	
4	HiRDB 運用ディレクトリが指定されていない。	
5	ポート番号が重複している。	データベースで使用するポート番号を変更して、再度実行してください。
7	ファイルが見つからない。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
8	ファイルのオープンに失敗した。	
9	ファイルの生成に失敗した。	
10	ファイルの読み込みに失敗した。	
11	データベース保存先ドライブの空き領域が不足している。	容量を確保して、再度実行してください。
12		
13		
14		
15		
16	ファイルシステム領域の作成でエラーが発生した。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
17	ファイルシステムの初期設定でエラーが発生した。	物理ホスト名、論理ホスト名、およびポート番号の指定が正しいかを確認して再インストールしてください。
18	データベースの起動または初期設定でエラーが発生。	
19	ユーザーデータベースの作成でエラーが発生した。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
20	一時ファイルの作成に失敗した。	
21	ファイルの書式が不正。	
25	メモリー不足。	ほかのプログラムを終了するなどしてメモリーを確保してから、再度実行してください。

コード	説明	対処方法
26	データベース情報の作成処理でエラーが発生した。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
27	内部オブジェクトの作成処理でエラーが発生した。	
31	ファイルの削除に失敗した。	
その他	セットアップパーが異常終了した。	

3.4.5 データベースのアンセットアップパーのエラーコードと対処方法

表 3-6 データベースのアンセットアップパーのエラーコードと対処方法

コード	説明	対処方法
1	オプションの指定値が不正。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。
3	指定されたディレクトリは、HiRDB 運用ディレクトリではない。	
4	HiRDB 運用ディレクトリが指定されていない。	
8	ファイルのオープンに失敗した。	
25	メモリー不足。	ほかのプログラムを終了するなどしてメモリーを確保してから、再度実行してください。
その他	アンセットアップパーが異常終了した。	メモリー不足またはディスク容量が不足していないか、アクセス制限が正しく設定されているかを確認してください。問題がない場合はすべてのプログラムを終了後、または OS の再起動後に再度実行してください。

3.5 管理対象サーバの設定

JP1/ServerConductor の管理対象サーバを Control Manager で統合管理する場合、svrcnfinfo コマンドを使って、管理対象サーバの情報（パスワードや IP アドレス）を Control Manager に登録しておく必要があります。また、Control Manager に登録してあるサーバを管理対象から外す場合も、コマンドを使って削除します。

ここでは、svrcnfinfo コマンドを使って Control Manager に管理対象サーバの登録または削除する方法について説明します。

注意

Windows Server 2008 で ControlManager のコマンドを使用する場合は、管理者権限のあるプログラムからコマンドを実行してください。例えば、管理者として実行したコマンドプロンプトからコマンドを実行してください。管理者権限がない場合、コマンドを実行した後に [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスが表示される場合があります。このダイアログボックスが表示された場合 [キャンセル] ボタンをクリックして処理を終了してください。その後、管理者権限のあるプログラムから実行し直してください。

3.5.1 管理対象サーバの登録

svrcnfinfo コマンドを使った管理対象サーバの登録方法について説明します。

Control Manager にサーバを登録する場合にこのコマンドを実行する必要があります。

svrcnfinfo コマンドでの管理対象サーバの登録は、次のどちらかに該当する場合だけ実施してください。

- Agent をインストールしていない HA8000 を管理対象に追加したい場合
- Agent をインストールしていない LPAR を管理対象に追加したい場合

上記以外の場合は svrcnfinfo コマンドを使用しないで、Agent の起動、BSM コンソールでのサーバシャーシの再登録、bsmcnfinfo コマンド実行時の情報更新、または Control Manager 起動時の情報更新で管理対象サーバを登録してください。

形式

```
svrcnfinfo -add
```

機能

管理対象として接続するサーバの情報を Control Manager に登録します。このコマンドを実行する前に、登録したサーバに OS と JP1/ServerConductor/Agent をインストールしておくことで、接続したサーバの構成情報を取得できます。

なお、OS がインストールされていないサーバを Control Manager に登録する場合にこのコマンドを実行する必要があります。このコマンドは BladeServer を対象と

していません。

引数

このコマンドを実行すると、次の値を要求されます。

- 登録する MAC アドレス数
Control Manager に登録するサーバの MAC アドレス数を入力します。
1 ~ 20 の範囲で指定できます。
- サーバの MAC アドレス
サーバの MAC アドレスを入力します。
- ホスト名
コマンド登録から OS 起動までの間、Control Manager の Web コンソールサービスに表示されるサーバのホスト名を指定します。32 文字以内の半角英数字および「-」（半角ハイフン）で指定してください。
なお、サーバの OS を起動したあとは、実際に対象のサーバに設定されているコンピュータ名が、Control Manager の Web コンソールサービスに表示されます。
- DPM の IP アドレス
サーバを管理する DPM の IP アドレスを入力します。
IP アドレスが「010」のように 0 で始まるものは、「10」のように最初の 0 を省略してください。
- BSM または Server Manager の IP アドレス
サーバを管理する BSM または Server Manager の IP アドレスを入力します。
IP アドレスが「010」のように 0 で始まるものは、「10」のように最初の 0 を省略してください。

注意事項

- 登録済みのサーバが指定された場合、エラーとなります。
- 「DPM の IP アドレス」または「BSM または Server Manager の IP アドレス」に 0.0.0.0 を指定するとエラーとなります。
- このコマンドでサーバを登録する前に、登録するサーバを管理する BSM または Server Manager のどちらか、および DPM の情報を登録しておく必要があります。BSM または Server Manager の情報を登録する方法については、「3.6.1 BSM または Server Manager の登録」、DPM の情報を登録する方法については、「3.7.1 DPM の登録」を参照してください。
- MAC アドレスとして 00:00:00:00:00:00 を持つ管理対象サーバを不正に Control Manager 上に登録した場合は、以下の手順により、該当登録情報を削除してください。jscmgetproperty -m 00:00:00:00:00:00 により、静的情報が取得可能な場合は、00:00:00:00:00:00 が Control Manager に登録されています。
- svrcnfinfo -del で 00:00:00:00:00:00 が登録された管理対象サーバ情報を削除します。
- 管理対象サーバの状態を正常にし（OS 上で 00:00:00:00:00:00 を認識していない状態）、Agent を再起動し、Control Manager に正しい情報を登録し直します。

3. セットアップ

- svrcnfinfo -del で 00:00:00:00:00:00 が登録された管理対象サーバ情報を削除します。
- 管理対象サーバの状態を正常にし (OS 上で 00:00:00:00:00:00 を認識していない状態), Agent を再起動し, Contorl Manager に正しい情報を登録し直します。

戻り値

メッセージ	対応
登録処理が完了しました	正常終了。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して, 再入力してください。
入力値が不正です	MAC アドレス数が 1 ~ 20 の範囲で指定されていません。1 ~ 20 の範囲で指定してください。
指定された MAC アドレスに誤りがあります	正しい MAC アドレスを確認して, 再度入力してください。
指定されたホスト名に誤りがあります	正しいホスト名を確認して, 再度入力してください。
指定された IP アドレスに誤りがあります	正しい IP アドレスを確認して, 再度入力してください。
データの登録に失敗しました	データベースアクセス時に異常が発生しました。データベースが正常に起動および動作しているか確認して, 再度実行してください。
データベースの接続に失敗しました	
内部エラーが発生しました	
登録件数が最大に達しました	管理対象サーバの登録台数を 10,000 台以内にしてください。
Hitachi Control Manager Service への通知に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> • データベース更新は正常に終了しています。ただし, Hitachi Control Manager Service サービスへの通知段階で異常が発生しました。 • Hitachi Control Manager Service サービスが起動しているか確認してください。 • Hitachi Control Manager Service サービスが停止している場合, Hitachi Control Manager サービスを再起動してください。

使用例

```

D:¥>svrcnfinfo -add
登録するMACアドレス数を入力してください
2
ServerのMACアドレスを入力してください。(1/2)
AA:AA:AA:AA:AA:AA
ServerのMACアドレスを入力してください。(2/2)
BB:BB:BB:BB:BB:BB
ホスト名を入力してください
HA8000-1
Deployment Manager(Webサーバ for DPM) のIPアドレスを入力してください
10.210.36.68
Blade Server Manager のIPアドレスを入力してください
10.210.36.23
登録処理が完了しました

```

3.5.2 管理対象サーバの削除

svrcnfinfo コマンドを使った管理対象サーバの削除方法について説明します。

svrcnfinfo コマンドで管理対象サーバを削除する場合、Control Manager の全管理対象サーバに対して実行できます。LPAR モードの物理パーティションの情報を削除する場合は、そのパーティション上で動作する LPAR の情報を先に削除してください。また、次の管理対象サーバを管理対象から外す場合は、必ず svrcnfinfo -del コマンドで管理対象サーバの情報を削除してください。

- HA8000
- LPAR

形式

```
svrcnfinfo -del
```

機能

管理対象サーバの情報を Control Manager から削除します。

引数

このコマンドを実行すると、MAC アドレスの入力を要求されます。削除するサーバの MAC アドレスを入力してください。

なお、削除したい管理対象サーバに複数の MAC アドレスが登録されている場合は、どれか一つの MAC アドレスを入力してください。これで、この管理対象サーバの

3. セットアップ

すべての情報が削除されます。

注意事項

- 未登録のサーバが指定された場合、削除処理でエラーとなります。
- BSM のコンソールサービスから管理対象サーバを削除した場合は、Control Manager に管理対象サーバが削除された情報が反映されません。Control Manager に管理対象サーバを削除した情報を反映したい場合は、BSM のコンソールサービスで管理対象サーバを削除後、svrcnfinfo コマンドを実行してから Control Manager を再起動してください。

戻り値

メッセージ	対応
削除処理が完了しました	正常終了。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して、再入力してください。
指定された MAC アドレスに誤りがあります	MAC アドレスを確認して、再度入力してください。
データの削除に失敗しました	データベースアクセス時に異常が発生しました。データベースが正常に起動および動作しているか確認して、再度実行してください。
データベースの接続に失敗しました	
内部エラーが発生しました	
Hitachi Control Manager Service への通知に失敗しました	<ul style="list-style-type: none">• データベース更新は正常に終了しています。ただし、Hitachi Control Manager Service サービスへの通知段階で異常が発生しました。• Hitachi Control Manager Service サービスが起動しているか確認してください。• Hitachi Control Manager Service サービスが停止している場合、Hitachi Control Manager サービスを再起動してください。

使用例

```
D:¥>svrcnfinfo -del  
  
Server のMACアドレスを入力してください  
  
BB:BB:BB:BB:BB:BB  
  
削除処理が完了しました
```

3.6 BSM または Server Manager の設定

JP1/ServerConductor の管理対象サーバを Control Manager で統合管理する場合、bsmcnfinfo コマンドを使って、BSM または Server Manager の情報（パスワードや IP アドレス）を Control Manager に登録しておく必要があります。

ここでは、bsmcnfinfo コマンドを使って Control Manager に BSM または Server Manager を登録または削除する方法について説明します。

なお、bsmcnfinfo コマンドから出力されるメッセージ中の「Blade Server Manager」とは、BSM と Server Manager の両方を意味します。

注意

Windows Server 2008 で ControlManager のコマンドを使用する場合は、管理者権限のあるプログラムからコマンドを実行してください。例えば、管理者として実行したコマンドプロンプトからコマンドを実行してください。管理者権限がない場合、コマンドを実行した後に [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスが表示される場合があります。このダイアログボックスが表示された場合 [キャンセル] ボタンをクリックして処理を終了してください。その後、管理者権限のあるプログラムから実行し直してください。

3.6.1 BSM または Server Manager の登録

bsmcnfinfo コマンドを使って BSM または Server Manager を登録する方法について説明します。

形式

```
bsmcnfinfo -add
```

機能

Control Manager の管理対象として BSM または Server Manager の情報を登録します。BSM または Server Manager の情報を登録すると、登録した BSM または Server Manager が管理しているサーバのうち、OS が起動しているサーバの情報、および BladeServer の物理パーティションの情報を取得できます。情報の取得を実施するかしないかは、オプションファイルで設定できます。詳細は、「6.1.5 情報更新および BSM との接続監視」を参照してください。

引数

このコマンドを実行すると、次の値を要求されます。次の入力規則に従って入力してください。

- BSM または Server Manager の IP アドレス
BSM または Server Manager の IP アドレスを入力します。
IP アドレスが「010」のように 0 で始まるものは、「10」のように最初の 0 を省略してください。

3. セットアップ

- BSM または Server Manager のパスワード
BSM または Server Manager のパスワードを入力してください。
- BSM または Server Manager のパスワード（確認用）

注意事項

- 登録済みの BSM または Server Manager の IP アドレスが指定された場合は、エラーとなります。
- BSM ではパスワードとして 1 ～ 16 文字の範囲の半角文字を使用できますが、Control Manager では、6 ～ 16 文字の範囲の半角文字をパスワードとして使用する必要があります。6 ～ 16 文字の範囲の半角文字でパスワードを設定していない場合は、BSM のパスワードを設定し直してください。
- BSM を複数登録する場合、登録するすべての BSM に同じパスワードを設定する必要があります。
- 「BSM または Server Manager の IP アドレス」に 0.0.0.0 または 255.255.255.255 を指定するとエラーとなります。
- Control Manager と同一ホスト内にインストールした BSM または Server Manager を登録する場合、「127.0.0.1」は使用しないでください。
- Agent 情報を正しく Control Manager に登録するために、BSM を登録する前に、BSM のコンソールサービスで次のことを確認してください。
- 管理対象サーバに BladeServer が存在する場合、そのサーバシャーシが BSM に登録されているかどうか
- 管理対象サーバに LPAR が存在する場合、その HVM が BSM に登録されているかどうか

戻り値

メッセージ	対応
登録処理が完了しました	正常終了。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して、再入力してください。
指定された IP アドレスに誤りがあります	入力した IP アドレスが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
指定されたパスワードに誤りがあります	入力したパスワードが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
データベースの接続に失敗しました	データベースアクセス時に異常が発生しました。データベースが正常に起動および動作しているか確認して、再度実行してください。
内部エラーが発生しました	
データの登録に失敗しました	
内部エラーが発生しました	登録台数は、BSM および Server Manager を合わせて 100 台以内にしてください。
登録件数が最大に達しました	

メッセージ	対応
Hitachi Control Manager Service への通知に失敗しました	データベース更新は正常に終了しています。ただし、Hitachi Control Manager Service への通知段階で異常が発生しました。 Hitachi Control Manager Service の状態を確認してください。
データベースに登録された Blade Server Manager へのログインに失敗しました 入力された IP アドレス、パスワードが誤っている可能性があります Control Manager に登録された Blade Server Manager を削除して、正しい IP アドレスとパスワードの Blade Server Manager を再登録してください	データベース更新は正常に終了しています。ただし、IP アドレス、パスワードが誤っている可能性がありますので、IP アドレス、パスワードを確認してください。 誤っていた場合、一度、-del で削除した上で、正しい IP アドレスとパスワードで再度、登録してください。

使用例

```
D:\¥>bsmcnfinfo -add
Blade Server Manager のIPアドレスを入力してください
10.210.36.23
マネージャーのパスワードを入力してください
*****
パスワードを再入力してください
*****
登録処理が完了しました
```

3.6.2 BSM または Server Manager の削除

bsmcnfinfo コマンドを使って BSM または Server Manager を削除する方法について説明します。

形式

```
bsmcnfinfo -del
```

機能

BSM または Server Manager の情報を削除します。BSM または Server Manager の情報を削除すると、BSM または Server Manager が管理しているサーバの情報も削除します。

引数

このコマンドを実行すると、削除する BSM または Server Manager の IP アドレスの入力を要求されます。IP アドレスが「010」のように 0 で始まるものは、「10」のように最初の 0 を省略してください。

3. セットアップ

注意事項

登録されていない BSM または Server Manager の IP アドレスが指定された場合はエラーとなります。

戻り値

メッセージ	対応
削除処理が完了しました	正常終了。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して、再入力してください。
指定された IP アドレスに誤りがあります	入力した IP アドレスが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
データベースの接続に失敗しました	データベースアクセス時に異常が発生しました。データベースが正常に起動および動作しているか確認して、再度実行してください。
データの削除に失敗しました	
内部エラーが発生しました	
Hitachi Control Manager Service への通知に失敗しました	データベース更新は正常に終了しています。ただし、Hitachi Control Manager Service への通知段階で異常が発生しました。Hitachi Control Manager Service の状態を確認してください。

使用例

```
D:¥>bsmcnfinfo -del  
Blade Server Manager のIPアドレスを入力してください  
10.210.36.23  
削除処理が完了しました
```

3.6.3 BSM または Server Manager の変更

Control Manager と接続している BSM または Server Manager の情報（パスワードや IP アドレス）を変更する場合、bsmcnfinfo コマンドを使って変更します。

ここでは、bsmcnfinfo コマンドを使って BSM または Server Manager の情報を変更する方法について説明します。

（1）BSM または Server Manager の設定情報一覧の表示

bsmcnfinfo コマンドを使って Control Manager に登録されている BSM または Server Manager の一覧を表示する方法について説明します。

形式

```
bsmcnfinfo -list
```

機能

BSM または Server Manager の数と IP アドレスを表示します。

引数

このコマンドを実行すると、Control Manager に登録されている BSM または Server Manager の数と IP アドレスが表示されます。

戻り値

メッセージ	対応
登録されている Blade Server Manager 数：n (n は登録件数)	正常終了。 n は登録件数。BSM の情報が登録されていない場合は、「0」と表示されます。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して、再入力してください。
データベースの接続に失敗しました	データベースアクセス時に異常が発生しました。 データベースが正常に起動および動作しているか確認して、再度実行してください。
データの取得に失敗しました	
内部エラーが発生しました	

使用例 1

管理対象の BSM または Server Manager が 5 台ある場合

```
D:¥>bsmcnfinfo -list
登録されているBlade Server Manager 数：5
2.2.2.2
3.3.3.3
11.11.11.11
20.20.20.20
1.1.1.1
```

使用例 2

BSM または Server Manager が接続されていない場合

```
D:¥>bsmcnfinfo -list
登録されているBlade Server Manager 数：0
```

(2) BSM または Server Manager の設定情報の変更

bsmcnfinfo コマンドを使って Control Manager に登録されている BSM または Server Manager の情報 (パスワードや IP アドレス) を変更する方法について説明します。

3. セットアップ

形式

```
bsmcnfinfo -chg
```

機能

BSM または Server Manager の情報を変更します。変更後の BSM または Server Manager が管理しているサーバのうち、OS が起動しているサーバの情報および BladeServer の物理パーティションの情報を取得できます。情報の取得を実施するかしないかは、オプションファイルで設定できます。詳細は、「6.1.5 情報更新および BSM との接続監視」を参照してください。

引数

このコマンドを実行すると、次の値を要求されます。次の入力規則に従って入力してください。

- 変更前の BSM または Server Manager の IP アドレス
変更前の BSM または Server Manager の IP アドレスを入力します。
IP アドレスが「010」のように 0 で始まるものは、「10」のように最初の 0 を省略してください。
- 変更後の BSM または Server Manager の IP アドレス
IP アドレスを変更する場合、変更後の BSM または Server Manager の IP アドレスを入力します。
IP アドレスが「010」のように 0 で始まるものは、「10」のように最初の 0 を省略してください。
なお、IP アドレスを変更しない場合は、使用している IP アドレスを入力してください。
- 変更後の BSM または Server Manager のパスワード
パスワードを変更する場合、変更後の BSM または Server Manager のパスワードを入力します。BSM ではパスワードとして 1 ~ 16 文字の範囲の半角文字が使用できますが、Control Manager では、6 ~ 16 文字の範囲の半角文字をパスワードとして使用する必要があります。6 ~ 16 文字の範囲の半角文字でパスワードを設定していない場合は、BSM のパスワードを設定し直してください。
なお、パスワードを変更しない場合は、使用しているパスワードを入力してください。
- 変更後の BSM または Server Manager のパスワード（確認用）

注意事項

- 「変更前の BSM または Server Manager の IP アドレス」で入力した、IP アドレスが登録されていない場合は、エラーとなります。
- 複数の BSM を管理している場合、BSM のパスワードを変更するときは、管理しているすべての BSM のパスワードを変更する必要があります。
- 「変更後の BSM または Server Manager の IP アドレス」に 0.0.0.0 または 255.255.255.255 を指定するとエラーとなります。
- Control Manager と同一ホスト内にインストールした BSM または Server

Manager を登録する場合、「127.0.0.1」は使用しないでください。

戻り値

メッセージ	対応
変更処理が完了しました	正常終了。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して、再入力してください。
指定された IP アドレスに誤りがあります	入力した IP アドレスが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
指定されたパスワードに誤りがあります	入力したパスワードが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
データベースの接続に失敗しました	データベースアクセス時に異常が発生しました。データベースが正常に起動および動作しているか確認して、再度実行してください。
データの変更に失敗しました	
内部エラーが発生しました	
Hitachi Control Manager Service への通知に失敗しました	データベース更新は正常に終了しています。ただし、Hitachi Control Manager Service への通知段階で異常が発生しました。Hitachi Control Manager Service の状態を確認してください。
データベースに登録された Blade Server Manager へのログインに失敗しました 入力された IP アドレス、パスワードが誤っている可能性があります Control Manager に登録された Blade Server Manager を削除して、正しい IP アドレスとパスワードの Blade Server Manager を再登録してください	データベース更新は正常に終了しています。ただし、IP アドレス、パスワードが誤っている可能性がありますので、IP アドレス、パスワードを確認してください。 誤っていた場合、一度、-del で削除した上で、正しい IP アドレスとパスワードで再度、登録を行ってください。

使用例

BSM の IP アドレスを「10.210.36.23」から「10.210.36.68」に変更する場合。

```
D:\¥>bbsmcnfinfo -chg
Blade Server Manager のIPアドレスを入力してください
10.210.36.23
変更後のIPアドレスを入力してください
10.210.36.68
Blade Server Manager のパスワードを入力してください
*****
パスワードを再入力してください
*****
変更処理が完了しました
```

3.7 DPM の設定

Control Manager が管理するシステムに DPM を接続する場合、`dpmcnfinfo` コマンドを使って、DPM の情報（パスワードや IP アドレス）を Control Manager に登録しておく必要があります。また、Control Manager に登録してある DPM を削除する場合は、`dpmcnfinfo` コマンドを使います。

ここでは、`dpmcnfinfo` コマンドを使って Control Manager に DPM を登録または削除する方法について説明します。

注意

Windows Server 2008 で ControlManager のコマンドを使用する場合は、管理者権限のあるプログラムからコマンドを実行してください。例えば、管理者として実行したコマンドプロンプトからコマンドを実行してください。管理者権限がない場合、コマンドを実行した後に [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスが表示される場合があります。このダイアログボックスが表示された場合 [キャンセル] ボタンをクリックして処理を終了してください。その後、管理者権限のあるプログラムから実行し直してください。

3.7.1 DPM の登録

`dpmcnfinfo` コマンドを使って DPM を登録する方法について説明します。

形式

```
dpmcnfinfo -add
```

機能

DPM の情報を Control Manager に登録します。

引数

このコマンドを実行すると、次の値を要求されます。次の入力規則に従って入力してください。

- DPM の IP アドレス
DPM の IP アドレスを入力します。
IP アドレスが「010」のように 0 で始まるものは、「10」のように最初の 0 を省略してください。
- DPM のポート番号
DPM が使用する Web サーバのポート番号を入力してください。通常 8080 です。
- DPM の管理者パスワード
DPM の管理者のパスワードを入力してください。DPM ではパスワードとして 1 ~ 15 文字の範囲の半角文字が使用できますが、Control Manager では、6 ~ 15 文字の範囲の半角文字をパスワードとして使用する必要があります。6 ~ 15 文字の範囲の半角文字でパスワードを設定していない場合は、DPM で設定し直してく

ださい。

- DPM の管理者パスワード（確認用）

戻り値

メッセージ	対応
登録処理が完了しました	正常終了。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して、再入力してください。
指定された IP アドレスに誤りがあります	入力した IP アドレスが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
指定されたポート番号に誤りがあります	入力したポート番号が正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
指定されたパスワードに誤りがあります	入力したパスワードが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
データベースの接続に失敗しました	データベースアクセス時に異常が発生しました。データベースが正常に起動および動作しているか確認して、再度実行してください。
内部エラーが発生しました	
データの登録に失敗しました	
登録件数が最大に達しました	DPM の登録台数を 100 台以内にしてください。

注意事項

- 登録済みの DPM の IP アドレスが指定された場合はエラーとなります。
- シナリオ実行中の場合、このコマンドを実行しないでください。
- このコマンドを実行する場合、次の条件を満たしている必要があります。
 - ・ 管理サーバ for DPM のインストールと環境設定が完了している。
 - ・ Deployment Manager Adaptor のインストールおよび環境設定が完了している。
- 「DPM の IP アドレス」に 0.0.0.0 または 255.255.255.255 を指定するとエラーとなります。
- 「DPM の IP アドレス」としてネットワーク上に存在しない IP アドレスや DPM をインストールしていないサーバの IP アドレスを登録することができますが、登録した IP アドレスの情報を変更したり、削除したりできないことがあります。その場合は、Deployment Manager Adaptor をアンインストールし、再度インストールしてからコマンドを実行してください。

使用例

3. セットアップ

```
D:\¥>dpmcnfinfo -add
Deployment Manager(Web サーバ for DPM)のIPアドレスを入力してください
10.210.36.23
Deployment Manager(Web サーバ for DPM)のポート番号を入力してください
8080
Deployment Managerの管理者パスワードを入力してください
*****
パスワードを再入力してください
*****
登録処理が完了しました
```

3.7.2 DPM の削除

dpmcnfinfo コマンドを使って DPM を削除する方法について説明します。

形式

```
dpmcnfinfo -del
```

機能

DPM の情報を削除します。
ただし、DPM の情報を削除しても、指定された DPM が管理しているサーバの情報は削除しません。

引数

このコマンドを実行すると、削除する DPM の IP アドレスの入力を要求されます。
IP アドレスが「010」のように 0 で始まるものは、「10」のように最初の 0 を省略してください。

戻り値

メッセージ	対応
削除処理が完了しました	正常終了。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して、再入力してください。
指定された IP アドレスに誤りがあります	入力した IP アドレスが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。

メッセージ	対応
データベースの接続に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> データベースアクセス時に異常が発生しました。データベースが正常に起動および動作しているか確認して、再度実行してください。 Deployment Manager Adaptor がインストールされているか確認してください。 Deployment Manager Adaptor が起動していることを確認してください。
内部エラーが発生しました	
データの削除に失敗しました	

注意事項

- 登録されていない DPM の IP アドレスが指定された場合はエラーとなります。
- シナリオ実行中の場合、コマンドを実行しないでください。
- このコマンドを実行する場合、Web サーバ for DPM および管理サーバ for DPM をアンインストールする前に実行してください。先にアンインストールするとコマンドがエラーとなり、DPM の情報が削除できなくなります。その場合は、Deployment Manager Adaptor をアンインストールし、再度インストールしてからコマンドを実行してください。
- このコマンドを実行する場合は、次の条件を満たしている必要があります。
 - 管理サーバ for DPM またはコマンドライン for DPM のインストールと環境設定が完了している。
 - Deployment Manager Adaptor のインストールおよび環境設定が完了している。

使用例

```
D:\¥>dpmcnfinfo -del
Deployment Manager(Web サーバ for DPM)のIPアドレスを入力してください
10.210.36.68
削除処理が完了しました
```

3.7.3 DPM の変更

Control Manager と接続している DPM の情報（パスワードや IP アドレス）を変更する場合、dpmcnfinfo コマンドを使って変更します。

ここでは、dpmcnfinfo コマンドを使って DPM 情報を変更する方法について説明します。

（１）DPM の設定情報一覧の表示

dpmcnfinfo コマンドを使って Control Manager に登録されている DPM の一覧を表示する方法について説明します。

形式

```
dpmcnfinfo -list
```

3. セットアップ

機能

DPM の数と IP アドレスを表示します。

引数

このコマンドを実行すると、Control Manager に登録されている DPM の数と IP アドレスが表示されます。

戻り値

メッセージ	対応
登録されている Deployment Manager (Web サーバ for DPM) 数 : n	正常終了。 n は登録件数。DPM の情報が登録されていない場合は、「0」と表示されます。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して、再入力してください。
データベースの接続に失敗しました	データベースアクセス時に異常が発生しました。 データベースが正常に起動および動作しているか確認して、再度実行してください。
内部エラーが発生しました	
データの取得に失敗しました	

使用例 1

管理対象の DPM が 5 台ある場合

```
D:\¥>dpmcnfinfo -list
登録されているDeployment Manager(Web サーバ for DPM)数:5
10.10.200.1
10.11.200.1
10.11.200.2
10.100.1.2
10.209.146.90
```

使用例 2

DPM が接続されていない場合

```
D:\¥>dpmcnfinfo -list
登録されているDeployment Manager(Web サーバ for DPM)数:0
```

(2) DPM の設定情報の変更

dpmcnfinfo コマンドを使って Control Manager に登録されている DPM の情報 (パスワードや IP アドレス) を変更する方法について説明します。

形式

```
dpmcnfinfo -chg
```

機能

DPM の IP アドレスとパスワードを変更します。

引数

このコマンドを実行すると、次の値を要求されます。次の入力規則に従って入力してください。

- 変更前の DPM の IP アドレス
DPM の IP アドレスを入力します。
IP アドレスが「010」のように 0 で始まるものは、「10」のように最初の 0 を省略してください。入力した IP アドレスが登録されていない場合はエラーとなります。
- 変更後の DPM の IP アドレス
DPM の変更後の IP アドレスを入力します。
IP アドレスが「010」のように 0 で始まるものは、「10」のように最初の 0 を省略してください。0.0.0.0 または 255.255.255.255 を指定するとエラーとなります。
- 変更後の DPM のポート番号
DPM が使用する Web サーバの変更後のポート番号を入力してください。通常 8080 です。
- 変更後の DPM の管理者パスワード
変更後の DPM 管理者のパスワードを入力してください。DPM ではパスワードとして 1 ~ 15 文字の範囲の半角文字が使用できますが、Control Manager では、6 ~ 15 文字の範囲の半角文字をパスワードとして使用する必要があります。6 ~ 15 文字の範囲の半角文字でパスワードを設定していない場合は、DPM で設定し直してください。
- 変更後の DPM の管理者パスワード（確認用）

戻り値

メッセージ	対応
変更処理が完了しました	正常終了。
パラメーターが不正です	入力したパラメーターを確認して、再入力してください。
指定された IP アドレスに誤りがあります	入力した IP アドレスが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
指定されたポート番号に誤りがあります	入力したポート番号が正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。
指定されたパスワードに誤りがあります	入力したパスワードが正しくありません。正しい値を確認の上、再度入力してください。

3. セットアップ

メッセージ	対応
データベースの接続に失敗しました	<ul style="list-style-type: none">データベースアクセス時に異常が発生しました。データベースが正常に起動および動作しているか確認して、再度実行してください。Deployment Manager Adaptor がインストールされているか確認してください。Deployment Manager Adaptor が起動していることを確認してください。
内部エラーが発生しました	
データの変更に失敗しました	

注意事項

- このコマンドは、DPM をインストールしているサーバの IP アドレスやパスワードを変更する前に実行してください。先に環境を変更すると DPM の情報を変更したり、削除したりできなくなることがあります。その場合は、Deployment Manager Adaptor をアンインストールし、再度インストールしてからコマンドを実行してください。
- このコマンドを実行する場合は、次の条件を満たしている必要があります。
 - 管理サーバ for DPM またはコマンドライン for DPM のインストールと環境設定が完了している。
 - Deployment Manager Adaptor のインストールおよび環境設定が完了している。

使用例

DPM の IP アドレスを「10.210.36.23」から「10.210.36.68」に変更する場合

```
D:\¥>dpmcnfinfo -chg
Deployment Manager(Web サーバ for DPM)のIPアドレスを入力してください
10.210.36.23
変更後のIPアドレスを入力してください
10.210.36.68
Deployment Manager(Web サーバ for DPM)のポート番号を入力してください
8080
Deployment Managerの管理者パスワードを入力してください
*****
パスワードを再入力してください
*****
変更処理が完了しました
```

参考

DPM の IP アドレスを変更できなかった場合

dpmcnfinfo コマンドの -chg オプションで IP アドレスを変更できなかった場合は、次の手順で変更してください。

1. Control Manager から IP アドレスを変更する DPM を削除します。
DPM の情報を削除する方法については、「3.7.2 DPM の削除」を参照してください。
2. DPM 管理サーバの IP アドレスを変更します。
DPM 管理サーバの IP アドレスを変更する方法については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。
3. IP アドレスを変更した DPM を Control Manager に登録します。
DPM の情報を登録する方法については、「3.7.1 DPM の登録」を参照してください。

3.8 その他の JP1 製品と連携する場合の設定

JP1/IM - CM , JP1/AJS2 - Scenario Operation および JP1/IM - M または JP1/IM - CC と連携する場合、次の設定が必要です。

JP1 ユーザーの操作権限の設定

Control Manager の構成情報を収集する設定ファイルの配置

JP1/IM - View の設定

JP1/IM - M または JP1/IM - CC の設定

ここでは上記の設定方法について説明します。

3.8.1 JP1 ユーザーの操作権限の設定

JP1/IM - CM および JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携するためには、JP1/Base で JP1 ユーザーの操作権限を設定しておく必要があります。JP1 ユーザーの操作権限の設定では、JP1 ユーザーが、ジョブやジョブネットなどの JP1 資源グループに対して、どんな操作ができるか（JP1 権限レベル）を設定します。設定手順を次に示します。

1. JP1/Base の [JP1/Base 環境設定] ダイアログボックスで、JP1/IM - CM および JP1/AJS2 - Scenario Operation 連携時に使用する認証サーバを指定する。
2. JP1 ユーザーを登録する。（プライマリー認証サーバを指定した場合だけ）
ここで登録した JP1 ユーザーおよびパスワードは、JP1/IM - View または JP1/AJS2 - View からのログイン時に使用します。すでに登録してある場合は不要です。
3. 登録した JP1 ユーザーの操作権限を設定する。（プライマリー認証サーバを指定した場合だけ）
JP1/IM - CM と連携する場合は、「JP1_CM_Admin」または「JP1_CM_InfraManager」を設定してください。

ここでは詳細手順については省略しています。詳細な手順については、マニュアル「JP1/Base」または「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

3.8.2 Control Manager の構成情報を収集するファイルの配置

Control Manager の構成情報を収集するには、Control Manager の構成情報を収集するアダプタコマンド設定ファイル（Adapter_HITACHI_SERVERCONDUCTOR_SERVERMANAGER.conf）を JP1/Base で指定されているディレクトリに配置する必要があります。

注

通常、本設定は Control Manager のインストール時に自動的に実行されます。

アダプタコマンド設定ファイルの格納先ディレクトリ、および JP/Base で指定されているディレクトリを次に示します。

アダプタコマンド設定ファイルの格納先ディレクトリ

<インストールディレクトリ>

¥data¥Adapter_HITACHI_SERVERCONDUCTOR_SERVERMANAGER.conf

設定ファイルの格納先ディレクトリ

<JP1/Baseインストールディレクトリ>¥plugin¥conf

3.8.3 JP1/IM - View の設定

JP1/IM - CM から Control Manager の Web コンソールを表示するためには、JP1/IM - View の設定ファイル「hitachi_jp1_sc_cm_ja.conf」にパラメーターを記述する必要があります。

JP1/IM - View の設定ファイル「hitachi_jp1_sc_cm_ja.conf」の格納先ディレクトリ、および記述内容を次に示します。

JP1/IM - View の設定ファイル「hitachi_jp1_sc_cm_ja.conf」の格納先ディレクトリ

<JP1/IM-Viewインストールディレクトリ>¥conf¥launch¥ja

記述内容

設定ファイル「hitachi_jp1_sc_cm_ja.conf」の内容を次に示します。太字で示した

<Control Manager サーバのホスト名>と<接続先ポート番号>を Control Manager の Web コンソールに合わせて設定してください。

```
arguments="http://<Control Managerサーバのホスト名>:
<接続先ポート番号>/ControlManager/admin/%JCM_SPM_URL%?user=
%JCO_JP1USER%&token=%JCO_JP1TOKEN%&sp=%JCM_RESPACKNAME%&mac=%JCM_MAC_ADDRESS%"
;
```

3.8.4 JP1/IM - M または JP1/IM - CC の設定

Control Manager が通知する JP1 イベントの詳細情報を JP1/IM - M または JP1/IM - CC で表示させるためには、Control Manager が提供する拡張属性定義ファイルを JP1/IM - M または JP1/IM - CC のフォルダにコピーする必要があります。

拡張属性定義ファイルは Control Manager のインストール先フォルダの data フォルダに格納されています。

拡張属性定義ファイルは次に示す手順でコピーを実行します。

3. セットアップ

< 拡張属性定義ファイルの名称 >

- hitachi_ServerConductorControlManager_attr_ja.conf

< 手順 >

1. 拡張属性定義ファイルを JP1/IM - M または JP1/IM - CC のフォルダ にコピーする
2. 「JP1/Console」サービスを再起動する

注

JP1/IM - M または JP1/IM - CC のデフォルトのインストール先を指定した場合、次のフォルダにコピーする必要があります。

C:¥Program Files¥Hitachi¥JP1Cons¥conf¥console¥attribute

3.9 Control Manager サーバの IP アドレスを変更した場合の対処

Control Manager がインストールされたサーバの IP アドレスを変更した場合は、次の対処が必要です。

- Control Manager サーバの再起動
- JP1/IM - CM と連携する場合、JP1/BASE の再起動
- JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携している場合、JP1/AJS2 - Agent の再起動

3.10 Control Manager サービスの起動と停止

Control Manager サービスの起動または停止する方法について説明します。

1. 「コントロールパネル」「サービス」を実行する。
Windows の [サービス] ダイアログが表示されます。
2. [サービス] ダイアログの一覧に表示されている「Hitachi Control Manager」を右クリックする。
メニューの [開始] または [停止] を選択します。
Control Manager サービスが起動または停止します。

Control Manager サービスの停止処理で、次のサービスが停止されます。エラーなどで停止されなかった場合は、手動で停止してください。

- Hitachi Control Manager Service
- JP1 ServerConductor Control Manager Web Server

Control Manager で使用するサービスの一覧、およびサービスに異常が発生した場合にイベントログに出力されるメッセージの一覧を示します。

(1) Control Manager で使用するサービスの一覧

Control Manager で使用するサービスの一覧を次の表に示します。

表 3-7 Control Manager のサービスの一覧

種類	表示名	サービス名
Control Manager 起動サービス	Hitachi Control Manager	HCMgr
Control Manager 制御サービス	Hitachi Control Manager Service	HCMgrSvc
Hitachi Web Server	JP1 ServerConductor Control Manager Web Server	JP1ServerConductorControlManagerWebServer
データベース	HiRDB/EmbeddedEdition_SCx	HiRDBEmbeddedEdition_SCx
データベース (クラスタ構成)	HiRDB/ClusterService_SCx	HiRDBClusterService_SCx
トレース共通ライブラリ	Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor 2	Hntr2Service

注

SCx の x はクラスタ構成の識別番号です。非クラスタ構成の場合は 0 になります。

(2) サービス異常時にイベントログに出力されるメッセージ一覧

Control Manager はサービスの異常を検出した場合、イベントログに情報を出力します。
イベントログに出力されるメッセージと対処方法を次の表に示します。

表 3-8 イベントログに出力されるメッセージの一覧

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN71101-E	Hitachi Control Manager Service の初期化に失敗しました。 (XXXXXXXXXXXXXXXXXX) 保守員に連絡してください。	XXXXXXXXXXXXXXXXXX は内部情報です。 Hitachi Control Manager Service の初期化に失敗しています。保守員に連絡してください。
KASN71102-E	Hitachi Control Manager Service で続行不可能なエラーが発生したため、プログラムを終了します。 保守員に連絡してください。	Hitachi Control Manager Service で続行できないエラーが発生しています。保守員に連絡してください。
KASN71201-E	Hitachi Control Manager Service の終了処理で異常が発生しました。 (XXXXXXXXXXXXXXXXXX) 保守員に連絡してください。	XXXXXXXXXXXXXXXXXX は内部情報です。 Hitachi Control Manager Service の終了処理で異常が発生しています。保守員に連絡してください。
KASN72101-E	SVMCOM から続行不可能なエラーが通知されました。 (wParam=XXXXXXXXXX, lParam=YYYYYYYYY) 保守員に連絡してください。	XXXXXXXXXX, YYYYYYYYYY は内部情報です。 SVMCOM ¹ から続行できないエラーが通知されました。保守員に連絡してください。
KASN72102-E	SVMCOM からエラーが通知されました。 (wParam=XXXXXXXXXX, lParam=YYYYYYYYY)	XXXXXXXXXX, YYYYYYYYYY は内部情報です。 SVMCOM ¹ から続行できるエラーが通知されました。対処は不要です。
KASNA00G0-E	Hitachi Control Manager で異常を検知しました (XXXXXXXXXXXXXXXXXX) このメッセージが記録された場合は、インストール環境を見直してください。	XXXXXXXXXXXXXXXXXX は内部情報です ² 。 しばらく待ってから再度 Control Manager のサービスを起動してください。それでも解決できない場合は、OS 環境が壊れているおそれがあります。インストール環境を見直してください。 内部情報に PRF デーモン開始・内部コード n. が記録された場合は、次のフォルダの中身をすべて削除してから、サービスを起動してください。 < CM パス > ¥log¥PRF PRF フォルダは削除しないでください。
KASNA10G0-I	Hitachi Control Manager の停止処理を開始します (XXXXXXXXXXXXXXXXXX)	XXXXXXXXXXXXXXXXXX は内部情報です ³ 。 対処は不要です。

3. セットアップ

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASNA20G0-I	監視対象プログラムまたはサービスの停止を検知しました (XXXXXXXXXXXXXXXXXX) Hitachi Control Manager を構成するプログラムまたはサービスが停止しました。 OS シャットダウン時に、このメッセージが記録された場合は、問題ありません。 ユーザーが、Hitachi Control Manager を構成するプログラムまたはサービスを停止した場合、Hitachi Control Manager を再起動してください。 その他の場合は、インストール環境を見直してください。	XXXXXXXXXXXXXXXXXX は内部情報です ⁴ 。 OS シャットダウン時： 対処は不要です。 サービス停止時： サービスを再起動してください。 その他： OS の環境が壊れているおそれがあります。インストール環境を見直してください。

注 1

SVMCOM は Control Manager が Blade Server Manager と連携するための内部プログラムの名称です。

注 2

次に示す情報のどれかが表示されます。

ServiceMain 登録処理 .

Control Manager 設定値取得 .

環境変数取得処理 COSMINEXUS_HOME.

サービス開始中 状態通知 1.

サービス開始中 状態通知 2.

サービス開始 状態通知 .

制御ハンドラ登録処理 . 内部コード n.

メモリ確保 . 内部コード pSD:n.

セキュリティ・ディスクリプタ初期化処理 . 内部コード n.

セキュリティ・ディスクリプタ登録処理 . 内部コード n.

停止通知イベント作成処理 . 内部コード n.

HiRDB 状態チェック タイムアウト . 内部コード n.

HiRDB 状態チェック . 内部コード n.

HiRDB 開始 . 内部コード n.

JP1ServerConductorControlManagerWebServer. 内部コード n.

サービスコントロールマネージャー接続処理 HCMgrSvc. 内部コード n.

サービス接続処理 JP1ServerConductorControlManagerWebServer. 内部コード n.

サービス接続処理 HCMgrSvc. 内部コード n.

サービス開始処理 JP1ServerConductorControlManagerWebServer. 内部コード n.

サービス開始処理 HCMgrSvc. 内部コード n.
 プロセス生成処理 cjstartweb.exe. 内部コード n.
 プロセス生成処理 cjstopweb.exe. 内部コード n.
 プロセス生成処理 pdstart.exe. 内部コード n.
 プロセス生成処理 cjstartweb.exe.
 プロセス生成処理 cjstopweb.exe.
 プロセス生成処理 pdstart.exe.
 プロセス生成処理 unknown.
 終了コード取得処理 pdstart.exe. 内部コード n.
 サービス状態通知処理 . 内部コード n.
 PRF デーモン開始 . 内部コード n.
 プロセス生成処理 cprfstart.exe. 内部コード n.
 プロセス生成処理 cprfstart.exe.
 内部処理エラー .

注 3

次に示す情報のどちらかが表示されます。
 OS シャットダウン .
 サービス停止要求 .

注 4

次に示す情報のどれかが表示されます。
 cjstartweb.exe 停止 .
 HiRDB 停止 . 内部コード n.
 Hitachi Control Manager Service 停止 .

(3) Control Manager サービスに関する注意事項

Control Manager サービスの起動と停止についての注意事項を次に示します。

- OS 起動時に「アプリケーションを正しく初期化できませんでした。」という内容のアプリケーションエラーが表示された場合、OS のデスクトップヒープが不足している可能性があります。その場合の対処方法については、「12.3(1) Control Manager のデータベースのセットアップ時、OS 起動時または運用中にアプリケーションエラーが表示される、または、アプリケーションの異常終了が頻繁に発生する」を参照してください。
- 動作中の Control Manager を停止するためには、Hitachi Control Manager サービスを停止してください。
- Control Manager の各サービスを OS 起動時に自動で起動したくない場合は、Hitachi Control Manager サービスのスタートアップ設定を "自動" から "手動" に変更してください。

4

クラスタシステムの構築

この章では、クラスタシステムへの Control Manager のインストール、環境変数の設定、ネットワーク構築の方法およびクラスタシステム運用時の注意事項について説明します。

4.1 クラスタシステムの概要

4.2 クラスタシステムへの Control Manager のインストールとセットアップ

4.3 クラスタシステム運用時の注意事項

4.1 クラスタシステムの概要

Control Manager は、クラスタシステムでの運用に対応しています。ここではクラスタシステムの概要について説明します。

4.1.1 クラスタシステムとは

Control Manager は、MSCS (Microsoft Cluster Service) に対応しています。Control Manager をインストールしているサーバをクラスタ構成にしておくことによって、Control Manager に障害が発生した場合でも、自動的にホストを切り替えることができます。

MSCS を利用したクラスタシステムを構築した場合、クラスタを構成する物理ホスト上で動作する仮想サーバ（論理ホスト）が割り当てられます。MSCS では、ハートビートと呼ばれる障害検知ソフトウェアによって、論理ホストが動作する物理ホストの動作状態を定期的に監視しています。

論理ホスト上で障害が発生した場合、動作する物理ホストが MSCS によって切り替えられます。これを、フェイルオーバーといいます。論理ホスト上で動作しているプログラムは、フェイルオーバーしたあとも、切り替え先で処理を継続できます。また、論理ホスト上で発生した障害が回復した場合、フェイルオーバーによって切り替えられた物理ホストから、MSCS によって元の物理ホストに切り替えられます。これをフェイルバックといいます。切り替える前に動作していたプログラムは、フェイルバックしたあとも、切り替え先で処理を継続できます。

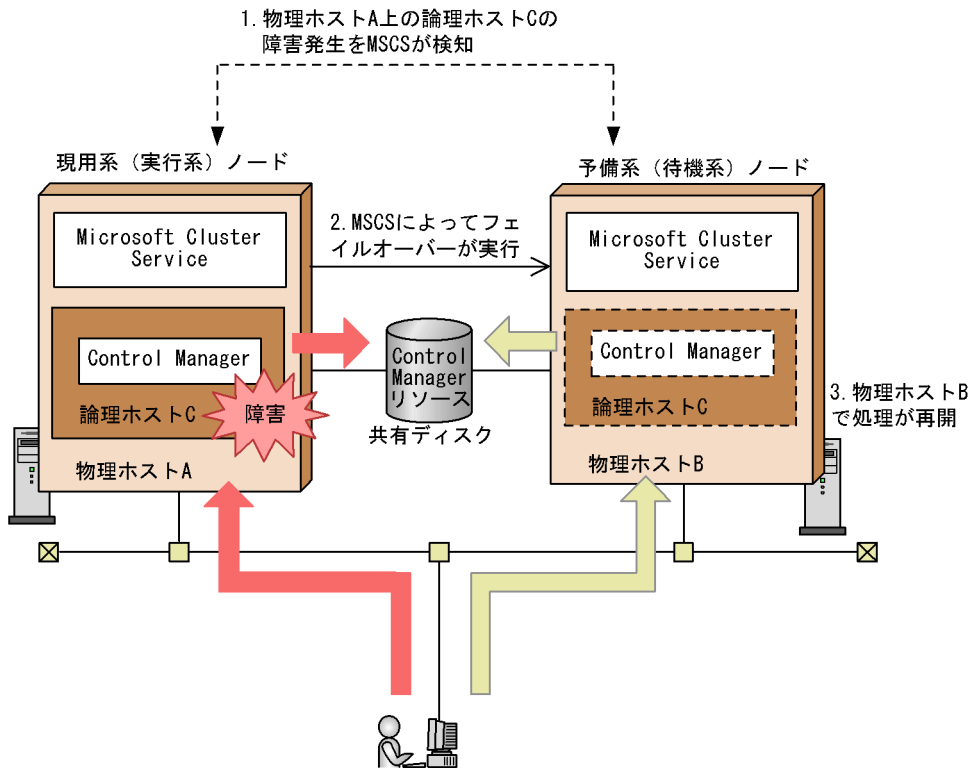
注意事項

- Control Manager は、負荷分散を目的として構成されたクラスタシステムには対応しません。
- Control Manager では、Control Manager の情報を更新中および管理対象サーバの操作を実行中に、フェイルオーバーまたはフェイルバックが実行されない場合だけクラスタシステムを運用できます。

4.1.2 Control Manager をクラスタシステムで運用する仕組み

クラスタシステムで Control Manager を運用中に物理ホストで障害が発生した場合、MSCS によってフェイルオーバーが実行されます。フェイルオーバーの実行によって物理ホストが切り替えられる例を次の図に示します。

図 4-1 フェイルオーバーの実行による物理ホストの切り替え例



- (凡例)
- : 正常時の論理ホスト
 - : フェイルオーバー後の論理ホスト
 - : 正常時のアクセス
 - : フェイルオーバー後のアクセス

業務を実行中のサーバを現用系ノード、現用系の障害時に業務を引き継げるよう待機しているサーバを予備系ノードといいます。クラスタソフトによっては、現用系のことを実行系、予備系のことを待機系ということがあります。また、論理ホスト名に割り当てられる IP アドレスを論理 IP アドレスといいます。

MSCS は現用系（実行系）ノード上の物理ホスト A と、予備系（待機系）ノード上の物理ホスト B に、仮想的なサーバである論理ホスト C を割り当てます。Control Manager の機能を利用するユーザーからは、物理ホスト A および物理ホスト B は意識されず、論理ホスト C だけが意識されます。現用系（実行系）ノードおよび予備系（待機系）ノードから共有で利用されるリソースは MSCS にリソースグループとして登録して、共有ディスクに格納しておきます。

4. クラスタシステムの構築

障害が発生するまでは、物理ホスト A 上の Control Manager が動作し、物理ホスト B 上の Control Manager は動作しないで待機しています。なお、動作中の Control Manager の稼働状態は、それぞれのホストで稼働している MSCS のハートビートによって監視されています。

この構成で物理ホスト A に障害が発生した場合、MSCS によって次の処理が実行されます。

1. 物理ホスト A 上の論理ホスト C で障害が発生したことが、MSCS のハートビートによって検出される
2. MSCS によってフェイルオーバーが実行される
フェイルオーバーで実行される処理は次のとおりです。
 - Control Manager のリソースを物理ホスト B が参照するように変更されます。
 - MSCS によって物理ホスト B 上の論理ホスト C および Control Manager が起動されます。
3. MSCS によって処理を中断する前の情報が共有ディスクから取り出され、物理ホスト B 上で処理が再開される
フェイルオーバーによって処理が中断している間のデータは破棄されます。

注意事項

JP1/Base は、クラスタシステム用のサービスと、それぞれの物理ホストのサービスがすべて使用できる状態で構成してください。

4.2 クラスタシステムへの Control Manager のインストールとセットアップ

MSCS を使用してクラスタシステムを構築する場合の Control Manager のインストール手順およびセットアップ手順を説明します。

なお、すでに Control Manager がインストールされている場合は、更新インストールはできません。Control Manager をアンインストールしてから Control Manager を新規インストールしてください。

注意事項

非クラスタ構成で Control Manager がインストールされている設定から、クラスタ構成の設定に変更する場合は、Control Manager をアンインストールしたあと、Control Manager を新規インストールしてください。また、クラスタ構成の設定で Control Manager をバージョンアップしたり、同じバージョンをインストールしたりする場合も、Control Manager をアンインストールしたあと、Control Manager を新規インストールしてください。

4.2.1 インストール前の確認事項

インストールを実行する前に、次の内容を満たしているか確認してください。

(1) 共有ディスク

クラスタアドミニストレータのグループ移動を使用して、共有ディスクを現用系（実行系）から予備系（待機系）へ切り替えられるように設定していることを確認してください。

現用系（実行系）および予備系（待機系）に割り当てる共有ディスクには、同じドライブレターを設定していることを確認してください。

フェイルオーバーのときに、現用系（実行系）ノードまたは予備系（待機系）ノードのどちらかから、常に共有ディスクへ排他アクセスできていることを確認してください。

(2) 論理 IP アドレス

現用系（実行系）から予備系（待機系）に切り替わったとき、切り替え元の IP アドレスと切り替え先の IP アドレスが正しく引き継がれるように設定していることを確認してください。

ping コマンドで現用系（実行系）または予備系（待機系）の論理ホスト名を指定した場合、それぞれの論理 IP アドレスが正しく表示されることを確認してください。

hosts ファイルまたは DNS サーバに次の項目が登録されていて、名前解決できること

4. クラスタシステムの構築

(ping コマンドによる応答確認ができること) を確認してください。

- 現用系 (実行系) ノードまたは予備系 (待機系) ノードの物理ホスト名と IP アドレス
- 系切り替え時に引き継ぎできる論理ホスト名と論理 IP アドレス

4.2.2 インストール先

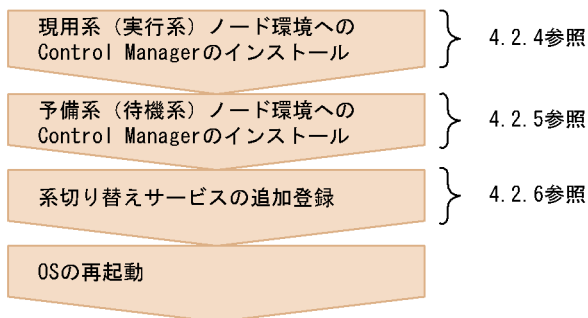
Control Manager をクラスタシステムで運用する場合、次に示すインストール先に Control Manager をインストールしてください。

DPM と連携する場合、Control Manager は DPM および Deployment Manager Adaptor がインストールされているサーバと同じサーバにインストールしてください。

4.2.3 インストールおよびセットアップの流れ

Control Manager をクラスタシステムで運用する場合のインストールおよびセットアップの流れを次に示します。

図 4-2 Control Manager をクラスタシステムで運用する場合のインストールおよびセットアップの流れ



4.2.4 現用系 (実行系) ノード環境への Control Manager のインストール

1. MSCS の系切り替えが現用系 (実行系) にあることを確認する

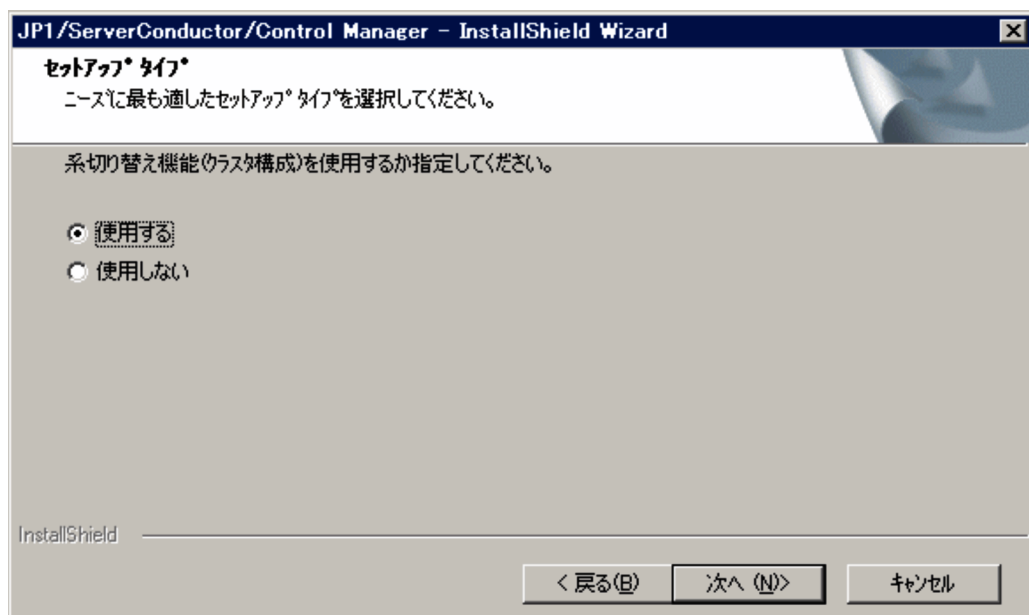
[コントロールパネル] - [管理コンピュータ] - [クラスタアドミニストレータ] を実行し、次の項目 (リソース) が現用系 (実行系) にあることを確認します。

- 共有ドライブへのアクセス権限
- 系切り替え引き継ぎ論理 IP アドレス
- 引き継ぎホスト名の定義

このあとの手順は、[クラスタアドミニストレータ] ウィンドウで、すでにグループ "CMCLUSTER" にこれらのリソースが作成されていることを前提として説明します。

2. Control Manager のセットアップを実行する

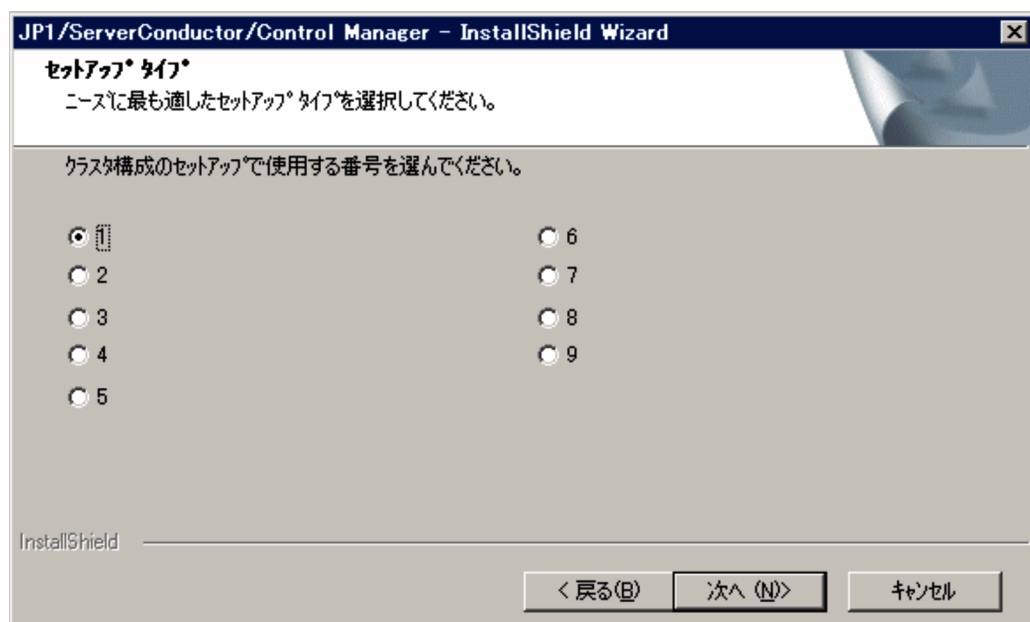
「3.2.4 新規インストール」を参照して、セットアップを実行します。セットアップの実行中に「系切り替え機能（クラスタ構成）を使用するか指定してください。」と表示されたら、[使用する] ラジオボタンを選択してください。



3. [次へ] ボタンをクリックする

「クラスタ構成のセットアップで使用する番号を選んでください。」と表示されます。クラスタ構成の識別番号を指定してください。

4. クラスタシステムの構築



注意事項

クラスタ構成の識別番号は、あとからインストールする予備系（待機系）ノード環境でも同じ番号を指定してください。

4. [次へ] ボタンをクリックする

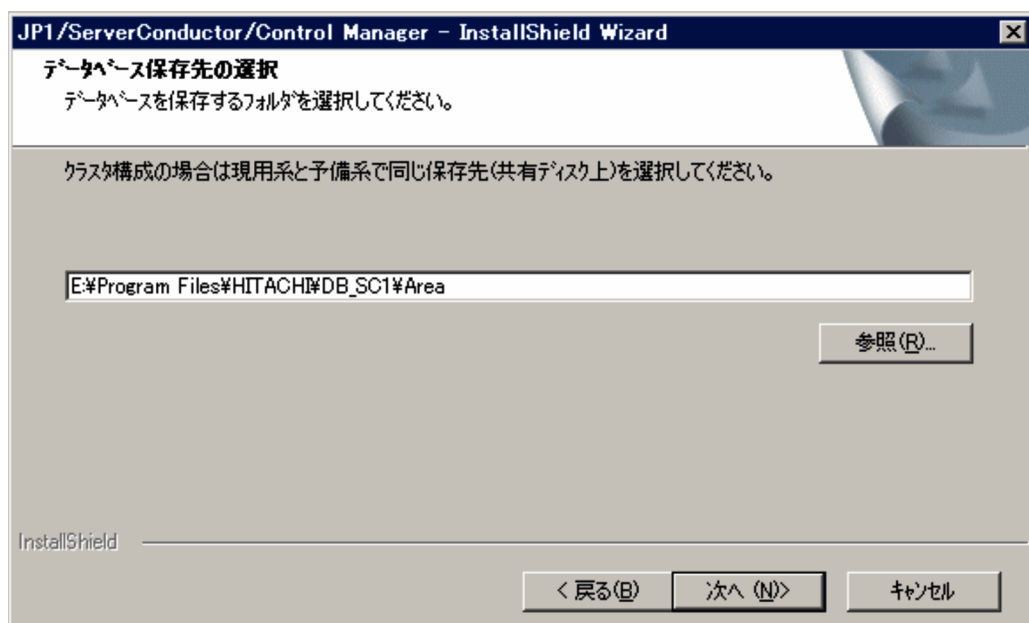
「クラスタ構成のシステムを選択してください。」と表示されます。[現用系] ラジオボタンを選択してください。



5. [次へ] ボタンをクリックする

「クラスタ構成の場合は現用系と予備系で同じ保存先（共有ディスク上）を選択してください。」と表示されます。

データベースの保存先フォルダを指定してください。



注意事項

必ず共有ドライブ上のディレクトリを指定してください。

6. [次へ] ボタンをクリックする

「現用系の物理ホスト名及び論理ホスト名を指定してください。」と表示されます。

4. クラスタシステムの構築



物理ホスト名および論理ホスト名を指定してください。

物理ホスト名および論理ホスト名には次の内容を指定します。

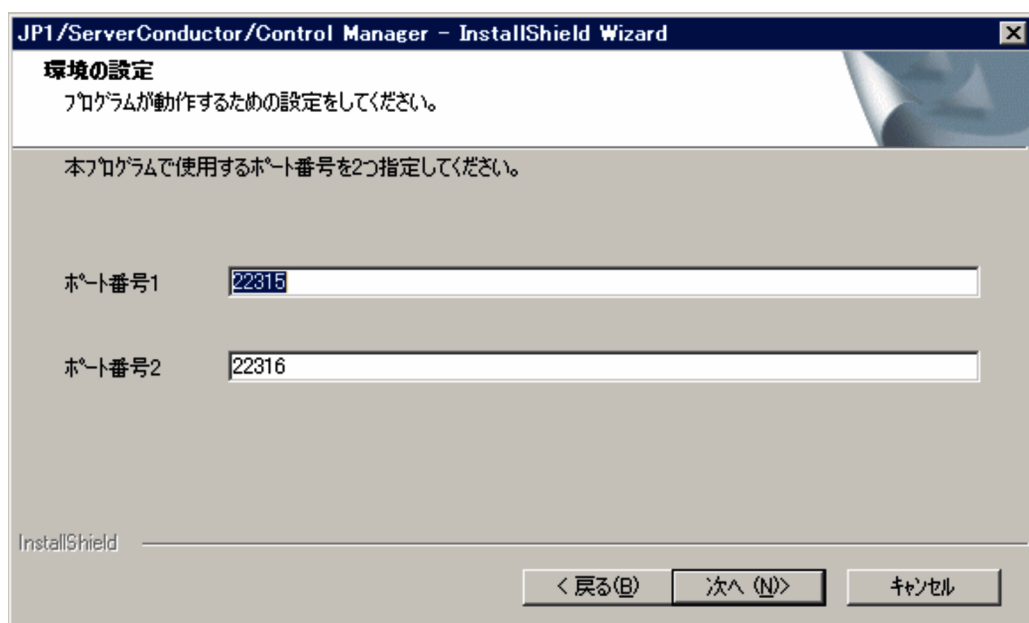
- 物理ホスト名
現用系（実行系）ノードのホスト名
- 論理ホスト名
系切り替え時に引き継がれる論理 IP アドレスのホスト名

7. [次へ] ボタンをクリックする

「本プログラムで使用するポート番号を2つ指定してください。」と表示されます。

プログラムで使用するポート番号を指定してください。

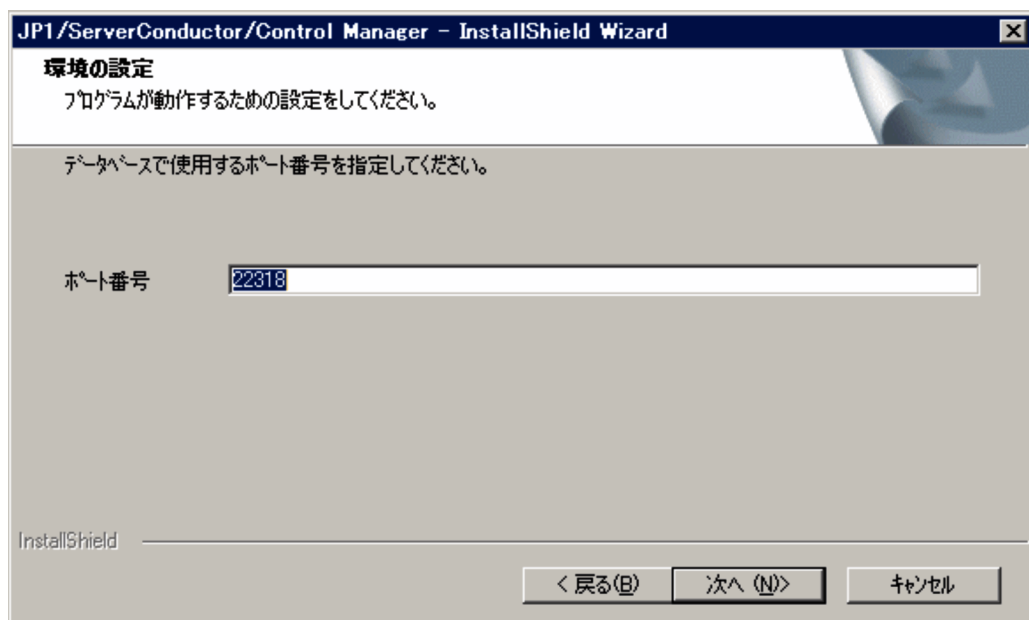
以降、設定するすべてのポート番号は、ほかのプログラムと重複しないように設定してください。また、現用系（実行系）および予備系（待機系）で同じ値を設定してください。



8. [次へ] ボタンをクリックする

「データベースで使用するポート番号を指定してください。」と表示されます。

HiRDB で使用するポート番号を指定してください。



9. [次へ] ボタンをクリックする

「Hitachi Web Server で使用するポート番号を指定してください。」と表示されます。

Web サーバで使用するポート番号を指定してください。

4. クラスタシステムの構築



10.[次へ] ボタンをクリックする

「Cosminexus で使用するポート番号を 2 つ指定してください。」と表示されます。

Cosminexus で使用するポート番号を指定してください。



11.[次へ] ボタンをクリックする

ファイルコピーのダイアログが表示されますので、[次へ] をクリックします。インストールが開始されます。再起動の指示が表示されたら、「いいえ、後でコンピュー

タを再起動します。」を選択して、[完了] ボタンをクリックします。

ここまでで、インストールは完了です。

12. サービスのスタートアップ設定を自動起動から手動起動に変更する

[コントロールパネル] - [サービス] を実行し、次のサービスのスタートアップ設定を自動起動から手動起動に変更します。

- 「HiRDB/EmbeddedEdition _SCx」(SCx の x はクラスタ構成の識別番号)
- 「Hitachi Control Manager」

次のサービスも手動起動となっていることを確認します。

- 「HiRDB/Cluster Service _SCx」(SCx の x はクラスタ構成の識別番号)
- 「Hitachi Control Manager Service」
- 「JP1 ServerConductor Control Manager Web Server」(Control Manager で使用する Hitachi Web Server のサービス名)

13. DB 処理プロセスが開始済みであることを確認する

[コマンドプロンプト] を起動し、< CM パス > %bin にカレントフォルダを移動してから次のコマンドを実行してください。Windows Server 2008 を使用している場合は、管理者権限のあるコマンドプロンプトで実行してください。

< CM パス > %bin は、デフォルトの設定では下記フォルダになります。

C:\Program Files\HITACHI\ServerConductor\ControlManager\bin

```
cmdbcmd pdls
```

「cmdbcmd」はコマンドプロンプト上でデータベースを操作するコマンドで、pdls を指定するとデータベースの起動状態を表示します。データベースの処理プロセスが開始済みの場合、例として次のようなメッセージが表示されます。

```
C:\Program Files\HITACHI\ServerConductor\ControlManager\bin>cmdbcmd pdls
HOSTNAME(230445)          UNITID SVID      STATUS  STARTTIME
CMCLUSTER                unt1  ***** ACTIVE   225609
CMCLUSTER                unt1  sds01  ACTIVE   225609

C:\Program Files\HITACHI\ServerConductor\ControlManager\bin>
```

"HOSTNAME" に表示される "CMCLUSTER" は、系切り替えの引き継ぎできる論理ホスト名です。

データベースの処理プロセスが開始済みでない場合は、次のコマンドを実行してデータベースの処理プロセスを開始してください。

```
cmdbcmd pdstart
```

14. 次に予備系（待機系）ノード環境への Control Manager のインストールを実行するため、次のコマンドで、DB 処理プロセスをいったん停止する

[コマンドプロンプト] で次のコマンドを実行して、データベースの処理プロセスを停止してください。Windows Server 2008 を使用している場合は、管理者権限のあるコマンドプロンプトで実行してください。

```
cmdbcmd pdstop
```

正常に停止した場合、例として次のようなメッセージが表示されます。

```
C:\Program Files\HITACHI\ServerConductor\ControlManager\bin>cmdbcmd pdstop
3276 23:11:24 unt1 _rdm      KFPS01841-I HiRDB unit unt1 terminated. mode = NORMAL
3276 23:11:24 unt1 _rdm      KFPS01850-I HiRDB system terminated. mode = NORMAL

C:\Program Files\HITACHI\ServerConductor\ControlManager\bin>
```

15. サービス「HiRDB/EmbeddedEdition_SCx」（SCx の x はクラスタ構成の識別番号）を停止する

これで、現用系（実行系）ノード環境への Control Manager のインストールは完了です。次に、予備系（待機系）ノード環境へ Control Manager をインストールします。

4.2.5 予備系（待機系）ノード環境への Control Manager のインストール

「4.2.4 現用系（実行系）ノード環境への Control Manager のインストール」が完了したら、予備系（待機系）ノード環境へ Control Manager をインストールします。

1. クラスタアドミニストレータで系切り替えを実行する

この操作は、現用系（実行系）、予備系（待機系）どちらでもできます。

[コントロールパネル] - [管理コンピュータ] - [クラスタアドミニストレータ] を実行し、次の項目を含むグループを、現用系（実行系）から予備系（待機系）に移動させます。右クリックで [グループの移動] を選択し、予備系（待機系）に移動させます。

- 共有ドライブへのアクセス権限
- 系切り替え引き継ぎ論理 IP アドレス
- 引き継ぎホスト名の定義



2. 予備系（待機系）ノード上で、共有ドライブへの排他アクセスができるようになったことを確認する
3. 現用系（実行系）と同様の手順で、予備系（待機系）をインストールし、サービスのスタートアップ設定を自動起動から手動起動に変更する
「4.2.4 現用系（実行系）ノード環境への Control Manager のインストール」の操作 2. ～ 12. を実行してください。操作の際は、次のことに注意してください。
 - ・操作 4. で [予備系] ラジオボタンを選択する。
 - ・操作 6. で指定する物理ホスト名は、現用系（実行系）ノードのホスト名を指定する。
 - ・操作 6. で指定する論理ホスト名には、現用系（実行系）と同じ論理 IP アドレスのホスト名を指定する。

インストール完了後、再起動を指示されたら、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」を選択して、[完了] ボタンをクリックします。

4. DB 処理プロセスを停止する
[コマンドプロンプト] を起動し、< CM パス > %bin にカレントフォルダを移動してから次のコマンドを実行して、データベースの処理プロセスを停止します。Windows Server 2008 を使用している場合は、管理者権限のあるコマンドプロンプトで実行してください。
< CM パス > %bin は、デフォルトの設定では下記フォルダになります。
C:\Program Files\HITACHI\ServerConductor\ControlManager\bin

```
cmd /c cd %bin & pdstop
```

4. クラスタシステムの構築

5. HiRDBEmbeddedEdition_SCx を停止する

これで、予備系（待機系）ノード環境への Control Manager のインストールは完了です。次に、系切り替え時に引き継がれるサービスを追加登録します。

4.2.6 系切り替えサービスの追加登録

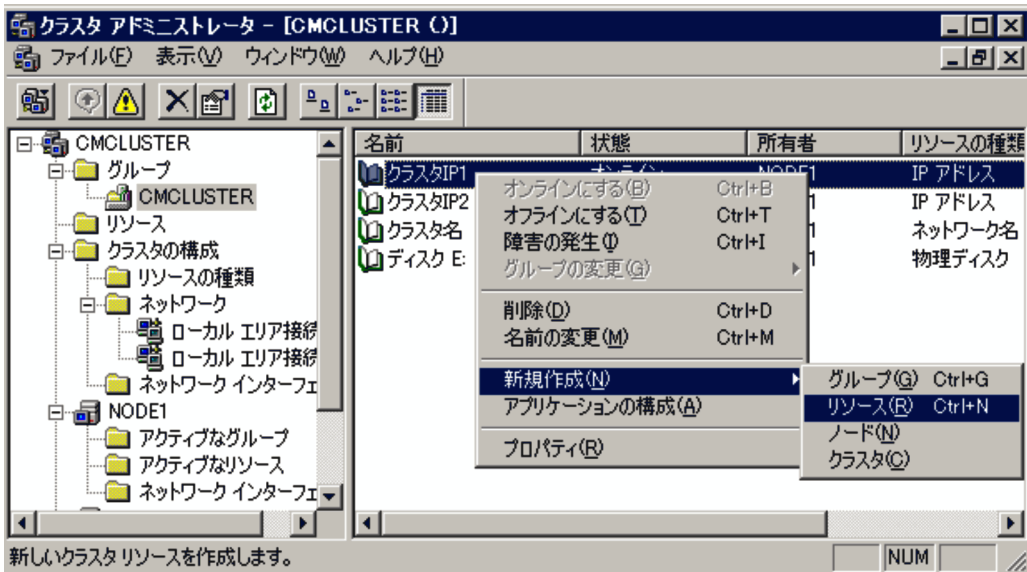
系切り替え時に引き継がれるサービスを追加登録します。系切り替えで現在有効になっている系側で設定します。

MSCS に登録するリソースについては、「4.2.7 同じクラスタグループに登録するリソースと依存関係」を参照し、必要に応じてサービスを登録してください。

ここでは、HiRDB/EmbeddedEdition_SCx（SCx の x はクラスタ構成の識別番号）を登録する例で手順を説明します。

まずは、HiRDB クラスタサービスの新規リソースを登録します。

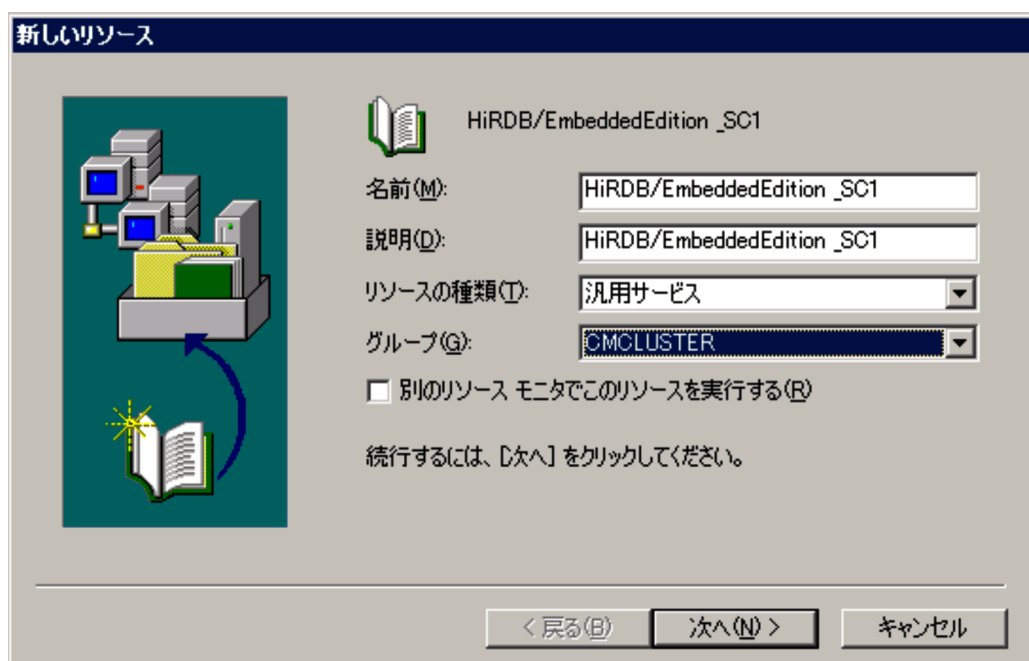
1. グループ「CMCLUSTER」を左側のフレームで選択し、右側のフレームで右クリックして、[新規作成] - [リソース] を選択する



[新しいリソース] ダイアログボックスが表示されます。

2. [新しいリソース] ダイアログボックスで、次の項目を設定する


- ・ 名前：HiRDB/EmbeddedEdition_SCx（SCx の x はクラスタ構成の識別番号）
- ・ 説明：HiRDB/EmbeddedEdition_SCx（SCx の x はクラスタ構成の識別番号）
- ・ リソースの種類：汎用サービス
- ・ グループ：CMCLUSTER



3. [新しいリソース] ダイアログボックスの [次へ] ボタンをクリックする
 [実行可能な所有者] ダイアログボックスが表示されます。
 [実行可能な所有者] に現用系（実行系）の物理ホスト名，予備系（待機系）の物理ホスト名が含まれていることを確認してください。
4. [次へ] ボタンをクリックする
 [依存関係] ダイアログボックスが表示されます。次のリソースを [追加] ボタンで設定してください。
 - 共有ディスクへのアクセス
 - 系切り替えで引き継がれる論理ホスト名（ネットワーク名）



4. クラスタシステムの構築

依存関係

 HiRDB/EmbeddedEdition_SC1

依存関係は、最初にクラスタ サービスによってオンラインにする必要があるリソースです。このリソースの依存関係を指定してください。



利用できるリソース(U):

リソース	リソースの種類
 クラスタIP1	IP アドレス
 クラスタIP2	IP アドレス

追加(A) ->

<- 削除(R)


リソースの依存関係(D):

リソース	リソースの種類
 クラスタ名	ネットワーク名
 ディスク E:	物理ディスク

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

5. [依存関係] ダイアログボックスの [次へ] ボタンをクリックする
[汎用サービス パラメータ] ダイアログボックスが表示されます。[サービス名] にサービス名「HiRDBEmbeddedEdition_SCx」(SCx の x はクラスタ構成の識別番号) を入力してください。

汎用サービス パラメータ

 HiRDB/EmbeddedEdition_SC1

サービス名(S):

起動パラメータ(P):

☐ ネットワーク名をコンピュータ名として使う(U)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

HiRDB/EmbeddedEdition_SCx (SCx の x はクラスタ構成の識別番号) のサービス画面に表示されるサービス名を確認しておきます。

「コントロールパネル」 - 「サービス」を実行し、登録されているサービスの一覧から「HiRDB/EmbeddedEdition_SCx」をダブルクリックするとプロパティが表示されます。[全般] タブに表示される [サービス名] が、
「HiRDBEmbeddedEdition_SCx」となっていることを確認してください。

6. [次へ] ボタンをクリックする

[レジストリ レプリケーション] ダイアログボックスが表示されます。何も設定しないで、[完了] ボタンをクリックします。

これで、HiRDB/EmbeddedEdition_SCx の登録は完了です。

7. HiRDB/EmbeddedEdition_SCx の登録と同じ要領で次のサービスも登録する

- HiRDB/ClusterService_SCx (SCx の x はクラスタ構成の識別番号)
- Hitachi Control Manager

すべてのサービスの登録処理が終了したら、現用系 (実行系)、予備系 (待機系) の順で OS を再起動してください。再起動後、登録したリソースをオンラインにしてください。

4.2.7 同じクラスタグループに登録するリソースと依存関係

MSCS に登録するリソースを次の表に示します。リソースを登録する際、リソースの名前と説明にはサービス表示名を入力してください。そのほかはデフォルトの値を入力してください。DPM および DMA を使用する場合、Control Manager と同じクラスタグループにリソースを登録してください。Windows Server 2008 を使用している場合は、[新しいリソース ウィザード] でデフォルトで設定されるデフォルト値に対して、依存関係のみ追加で設定してください。

表 4-1 同じクラスタグループに登録するリソースと依存関係

項番	製品名称	サービス表示名	サービス名	依存関係	リソースの種類
1	-	-	-	-	物理ディスク
2	-	-	-	-	IP アドレス
3	-	-	-	# 2	ネットワーク名
4	JP1/Base	JP1/Base Event cmcluster ¹	JP1_Base_Event cmcluster	# 1 , # 3	汎用サービス
5	JP1/Base	JP1/Base_cmcluster ¹	JP1_Base_cmcluster	# 1 , # 3	汎用サービス

4. クラスタシステムの構築

項番	製品名称	サービス表示名	サービス名	依存関係	リソースの種類
6	Control Manager	HiRDB/EmbeddedEdition_SCx ²	HiRDBEmbeddedEdition_SCx ²	# 1 , # 3	汎用サービス
7	Control Manager	HiRDB/ClusterService_SCx ²	HiRDBClusterService_SCx ²	# 6	汎用サービス
8	Control Manager	Hitachi Control Manager	HCMgr	# 7	汎用サービス

(凡例)

サービス表示名

サービスのプロパティで表示される値です。

サービス名

サービスのプロパティでサービス名に表示される値です。

依存関係

登録するリソースが依存する別のリソースを項番で示しています。

リソースの種類

登録するリソースの種類です。

- (製品名称): 該当しません。
- (サービス表示名): 登録するリソースが汎用サービス以外の場合です。
- (サービス名): 登録するリソースが汎用サービス以外の場合です。
- (依存関係): 依存対象のリソースがありません。

注 1

cmcluster の文字列は環境によって表示される内容が異なります。

注 2

SCx の x はクラスタ構成の識別番号です。

4.3 クラスタシステム運用時の注意事項

ここでは、Control Manager をクラスタシステムで運用する場合の注意事項について説明します。

(1) 論理 IP アドレスを変更または削除する場合の注意事項

論理 IP アドレスを変更または削除する場合の注意事項について説明します。

- Control Manager のサービスとコマンドを実行中に、論理 IP アドレスを変更しないでください。論理 IP アドレスを変更する場合は、次の手順で実行してください。
 1. クラスタアドミニストレータを使用して変更したい論理 IP アドレスのリソースをオフラインにする
依存関係が結ばれているリソースがすべてオフラインになります。なお、オフラインにしたリソースが汎用サービスの場合は、そのサービスが停止されます。
 2. 論理 IP アドレスを変更する
 3. 1. でオフラインになったリソースをオンラインにする
- Control Manager のサービスとコマンドを実行中に、論理 IP アドレスを削除しないでください。
- 論理 IP アドレスを削除する場合は、Control Manager サービスとコマンドが終了したあとに実施してください。

(2) DPM, JP1/IM - CM および JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する場合の注意事項

Control Manager と連携する製品を使用する場合の注意事項について説明します。

DPM 連携時

dpmcnfinfo コマンドで登録する DPM の IP アドレスは、クラスタシステムが構成されているサーバの IP アドレスを指定してください。

JP1/IM - CM 連携時

- JP1/IM - CM からサーバ情報を収集する場合は、jcmgetinfo コマンドで指定する Control Manager のホスト名に物理ホスト名を指定してください。
- JP1/IM - CM の Link & Launch 定義ファイルで設定する URL は、クラスタシステムが構成されているサーバの論理ホスト名を指定してください。

JP1/AJS2 - Scenario Operation 連携時

JP1/AJS2 - Scenario Operation からシナリオ実行する場合の実行ホスト名は、クラスタシステムが構成されているサーバの論理ホスト名を指定してください。

(3) フェイルオーバーまたはフェイルバック実行時に、BSM のサーバ情報が更新された場合の対処方法

クラスタシステムを運用中に MSCS によってフェイルオーバーまたはフェイルバックが実行された場合、Control Manager のサービスが一時的に停止されます。このときに、BSM のサーバ情報が更新されると Control Manager のサービスが停止されているため、サーバ情報が更新されたことを BSM から Control Manager に通知されなくなります。したがって、Control Manager と BSM のサーバ情報が一致しくなくなります。この場合は、Control Manager のサービスが起動されたあと、BSM とサーバ情報が一致しているかどうか確認してください。Control Manager と BSM でサーバ情報が一致していない場合は、手動でサーバ情報を更新してください。

手動でサーバ情報を更新する方法を次に示します。

Agent がインストールされているサーバ情報が一致しない場合

Agent を起動して Control Manager のサーバ情報を更新してください。

Agent がインストールされていない BladeServer の情報が一致しない場合

サーバ情報が一致しないサーバモジュールを抜き差しして Control Manager のサーバ情報を更新してください。

(4) フェイルオーバーまたはフェイルバック実行後に引き継がれない処理と対処方法

Control Manager では、次の処理を実行している間にフェイルオーバーまたはフェイルバックが実行された場合、実行中の処理は引き継がれません。

- DPM シナリオ
- N+1 コールドスタンバイ
- jscmdetachdisk コマンド
- jscmattachdisk コマンド

フェイルオーバーまたはフェイルバックの処理が完了したあとに、実行中の処理の状態を確認してください。

DPM シナリオを実行していた場合

DPM シナリオを実行中にフェイルオーバーまたはフェイルバックが実行された場合、フェイルオーバーまたはフェイルバックが完了したあと、DPM からシナリオの実行状態および管理対象サーバの状態を確認してください。

N+1 コールドスタンバイを実行していた場合

管理対象サーバが N+1 コールドスタンバイを実行中にフェイルオーバーまたはフェイルバックが実行された場合、BSM から N+1 コールドスタンバイの実行状態を確認してください。また、フェイルオーバーまたはフェイルバックが完了したあと、N+1 コールドスタンバイを実行した管理対象サーバのサーバ情報が Control

Manager と BSM で一致しているかどうか確認してください。

jscmdetachdisk コマンドを実行していた場合

jscmdetachdisk コマンドを実行中にフェイルオーバーまたはフェイルバックが実行された場合、次の手順で対処してください。

1. jscmattachdisk コマンドを実行する

コマンドの実行中にエラーが表示される場合がありますが、そのまま続行してください。

なお、BSM Plus 08-00/B 以降、08-10/A 以降と連携している場合は、1. の手順を省略できます。

2. jscmdetachdisk コマンドを実行する

jscmdetachdisk コマンドが正常に終了したことを確認してください。

jscmattachdisk コマンドを実行していた場合

jscmattachdisk コマンドを実行中にフェイルオーバーまたはフェイルバックが実行された場合、次の手順で対処してください。

1. jscmdetachdisk コマンドを実行する

コマンドの実行中にエラーが表示される場合がありますが、そのまま続行してください。

なお、BSM Plus 08-00/B 以降、08-10/A 以降と連携している場合は、1. の手順を省略できます。

2. jscmattachdisk コマンドを実行する

jscmattachdisk コマンドが正常に終了したことを確認してください。

5

Control Manager の基本操作

この章では、Control Manager の Web コンソールでの基本的な操作方法について説明します。

5.1 Control Manager のログインとログアウト

5.2 各部の名称

5.3 管理対象サーバの情報表示

5.4 詳細メニューの実行

5.1 Control Manager のログインとログアウト

ここでは、Control Manager へのログインとログアウトの方法について説明します。

5.1.1 ログイン

Control Manager を使用するには、Web ブラウザで Control Manager のログイン画面を呼び出し、Control Manager にログインします。Control Manager にログインする方法について説明します。

1. Web ブラウザ上で URL を指定し、Control Manager のログイン画面を呼び出す
Control Manager のログイン画面の URL は次のとおりです。

`http://" ホスト名または IP アドレス ":" ポート番号 "/ControlManager/
admin`

ホスト名または IP アドレス

Control Manager がインストールされているホストのホスト名または IP アドレスを指定します。

ポート番号

使用するポート番号を指定します。Control Manager のインストール時にポート番号を変更していない場合は、デフォルトの 24044 を指定します。



2. Control Manager のユーザー名とパスワードを入力する
Control Manager のユーザー名は「administrator」で固定です。

Control Manager をインストールした直後、パスワードはデフォルトの「password」に設定されています。セキュリティを確保するために、初回ログイン時に必ず変更してください。パスワードの変更については、「3.2.6 パスワードの変更」を参照してください。

注意事項

Windows Server 2008 の場合、ログイン時に表示中のタブを閉じるかどうかを確認するメッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示されたら、[はい] ボタンをクリックして処理を続行してください。

3. [ログイン] ボタンをクリックする

ログイン認証に成功すると、メインウィンドウが表示されます。メインウィンドウについては、「5.2 各部の名称」を参照してください。なお、ログイン画面の表示状態は、環境によって異なります

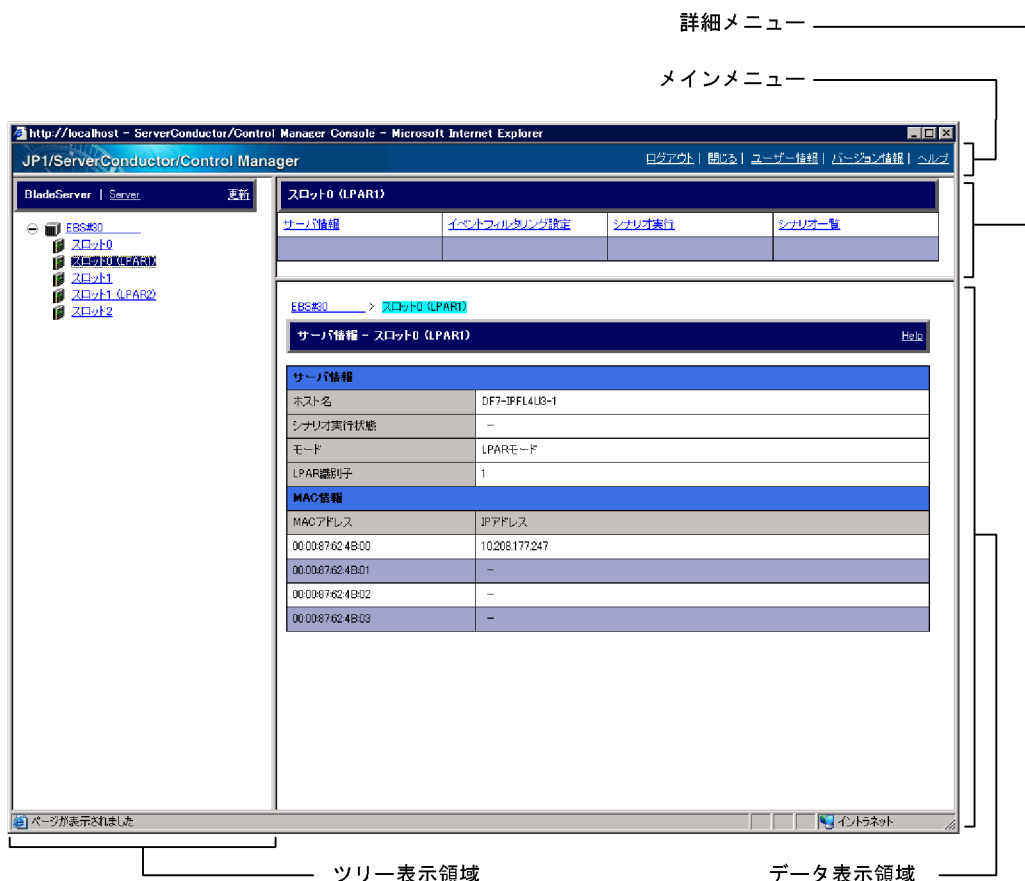
5.1.2 ログアウト

1. メインウィンドウの右上に表示されている [閉じる] アンカーまたは [×] ボタンをクリックする
ログアウトしたことを知らせるログアウト画面が表示されます。
2. [OK] ボタンまたは右上の [×] ボタンをクリックする
ログアウト画面が閉じます。

5.2 各部の名称

ここでは、メインウィンドウの各部の名称を説明します。

図 5-1 Control Manager のメインウィンドウの各部名称



メインメニュー

メインメニューには、サーバの種別に関係なく、次に示す共通のメニューが表示されます。

- [ログアウト] アンカー

Control Manager からログアウトし、ログイン画面が表示されます。ログアウト後、再度ログインする場合は、このアンカーをクリックしてください。

[イベントフィルタリングの変更] ダイアログまたは [シナリオ実行ウィザード] ダイアログボックスが表示されている状態でこのアンカーをクリックすると、メッセージが表示され、各操作の中止を確認するダイアログが表示されます。

- [閉じる] アンカー

メインウィンドウが閉じ、ログアウト画面が表示されます。ログアウトして

Control Manager の Web コンソールを終了する場合は、このアンカーをクリックしてください。

[イベントフィルタリングの変更] ダイアログまたは [シナリオ実行ウィザード] ダイアログボックスが表示されている状態でこのアンカーをクリックすると、メッセージが表示され、各操作の中止を確認するダイアログが表示されます。

- [ユーザー情報] アンカー

[ユーザー情報] ダイアログボックスが表示されます。[ユーザー情報] ダイアログボックスにはユーザー名が表示されます。Control Manager のユーザー名は「administrator」で固定です。

[イベントフィルタリングの変更] ダイアログまたは [シナリオ実行ウィザード] ダイアログボックスが表示されている状態でこのアンカーをクリックすると、メッセージが表示され、各操作の中止を確認するダイアログが表示されます。

- [バージョン情報] アンカー

[バージョン情報] ダイアログボックスが表示されます。[バージョン情報] ダイアログにはインストールされている Control Manager のバージョンが表示されます。

[イベントフィルタリングの変更] ダイアログまたは [シナリオ実行ウィザード] ダイアログボックスが表示されている状態でこのアンカーをクリックすると、メッセージが表示され、各操作の中止を確認するダイアログが表示されます。

- [ヘルプ] アンカー

別画面で Control Manager のヘルプが表示されます。

詳細メニュー

表示されているサーバ情報に対して実行できるメニューが表示されます。

ツリー表示領域

管理対象サーバがツリー形式で表示されます。上部に表示される [BladeServer] アンカーと [Server] アンカーで表示させるサーバ種別を変更できます。

- [BladeServer] アンカー

BladeSymphony のサーバシャーシおよびサーバの一覧が表示されます。

- [Server] アンカー

日立アドバンスドサーバ HA8000 の一覧が表示されます。

データ表示領域

ツリー表示領域で選択したサーバシャーシ内のサーバ一覧が表示されます。また、サーバを選択した場合は、サーバの情報が表示されます。

5.3 管理対象サーバの情報表示

ここでは、Control Manager の管理対象となっているサーバの一覧、そのサーバの詳細情報の表示方法について説明します。

5.3.1 サーバ種別の切り替え

Control Manager の Web コンソールにログインすると、Control Manager のメインウィンドウが表示されます。メインウィンドウの左側には管理対象サーバの一覧がツリー形式で表示されます。

表示するサーバ種別は、ツリー上部の [BladeServer] アンカーおよび [Server] アンカーで切り替えられます。ログイン直後は、[BladeServer] アンカーが選択された状態です。

(1) [BladeServer] アンカー選択時

BladeSymphony のサーバシャーシ一覧が表示されます。Control Manager へログイン直後はデフォルトでサーバシャーシ一覧が表示されます。1 画面当たりのサーバシャーシの最大表示件数は 10 シャーシです。サーバシャーシ一覧の表示件数が 10 件を超えた場合は、表示が複数ページにわたります。表示が複数ページにわたる場合、サーバシャーシ一覧の上部に、[<<] アンカー（最初のページを表示）、[<] アンカー（前の 10 件を表示）、[>] アンカー（次の 10 件を表示）、[>>] アンカー（最終ページを表示）が表示され、ページを切り替えられます。

[BladeServer] アンカー選択時のメインウィンドウを次の図に示します。

図 5-2 [BladeServer] アンカー選択時



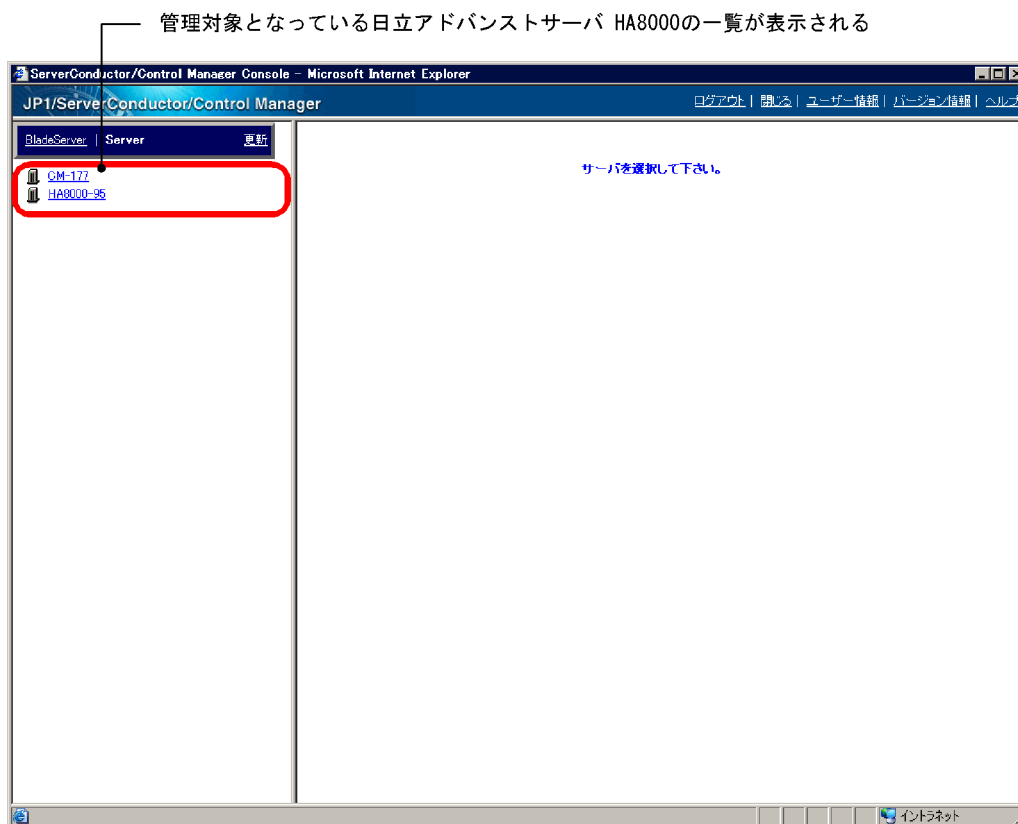
(2) [Server] アンカー選択時

日立アドバンスドサーバ HA8000 の一覧が表示されます。1 画面当たりのサーバの最大表示件数は 50 台です。サーバー一覧の表示件数が 50 件を超えた場合は、表示が複数ページにわたります。表示が複数ページにわたる場合、サーバー一覧上部に、[<<] アンカー（最初のページを表示）、[<] アンカー（前の 50 件を表示）、[>] アンカー（次の 50 件を表示）、[>>] アンカー（最終ページを表示）が表示され、ページを切り替えられます。

[Server] アンカー選択時のメインウィンドウを次の図に示します。

5. Control Manager の基本操作

図 5-3 [Server] アンカー選択時



5.3.2 詳細情報の表示

ここでは、管理対象サーバの詳細情報を表示する方法について説明します。

(1) 管理対象サーバが BladeSymphony の場合

サーバシャーシ一覧から目的のサーバシャーシをクリックすると、指定したサーバシャーシ内のサーバの一覧が表示され、シャーシ ID、スロット ID、ホスト名、および IP アドレスを参照できます。

サーバシャーシ内のサーバ一覧の表示手順を次の図に示します。

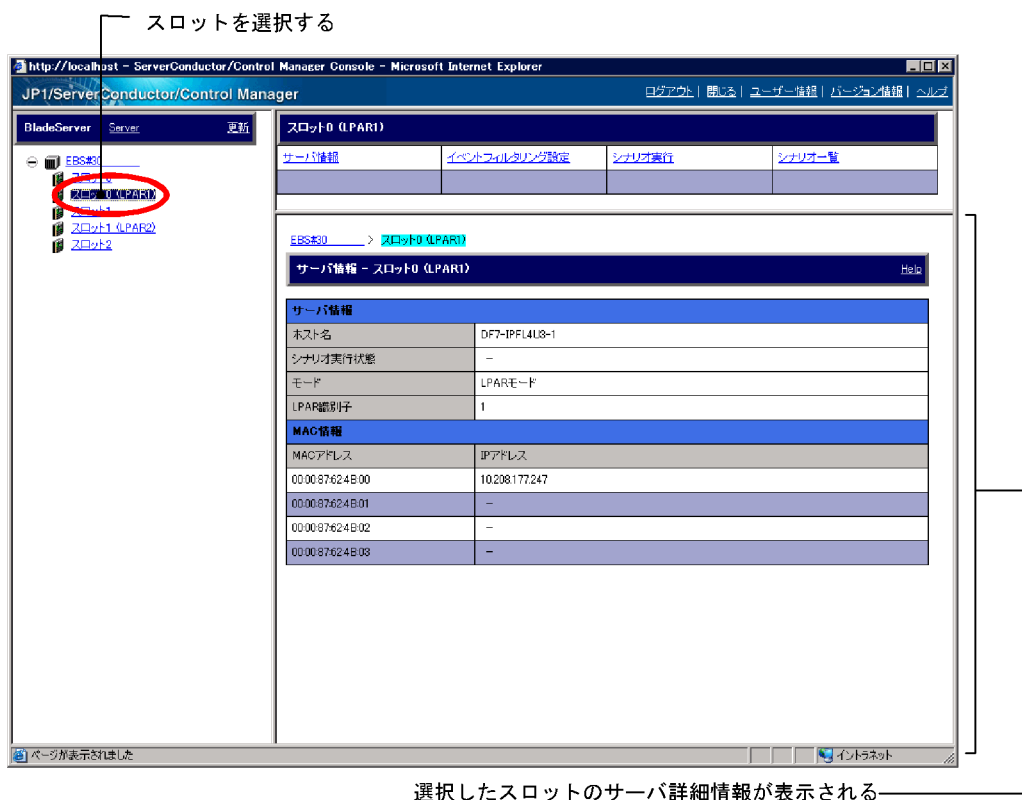
図 5-4 サーバシャーシ内のサーバ一覧の表示手順



ツリー表示領域またはデータ表示領域に表示されているスロット ID をクリックすると、目的のサーバ情報が表示され、ホスト名、および MAC 情報（MAC アドレスおよび IP アドレス）、モード（Basic モードまたは LPAR モード）、LPAR 識別子を参照できます。また、Control Manager の Web コンソールから DPM シナリオを実行した場合は、シナリオ実行状態も表示されます。サーバシャーシ内の各サーバの詳細情報を表示する手順を次の図に示します。

5. Control Manager の基本操作

図 5-5 サーバシャーシ内の各サーバの詳細情報表示



(2) 管理対象サーバが日立アドバンストサーバ HA8000 の場合

ホスト一覧から目的のホストをクリックすると、指定したサーバの詳細情報が表示され、ホスト名、およびMAC情報（MACアドレスおよびIPアドレス）、モード（Basicモード）、LPAR識別子を参照できます。なお、LPAR識別子には「-」（全角ハイフン）が表示されます。Control ManagerのWebコンソールからDPMシナリオを実行した場合は、シナリオ実行状態も参照できます。

日立アドバンストサーバ HA8000の詳細情報を表示する手順を次の図に示します。

図 5-6 日立アドバンスサーバ HA8000 の詳細情報表示

サーバを選択する

The screenshot shows the ServerConductor/Control Manager Console interface. On the left, under the 'Server' tab, the 'HA8000-95' server is selected and highlighted with a red circle. An arrow points from the text 'サーバを選択する' to this selection. The right pane displays the detailed information for the selected server, titled 'HA8000-95'.

サーバ情報

サーバ情報	イベントフィードバック設定	シナリオ実行	シナリオ一覧
-------	---------------	--------	--------

HA8000-95

サーバ情報 - HA8000-95

サーバ情報	
ホスト名	HA8000-95
シナリオ実行状態	-
モード	Basicモード
LPAR識別子	-
MAC情報	
MACアドレス	IPアドレス
000F EA64 CEEA	10.209.146.95
000F EA64 CEEB	192.168.0.250

選択したサーバの詳細情報が表示される

5.4 詳細メニューの実行

ツリー表示領域でサーバシャーシまたはサーバを選択すると、ウィンドウ上部に実行できる詳細メニューが表示されます。詳細メニューを次の図に示します。

図 5-7 詳細メニュー

サーバシャーシを選択した場合

サーバー一覧			

サーバを選択した場合

サーバ情報	イベントフィルタリング設定	シナリオ実行	シナリオ一覧

[サーバー一覧] アンカー

サーバー一覧を表示します。すでにサーバー一覧が表示されている場合は、表示が更新されます。

[サーバ情報] アンカー

選択したサーバの詳細情報を表示します。すでにサーバ情報が表示されている場合は、表示が更新されます。

[イベントフィルタリング設定] アンカー

JP1 イベントのフィルタリングレベルを設定します。

詳細は、「8.4.3 JP1 イベントをフィルタリングする」を参照してください。

[シナリオ実行] アンカー

シナリオ実行ウィザードが起動され、シナリオを実行します。

詳細は、「9. DPM と連携したデプロイメント制御」を参照してください。

[シナリオ一覧] アンカー

DPM 側で設定されたシナリオの一覧が表示されます。

詳細は、「9. DPM と連携したデプロイメント制御」を参照してください。

6

管理対象サーバの情報管理

この章では、管理対象サーバの一覧を表示してサーバの詳細情報を参照する方法、Control Manager から管理対象サーバを操作する方法、および仮想化されたサーバを管理する方法について説明します。

6.1 管理対象サーバの情報更新

6.2 管理対象サーバの電源制御

6.3 管理対象サーバに関する注意点

6.4 仮想化されたサーバを管理する場合の制限事項

6.5 LPAR 上で稼働しているサーバの削除

6.1 管理対象サーバの情報更新

ここでは、管理対象サーバが Control Manager に登録される契機、取得可能情報、削除される契機、および削除される情報について説明します。なお、管理対象サーバを Control Manager に登録するためには、Control Manager に管理対象サーバを管理する BSM または Server Manager をあらかじめ登録しておく必要があります。また、取得可能情報のうち、ホットフィックスを取得するためには DPM を Control Manager に登録しておく必要があります。サーバパック名を取得するためには JP1/IM・CM と連携する必要があります。

BSM、Server Manager の登録については、「3.6.1 BSM または Server Manager の登録」を参照してください。DPM の登録方法については、「3.7.1 DPM の登録」を参照してください。JP1/IM・CM と連携する場合の設定方法については、「3.8 その他の JP1 製品と連携する場合の設定」を参照してください。

6.1.1 管理対象サーバの登録契機

管理対象サーバが Control Manager に登録される契機を Agent の有無に分けて次に示します。

Agent あり

BSM がインストールされているサーバを Control Manager の管理対象として登録したとき、または Control Manager を起動したとき

BSM が管理するサーバで、Agent サービスが起動しているサーバが Control Manager に登録されます。この動作は設定により変更できます。詳細は、「6.1.5 情報更新および BSM との接続監視」を参照してください。

Agent サービスが起動されたとき

BSM の管理対象サーバを起動し、Agent サービスが起動されたときに Control Manager へ登録されます。

Agent あり、Agent なし共通

サーバモジュールを挿入したとき（BladeServer だけ）

BSM の管理対象になっているサーバシャーシに、サーバモジュールを挿入した場合、このサーバモジュールを含んだパーティションの状態がパーティション確定となったときに、このパーティションの BladeServer が管理対象として登録されます。パーティションの状態は、BSM のコンソールサービスの [パーティション情報ステータス] から確認できます。BSM のコンソールサービスから [パーティション情報ステータス] を確認する方法については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド」を参照してください。

BSM にサーバシャーシを登録したとき（BladeServer だけ）

BSM にサーバシャーシを登録した場合に、登録したサーバシャーシでパーティション確定状態のサーバが、管理対象として Control Manager に登録されます。パーティションの状態は、BSM のコンソールサービスの [パーティション情報ステータス] から確認できます。BSM のコンソールサービスから [パーティション情報ステータス] を確認する方法については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド」を参照してください。

BSM を登録したとき、または Control Manager を起動したとき（BladeServer だけ）

BSM を登録したときまたは Control Manager 起動時に、Control Manager に登録されている BSM の管理対象のサーバシャーシを再登録します。これにより、BSM にサーバシャーシを登録したとき同様の情報登録が実施されます。この動作は設定により変更できます。詳細は、「6.1.5 情報更新および BSM との接続監視」を参照してください。

Agent なし

コマンドでサーバの情報を登録したとき（日立アドバンストサーバ HA8000 または LPAR）

コマンド（svrenfinfo -add）でサーバの情報を登録すると、Control Manager に該当するサーバが登録されます。コマンドについては、「3.5 管理対象サーバの設定」を参照してください。ただし、Agent がインストールされている管理対象サーバはコマンドではなく、Agent の起動で情報を登録してください。

6.1.2 取得できる管理対象サーバの静的情報

Control Manager の管理対象サーバの種類、および Agent の有無によって取得できる静的情報を次の表に示します。

表 6-1 管理対象サーバの種類および取得できる静的情報

静的情報		Agent あり			Agent なし ¹		-
		BladeServer	Server	LPAR 上で稼働しているサーバ	BladeServer	Server	LPAR モードの物理パーティション
サーバ情報	ホスト名				×	²	×
	機種名				×	×	×
	プロダクト名				×	×	×
	ベンダ名				×	×	×

6. 管理対象サーバの情報管理

静的情報		Agent あり			Agent なし ¹		-
		BladeServ er	Server	LPAR 上で稼働しているサーバ	BladeServ er	Server	LPAR モードの物理パーティション
	シリアル番号 ³		×	×	×	×	×
NIC 情報	MAC アドレス				⁴	²	
	IP アドレス				×	×	×
	サブネットマスク				×	×	×
	デフォルトゲートウェイ				×	×	×
CPU 情報 ⁵	CPU アーキテクチャ情報	⁶	×	×	⁴	×	
	プロセッサ名			×	⁴	×	
	プロセッサ数			⁷	⁴	×	
	CPU 最大速度			×	⁴	×	
	CPU 装着状態			×	⁴	×	
メモリー情報	メモリーサイズ				⁴	×	×
ディスク情報	ディスクサイズ				×	×	×
	パーティションタイプ				×	×	×
SVP 情報	SVP ボード ⁸ または HVM IP アドレス		×			×	
OS 情報	OS 名				×	×	×
	OS バージョン				×	×	×

静的情報		Agent あり			Agent なし ¹		-
		BladeServ er	Server	LPAR 上で稼働しているサーバ	BladeServ er	Server	LPAR モードの物理パーティション
	サービスパック ⁹				×	×	×
	ホットフィックス ¹⁰				×	×	×
CPU ブレード情報	シャーシID		-			-	
	スロット番号		-			-	
	パーティション番号		-			-	
	ディスク設定	¹¹	-	×	¹¹	-	
仮想化 技術情報	分割技術モード						
	分割技術種別						
	LPAR 識別子 ¹²	-	-		-	-	-
	LPAR モードの物理パーティション ¹²	-	-		-	-	-
N+1 コール ドスタ ンバイ ¹³	N+1 グループ名		-	×		-	
	N+1 現用系 / 予備系		-	×		-	
サーバ パック	サーバパック名 ¹⁴						

(凡例)

6. 管理対象サーバの情報管理

：該当する静的情報が設定されている場合だけ取得できます。

×：取得できません。

-：該当しません。

注 1

パーティション確定状態の BladeServer の情報，または svrcnfinfo コマンドで登録したサーバ情報が該当します。

注 2

svrcnfinfo コマンドで登録されたサーバの MAC アドレスおよび仮のホスト名が取得されます。

注 3

管理対象サーバの OS が HP-UX の場合だけ取得できます。

注 4

Agent なしの BladeServer および LPAR モードの物理パーティションは，MAC アドレス，CPU 情報，およびメモリーサイズがハードウェアの固定値であるため，実際の内容とは異なる場合があります。

注 5

BladeSymphony の場合，未装着状態の CPU 情報は表示されません。

注 6

Agent ありの BladeServer は，CPU 情報がハードウェアの固定値であるため，実際の内容とは異なる場合があります。

注 7

プロセッサ情報を取得できなかった場合の「0」という情報が取得できます。

注 8

SVP ボードとは，日立アドバンストサーバ HA8000 および BladeSymphony に搭載され，本体装置の電源制御，およびスケジューリング機能を提供するオプションボードのことです。

注 9

管理対象サーバの OS が Windows の場合だけ取得できます。

注 10

ホットフィックスは，クライアントサービス for DPM がインストール済みで，Control Manager に登録されている DPM の管理対象サーバである場合に取得できます。

注 11

SANRISE のディスクでは，BSM Plus でストレージ運用支援機能を設定している場合だけ情報を取得できます。

注 12

管理対象が LPAR 上で稼働しているサーバの場合，情報を取得できます。この場合，LPAR モードの物理パーティションが持つ MAC アドレスのうち，どれか一つが表示されます。

注 13

N+1 コールドスタンバイの情報を取得するには，BSM Plus が必要です。なお，該当する静的情報が設定されている場合だけ情報を取得できます。

注 14

Control Manager が JP1/IM - CM と連携し，JP1/IM - CM でリソースバックを指定した場合に表示されます。

注意事項

- BladeServer の情報を正しく登録するためには、BSM のコンソールサービスでその BladeServer を含むサーバシャーシが登録されている必要があります。
- LPAR の情報を正しく登録するためには、BSM コンソールでその LPAR を管理する HVM が登録されている必要があります。
- N+1 コールドスタンバイを実行した場合、系切り替えするとき、切り替え先で Agent が起動するまでは、情報管理に必要な一時的な情報だけが設定されます。N+1 コールドスタンバイを実行した場合は、系切り替え後、Agent を起動して正しい情報で更新してください。
- 管理対象サーバの Agent が起動しても Control Manager に情報が登録されない場合は、Agent を再起動してください。それでも Control Manager に情報が登録されない場合は、Control Manager を再起動してください。
- Control Manager では、同一のサーバシャーシまたはホストを複数の BSM で管理し、同一の Control Manager で情報を取得する構成はできません。

6.1.3 管理対象サーバの情報の再取得

BSM が停止するなどの要因で Control Manager と BSM との通信ができなくなった場合、管理対象サーバの情報が Control Manager に通知されません。その結果、Control Manager と BSM との管理情報が一致しなくなることがあります。このような場合、bsmcnfinfo コマンドで引数 -chg を実行して BSM の管理対象サーバの情報を再登録すると、管理対象サーバの情報を更新できます。

bsmcnfinfo コマンドで BSM の管理対象サーバの情報を再登録したあと、さらに、次の対処が必要です。

BladeServer のパーティション情報が Control Manager に登録されている情報と一致しない場合

BSM の管理対象サーバでパーティション確定している BladeServer の情報が Control Manager に登録されていない場合、またはパーティション未確定のサーバが Control Manager に登録されている場合、BSM のコンソールサービスで該当する BSM に接続し、情報が一致しない BladeServer のサーバシャーシを再登録してください。

OS を割り当てていないサーバ（パーティション）にホスト名や IP アドレスが表示される場合

N+1 コールドスタンバイの動作中に通信できなくなると、このような状態になることがあります。この場合、BSM のコンソールサービスから OS を割り当てていないパーティションを削除したあと、再度パーティションの作成を実行してください。

OS の情報が一致しない場合

該当する管理対象サーバから Agent サービスを起動してください。すでに Agent サービスが起動されている場合、Agent サービスを再起動してください。

Server または LPAR 上で稼働しているサーバの MAC アドレスの情報が一致しない場合
 コマンドを使用して該当するサーバの登録を削除したあと、該当するサーバの
 Agent サービスを再起動してください。このとき、次に示す情報が消えるため、再
 設定してください。

- JP1 イベントフィルタリング情報
- サーババック情報

6.1.4 情報更新処理結果の通知

管理対象サーバのパーティション状態が更新されたり、N+1 グループにホストが追加さ
 れたりした場合に、情報更新に成功したのか失敗したのかをイベントログに出力して確
 認できます。イベントログに出力する項目は、オプションファイルで指定できます。

この機能は、次のバージョンが対象となります。

- P-2418-6181 08-02-03 以降の 08-02-xx および 08-03-01 以降
- P-2A18-6181 全バージョン

(1) 情報更新の契機と更新の概要

情報更新の契機と更新の概要を次の表に示します。

表 6-2 情報更新の契機と更新の概要

項番	契機	情報更新概要	重要度
1	パーティション情 報更新	Blade Server のパーティション状態が更新された場合に実行 されます。OS 情報がない状態でのサーバ情報の登録や、 Blade の抜去に伴う情報削除などが行われます。 N+1 を利用している場合、切り替え先のサーバについて、こ の情報更新によりサーバ情報（MAC アドレス）が登録されて いる必要があります。	
2	ノード状態の更新	Agent 起動時の情報更新などが該当します。OS 情報（ホスト 名や IP アドレスなど）を更新します。 一部の運用コマンドについて、対象とするサーバは、この情 報更新により OS 情報（IP アドレス）が登録されている必要 があります。	
3	N+1 切り替え成功	N+1 コールドスタンバイの切り替えに成功した場合、現用系 サーバで動作していたホストの情報の一部を予備系サーバに 一時的に移し変えます。この後、予備系サーバで Agent が起 動した段階で正しい情報に更新されます。 情報の更新に失敗した場合、コマンドの実行対象サーバを間 違えるおそれがあります。	
4	N+1 復帰成功	N+1 コールドスタンバイの復帰に成功した場合、予備系サー バで動作していたホストの情報の一部を現用系サーバに一時的 に移し変えます。この後、現用系サーバで Agent が起動し た段階で正しい情報に更新されます。 情報の更新に失敗した場合、コマンドの実行対象サーバを間 違えるおそれがあります。	

項番	契機	情報更新概要	重要度
5	N+1 予備解除成功	N+1 コールドスタンバイで、「予備系を現用系とする」操作を実行したことに對して、N+1 グループの登録情報を更新します。 関連する jscmgetproperty コマンドの出力項目は N_1_STATUS です。	
6	N+1 グループホスト追加	BSM で N+1 グループにホストを追加したことに對して情報を更新します。 関連する jscmgetproperty コマンドの出力項目は N_1_GROUP と N_1_STATUS です。	
7	N+1 グループホスト削除	BSM で N+1 グループからホストを削除したことに對して情報を更新します。 関連する jscmgetproperty コマンドの出力項目は N_1_GROUP と N_1_STATUS です。	
8	N+1 グループ削除	BSM で N+1 グループを削除したことに對して情報を更新します。 関連する jscmgetproperty コマンドの出力項目は N_1_GROUP と N_1_STATUS です。	
9	N+1 グループ名変更	BSM で N+1 グループ名を変更したことに對して情報を更新します。 関連する jscmgetproperty コマンドの出力項目は N_1_GROUP です。	
10	LU 割り当て完了	LU の割り当てが完了したことに對して情報を更新します。 関連する jscmgetproperty コマンドの出力項目は ALLOCATION_DISK です。	
11	LU 割り当て解除	LU の割り当てが解除されたことに對して情報を更新します。 関連する jscmgetproperty コマンドの出力項目は ALLOCATION_DISK です。	

(凡例)

：情報の更新に失敗した場合、Control Manager を使用した通常運用に問題が発生すると考えられます。情報更新に失敗した場合のイベントログ出力について、「警告」か「エラー」の種類を選択できます。

：情報の更新に失敗した場合、jscmgetproperty コマンドの出力項目の内容が一部不正になりますが、Control Manager を使用した通常運用に問題は発生しないと考えられます。情報更新に失敗した場合のイベントログ出力について、「警告」の種類で出力します。

(2) オプションファイルの設定

情報更新結果をイベントログに出力する項目は、オプションファイルで指定できます。オプションファイルは Windows の INI ファイル形式で、セクション名、キー名、および設定値を設定します。オプションファイルの設定内容は、Control Manager 起動時に有効になります。設定を変更した場合、Control Manager を再起動してください。

ここでは、オプションファイルの格納場所、設定項目、および設定値について説明します。

(a) オプションファイル格納場所

オプションファイルは次に示すパスに作成してください。

```
C:\Program Files\HITACHI\ServerConductor\ControlManager\conf\EventLog.ini
```

C:\Program Files はデフォルト設定でインストールした場合です。インストール時の設定にあわせ読み替えてください。

インストール時、上記のフォルダに EventLog.ini.sample ファイルが作成されます。EventLog.ini.sample ファイルをコピーおよびリネームして使用してください。なお、以前のバージョンで設定ファイルを作成していた場合は、設定ファイルの内容が引き継がれます。

(b) オプションファイルの設定内容

オプションファイルの設定項目と設定値について次の表に示します。

表 6-3 オプションファイルの設定項目と設定値

セクション名	キー名	意味（設定値）
EventLog	PartitionUpdate_Success	パーティション情報更新に対する情報更新成功のメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	PartitionUpdate_Err	パーティション情報更新に対する情報更新失敗のメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 種類を警告で出力する, 2: 種類をエラーで出力する)
	PartitionNotUpdate_Info	パーティション情報更新に対する情報更新処理を実行しないのメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	Startupos_Success	ノード状態の更新に対する情報更新成功のメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	Startupos_Err	ノード状態の更新に対する情報更新失敗のメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 種類を警告で出力する, 2: 種類をエラーで出力する)
	Switch_Success	N+1 切り替え成功に対する情報更新成功のメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	Switch_Err	N+1 切り替え成功に対する情報更新失敗のメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 種類を警告で出力する, 2: 種類をエラーで出力する)

セクション名	キー名	意味（設定値）
	Recover_Success	N+1 復帰成功に対する情報更新成功のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	Recover_Err	N+1 復帰成功に対する情報更新失敗のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 種類を警告で出力する , 2 : 種類をエラーで出力する)
	Activate_Success	N+1 予備解除成功に対する情報更新成功のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	Activate_Err	N+1 予備解除成功に対する情報更新失敗のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	N1addhost_Success	N+1 グループホスト追加に対する情報更新成功のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	N1addhost_Err	N+1 グループホスト追加に対する情報更新失敗のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	N1delhost_Success	N+1 グループホスト削除に対する情報更新成功のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	N1delhost_Err	N+1 グループホスト削除に対する情報更新失敗のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	N1delgrp_Success	N+1 グループ削除に対する情報更新成功のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	N1delgrp_Err	N+1 グループ削除に対する情報更新失敗のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	N1chggrp_Success	N+1 グループ名変更に対する情報更新成功のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	N1chggrp_Err	N+1 グループ名変更に対する情報更新失敗のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	Attach_Success	LU 割り当て完了に対する情報更新成功のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)
	Attach_Err	LU 割り当て完了に対する情報更新失敗のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0 : 出力しない , 1 : 出力する)

6. 管理対象サーバの情報管理

セクション名	キー名	意味（設定値）
	Detach_Success	LU 割り当て解除に対する情報更新成功のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	Detach_Err	LU 割り当て解除に対する情報更新失敗のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)

（凡例）

下線：ファイルが存在しない場合や無効な値が設定された場合、下線の値（推奨設定）が設定されたものとして動作します。

注

- 意味（設定値）の欄はすべて、BSM または Server Manager からの通知に対する Control Manager の情報更新処理についての記述です。
- 設定値には数値以外を設定しないでください。意図しない動作をする原因になります。例えば、A や 0A と指定した場合、0 が指定されたものとして動作することがあります。

（c）オプションファイルの設定例

オプションファイルの設定例を次に示します。

```
[EventLog]
PartitionUpdate_Success = 0
PartitionUpdate_Err = 1
PartitionNotUpdate_Info = 0
Switch_Success = 0
Switch_Err = 1
Recover_Success = 0
Recover_Err = 1
Activate_Success = 0
Activate_Err = 1
Nladdhost_Success = 0
Nladdhost_Err = 1
Nldelhost_Success = 0
Nldelhost_Err = 1
Nldelgrp_Success = 0
Nldelgrp_Err = 1
Nlchggrp_Success = 0
Nlchggrp_Err = 1
Attach_Success = 0
Attach_Err = 1
Detach_Success = 0
Detach_Err = 1
Startupos_Success = 0
Startupos_Err = 1
```

（d）本機能の対象外のバージョンと同じ動作にする場合

オプションファイル（EventLog.ini）が存在しない状態での動作は、本機能の対象バージョンと対象外のバージョンで異なります。対象バージョンでの動作を対象外のバージョンと同じ動作にする場合は、次の内容でオプションファイルを作成してください。本機能の対象バージョンのデフォルト動作で問題ない場合は、オプションファイルを作成する必要はありません。

```
[EventLog]
PartitionUpdate_Success = 0
PartitionUpdate_Err = 0
PartitionNotUpdate_Info = 0
Switch_Success = 0
Switch_Err = 0
Recover_Success = 0
Recover_Err = 0
Activate_Success = 0
Activate_Err = 0
Nladdhost_Success = 0
Nladdhost_Err = 0
Nldelhost_Success = 0
Nldelhost_Err = 0
Nldelgrp_Success = 0
Nldelgrp_Err = 0
Nlchggrp_Success = 0
Nlchggrp_Err = 0
Attach_Success = 0
Attach_Err = 0
Detach_Success = 0
Detach_Err = 0
Startupos_Success = 0
Startupos_Err = 0
```

(3) イベントログに出力されるメッセージの一覧

イベントログに出力されるメッセージと対処方法を次の表に示します。

表 6-4 イベントログに出力されるメッセージの一覧

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN72601-I	Agent 情報の更新に成功しました。 (IP アドレス =X)	X は Agent の IP アドレスを示します。 対処は必要ありません。
KASN72602-W または KASN72604-E	Agent 情報の更新に失敗しました。 (IP アドレス =X)	X は Agent の IP アドレスを示します。 次のどれかの対処を実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Agent を再起動する。 • BSM コンソールを使用して該当の Agent を削除してから再登録する。 • 情報更新機能を利用して情報更新を実行する。
KASN72901-I	パーティション情報更新に成功しました。 (シャーシ ID=X, パーティション番号=Y)	X はシャーシ ID, Y はパーティション番号を示します。 対処は必要ありません。
KASN72902-W または KASN72903-E	パーティション情報更新に失敗しました。 (シャーシ ID=X, パーティション番号=Y)	X はシャーシ ID, Y はパーティション番号を示します。 BSM コンソールを使用して、該当のサーバシャーシを再登録してください。 このとき、該当のサーバシャーシの登録を削除する必要はありません。または、情報更新機能を利用して情報更新を実行してください。

6. 管理対象サーバの情報管理

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN72904-I	次の理由のためパーティション情報を更新しません。 (シャース ID=X, パーティション番号=Y, 理由: Z)	<p>X はシャース ID, Y はパーティション番号, Z は更新しない理由 (パーティション状態遷移中 / Agent 情報登録済み) を示します。</p> <p>理由に示す内容のため, BSM からのパーティション情報更新通知に対し Control Manager の情報を更新しないことを示します。Z の違いにより次のように対処方法が異なります。</p> <p>Z が "パーティション状態遷移中" の場合</p> <p>対処は必要ありません。パーティション状態が遷移中のため, 情報更新対象外のアラートと判断していることを示します。この後, パーティション状態が確定または未確定になった段階で, パーティション情報が更新されます。</p> <p>Z が "Agent 情報登録済み" の場合</p> <p>既に Agent の情報 (ホスト名や IP アドレス) が格納されているため, Agent 情報より情報量の少ないパーティション情報で情報を更新しないことを示します。</p> <p>Agent 起動後にサーバの状態を変更していない場合</p> <p>対処は必要ありません。</p> <p>Agent 起動後にサーバの状態を変更したが, このメッセージが出力され情報が更新されない場合</p> <p>サーバの状態により次のどちらかの手順で情報を更新してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Agent がインストールされていないサーバの場合 svrcnfinfo -del コマンドで該当サーバの情報を削除した後, BSM コンソールを使用して, 該当のサーバシャースを再登録してください。このとき, サーバシャースの登録を削除する必要はありません。 該当サーバに JP1 イベントフィルタリングまたはサーバパックの設定がある場合, 再度設定しなおしてください。 Agent がインストールされているサーバの場合 Agent を起動してください。
KASN72E01-I	N+1 コールドスタンバイ 切替に成功しました。 (切り替え先の MAC アドレス=X, 切り替え元の MAC アドレス=Y)	<p>X は切り替え先 (予備系), Y は切り替え元 (現用系) サーバの MAC アドレスを示します。</p> <p>対処は必要ありません。</p>

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN72E02-W または KASN72E07-E	N+1 コールドスタンバイ 切替に失敗しました。 (切り替え先の MAC アドレス =X, 切り替え元の MAC アドレス =Y)	<p>X は切り替え先 (現用系), Y は切り替え元 (予備系) サーバの MAC アドレスを示します。</p> <p>BSM では N+1 コールドスタンバイに成功していますが, Control Manager の情報の更新に失敗したことを示します。このメッセージが記録された場合, 切り替え元および切り替え先のサーバについて次の手順で対処を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. svrenfinfo -del コマンドを使用し, 切り替え元と切り替え先のサーバ情報を削除してください。これらのサーバについて, イベントフィルタリングまたはサーババックを設定している場合, 後ほど再設定が必要になるので, 情報を控えておいてください。 2. BSM コンソールを使用して, 切り替え元のサーバを含むサーバシャーシを再登録してください。このとき, 該当のサーバシャーシの登録を削除する必要はありません。 3. 切り替え先のサーバで Agent を再起動してください。 4. 1. で控えておいた設定がある場合, 再度設定してください。
KASN72E03-I	N+1 コールドスタンバイ 現用復帰に成功しました。 (切り替え先の MAC アドレス =X, 切り替え元の MAC アドレス =Y)	<p>X は切り替え先 (現用系), Y は切り替え元 (予備系) サーバの MAC アドレスを示します。</p> <p>対処は必要ありません。</p>

6. 管理対象サーバの情報管理

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN72E04-W または KASN72E08-E	N+1 コールドスタンバイ 現用復帰に失敗しました。 (切り替え先の MAC アドレス =X, 切り替え元の MAC アドレス =Y)	X は切り替え先 (現用系), Y は切り替え元 (予備系) サーバの MAC アドレスを示します。 BSM では N+1 コールドスタンバイに成功していますが, Control Manager の情報の更新に失敗したことを示します。このメッセージが記録された場合, 切り替え元および切り替え先のサーバについて次の手順で対処を実行してください。 <ol style="list-style-type: none"> svrcnfinfo -del コマンドを使用し, 切り替え元と切り替え先のサーバ情報を削除してください。これらのサーバについて, イベントフィルタリングまたはサーババックを設定している場合, 後ほど再設定が必要になるので, 情報を控えておいてください。 BSM コンソールを使用して, 切り替え元のサーバを含むサーバシャーシを再登録してください。このとき, 該当のサーバシャーシの登録を削除する必要はありません。 切り替え先のサーバで Agent を再起動してください。 1. で控えておいた設定がある場合, 再度設定してください。
KASN72E05-I	N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化に成功しました。 (切り替え先 [現用化対象の予備系] の MAC アドレス =X, 切り替え元の MAC アドレス =Y)	X は切り替え先 (現用化対象の予備系), Y は切り替え元 (以前の N+1 コールドスタンバイで予備系に切り替わった現用系) サーバの MAC アドレスを示します。 対処は必要ありません。
KASN72E06-W	N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化に失敗しました。 (切り替え先 [現用化対象の予備系] の MAC アドレス =X, 切り替え元の MAC アドレス =Y)	X は切り替え先 (現用化対象の予備系), Y は切り替え元 (以前の N+1 コールドスタンバイで予備系に切り替わった現用系) サーバの MAC アドレスを示します。 BSM では「予備系を現用系とする」に成功していますが, Control Manager の情報の更新に失敗したことを示します。このメッセージが記録された場合, 現用化対象のサーバで Agent を再起動してください。
KASN72A01-I	N+1 グループ ホスト追加に成功しました。	対処は必要ありません。

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN72A02-W	N+1 グループ ホスト追加に失敗しました。	<p>BSM では N+1 グループへのホスト追加に成功していますが、Control Manager の情報の更新に失敗したことを示します。</p> <p>このメッセージが記録された場合、BSM で該当時間に実行した操作を調べ、BSM コンソールを使用し、該当サーバの登録を解除して再度登録してください。再登録できない場合、次の方法で情報を更新してください。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報（ホスト名や IP アドレス）がないサーバの場合 BSM コンソールを使用して、該当のサーバシャーシを再登録してください。このとき、サーバシャーシの登録を削除する必要はありません。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報（ホスト名や IP アドレス）があるサーバの場合 Agent を起動してください。</p>
KASN72D01-I	N+1 グループ ホスト削除に成功しました。	対処は必要ありません。
KASN72D02-W	N+1 グループ ホスト削除に失敗しました。	<p>BSM では N+1 グループからのホスト削除に成功していますが、Control Manager の情報の更新に失敗したことを示します。</p> <p>このメッセージが記録された場合、BSM で該当時間に実行した操作を調べ、BSM コンソールを使用し、該当サーバを N+1 グループに登録して再度解除します。</p> <p>解除できない場合、次の方法で情報を更新してください。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報（ホスト名や IP アドレス）がないサーバの場合 BSM コンソールを使用して、該当のサーバシャーシを再登録してください。このとき、サーバシャーシの登録を削除する必要はありません。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報（ホスト名や IP アドレス）があるサーバの場合 Agent を起動してください。</p>
KASN72C01-I	N+1 グループ 削除に成功しました。	対処は必要ありません。

6. 管理対象サーバの情報管理

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN72C02-W	N+1 グループ 削除に失敗しました。	<p>BSM では N+1 グループの削除に成功していますが Control Manager の情報の更新に失敗したことを示します。 このメッセージが記録された場合、BSM で該当時間に行った操作を調べ、該当 N+1 グループに所属していたすべてのサーバについて、次の方法で情報を更新してください。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報（ホスト名や IP アドレス）がないサーバの場合 BSM コンソールを使用して、該当のサーバシャーシを再登録してください。このとき、サーバシャーシの登録を削除する必要はありません。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報（ホスト名や IP アドレス）があるサーバの場合 Agent を起動してください。</p>
KASN72B01-I	N+1 グループ名の変更に成功しました。	対処は必要ありません。
KASN72B02-W	N+1 グループ名の変更に失敗しました。	<p>BSM では N+1 グループのグループ名変更に成功していますが、Control Manager の情報の更新に失敗したことを示します。 このメッセージが記録された場合、BSM で該当時間に行った操作を調べ、該当 N+1 グループに所属していたすべてのサーバについて、次の方法で情報を更新してください。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報（ホスト名や IP アドレス）がないサーバの場合 BSM コンソールを使用して、該当のサーバシャーシを再登録してください。このとき、サーバシャーシの登録を削除する必要はありません。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報（ホスト名や IP アドレス）があるサーバの場合 Agent を起動してください。</p>
KASN72701-I	ディスクの割り当てに成功しました。 (シャーシ ID=X, スロット番号=Y)	<p>X はシャーシ ID, Y はスロット番号を示します。 対処は必要ありません。</p>

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN72702-W	ディスクの割り当てに失敗しました。 (シャーシ ID=X, スロット番号=Y)	<p>X はシャーシ ID, Y はスロット番号を示します。BSM ではディスクの割り当てに成功していますが, Control Manager の情報の更新に失敗したことを示します。</p> <p>このメッセージが記録された場合, サーバの状態により次のどちらかの方法で情報を更新してください。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報 (ホスト名や IP アドレス) がないサーバの場合 BSM コンソールを使用して, 該当のサーバシャーシを再登録してください。このとき, サーバシャーシの登録を削除する必要はありません。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報 (ホスト名や IP アドレス) があるサーバの場合 Agent を起動してください。。</p>
KASN72801-I	ディスクの割り当て解除に成功しました。 (シャーシ ID=X, スロット番号=Y)	<p>X はシャーシ ID, Y はスロット番号を示します。</p> <p>対処は必要ありません。</p>
KASN72802-W	ディスクの割り当て解除に失敗しました。 (シャーシ ID=X, スロット番号=Y)	<p>X はシャーシ ID, Y はスロット番号を示します。</p> <p>BSM ではディスクの割り当て解除に成功していますが, Control Manager の情報の更新に失敗したことを示します。</p> <p>このメッセージが記録された場合, サーバの状態により次のどちらかの方法で情報を更新してください。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報 (ホスト名や IP アドレス) がないサーバの場合 BSM コンソールを使用して, 該当のサーバシャーシを再登録してください。このとき, サーバシャーシの登録を削除する必要はありません。</p> <p>Control Manager 内に OS 情報 (ホスト名や IP アドレス) があるサーバの場合 ディスクの割り当て状態を戻した後, Agent を起動してください。</p>

注

BSM または Agent の操作が不可能な場合, 情報更新機能を利用して情報を更新することも可能です。

6.1.5 情報更新および BSM との接続監視

BSM と Control Manager とで情報の不一致を起こさないようにするため, BSM 登録時および Control Manager 起動時に管理対象サーバの情報を取得します。また, 定期的に

BSM との接続状況を監視し、切断時には再接続を実行することでも BSM と Control Manager 間の情報の不一致を防ぎます。

情報取得および BSM との再接続に成功したのか失敗したのかは、イベントログに出力して確認できます。イベントログに出力する項目は、オプションファイルで指定できます。

この機能は、次のバージョンが対象となります。

- P-2418-6181 08-02-03 以降の 08-02-xx および 08-03-01 以降
- P-2A18-6181 全バージョン

(1) 情報取得の契機と BSM との接続監視

情報取得の契機と BSM との接続監視の概要を次の表に示します。

表 6-5 情報取得の契機と BSM との接続監視の概要

項番	契機	機能概要
1	bsmcnfinfo -add,-chg コマンドで BSM を登録したとき	<ul style="list-style-type: none"> • Agent が起動している管理対象サーバの情報を取得。 • BladeServer のパーティション情報を取得⁽¹⁾。
2	Control Manager 起動時	<ul style="list-style-type: none"> • Agent が起動している管理対象サーバの情報を取得。 • BladeServer のパーティション情報を更新⁽¹⁾。
3	BSM との通信切断時	<ul style="list-style-type: none"> • 10 分間隔で BSM との接続状態を確認し、切断されていた場合、自動的に接続を試みます。

注

BSM コンソールでサーバシャーシを登録した場合と同じ動作になります。

(2) オプションファイルの設定

各契機で情報を更新するかどうか、また各処理の結果をイベントログに出力するかどうかは、オプションファイルで指定できます。オプションファイルは Windows の INI ファイル形式で、セクション名、キー名、および設定値を設定します。オプションファイルの設定内容は、Control Manager 起動時に有効になります。設定を変更した場合、Control Manager を再起動してください。

ここでは、オプションファイルの格納場所、設定項目、および設定値について説明します。

(a) オプションファイル格納場所

オプションファイルは次に示すパスに作成してください。

```
C:\Program Files\HITACHI\ServerConductor\ControlManager\conf\AutoUpdate.ini
```

C:\Program Files はデフォルト設定でインストールした場合です。インストール時の設定にあわせ読み替えてください。

インストール時、上記のフォルダに AutoUpdate.ini.sample ファイルが作成されます。AutoUpdate.ini.sample ファイルをコピーおよびリネームして使用してください。なお、以前のバージョンで設定ファイルを作成していた場合は、設定ファイルの内容が引き継がれます。

(b) オプションファイルの設定内容

オプションファイルの設定項目と設定値について次の表に示します。

表 6-6 オプションファイルの設定項目と設定値

セクション名	キー名	意味（設定値）
bsmcnfinfo	UpdateAgentInfo	bsmcnfinfo コマンド実行時に、稼働中の Agent 情報を更新する / しないを設定します。 (0: 更新しない, 1: 更新する)
	UpdatePartitionInfo	bsmcnfinfo コマンド実行時に、BladeServer のパーティション情報を更新する / しないを設定します。情報を更新する場合、BSM でサーバシャーシの登録を実行します。 (0: 更新しない, 1: 更新する)
	ReEntChassisLogSuccess	パーティション情報を更新する場合に、サーバシャーシの登録処理成功のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	ReEntChassisLogError	パーティション情報を更新する場合に、サーバシャーシの登録処理失敗のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	UpdateNodeMapSuccess	bsmcnfinfo コマンド実行時に、BSM の管理対象一覧取得成功を示すメッセージを出力する / しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	UpdateNodeMapError	bsmcnfinfo コマンド実行時に、BSM の管理対象一覧取得失敗を示すメッセージを出力する / しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
cmstart	UpdateAgentInfo	Control Manager 起動時に、稼働中の Agent 情報を更新する / しないを設定します。 (0: 更新しない, 1: 更新する)
	UpdatePartitionInfo	Control Manager 起動時に、BladeServer のパーティション情報を更新する / しないを設定します。情報を更新する場合、BSM でサーバシャーシの登録を実行します。 (0: 更新しない, 1: 更新する)
	ReEntChassisLogSuccess	パーティション情報を更新する場合に、サーバシャーシの登録処理成功のメッセージを出力する / しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)

6. 管理対象サーバの情報管理

セクション名	キー名	意味（設定値）
	ReEntChassisLogError	パーティション情報を更新する場合に、サーバシャーシの登録処理失敗のメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	UpdateNodeMapSuccess	Control Manager 起動時に、BSM の管理対象一覧取得成功を示すメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	UpdateNodeMapError	Control Manager 起動時に、BSM の管理対象一覧取得失敗を示すメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	BsmLoginLogSuccess	Control Manager 起動時に、BSM との接続成功を示すメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	BsmLoginLogError	Control Manager 起動時に、BSM との接続失敗を示すメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
bsmcheck	IsAlive	BSM との接続監視を実行する／しないを設定します。 (0: 実行しない, 1: 実行する)
	IsAliveLogSuccess	接続監視処理で接続中と判定したことを示すメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	IsAliveLogError	接続監視処理で接続断と判定したことを示すメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 種類を警告で出力する, 2: 種類をエラーで出力する)
	BsmLoginLogSuccess	接続断と判定した場合の、BSM との再接続処理成功を示すメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)
	BsmLoginLogError	接続断と判定した場合の、BSM との再接続処理失敗を示すメッセージを出力する／しないを設定します。 (0: 出力しない, 1: 出力する)

（凡例）

下線：ファイルが存在しない場合や無効な値が設定された場合、下線の値（推奨設定）が設定されたものとして動作します。

注

設定値には数値以外を設定しないでください。意図しない動作をする原因になります。例えば、A や 0A と指定した場合、0 が指定されたものとして動作することがあります。

（c）オプションファイルの設定例

オプションファイルの設定例を次に示します。


```
[bsmcnfinfo]
UpdateAgentInfo      = 1
UpdatePartitionInfo  = 1
ReEntChassisLogSuccess = 0
ReEntChassisLogError  = 1
UpdateNodeMapSuccess  = 0
UpdateNodeMapError    = 1

[cmstart]
UpdateAgentInfo      = 1
UpdatePartitionInfo  = 1
ReEntChassisLogSuccess = 0
ReEntChassisLogError  = 1
UpdateNodeMapSuccess  = 0
UpdateNodeMapError    = 1
BsmLoginLogSuccess    = 0
BsmLoginLogError      = 1

[bsmcheck]
IsAlive              = 1
IsAliveLogSuccess     = 0
IsAliveLogError       = 1
BsmLoginLogSuccess    = 0
BsmLoginLogError      = 1
```

(d) 本機能の対象外のバージョンと同じ動作にする場合

オプションファイル (AutoUpdate.ini) が存在しない状態での動作は、本機能の対象バージョンと対象外のバージョンで異なります。対象バージョンでの動作を対象外のバージョンと同じ動作にする場合は、次の内容でオプションファイルを作成してください。本機能の対象バージョンのデフォルト動作で問題ない場合は、オプションファイルを作成する必要はありません。

```
[bsmcnfinfo]
UpdateAgentInfo      = 1
UpdatePartitionInfo  = 0
ReEntChassisLogSuccess = 0
ReEntChassisLogError  = 0
UpdateNodeMapSuccess  = 0
UpdateNodeMapError    = 0

[cmstart]
UpdateAgentInfo      = 0
UpdatePartitionInfo  = 0
ReEntChassisLogSuccess = 0
ReEntChassisLogError  = 0
UpdateNodeMapSuccess  = 0
UpdateNodeMapError    = 0
BsmLoginLogSuccess    = 0
BsmLoginLogError      = 0

[bsmcheck]
IsAlive              = 0
IsAliveLogSuccess     = 0
IsAliveLogError       = 0
BsmLoginLogSuccess    = 0
BsmLoginLogError      = 0
```

(3) イベントログに出力されるメッセージの一覧

イベントログに出力されるメッセージと対処方法を次の表に示します。

表 6-7 イベントログに出力されるメッセージの一覧

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN72301-I	BSM へのログインに成功しました。 (X)	X は BSM の IP アドレスを示します。 対処は必要ありません。
KASN72302-W	BSM へのログインに失敗しました。 (X,Y)	X は BSM の IP アドレス, Y は内部コードを示します。 BSM への接続に失敗したことを示します。 このメッセージが記録された場合, Control Manager がインストールされているサーバと BSM がインストールされているサーバが通信可能な状態であるか, また BSM が起動しているかを確認し, bsmcnfinfo -chg コマンドで BSM の情報を登録し直してください。 変更前の IP アドレスと変更後の IP アドレスに同じ IP アドレスを指定することで, 再登録が実行されます。このときコマンドがエラーになる場合や, KASN73102-W が出力される場合は, BSM および Control Manager を再起動してからコマンドを実行してください。
KASN73101-I	BSM の管理対象情報取得に成功しました。 (X)	X は BSM の IP アドレスを示します。 対処は必要ありません。
KASN73102-W	BSM の管理対象情報取得に失敗しました。 (X,Y)	X は BSM の IP アドレス, Y は内部コードを示します。BSM からの管理対象情報一覧取得に失敗したことを示します。このメッセージが記録された場合, Control Manager がインストールされているサーバと BSM がインストールされているサーバが通信可能な状態であるか, また BSM が起動しているかを確認し, bsmcnfinfo -chg コマンドで BSM の情報を登録し直してください。 変更前の IP アドレスと変更後の IP アドレスに同じ IP アドレスを指定することで, 再登録が実行されます。このときコマンドがエラーになる場合や, KASN73102-W が出力される場合は, BSM および Control Manager を再起動してからコマンドを実行してください。
KASN73201-I	サーバシャーシの再登録に成功しました。 (X)	X はサーバシャーシの IP アドレスを示します。 対処は必要ありません。

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN73202-W	サーバシャーシの再登録に失敗しました。 (X,Y)	X はサーバシャーシの IP アドレス, Y は内部コードを示します。 パーティション情報更新のためのサーバシャーシ再登録処理に失敗したことを示します。 このメッセージが記録された場合, BSM コンソールを使用して, 該当のサーバシャーシを再登録してください。このとき, サーバシャーシの登録を削除する必要はありません。 ¹
KASN72401-I	BSM の管理対象情報取得に成功しました。 (X)	X は BSM の IP アドレスを示します。 対処は必要ありません。
KASN72402-W	BSM の管理対象情報取得に失敗しました。 (X,Y)	X は BSM の IP アドレス, Y は内部コードを示します。 BSM からの管理対象情報一覧取得に失敗したことを示します。 このメッセージが記録された場合, Control Manager がインストールされているサーバと BSM がインストールされているサーバが通信可能な状態であるか, また BSM が起動しているかを確認し, bsmcnfinfo -chg コマンドで BSM の情報を登録し直してください。 変更前の IP アドレスと変更後の IP アドレスに同じ IP アドレスを指定することで, 再登録が実行されます。このときコマンドがエラーになる場合や, KASN73102-W が出力される場合は, BSM および Control Manager を再起動してからコマンドを実行してください。
KASN72501-I ²	サーバシャーシの再登録に成功しました。 (X)	X はサーバシャーシの IP アドレスを示します。 対処は必要ありません。
KASN72502-W ²	サーバシャーシの再登録に失敗しました。 (X,Y)	X はサーバシャーシの IP アドレス, Y は内部コードを示します。 パーティション情報更新のためのサーバシャーシ再登録処理に失敗したことを示します。 このメッセージが記録された場合, BSM コンソールを使用して, 該当のサーバシャーシを再登録してください。このとき, サーバシャーシの登録を削除する必要はありません。 ¹
KASN72201-I	BSM の接続監視の結果, 接続中と判定しました。 (X)	X は BSM の IP アドレスを示します。 対処は必要ありません。

6. 管理対象サーバの情報管理

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN72202-W または KASN72203-E ³	BSM の接続監視の結果、接続断と判定しました。 (X,Y)	X は BSM の IP アドレス、Y は内部コードを示します。 BSM の接続監視で接続断と判定したことを示します。 このメッセージが記録された場合、Control Manager がインストールされているサーバと BSM がインストールされているサーバが通信可能な状態であるか、また BSM が起動しているかを確認し、bsmenfinfo -chg コマンドで BSM の情報を登録し直してください。 変更前の IP アドレスと変更後の IP アドレスに同じ IP アドレスを指定することで、再登録が実行されます。このときコマンドがエラーになる場合や、KASN73102-W が出力される場合は、BSM および Control Manager を再起動してからコマンドを実行してください。
KASN72F01-I	BSM へのログインに成功しました。 (X)	X は BSM の IP アドレスを示します。 対処は必要ありません。
KASN72F02-W	BSM へのログインに失敗しました。 (X,Y)	X は BSM の IP アドレス、Y は内部コードを示します。 BSM への接続に失敗したことを示します。 このメッセージが記録された場合、Control Manager がインストールされているサーバと BSM がインストールされているサーバが通信可能な状態であるか、また BSM が起動しているかを確認し、bsmenfinfo -chg コマンドで BSM の情報を登録し直してください。 変更前の IP アドレスと変更後の IP アドレスに同じ IP アドレスを指定することで、再登録が実行されます。このときコマンドがエラーになる場合や、KASN73102-W が出力される場合は、BSM および Control Manager を再起動してからコマンドを実行してください。

注 1

BSM または Agent の操作が不可能な場合、情報更新機能を利用して情報を更新することも可能です。

注 2

パーティション情報更新アラートを受け取るために、BSM コンソールでサーバシャーシを登録した場合と同じ処理を実行します。

注 3

接続監視処理で接続断と判定した場合のイベントログ出力について、「警告」か「エラー」の種類を選択できます。

6.1.6 情報収集処理のリトライ

各処理に失敗した場合、指定した回数だけ処理をリトライできます。リトライ回数および Agent 情報収集時のリトライイベントログ記録は、オプションファイルで指定できます。

この機能は、次のバージョンが対象となります。

- P-2418-6181 08-02-03 以降の 08-02-xx および 08-03-01 以降
- P-2A18-6181 全バージョン

サービスのリトライに関しては、08-02-xx は対象外となります。

(1) リトライできる処理

次の各処理に失敗した場合、処理をリトライできます。

Agent からの情報収集に失敗した場合、3 回まで情報収集処理をリトライできます（デフォルトは 1 回）。

組み込み DB 状態監視処理でエラーが発生した場合、3 回まで状態監視処理をリトライできます（デフォルトは 1 回）。

Control Manager 起動サービス（Hitachi Control Manager）の開始時、Control Manager 制御サービス（Hitachi Control Manager Service）の開始または Hitachi Web Server（JP1 ServerConductor Control Manager Web Server）の開始に失敗した場合、30 回まで各サービスの開始処理をリトライできます（デフォルトは 3 回）。

リトライを実行しても、情報収集処理に失敗する場合があります。この場合は、ご使用の環境を見直してください。

(2) オプションファイルの設定

各契機で情報を更新するかどうか、また各処理の結果をイベントログに出力するかどうかは、オプションファイルで指定できます。オプションファイルは Windows の INI ファイル形式で、セクション名、キー名、および設定値を設定します。オプションファイルの設定内容は、Control Manager 起動時に有効になります。設定を変更した場合、Control Manager を再起動してください。

ここでは、オプションファイルの格納場所、設定項目、および設定値について説明します。

(a) オプションファイル格納場所

オプションファイルは次に示すパスに作成してください。

```
C:\Program Files\HITACHI\ServerConductor\ControlManager\conf\RetryConf.ini
```

C:\Program Files はデフォルト設定でインストールした場合です。インストール時の設定にあわせ読み替えてください。

インストール時、上記のフォルダに RetryConf.ini.sample ファイルが作成されます。RetryConf.ini.sample ファイルをコピーおよびリネームして使用してください。なお、以前のバージョンで設定ファイルを作成していた場合は、設定ファイルの内容が引き継がれます。

(b) オプションファイルの設定内容

オプションファイルの設定項目と設定値について次の表に示します。

表 6-8 オプションファイルの設定項目と設定値

セクション名	キー名	意味 (設定値)
AltStartUpOs	AgentCountRetryNum	Agent 情報収集処理失敗時のリトライ回数を指定します。 (0 ~ 3 回。デフォルトでは <u>1</u> 回)
	AgentCountRetryLog	Agent 情報収集処理リトライ時にイベントログを出力する / しな ^い を指定します。 (0 : 出力しない, <u>1</u> : 出力する)
CheckHiRDB	HiRDBCheckRetryNum	15 秒間隔での組み込み DB 状態監視処理で異常を検知した場合のリトライ回数を指定します。 (0 ~ 3 回。デフォルトでは <u>1</u> 回)
ServiceRetry	StartServiceRetryNum	内部でのサービス開始処理に失敗した場合、1 秒間隔でのリトライを実行します。このときのリトライ回数を指定します。 (0 ~ 30 回。デフォルトでは <u>3</u> 回)

(凡例)

下線：ファイルが存在しない場合や無効な値が設定された場合、下線の値（推奨設定）が設定されたものとして動作します。

注

設定値には数値以外を設定しないでください。意図しない動作をする原因になります。例えば、A や 0A と指定した場合、0 が指定されたものとして動作することがあります。

(c) オプションファイルの設定例

オプションファイルの設定例を次に示します。

```
[AltStartUpOs]
AgentCountRetryNum = 1
AgentCountRetryLog = 0

[CheckHiRDB]
HiRDBCheckRetryNum = 1

[ServiceRetry]
StartServiceRetryNum = 3
```

(d) 本機能の対象外のバージョンと同じ動作にする場合

オプションファイル (RetryConf.ini) が存在しない状態での動作は、本機能の対象バージョンと対象外のバージョンで異なります。対象バージョンでの動作を対象外のバージョンと同じ動作にする場合は、次の内容でオプションファイルを作成してください。対象バージョンであっても、ServiceRetry セクションに関する動作は 08-02-xx とその他の対象バージョンで異なります。08-02-xx 以外の対象バージョンの動作を 08-02-xx の動作と同じにする場合、オプションファイルに ServiceRetry セクションの設定を追加してください。本機能の対象バージョンのデフォルト動作で問題ない場合は、オプションファイルを作成する必要はありません。

```
[AltStartUpOs]
AgentCountRetryNum = 0
AgentCountRetryLog = 0

[CheckHiRDB]
HiRDBCheckRetryNum = 0

[ServiceRetry]
StartServiceRetryNum = 0
```

(3) イベントログに出力されるメッセージの一覧

イベントログに出力されるメッセージと対処方法を次の表に示します。

表 6-9 イベントログに出力されるメッセージの一覧

メッセージ ID	メッセージ	対処方法
KASN72603-W	Agent 情報の収集処理をリトライします。 (X,Y,Z1/Z2)	X は Agent の IP アドレス、Y は内部コード、Z1 は現在のリトライ回数、Z2 は最大リトライ回数を示します。 Agent 情報収集処理に失敗したため、リトライを実行することを示します。 このメッセージが記録された場合、Z1 および Z2 の値を確認してください。Z1 と Z2 の値が等しいメッセージよりも後に Agent 情報の更新に失敗している場合、Agent を再起動し情報を更新してください。

注

Agent の操作が不可能な場合、情報更新機能を利用して情報を更新することも可能です。

6.1.7 管理対象サーバの情報削除契機

管理対象サーバが Control Manager から削除される契機を次に示します。ただし、連携プログラムの設定変更により情報が削除される場合は含みません（N+1 関連の情報やサーババック情報）。

コマンドで管理対象サーバの登録を削除したとき
コマンド（svrcnfinfo -del）でサーバの情報を削除した場合、Control Manager から該当のサーバに関するすべての情報が削除されます。

BSM の登録を削除したとき
コマンド（bsmcnfinfo -del）で BSM または Server Manager の登録を削除した場合、該当する BSM または Server Manager の管理する管理対象サーバのすべての情報が削除されます。

N+1 コールドスタンバイが実行されたとき
自動または手動で N+1 コールドスタンバイが実行された場合、移動元から移動先へ一時的に情報の付け替えが発生し、移動先での Agent 起動により完全な情報に更新されます（移動元の情報是一部削除されたように見えます）。

パーティション状態が変更されたとき（BladeServer だけ）
サーバモジュールを抜いた場合、またはサーバモジュールの障害により該当のモジュールを含むパーティションがパーティション未確定になった場合、パーティションの情報を一部削除し非表示にします（SMP 構成管理以外の運用コマンドの実行対象にもなりません）。その後パーティション状態がパーティション確定になったときにパーティション情報が更新され表示されます。

6.1.8 削除される管理対象サーバの静的情報

それぞれの情報削除契機で削除 / 更新される情報を次の表に示します。

表 6-10 情報削除契機と削除 / 更新情報

静的情報 ¹		N+1 コールドスタンバイ		パーティション状態
		移動元	移動先	パーティション未確定 ²
サーバ情報	ホスト名		-	
	機種名		-	
	プロダクト名		-	
	ベンダ名		-	
	シリアル番号		-	
NIC 情報	MAC アドレス	-	-	-

静的情報 ¹		N+1 コールドスタンバイ		パーティション状態
		移動元	移動先	パーティション未確定 ²
	IP アドレス		3	
	サブネットマスク		3	
	デフォルトゲートウェイ		3	
CPU 情報	CPU アーキテクチャ情報		-	
	プロセッサ名	-	-	
	プロセッサ数	-	-	
	CPU 最大速度	-	-	
	CPU 装着状態	-	-	
メモリー情報	メモリーサイズ	-	-	
ディスク情報	ディスクサイズ		-	
	パーティションタイプ		-	
SVP 情報	SVP ボードまたは HVM IP アドレス	-	-	
OS 情報	OS 名		-	
	OS バージョン		-	
	サービスパック		-	
	ホットフィックス		-	
CPU ブレード情報	シャーシ ID	-	-	-
	スロット番号	-	-	
	パーティション番号	-	-	-
	ディスク設定	-	-	
仮想化技術情報	分割技術モード	-	-	-
	分割技術種別	-	-	-
	LPAR 識別子	-	-	-
	LPAR モードの物理パーティション	-	-	-
N+1 コールドスタンバイ	N+1 グループ名	-	-	-
	N+1 現用系 / 予備系	-	-	-

6. 管理対象サーバの情報管理

静的情報 ¹		N+1 コールドスタンバイ		パーティション状態
		移動元	移動先	パーティション未確定 ²
サーバパック	サーバパック名	-	-	-

(凡例)

：削除されます。

：移動元の情報が登録されます。

- : 状態変更前の情報が残ります。

注 1

既に Control Manager に登録されている情報で削除 / 更新を実行します。このタイミングで新しく BSM から情報を取得することはありません。

注 2

管理対象サーバの情報が非表示になります。SMP 構成管理以外の運用コマンドの実行対象になりません。

注 3

一時的にすべての IP アドレス情報がひとつの MAC アドレスに関連付けられます。N+1 コールドスタンバイ後に Agent を起動することで正しい情報に更新されます。

6.2 管理対象サーバの電源制御

Control Manager では、管理対象サーバの電源を ON、強制電源 OFF、OS のシャットダウンおよび OS の再起動ができます。Control Manager から管理対象サーバの電源を制御する場合、管理対象サーバに Agent をインストールして BSM の管理対象にする必要があります。なお、SVP/BMC エージェントサービスを利用した管理対象サーバの電源 ON、強制電源 OFF する場合は、管理対象サーバに Advanced Agent もインストールしておく必要があります。

ここでは、Control Manger から管理対象サーバの電源を制御する方法について説明します。

Control Manager では、次の方法で電源を制御します。

- 運用コマンドで電源を制御する
- シナリオテンプレートで電源を制御する

次項では、それぞれの電源制御方法について説明します。

6.2.1 運用コマンドで電源制御する

Control Manager から管理対象サーバを電源制御する運用コマンドを次に示します。

表 6-11 管理対象サーバを電源制御する運用コマンド

コマンド名 (Control Manager07-50 でのコマンド名)	説明
jscmstartserver (start_server)	指定されたサーバを起動します。
jsstopserver (stop_server)	指定されたサーバを強制停止します。
jscmstopos (stop_os)	指定された OS をシャットダウンまたは再起動します。

なお、運用コマンドについては、「11. 運用コマンド」を参照してください。

6.2.2 シナリオテンプレートで電源制御する

Control Manager から管理対象サーバを電源制御するシナリオテンプレートを次に示します。

表 6-12 管理対象サーバを電源制御するシナリオテンプレート

シナリオテンプレート	説明
start_server	Control Manager が管理するサーバを起動します。
stop_server	Control Manager が管理するサーバの電源を強制的に停止します。

6. 管理対象サーバの情報管理

シナリオテンプレート	説明
stop_os	Control Manager が管理するサーバの OS をシャットダウンします。
reboot	Control Manager が管理するサーバを再起動します。

なお、シナリオテンプレートについては、「10.3 Control Manager が提供するシナリオテンプレート」を参照してください。

6.3 管理対象サーバに関する注意点

ここでは、Control Manager に登録されているサーバを管理する場合の注意点を説明します。

6.3.1 管理対象サーバを SMP 構成にした場合

Control Manger の管理対象サーバを SMP 構成にした場合、サーバ情報の取得に必要な時間が長くなることがあります。そのため、BSM のコマンドタイムアウト時間を 300 秒以上に設定してください。BSM のコマンドタイムアウト時間を設定する方法については、マニュアル「JP1/ServerConductotr/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド」を参照してください。

6.3.2 管理対象サーバのパーティションが未確定になった場合

Control Manager で管理中の管理対象サーバがパーティション未確定になった場合、Control Manager から BSM を介した操作ができなくなります（SMP 構成管理に関する操作を除く）。Control Manager から管理対象サーバを操作する場合、管理対象サーバをパーティション確定状態にしてください。

パーティションの状態は、BSM のコンソールサービスの [パーティション情報ステータス] から確認できます。BSM の操作方法については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド」を参照してください。

6.3.3 N + 1 / N+M コールドスタンバイ構成の場合

Control Manager では、N+1 / N+M コールドスタンバイの系切り替えでサーバ間の OS を移動した場合、切り替え元のオンボード NIC の MAC アドレスが切り替え先で用される構成を管理できません。

< 例 >

管理対象サーバのオンボード NIC の MAC アドレスと同じ値を使用した NIC の冗長化構成の場合

6.4 仮想化されたサーバを管理する場合の制限事項

日立サーバ仮想化機構で仮想化されたサーバ（サーバモジュール）を構成する論理パーティションを LPAR といいます。Control Manager では、LPAR 上で稼働しているサーバおよび LPAR モードの物理パーティションを物理サーバと同様に管理できます。ただし、LPAR 上で稼働しているサーバおよび LPAR モードの物理パーティションが管理対象の場合は、幾つかの制限事項があります。

ここでは、LPAR 上で稼働しているサーバおよび LPAR モードの物理パーティションを管理する上で、次に示す機能の制限事項について説明します。

動的情報の取得

電源制御

N+1 / N+M コールドスタンバイ

運用コマンドおよびコマンドに対応する DPM シナリオ

LPAR 上で稼働しているサーバの設定

6.4.1 動的情報の取得での制限事項

Control Manager では、`jscmstate (state)` コマンドを利用して、管理対象サーバの動的情報を取得できます。ただし、LPAR 上で稼働しているサーバでは、次の動的情報は取得できません。

- LPAR 上で稼働しているサーバの電源状態

`jscmstate (state)` コマンドについては、「11. 運用コマンド」を参照してください。

6.4.2 電源制御での制限事項

Control Manager では、コマンドまたはシナリオテンプレートを使用して管理対象サーバの電源を ON、強制電源 OFF、OS のシャットダウンおよび OS の再起動の操作ができます。ただし、LPAR モードの物理パーティションが管理対象の場合、電源を ON、強制電源 OFF はできません。管理対象サーバの電源を制御する方法については、「6.2 管理対象サーバの電源制御」を、コマンドについては、「11. 運用コマンド」を、シナリオテンプレートについては、「10.3 Control Manager が提供するシナリオテンプレート」を参照してください。

6.4.3 N+1 / N+M コールドスタンバイでの制限事項

LPAR モードの物理パーティションでは、Control Manager からの N+1 / N+M コール

ドスタンバイを実行できません。

6.4.4 運用コマンドおよびコマンドに対応した DPM シナリオの制限事項

LPAR 上で稼働しているサーバおよび LPAR モードの物理パーティションで利用できるコマンドおよびコマンドに対応する DPM シナリオを次に示します。

表 6-13 LPAR 上で稼働しているサーバおよび LPAR モードの物理パーティションで利用できるコマンドおよび対応する DPM シナリオ

項番	コマンド	LPAR 上で稼働しているサーバ		LPAR モードの物理パーティション	説明
		Windows	Linux		
1	jscmdeploy			×	DPM シナリオを実行し、OS のクリアインストール、パッチの適用、スクリプトを実行します。
2	jscmbackup			×	DPM シナリオを実行し、完全バックアップを実行します。
3	jscmrestore			×	DPM シナリオを実行し、リストアを実行します。
4	jsscstartserver			×	指定されたサーバを起動します。
5	jscmstopserver			×	サーバを強制停止します。
6	jscmstopos			×	OS をシャットダウンします。
7	jscmnpswitch	×	×	×	指定した現用系サーバの手動切り替えを実行します。
8	jscmnprecover	×	×	×	指定した予備系サーバに対応する現用系サーバの復帰を実行します。
9	jscmnpactivate	×	×	×	指定した予備系サーバを現用系にします。
10	jscmdetachdisk	×	×	×	指定したサーバに割り当てられたブートディスク以外のディスク割り当てを解除します。
11	jscmattachdisk	×	×	×	一時解除されたブートディスク以外のディスク割り当てを復帰します。

(凡例)

○ : 使用できます。

× : 使用できません。

注意事項

LPAR 上で稼働しているサーバおよび LPAR モードの物理パーティションに対応していないコマンドまたはコマンドに対応する DPM シナリオを実行した場合は、エラーメッセージが表示されます。

なお、運用コマンドについては、「11. 運用コマンド」を参照してください。

6.4.5 LPAR 上で稼働しているサーバの設定での制限事項

ここでは、LPAR 上で稼働しているサーバの設定での制限事項について説明します。

(1) オンボード NIC の占有 / 共有モードの設定

オンボード NIC の占有 / 共有モードの設定は、共有モードにする必要があります。

(2) LPAR 上で稼働しているサーバの NIC の構成変更

LAPR 上で稼働しているサーバの NIC の構成を変更した場合は、Control Manager から該当するサーバを一度削除する必要があります。LPAR 上で稼働しているサーバを削除する方法については、「6.5 LPAR 上で稼働しているサーバの削除」を参照してください。

6.5 LPAR 上で稼働しているサーバの削除

Control Manager の管理対象から LPAR 上で稼働しているサーバを削除する場合、次の手順で実行してください。

1. BSM のコンソールサービスで削除したい LPAR を削除する

BSM のコンソールサービスから LPAR 上で稼働しているサーバを削除する方法については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド」を参照してください。

2. svrcnfinfo -del コマンドを実行する

Control Manager で登録されている LPAR 上で稼働しているサーバの情報を削除します。

3. Control Manager を再起動する

Control Manager を再起動することで、svrcnfinfo コマンドの -del オプションによって LPAR 上で稼働しているサーバの情報を削除したことが反映されます。

7

BSM Plus と連携した SMP 構成管理

Control Manager は、BSM Plus と連携することで、コマンドによって SMP 構成管理機能を利用できます。また、JP1/AJS2 - Scenario Operation のシナリオテンプレートを使用すれば、SMP 構成の変更を自動化できます。

この章では、SMP 構成管理機能の概要および操作の流れについて説明します。なお、コマンドについては、「11. 運用コマンド」を、JP1/AJS2 - Scenario Operation のシナリオテンプレートについては、「10. JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携したシステムの自動運用」を参照してください。

7.1 SMP 構成管理機能の概要

7.2 SMP 構成管理機能で使用するコマンド

7.3 スケールアウトとスケールアップ

7.1 SMP 構成管理機能の概要

SMP 構成管理機能によって、管理対象の BladeServer のパーティションを作成または削除することができます。これによって、パーティションの数やパーティションを構成するサーバモジュールの数を変更し、システムに必要なリソースに対してサーバの構成を柔軟に変更することができます。

Control Manager では、パーティションの作成、パーティションの削除をコマンドで実行できます。これによって、バッチや JP1/AJS2 - Scenario Operation のシナリオテンプレートを作成することで SMP 構成の変更を自動化できます。

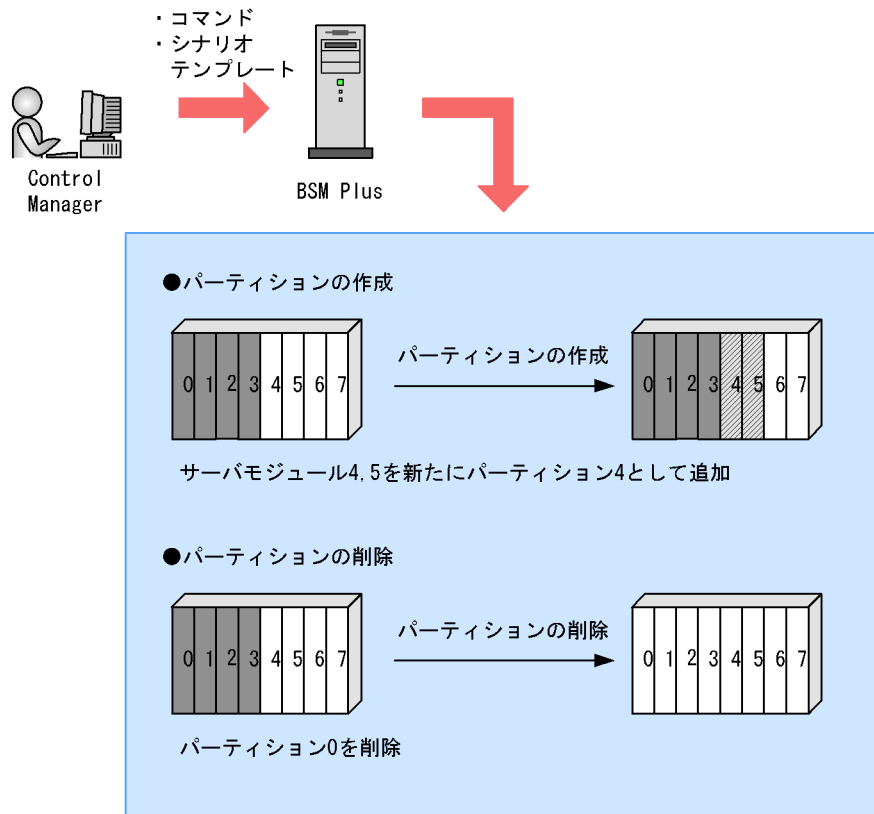
例えば、日中はシステムの負荷を分散するために同じ処理を実行するパーティションの数を増やし（スケールアウト）、夜間はパーティションにサーバモジュールを追加することで（スケールアップ）高い処理能力を維持するといったサーバの構成変更を自動化できます。

注意事項

Control Manager では、管理対象サーバの台数を増減できますが、負荷分散の設定はできません。負荷分散の設定は、負荷分散を設定するハードウェアまたはソフトウェアで設定してください。

SMP 構成管理機能の概要を次の図に示します。

図 7-1 SMP 構成管理機能の概要



次に、Control Manager のコマンドでできることについて説明します。

パーティションの作成

パーティションを新規に作成します。パーティションの作成時に一つまたは複数のスロットを指定することで、一つまたは複数のサーバモジュールで構成されるパーティションを作成できます。例えば、パーティション内のサーバモジュールの数を増やしてより高い負荷に耐えられるようにシステムを強化できます。

パーティションの削除

作成済みのパーティションを削除します。

パーティション詳細情報の取得

パーティションの状態を確認します。パーティションの作成および削除後、処理が正しく完了しているかどうかを確認できます。

スロット情報の取得

スロットに挿入されているサーバモジュールの N+1 の登録状態や CPU のクロック周波数などの情報を取得します。例えば、異なったタイプのサーバモジュールが挿入されているスロットを指定してパーティションを作成するとエラーになりますが、この

7. BSM Plus と連携した SMP 構成管理

とき、スロット情報を取得してモジュールタイプを確認できます。

次節では、それぞれの機能を Control Manager で実行するコマンドについて説明します。

7.2 SMP 構成管理機能で使用するコマンド

Control Manager では、コマンドによってパーティションおよびスロットを操作します。

SMP 構成管理機能で使用するコマンドを次の表に示します。

なお、それぞれのコマンドの詳細については、「11. 運用コマンド」を参照してください。

表 7-1 SMP 構成管理機能で使用するコマンド

機能	コマンド名	説明
動的情報の取得	jscmstate (state)	パーティションの電源または Agent の状態を取得します。
指定したサーバの起動	jscmstartserver (start_server)	パーティションの電源を ON にします。
指定したサーバの OS をシャットダウンまたは再起動	jscmstopos (stop_os)	パーティションの OS をシャットダウンします。
スロット情報の取得	jscmgetslotinfo	指定したサーバシャーシのスロット情報を取得します。
パーティションの削除	jscmsmp -del	指定したサーバシャーシのパーティションを削除します。
パーティション詳細情報の取得	jscmsmp -get	指定したサーバシャーシのパーティション詳細情報を取得します。
パーティションの作成	jscmsmp -new	指定したサーバシャーシにパーティションを作成します。

注意事項

- パーティションを作成または削除するコマンドを実行後、必ずパーティション詳細情報を取得して、パーティションが正しく作成または削除されたかどうか確認してください。パーティションの作成処理または削除処理が実行中の場合は、処理が終了してから確認してください。
- IA32 では、複数の BladeServer を指定したパーティションを作成できません。

7.3 スケールアウトとスケールアップ

Control Manager では、「7.2 SMP 構成管理機能で使用するコマンド」で説明したコマンドを組み合わせて管理対象サーバのスケールアウトまたはスケールアップができます。

ここでは、Control Manager の管理対象サーバをスケールアウトまたはスケールアップして業務を開始するまでの流れ、および操作手順について説明します。

7.3.1 スケールアウトの流れ

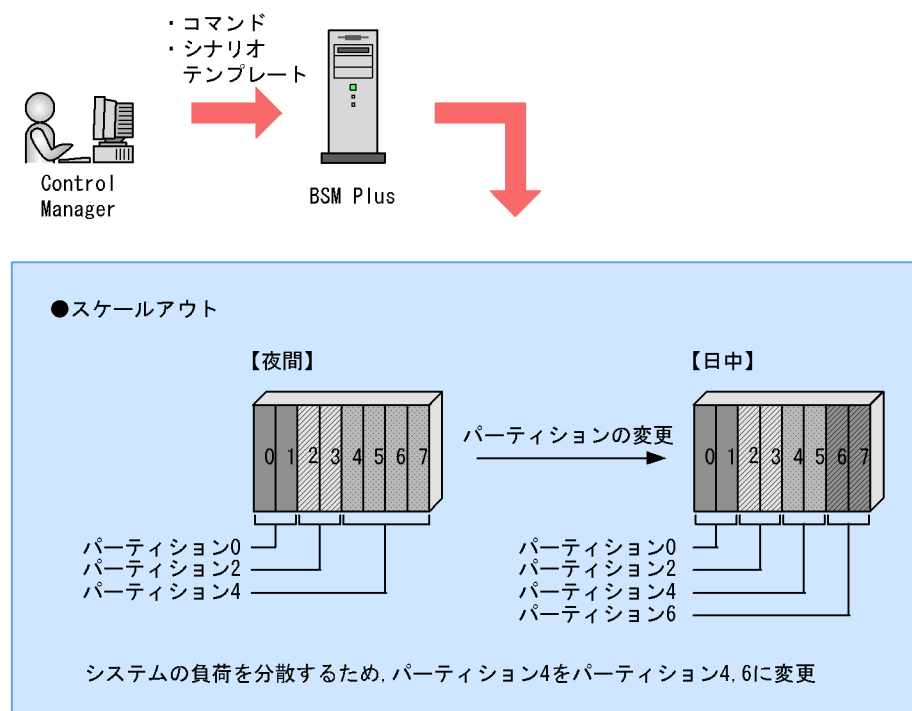
ここでは、二つのサーバモジュールで構成されている二つのパーティションおよび四つのサーバモジュールで構成されている一つのパーティションを、二つのサーバモジュールで構成される四つのパーティションにスケールアウトする例を示します。

例

夜間は四つのサーバモジュールで構成されている一つのパーティションで、より高い処理能力を維持する必要があったが、日中は並列処理を多く実行できるように、パーティション構成を変更する。

スケールアウトの例を次の図に示します。

図 7-2 スケールアウトの例



スケールアウト前のパーティション構成（夜間）

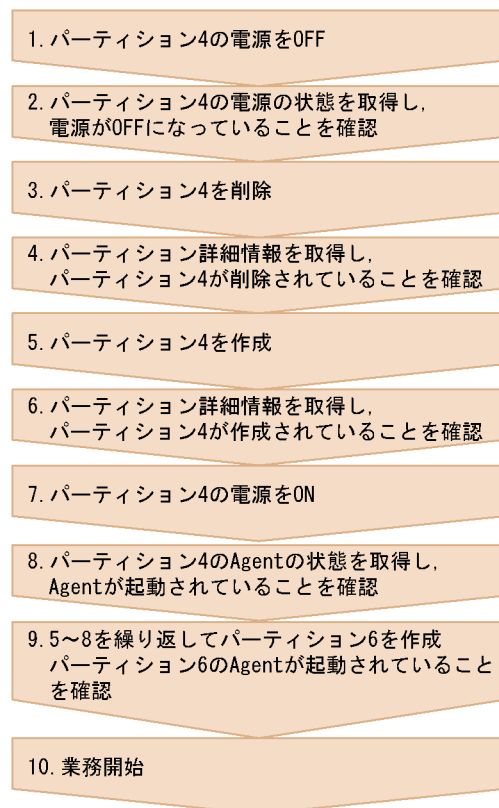
パーティション 0：スロット 0，スロット 1
 パーティション 2：スロット 2，スロット 3
 パーティション 4：スロット 4，スロット 5，スロット 6，スロット 7

スケールアウト後のパーティション構成（日中）

パーティション 0：スロット 0，スロット 1
 パーティション 2：スロット 2，スロット 3
 パーティション 4：スロット 4，スロット 5
 パーティション 6：スロット 6，スロット 7

スケールアウトの流れを次の図に示します。

図 7-3 スケールアウトの流れ



説明

説明の番号は、図中の番号と対応しています。また、説明中のコマンドについては、「11. 運用コマンド」を参照してください。

1. パーティション 4 の電源を OFF にする
 jscmstopos (stop_os) コマンドでパーティション 4 の電源を OFF にします。
2. パーティション 4 の電源の状態を取得し、電源が OFF になっていることを確認する

`jscmstate (state)` コマンドで電源の状態を取得し、パーティション 4 の電源が OFF になっていることを確認します。

3. パーティション 4 を削除する

`jscmsmp` コマンドの `-del` オプションでパーティション 4 を削除します。

4. パーティションの詳細情報を取得し、パーティション 4 が削除されていることを確認する

`jscmsmp` コマンドの `-get` オプションでパーティション 4 詳細情報を取得し、パーティション 4 が削除されていることを確認します。

5. パーティション 4 を作成する

`jscmsmp` コマンドの `-new` オプションでスロット 4、スロット 5 を指定し、パーティション 4 を作成します。

6. パーティションの詳細情報を取得し、パーティション 4 が作成されていることを確認する

`jscmsmp` コマンドの `-get` オプションでパーティション 4 が作成されていることを確認します。

7. パーティション 4 が作成されたあと、パーティション 4 の電源を ON にする

`jscmstartserver (start_server)` コマンドでパーティション 4 の電源を ON します。

8. パーティション 4 の Agent の状態を取得し、Agent が起動されていることを確認する

`jscmstate (state)` コマンドでパーティション 4 の Agent の状態を取得し、パーティション 4 の Agent が起動されていることを確認します。

9. パーティション 6 を作成し、パーティション 6 の Agent が起動されていることを確認する

スロット 6、スロット 7 を指定し、手順 5 ~ 8 と同じ要領でパーティション 6 を作成、パーティション 6 の Agent が起動されていることを確認します。

10. 業務を開始する

ここまでで作業は完了です。

注意事項

パーティションを作成したあとにパーティションの電源を ON にする場合は、電源を ON にするパーティションのサーバ情報をあらかじめ BSM に登録しておいてください。

7.3.2 スケールアップの流れ

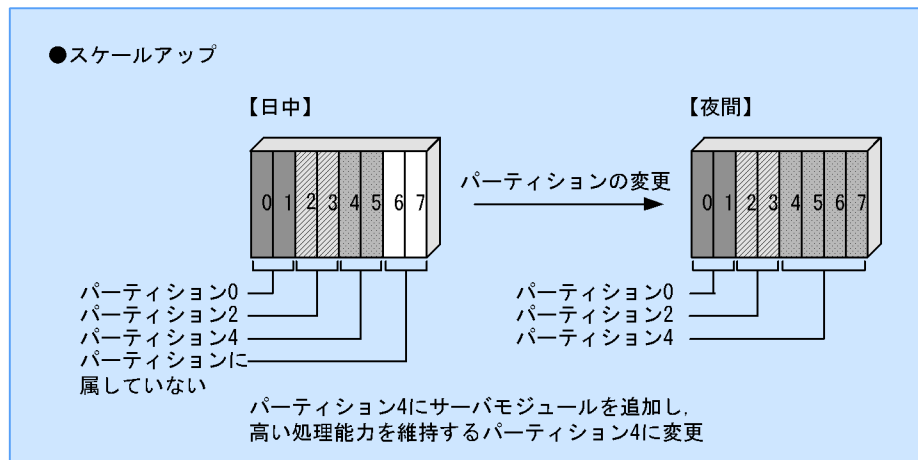
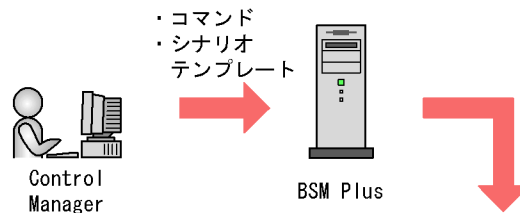
ここでは、二つのサーバモジュールで構成されている三つのパーティションおよびパーティションに属していない二つのサーバモジュールを、二つのサーバモジュールで構成される二つのパーティションおよび四つのサーバモジュールで構成される一つのパーティションにスケールアップする例を示します。

例

日中は二つのサーバモジュールで構成されている三つのパーティションで同じ処理を並行して実行する必要があったが、夜間はより高い処理能力を持つサーバが必要なので、パーティション構成を変更する。

スケールアップの例を次の図に示します。

図 7-4 スケールアップの例



スケールアップ前のパーティション構成（日中）

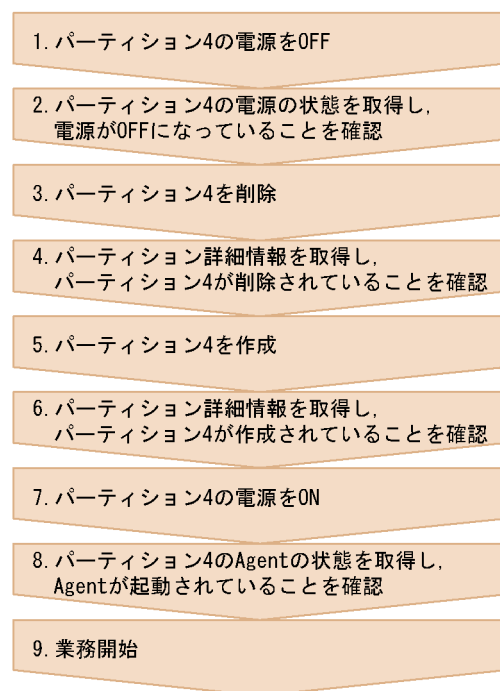
- パーティション 0：スロット 0，スロット 1
- パーティション 2：スロット 2，スロット 3
- パーティション 4：スロット 4，スロット 5
- パーティションに属していない：スロット 6，スロット 7

スケールアップ後のパーティション構成（夜間）

- パーティション 0：スロット 0，スロット 1
- パーティション 2：スロット 2，スロット 3
- パーティション 4：スロット 4，スロット 5，スロット 6，スロット 7

スケールアップの流れを次の図に示します。

図 7-5 スケールアップの流れ



説明

説明の番号は、図中の番号と対応しています。また、説明中のコマンドについては、「11. 運用コマンド」を参照してください。

1. パーティション 4 の電源を OFF にする
jscmstopos (stop_os) コマンドでパーティション 4 電源を OFF にします。
2. パーティション 4 の電源の状態を取得し、電源が OFF になっていることを確認する
jscmstate (state) コマンドで電源の状態を取得し、パーティション 4 の電源が OFF になっていることを確認します。
3. パーティション 4 を削除する
jscmsmp コマンドの -del オプションでパーティション 4 を削除します。
4. パーティションの詳細情報を取得し、パーティション 4 が削除されていることを確認する
jscmsmp コマンドの -get オプションでパーティション 4 の詳細情報を取得し、パーティション 4 が削除されていることを確認します。
5. パーティション 4 を作成する
jscmsmp コマンドの -new オプションでスロット 4 , スロット 5 , スロット 6 , スロット 7 を指定し、パーティション 4 を作成します。
6. パーティションの詳細情報を取得し、パーティション 4 が作成されたことを確認する

jscmsmp コマンドの `-get` オプションでパーティション 4 の詳細情報を取得し、パーティション 4 が作成されていることを確認します。

7. パーティション 4 が作成されたあと、パーティション 4 の電源を ON にする
`jscmstartserver (start_server)` コマンドでパーティション 4 の電源を ON にします。
8. パーティション 4 の Agent の状態を取得し、Agent が起動されていることを確認する
`jscmstate (state)` コマンドでパーティション 4 の Agent の状態を取得し、パーティション 4 の Agent が起動されていることを確認します。
9. 業務を開始する

ここまでで作業は完了です。

注意事項

- パーティションを作成したあとにパーティションの電源を ON にする場合は、電源を ON にするパーティションのサーバ情報をあらかじめ BSM に登録しておいてください。
- BSM に登録がなく、新規にパーティションを作成した場合は Control Manager から電源を ON にできません。

7.3.3 スケールアウトとスケールアップの自動化

スケールアウトまたはスケールアップを自動化するためには、JP1/AJS2 - Scenario Operation のシナリオテンプレートを利用します。Control Manager では、SMP 構成管理機能を使用するために次の表に示すシナリオテンプレートが用意されています。

なお、JP1/AJS2 - Scenario Operation については、「10. JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携したシステムの自動運用」を参照してください。

表 7-2 SMP 構成管理機能を使用するためのシナリオテンプレート

シナリオテンプレート名	機能説明
<code>smp_new</code>	指定したサーバシャーシのパーティションを作成します。
<code>smp_del</code>	指定したサーバシャーシのパーティションを削除します。
<code>smp_getF</code>	指定したサーバシャーシのパーティション詳細情報を取得します。
<code>getslotinfoF</code>	指定したサーバシャーシのスロット情報を取得します。

なお、シナリオを実行するまでの流れについては、「10.5.1 電源制御、ディスク割り当て、N+1 / N+M コールドスタンバイおよび SMP 構成管理機能を実行する場合のシナリオ実行までの流れ」を参照してください。

8

JP1/IM - CM と連携した管理対象サーバの情報管理

この章では、Control Manager が JP1/IM - CM と連携して提供する機能（コンソール連携して管理対象サーバの表示，デプロイメント制御，構成情報の提供）について説明します。また，Control Manager から JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する JP1 イベント，および JP1 イベントのフィルタリングの設定方法について説明します。

8.1 JP1/IM - CM との連携の概要

8.2 JP1/IM - CM からの起動と終了

8.3 管理対象サーバの一覧を表示する（JP1/IM - CM と連携した場合）

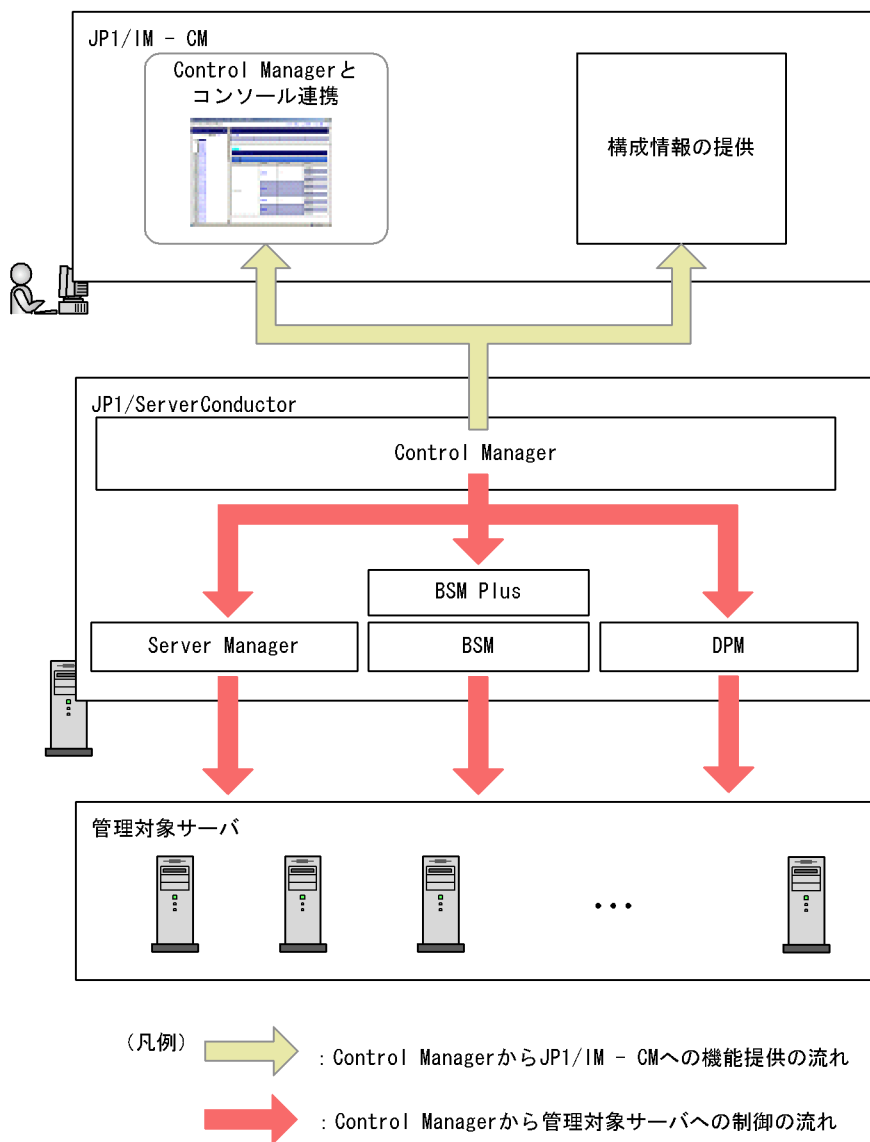
8.4 JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ JP1 イベントを通知する

8.1 JP1/IM - CM との連携の概要

JP1/IM - CM は、管理対象とするシステムの構成情報を統合管理するシステムです。業務システムを構成する各種のリソース（サーバ、ストレージなど）やシステム構成に関する情報を集約して管理します。Control Manager は JP1/IM - CM と連携し、JP1/ServerConductor で構成されたシステムの統合管理をサポートします。

JP1/IM - CM と Control Manager の連携について次に示します。

図 8-1 JP1/IM - CM と Control Manager の連携



なお、Control Manager が JP1/IM - CM と連携するためには、あらかじめ次の設定が必要になります。

- JP1 ユーザーの操作権限の設定
- Control Manager と連携するための設定ファイルの配置
- JP1/IM - View の設定
- JP1/IM - CM の設定

詳細な設定の方法は、「3.8 その他の JP1 製品と連携する場合の設定」を参照してください。

8.1.1 Control Manager が JP1/IM - CM に提供する機能

Control Manager が JP1/IM - CM に提供する機能について説明します。

(1) コンソール連携

Control Manager が JP1/IM - CM と連携すると、JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを直接起動できます。JP1/IM - View とは、JP1/IM - CM に接続して、システムの監視・操作画面を提供するプログラムです。Control Manager が JP1/IM - View とコンソール連携して提供する機能について次に説明します。

システムの監視

JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを起動して、サーバ単位またはサーババック（リソースバック）単位で管理対象サーバの情報を参照できます。ただし、管理対象サーバに LPAR モードの物理パーティションを含む場合は、サーバの情報を参照できませんので注意してください。参照できる情報について次に示します。

- サーバのホスト名
- サーバの DPM シナリオ実行状態
Control Manager の Web コンソールから DPM シナリオを実行した場合だけ表示されます。
- サーバの MAC アドレス
- サーバの IP アドレス
- モード（Basic モードまたは LPAR モード）
- LPAR 識別子

JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを起動して、管理対象サーバの詳細情報を参照する方法については、「8.3 管理対象サーバの一覧を表示する（JP1/IM - CM と連携した場合）」を参照してください。

注

リソースバックとは、ユーザーの業務に合わせてユーザーの資源（サーバ、ディスク、ネットワーク装置）を割り当てる JP1/IM - CM の機能です。

Control Manager ではリソースパックで管理する資源のうちサーバだけを管理の対象とするので、リソースパックと区別してサーバパックと呼んでいます。サーバパックの情報は、JP1/IM - CM でリソースパックにサーバを登録したタイミングで設定されます。JP1/IM - View から Control Manager の管理対象サーバの情報を表示するときは、サーバパック単位で表示できます。これによって、サーバパックとして登録されている業務単位に管理対象サーバの情報を参照できます。

デプロイメント制御

JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを起動して、管理対象サーバに OS のインストール、バックアップ、リストアなどのデプロイメント制御を実行できます。デプロイの方法については、「9. DPM と連携したデプロイメント制御」を参照してください。

(2) 構成情報の提供

Control Manager は、管理対象サーバの構成情報を JP1/IM - CM に提供しています。JP1/IM - CM は、提供された構成情報から、管理対象サーバの構成を管理したり状態変化を監視したりしています。また、ユーザーは構成情報収集コマンドによって構成情報を取得し、管理対象サーバの情報を管理している構成管理 DB を更新できます。構成情報についての詳細な説明は、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド」または「JP1/Integrated Manager - Central Information Master システム構築・運用ガイド」を参照してください。

Control Manager が JP1/IM - CM に提供する構成情報の詳細を次の表に示します。

表 8-1 Control Manager が JP1/IM - CM に提供する構成情報

情報の種類		備考
サーバ情報	ホスト名	-
	機種識別情報	-
NIC 情報	MAC アドレス	複数の場合があります。
	サーバ IP アドレス	複数の場合があります。
	サブネットマスク	複数の場合があります。
	デフォルトゲートウェイ	-
CPU 情報	プロセッサ名	-
	プロセッサ数	-
	プロセッサ最大速度 [MHz (メガヘルツ)]	-
メモリ情報	総メモリサイズ [MB]	-
ディスク容量	総ディスク容量 [MB]	-

情報の種類		備考
SVP 情報	SVP ボード の IP アドレスまたは HVM IP アドレス	-
OS 種類	OS 名	-
	OS バージョン	-
CPU ブレード情報	サーバシャーシ ID	-
	サーバモジュールスロット	複数の場合があります。
N+1 コールドスタンバイ	グループ名	複数の場合があります。
	現用系 / 予備系状態	複数の場合があります。

(凡例) - : 該当しない

注

SVP ボードとは日立アドバンストサーバ HA8000 および BladeSymphony に搭載され、本体装置の電源制御、およびスケジューリング機能を提供するオプションボードのことです。

8.2 JP1/IM - CM からの起動と終了

Control Manager は JP1/IM - CM と連携している場合、JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールをシングルサインオン で起動できます。ここでは、JP1/IM - View から Control Manager へのシングルサインオン、および Control Manager の Web コンソールの起動・終了の方法について説明します。

注

シングルサインオンとは、JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを起動するときに、Control Manager のログイン画面を起動しないで、目的のウィンドウを直接起動できる機能です。

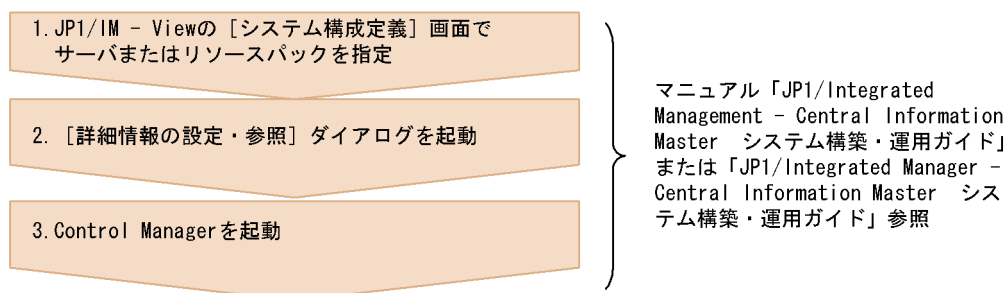
JP1/IM - View からシングルサインオンで Control Manager の Web コンソールを起動する場合、JP1/IM - View でのログイン認証が成功であれば、Control Manager でのログインは不要です。また、JP1/IM - View へのログインで使用しているユーザー名およびパスワードを Control Manager で使用しているユーザー名およびパスワードと統一する必要はありません。

8.2.1 JP1/IM - CM からの Control Manager の起動

ここでは、JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを起動する方法について簡単に説明します。詳細な操作説明は、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド」または「JP1/Integrated Manager - Central Information Master システム構築・運用ガイド」を参照してください。

JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを起動する流れについて次に示します。

図 8-2 JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを起動する流れ



1. JP1/IM - View の [システム構成定義] 画面の [リソース] タブを開く。
JP1/IM - View の [システム構成定義] 画面の [リソース] タブを開きます。
Control Manager の Web コンソールで情報を表示したいサーバまたはリソースパッ

クがある場合は、そのサーバまたはリソースパックを指定してください。

2. [詳細情報の設定・参照] ボタンをクリックする。
[詳細情報の設定・参照] ダイアログが起動します。
3. [サーバの設定・OS のインストール] ラジオボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックする。
Control Manager の Web コンソールが起動します。

操作 1. での操作方法によって、Control Manager の Web コンソールで表示されるウィンドウが次のとおり異なります。

- JP1/IM - View でサーバまたはリソースパックを指定しないで、Control Manager の Web コンソールを起動した場合
Control Manager のメインウィンドウが表示されます。
メインウィンドウからの操作方法については、「5.4 詳細メニューの実行」を参照してください。
- JP1/IM - View でサーバを指定し、Control Manager の Web コンソールを起動した場合
Control Manager の Web コンソールでは、サーバが指定された状態の画面が表示されます。この場合、指定したサーバに対してだけ操作できるようになります。
Control Manager の Web コンソールで表示されるウィンドウについては、「8.3.1 サーバを指定して表示する」を参照してください。
- JP1/IM - View でリソースパックを指定し、Control Manager の Web コンソールを起動した場合
起動された Control Manager の Web コンソールでは、サーバパックが指定された状態の画面が表示されます。この場合、指定したサーバパック内のサーバに対してだけ操作できるようになります。
Control Manager の Web コンソールで表示されるウィンドウについては、「8.3.2 サーバパック（リソースパック）を指定して表示する」を参照してください。

8.2.2 JP1/IM - CM からの Control Manager の終了

JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを起動した場合の終了方法は、JP1/IM - View と連携しないで Control Manager の Web コンソールを起動した場合と同じです。

8.3 管理対象サーバの一覧を表示する（JP1/IM - CM と連携した場合）

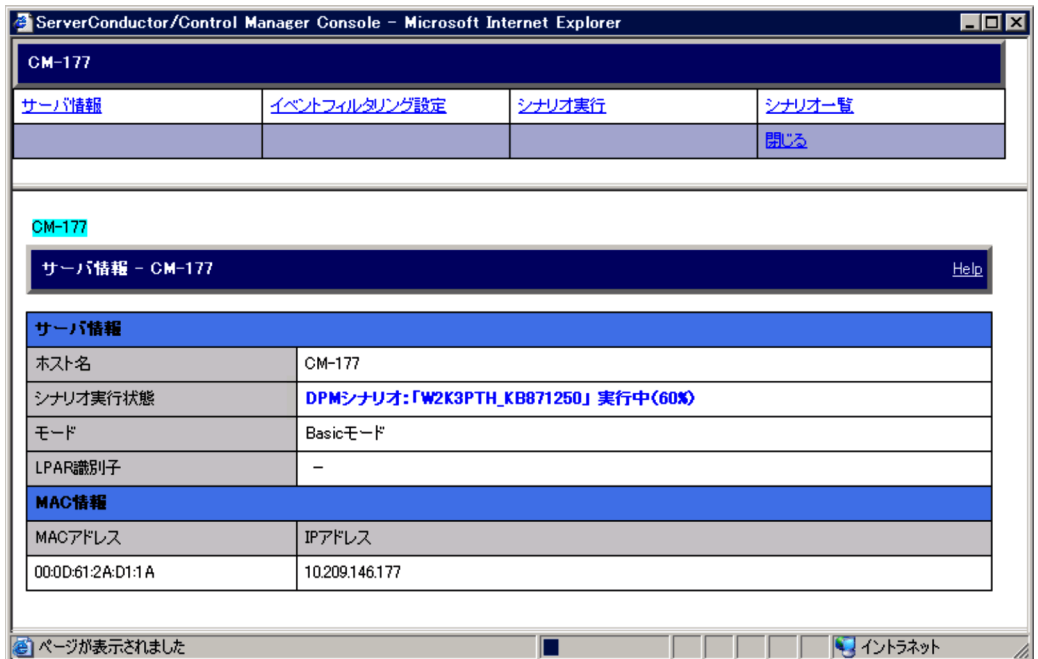
JP1/IM - View から Control Manager の Web コンソールを表示するには次の二つの方法があります。

- サーバを指定して表示する
JP1/IM - View でサーバを指定してから Control Manager を起動した場合、Control Manager では、サーバが指定された状態のウィンドウが表示されます。ウィンドウを表示したあとの操作方法については、「8.3.1 サーバを指定して表示する」を参照してください。
- リソースパックを指定して表示する
JP1/IM - View でリソースパックを指定してから Control Manager を起動した場合、Control Manager では、JP1/IM - View で指定されたリソースパックに対応するサーバパックの情報が表示されます。
ウィンドウを表示したあとの操作方法については、「8.3.2 サーバパック（リソースパック）を指定して表示する」を参照してください。

8.3.1 サーバを指定して表示する

JP1/IM - View でサーバを指定してから Control Manager の Web コンソールを起動した場合、指定した管理対象サーバの情報が表示され、そのサーバに対してだけ操作できるようになります。JP1/IM - View でサーバを指定した場合のメインウィンドウについて次に示します。

図 8-3 メインウィンドウ（JP1/IM - View でサーバを指定した場合に表示される画面）



JP1/IM - View と連携しないで管理対象サーバの情報を表示した場合と異なり、メインウィンドウの左側に表示されるサーバ一覧のツリーは表示されません。

ウィンドウ上部にサーバに対して実行できるメニューが表示されます。サーバに対して実行できるメニューの詳細は、「5.4 詳細メニューの実行」を参照してください。

8.3.2 サーバパック（リソースパック）を指定して表示する

JP1/IM - View でリソースパックを指定して Control Manager の Web コンソールを起動した場合、指定したリソースパックに登録されているサーバの一覧が表示されます。

リソースパックとは、ユーザーの業務に合わせてユーザーの資源（サーバ、ディスク、ネットワーク装置）を割り当てる JP1/IM - CM の機能です。Control Manager ではリソースパックで管理する資源のうちサーバだけを管理の対象とするので、リソースパックと区別してサーバパックと呼んでいます。

ユーザーは、JP1/IM - View からリソースパックの割り当てを実行します。JP1/IM - View でリソースパックの割り当てが実行されると、JP1/IM - CM は Control Manager に対して、リソースパック情報をサーバパックとして設定するよう指示を出します。これを受けて、Control Manager は管理対象サーバに対してサーバパック割り当てを実行します。

注意事項

JP1/IM - View でリソースパックの割り当てを実行したあとも、Control Manager

8. JP1/IM - CM と連携した管理対象サーバの情報管理

でのサーバパックの割り当てが完了していない場合は、JP1/IM - View からサーバパックを指定して Control Manager のサーバパック情報を表示することはできません。

リソースパックの詳細な説明は、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド」または「JP1/Integrated Manager - Central Information Master システム構築・運用ガイド」を参照してください。

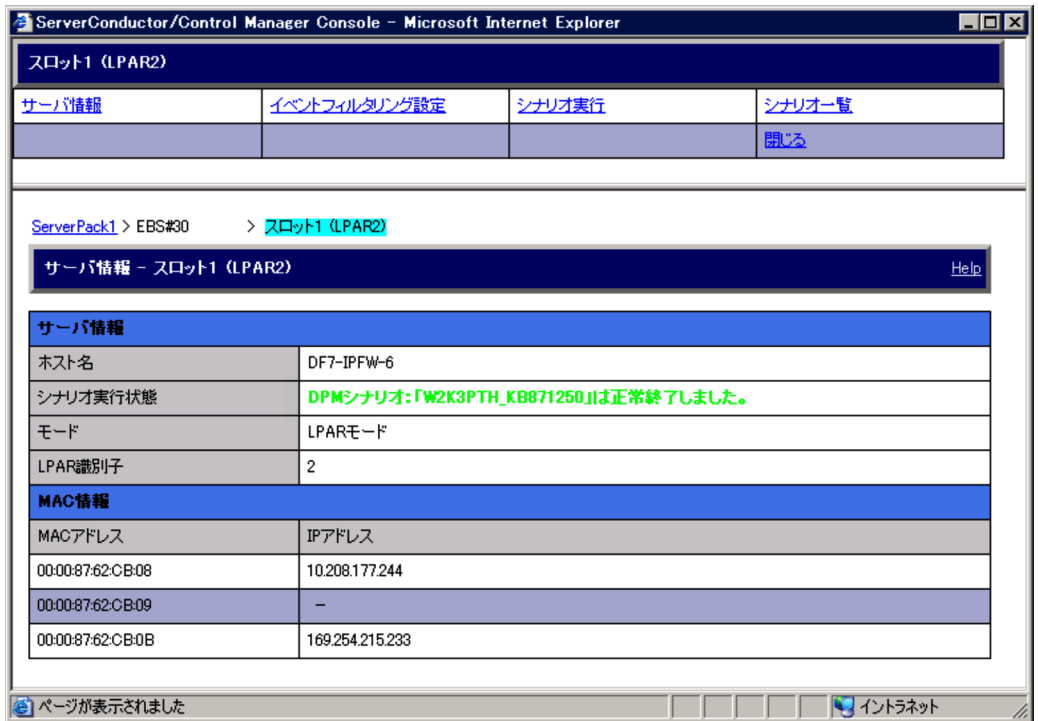
JP1/IM - View でリソースパックを指定してから Control Manager の Web コンソールを起動した場合、次に示す画面が表示されます。

図 8-4 メインウィンドウ（JP1/IM - View でリソースパックを指定した場合に表示される画面）

シャーシID	スロットID	ホスト名	IPアドレス
EBS#14	スロット0	DF7-IA32W-E-2	10.208.175.140
EBS#15	スロット6	MSCS01	10.208.175.131
EBS#30	スロット1 (LPA2)	DF7-IPFW-6	10.208.176.219
	スロット2 (LPA2)	IPF-WIN-2	10.208.176.229
-	-	CM-177	10.209.146.177

BladeServer の場合はサーバー一覧のスロット ID を、Server の場合はホスト名をそれぞれクリックすると、サーバモジュールスロットの詳細情報が次のように表示されます。

図 8-5 メインウィンドウ（JP1/IM - View でリソースパックを指定した場合のサーバモジュールスロット情報表示）



サーバに対して実行できるメニューの詳細は、「5.4 詳細メニューの実行」を参照してください。

注意事項

JP1/IM - CM と連携する場合、Control Manager の管理対象サーバとして同じホスト名のサーバを複数登録すると、JP1/IM - CM で情報収集ができなくなります。また、同じホスト名のサーバを複数登録していない場合でも、N+1 グループの現用系 / 予備系の情報の一部が Control Manager に登録されていない状態で、N+1 コールドスタンバイの手動切り替え / 復帰を実行すると、Control Manager の管理情報が一致しくなくなります。この場合も、JP1/IM - CM で情報を収集できなくなるので注意してください。Control Manager の管理情報が一致しない場合は、管理情報を正しく登録し直してください。管理情報の再登録については「6.1.3 管理対象サーバの情報の再取得」を参照してください。

8.4 JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ JP1 イベントを通知する

Control Manager から JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する JP1 イベントについて説明します。

JP1 イベントとは、システムで発生した事象（障害、サーバの起動・終了など）を JP1 で管理するためのイベントです。Control Manager では、Control Manager 内および管理対象サーバ内で起こるさまざまな事象（サーバモジュールの追加・削除、サーバ電源断要求など）を JP1 イベントとして JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知します。

ここでは、次の順で Control Manager から JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する JP1 イベントについて説明していきます。

Control Manager が通知する JP1 イベントについて

Control Manager が JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する JP1 イベントについて、「8.4.2 Control Manager が JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する JP1 イベント一覧」で説明します。

なお、JP1 イベントの詳細については、「8.4.7 Control Manager が通知する JP1 イベントの詳細」を参照してください。また、JP1 イベントの属性については、「8.4.6 JP1 イベントの属性」を参照してください。

Control Manager でのイベントレベルによる JP1 イベントのフィルタリング設定について

フィルタリングとは、イベントレベルによって JP1 イベントを通知 / 非通知に設定できる機能です。各 JP1 イベントには、Control Manager でのイベントレベル、および JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度が設定されています。Control Manager でのイベントレベル、および JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度との対応については、「8.4.3(1) イベントレベルの種類」を参照してください。

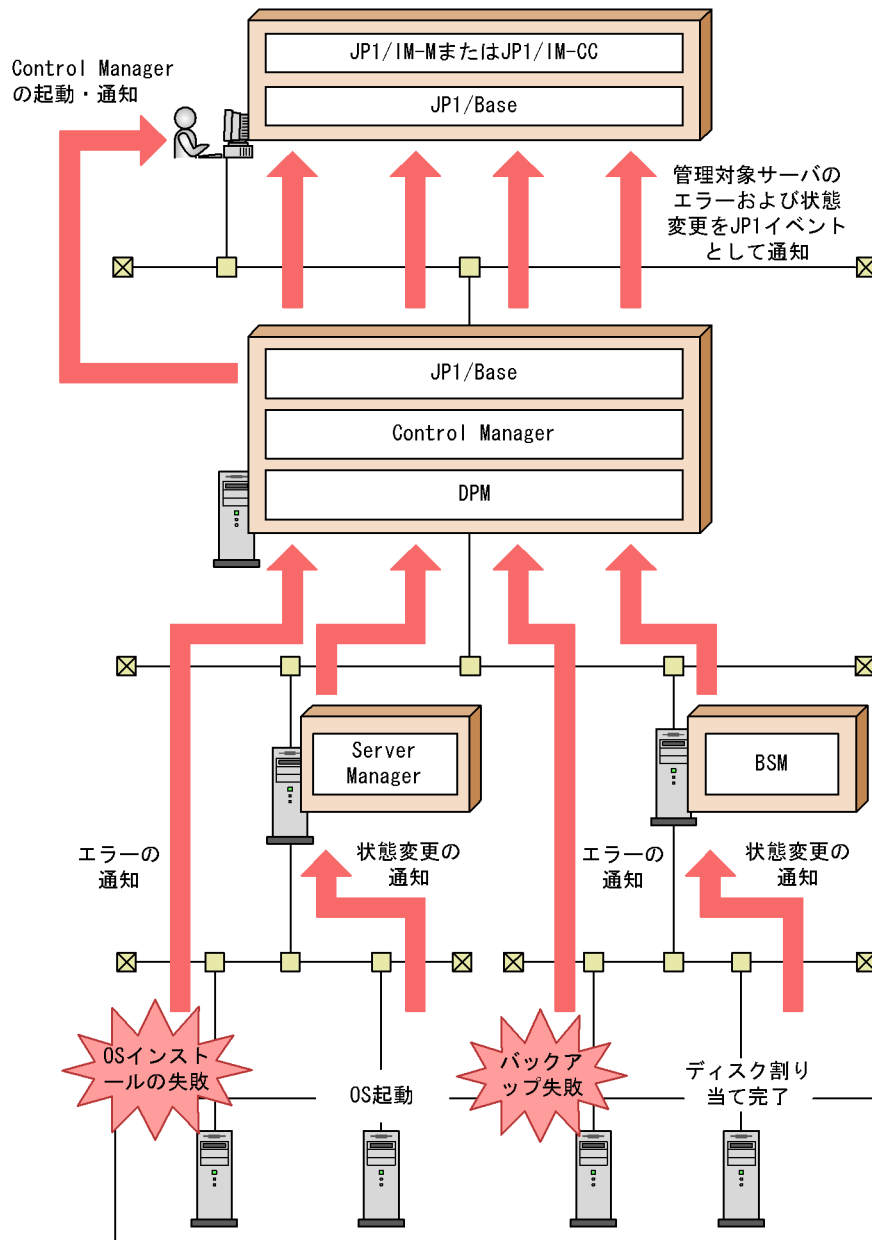
JP1 イベントのフィルタリングの設定方法については、「8.4.3(2) イベントフィルタリングの設定方法」で説明します。

JP1 イベントの通知に関する注意事項について

JP1 イベントの通知に関する注意事項については、「8.4.5 JP1 イベント通知に関する注意事項」で説明します。

JP1/IM - M または JP1/IM - CC への JP1 イベント通知の流れについて次に示します。

図 8-6 JP1/IM - M または JP1/IM - CC への JP1 イベント通知の流れ



8.4.1 JP1 イベントを JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する

Control Manager が通知する JP1 イベントの詳細情報を JP1/IM - M または JP1/IM - CC で表示するには、Control Manager が提供する拡張属性定義ファイルを JP1/IM - M また

は JP1/IM - CC のフォルダにコピーする必要があります。

拡張属性定義ファイルは、Control Manager のインストール先フォルダの data フォルダに格納されています。

拡張属性定義ファイルのコピーは次に示す手順で実行します。

< 拡張属性定義ファイルの名称 >

- hitachi_ServerConductorControlManager_attr_ja.conf

< 手順 >

1. 拡張属性定義ファイルを JP1/IM - M または JP1/IM - CC のフォルダ にコピーする
2. 「JP1/Console」サービスを再起動する

注

JP1/IM - M または JP1/IM - CC のデフォルトのインストール先を指定した場合、次に示すフォルダにコピーする必要があります。

C:\Program Files\Hitachi\JP1Cons\conf\console\attribute

8.4.2 Control Manager が JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する JP1 イベント一覧

Control Manager から JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する JP1 イベントの一覧は次のとおりです。

各イベントにはイベントレベル（インフォメーション，注意，警告，および障害）があります。Control Manager のイベントレベル（インフォメーション，注意，警告，および障害）と JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度（Debug，Information，Notice，Warning，Error，Critical，Alert，および Emergency）との対応については、「8.4.3(1) イベントレベルの種類」を参照してください。

表 8-2 JP1 イベント一覧

イベント ID (アラート ID)	JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度	Control Manager のイベントレベル	発生個所 ¹	発行契機	メッセージ
00011800 (0x3712)	Notice	インフォメーション	BSM	サーバモジュール追加	KASN900G0-I サーバモジュールが追加されました。
00011801 (0x3713)	Notice	インフォメーション	BSM	サーバモジュール削除	KASN901G0-I サーバモジュールが削除されました。

イベント ID (アラート ID)	JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度	Control Manager のイベントレベル	発生個所 ¹	発行契機	メッセージ
00011802	Notice	インフォメーション	Control Manager	サーバ追加	KASN902G0-I Server の定義が追加されました。
00011803	Notice	インフォメーション	Control Manager	サーバ削除	KASN903G0-I Server の定義が削除されました。
00011804 (0x3705)	Notice	インフォメーション	BSM	ディスクの割り当て完了	KASN904G0-I ディスクの割り当てが完了しました。
00011805 (0x3706)	Notice	インフォメーション	BSM	ディスクの割り当て解除	KASN905G0-I ディスクの割り当てが解除されました。
00011806	Notice	インフォメーション	DPM	リストアの完了	KASN906G0-I リストアが完了しました。
00011807	Notice	インフォメーション	DPM	サービスバック適用の完了	KASN907G0-I サービスバック適用が完了しました。
00011808	Notice	インフォメーション	Control Manager	サーバ起動要求受付	KASN908G0-I サーバ起動要求を受け付けました。
00011809	Notice	インフォメーション	Control Manager	サーバ電源断要求受付 (強制電源断)	KASN909G0-I サーバの強制電源断要求を受け付けました。
0001180A	Notice	インフォメーション	Control Manager	OS シャットダウン要求受付 (Shutdown + サーバ電源断)	KASN90AG0-I OS シャットダウン要求を受け付けました。
0001180B	Notice	インフォメーション	BSM	OS 起動	KASN90BG0-I OS が起動しました。
0001180C (0x3701)	Notice	インフォメーション	BSM	N+1 コールドスタンバイ発生	KASN90CG0-I N+1 コールドスタンバイが発生しました。
0001180E	Notice	インフォメーション	Control Manager	Control Manager サービスの起動	KASN90EG0-I Control Manager サービスが起動しました。

8. JP1/IM - CM と連携した管理対象サーバの情報管理

イベント ID (アラート ID)	JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度	Control Manager のイベントレベル	発生箇所 ¹	発行契機	メッセージ
0001180F	Notice	インフォメーション	Control Manager	Control Manager サービスの終了	KASN90FG0-I Control Manager サービスが終了しました。
00011813	Notice	インフォメーション	Control Manager	JP1 イベントサービスとの接続再開	KASN913G0-I JP1 イベントサービスとの接続が再開しました。
00011814	Notice	インフォメーション	Control Manager	MAC アドレス変更 ²	KASN914G0-I MAC アドレスが変更されました。
00011815 (0x3715)	Notice	インフォメーション	BSM	パーティション確定	KASN915G0-I パーティションが確定しました。
00011816 (0x3716)	Notice	インフォメーション	BSM	パーティション未確定	KASN916G0-I パーティションが未確定になりました。
00011818	Error	警告	DPM	リストアの失敗	KASN918G0-E リストアが失敗しました。
00011819	Error	警告	DPM	サービスバック適用の失敗	KASN919G0-E サービスバック適用が失敗しました。
0001181D	Notice	インフォメーション	DPM	バックアップの完了	KASN91DG0-I バックアップが完了しました。
0001181E	Notice	インフォメーション	DPM	ハードウェア設定の完了	KASN91EG0-I ハードウェア設定が完了しました。
0001181F	Notice	インフォメーション	DPM	OS インストールの完了	KASN91FG0-I OS インストールが完了しました。
00011820	Error	警告	DPM	バックアップの失敗	KASN920G0-E バックアップが失敗しました。
00011821	Error	警告	DPM	ハードウェア設定の失敗	KASN921G0-E ハードウェア設定が失敗しました。
00011822	Error	警告	DPM	OS インストールの失敗	KASN922G0-E OS インストールが失敗しました。

イベント ID (アラート ID)	JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度	Control Manager のイベントレベル	発生個所 ¹	発行契機	メッセージ
00011823 (0x3707)	Notice	インフォメーション	BSM	N+1 コールドスタンバイ 手動切替 ³ 成功	KASN923G0-I N+1 コールドスタンバイ 手動切替 ³ に成功しました。
00011824 (0x3709)	Error	警告	BSM	N+1 コールドスタンバイ 手動切替 ³ 失敗	KASN924G0-E N+1 コールドスタンバイ 手動切替 ³ に失敗しました。
00011825 (0x370C)	Notice	インフォメーション	BSM	N+1 コールドスタンバイ 現用復帰 成功	KASN925G0-I N+1 コールドスタンバイ 現用復帰に成功しました。
00011826 (0x370D)	Error	警告	BSM	N+1 コールドスタンバイ 現用復帰 失敗	KASN926G0-E N+1 コールドスタンバイ 現用復帰に失敗しました。
00011827 (0x370E)	Notice	インフォメーション	BSM	N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化成功	KASN927G0-I N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化に成功しました。
00011828 (0x3711)	Error	警告	BSM	N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化失敗	KASN928G0-E N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化に失敗しました。

注 1

発生個所が BSM であるイベントの一部は、BSM Plus が必要です。

注 2

イベント ID が 00011814 の MAC アドレス変更通知は、管理対象サーバが BladeServer の物理サーバである場合だけ通知することがあります。

注 3

BSM の N+1 コールドスタンバイ自動切り替え機能を実行した場合も、「N+1 コールドスタンバイ 手動切替」が実行されたことを知らせるイベントが通知されます。

8.4.3 JP1 イベントをフィルタリングする

Control Manager ではデフォルトですべての JP1 イベントを JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する設定になっていますが、この設定は、Control Manager の Web コンソール上で変更できます。JP1 イベントのレベルによって通知または非通知に設定し、通知する JP1 イベントをフィルタリングできます。

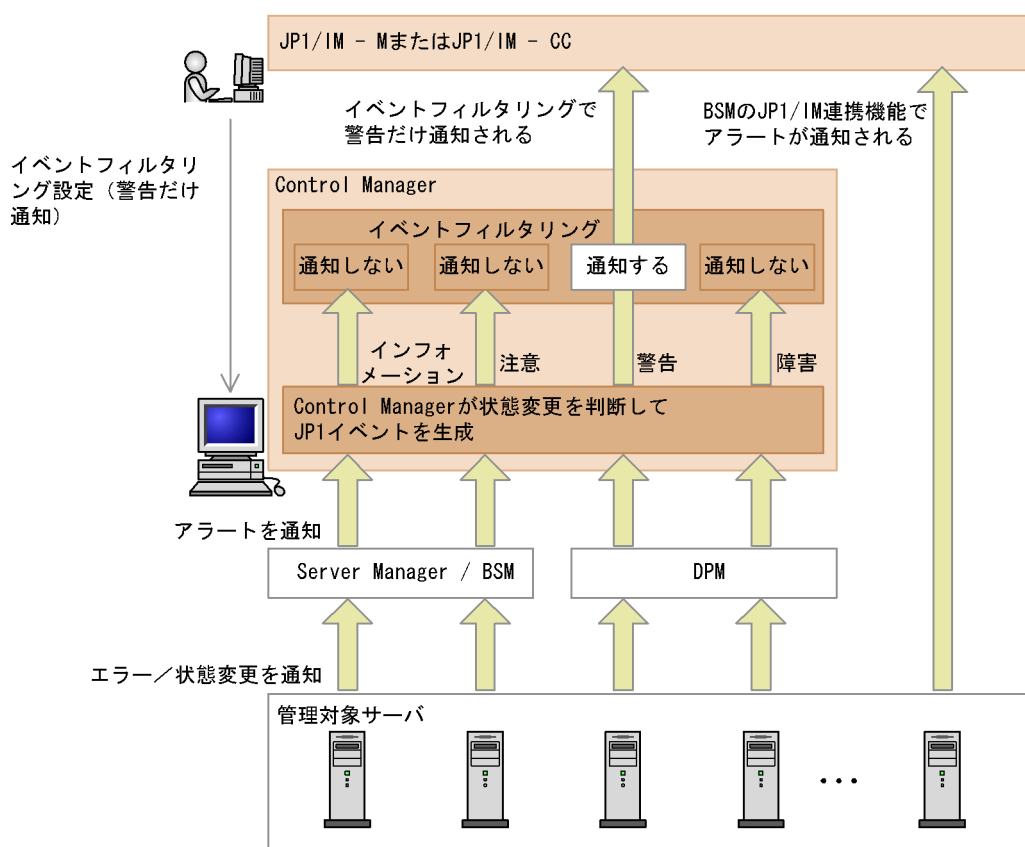
注意事項

ただし、次のイベントに関しては、イベントフィルタリングの設定に関係なく JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知します。

- サーバモジュール追加
- サーバモジュール削除
- JP1 イベントサービスとの接続再開
- Control Manager サービスの起動
- Control Manager サービスの終了

JP1 イベントフィルタリングの流れについて次に示します。

図 8-7 JP1 イベントフィルタリングの流れ



(1) イベントレベルの種類

Control Manager で発行する JP1 イベントはその重大度によって、インフォメーション、注意、警告、および障害のどれかのイベントレベルに設定されています。このイベントレベルは JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度と次のように対応しています。

表 8-3 Control Manager でのイベントレベルと JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度の関係（緊急性の低い順）

JP1/IM - M または JP1/IM - CC での重大度	Control Manager でのイベントレベル	フィルタリングのデフォルト設定
デバッグ (Debug) 情報 (Information) 通知 (Notice)	インフォメーション	通知する
警告 (Warning)	注意	通知する
エラー (Error) 致命的 (Critical)	警告	通知する
警戒 (Alert) 緊急 (Emergency)	障害	通知する

「8.4.2 Control Manager が JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する JP1 イベント一覧」を参照して、JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知したいイベントのレベルを確認し、イベントフィルタリングを設定してください。

（２）イベントフィルタリングの設定方法

JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知する JP1 イベントのフィルタリングを設定する方法について説明します。

1. メインウィンドウで、イベントのフィルタリングを設定したいサーバの情報を表示する。
サーバの情報を表示する方法については、「5.3 管理対象サーバの情報表示」または「8.3 管理対象サーバの一覧を表示する（JP1/IM - CM と連携した場合）」を参照してください。
2. [イベントフィルタリング設定] アンカーをクリックする。
[イベントフィルタリングの変更] ウィンドウが表示されます。
デフォルトではすべてチェックが外れています。



3. [イベントフィルタリングの変更] ウィンドウで、JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ通知しないイベントレベルのチェックボックスにだけチェックして、[OK] ボタンをクリックする。

JP1/IM - M または JP1/IM - CC への JP1 イベント通知のフィルタリングを実施します。

8.4.4 JP1 イベントサービスが停止状態から復旧した場合

Control Manager は、JP1 イベントサービスが停止状態になった場合、JP1 イベントサービスの復旧を監視します。JP1 イベントサービスが復旧されると、Control Manager は「JP1 イベントサービスとの接続再開イベント」(イベント ID=0x00011813) を発行し、JP1/IM - M または JP1/IM-CC へ JP1 イベントサービスの復旧を知らせます。

なお、Control Manager では JP1 イベントのスタック機能を持ちません。したがって、JP1 イベントサービス停止中に発行された JP1 イベントは保持されません。

8.4.5 JP1 イベント通知に関する注意事項

管理対象サーバまたは Control Manager の運用状況によって、実行した操作に対応した

JP1 イベントまたは操作の結果、期待と異なる JP1 イベントが通知される場合があります。また、通知された JP1 イベントと管理対象サーバの状態が異なる場合もあります。この場合は、連携する BSM、Server Manager または DPM を使用して状態を確認してください。このような JP1 イベント通知の例を次に示します。

(1) JP1 イベントが通知されない場合

- サーバ起動要求受付の JP1 イベントが通知されたあとに、OS 起動の JP1 イベントが通知されない
- N+1 コールドスタンバイが発生したあとに、N+1 コールドスタンバイ手動切替成功 / 失敗または N+1 コールドスタンバイ現用復帰成功の JP1 イベントが発行されない
- jscmbackup (backup) コマンド、jscmdeploy (deploy) コマンド、および jscmrestore (restore) コマンドを実行したあとに、各 DPM シナリオの実行に成功または失敗したことが JP1 イベントに通知されない

(2) 通知された JP1 イベントと管理対象サーバの状態が異なる場合

- サーバ起動要求受付の JP1 イベントが通知されたが、管理対象サーバが起動していない
- OS シャットダウン要求受付の JP1 イベントが通知されたが、管理対象サーバがシャットダウンしていない
- サーバ電源断要求受付 (強制電源断) の JP1 イベントが通知されたが、管理対象サーバが電源断していない

8.4.6 JP1 イベントの属性

ここでは、「8.4.7 Control Manager が通知する JP1 イベントの詳細」で説明されている、JP1 イベントの属性について説明します。

JP1 イベントの属性には基本属性と拡張属性があります。

基本属性は、すべての JP1 イベントが持っている属性です。拡張属性は、JP1 イベントを発行するプログラムが独自に割り当てる属性です。

(1) 基本属性

JP1 イベントの基本属性を次の表に示します。

表 8-4 JP1 イベントの基本属性

項目	属性名	内容
イベント ID	ID	発行アプリケーションプログラムや事象の内容を表す 8 バイトの値。
メッセージ	MESSAGE	イベントの内容を表した文字列。

(2) 拡張属性

イベントの拡張属性とは、イベント発行元プログラムが任意に指定できる属性です。拡張属性には共通情報と固有情報があります。共通情報は JP1 プログラムで統一されている情報を示します。固有情報は共通情報以外の拡張属性を示します。

共通情報の一覧を次の表に示します。

表 8-5 共通情報の一覧

項目	属性名	内容
重大度	SEVERITY	JP1 イベントの緊急性を表します。緊急性の高い順に、次の値があります。 Emergency (緊急) Alert (警戒) Critical (致命的) Error (エラー) Warning (警告) Notice (通知) Information (情報) Debug (デバッグ)
プロダクト名	PRODUCT_NAME	JP1 イベントを発行したプログラム名。
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	イベント発行の契機となったオブジェクトの種類を表す名称。
オブジェクト名	OBJECT_NAME	イベント発行の契機となったオブジェクトの名称。
登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	オブジェクトの種別。
登録名	ROOT_OBJECT_NAME	ユーザーの操作時に実行を指示する単位になる名称。
事象種別	OCCURRENCE	オブジェクト名に示したオブジェクトに対して起こった事象。

固有情報の一覧を次の表に示します。

表 8-6 固有情報の一覧

項目	属性名	内容
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	イベントを発行したホストの名称。
イベント発行元ホスト IP 1	EVENT_HOST_IP	イベントを発行したホストの IP。
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	イベントを発行したホストのドメイン名。

項目	属性名	内容
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子。
ServerManager/ BSM の IP アドレス	SM_IP_ADDRESS	Server Manager/BSM の IP アドレス。
MAC アドレス	MAC	MAC アドレス (切り替え元)。
シャーシ ID	CHASSIS	シャーシ ID。
スロット番号 ²	SLOT	スロット番号。

注 1

Control Manager が動いているサーバに複数 IP アドレスが設定してある場合、複数の IP が割り当てられます。

ただし、設定される文字数は最大で 255 文字です。設定されているすべての IP アドレスを "," で区切って羅列した文字数が 255 文字を超える場合、255 文字のみが表示されます。

注 2

複数のスロット番号が割り当てられる場合があります。

8.4.7 Control Manager が通知する JP1 イベントの詳細

Control Manager が通知する JP1 イベントの詳細を次に示します。

(1) イベント ID : 00011800 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	サーバモジュール追加
イベント ID	-	0x00011800
メッセージ	-	KASN900G0-I サーバモジュールが追加されました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/ SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	BLADE
オブジェクト名	OBJECT_NAME	スロット番号
登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	CHASSIS
登録名	ROOT_OBJECT_NAME	シャーシ ID
事象種別	OCCURRENCE	ADD
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(2) イベント ID : 00011801 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	サーバモジュール削除
イベント ID	-	0x00011801
メッセージ	-	KASN901G0-I サーバモジュールが削除されました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/ SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	BLADE
オブジェクト名	OBJECT_NAME	スロット番号
登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	CHASSIS
登録名	ROOT_OBJECT_NAME	シャーシ ID
事象種別	OCCURRENCE	DELETE
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(3) イベント ID : 00011802 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	サーバ追加
イベント ID	-	0x00011802
メッセージ	-	KASN902G0-I Server の定義が追加されました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/ SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(4) イベント ID : 00011803 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	サーバ削除
イベント ID	-	0x00011803
メッセージ	-	KASN903G0-I Server の定義が削除されました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/ SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(5) イベント ID : 00011804 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	ディスクの割り当て完了
イベント ID	-	0x00011804
メッセージ	-	KASN904G0-I ディスクの割り当てが完了しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/ SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	BLADE
オブジェクト名	OBJECT_NAME	スロット番号
登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	CHASSIS
登録名	ROOT_OBJECT_NAME	シャーシ ID
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(6) イベント ID : 00011805 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	ディスクの割り当て解除
イベント ID	-	0x00011805
メッセージ	-	KASN905G0-I ディスクの割り当てが解除されました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/ SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	BLADE
オブジェクト名	OBJECT_NAME	スロット番号
登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	CHASSIS
登録名	ROOT_OBJECT_NAME	シャーシ ID
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(7) イベント ID : 00011806 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	リストアの完了
イベント ID	-	0x00011806
メッセージ	-	<p>DPM シナリオの実行に成功した場合、次に示すメッセージのうち、複数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KASN906G0-I リストアが完了しました。 • KASN907G0-I サービスパック適用が完了しました。 • KASN91DG0-I バックアップが完了しました。 • KASN91EG0-I ハードウェア設定が完了しました。 • KASN91FG0-I OS インストールが完了しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/ SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	DEPLOYED
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(8) イベント ID : 00011807 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	サービスパック適用の完了
イベント ID	-	0x00011807
メッセージ	-	<p>DPM シナリオの実行に成功した場合、次に示すメッセージのうち、複数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KASN906G0-I リストアが完了しました。 • KASN907G0-I サービスパック適用が完了しました。 • KASN91DG0-I バックアップが完了しました。 • KASN91EG0-I ハードウェア設定が完了しました。 • KASN91FG0-I OS インストールが完了しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/ SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	DEPLOYED
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(9) イベント ID : 00011808 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	サーバ起動要求受付
イベント ID	-	0x00011808
メッセージ	-	KASN908G0-I サーバ起動要求を受付けました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/ SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	START
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(10) イベント ID : 00011809 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	サーバ電源断要求受付（強制電源断）
イベント ID	-	0x00011809
メッセージ	-	KASN909G0-I サーバ強制電源断要求を受けました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/ SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	END
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(11) イベント ID : 0001180A の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	OS シャットダウン要求受付 (Shutdown+ サーバ電源断)
イベント ID	-	0x0001180A
メッセージ	-	KASN90AG0-I OS シャットダウン 要求を受けました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	END
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン 名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(12) イベント ID : 0001180B の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	OS 起動
イベント ID	-	0x0001180B
メッセージ	-	KASN90BG0-I OS が起動しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	START
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子
Server Manager / BSM の IP アドレス	SM_IP_ADDRESS	Server Manager / BSM の IP アドレス

(13) イベント ID : 0001180C の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	N+1 コールドスタンバイ発生
イベント ID	-	0x0001180C
メッセージ	-	KASN90CG0-I N+1 コールドスタンバイが発生しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス (切り替え先)
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子
MAC アドレス	MAC	MAC アドレス (切り替え元)

(14) イベント ID : 0001180E の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	Control Manager サービスの起動
イベント ID	-	0x0001180E
メッセージ	-	KASN90EG0-I Control Manager サービスが起動しました。
重大度	SEVERITY	Notice
ユーザー名	USER_NAME	Windows の場合 : Control Manager サービスのアカウント (デフォルト : SYSTEM)
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
事象種別	OCCURRENCE	START
開始時刻	START_TIME	サービスの開始時刻
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(15) イベント ID : 0001180F の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	Control Manager サービスの終了
イベント ID	-	0x0001180F
メッセージ	-	KASN90FG0-I Control Manager サービスが終了しました。
重大度	SEVERITY	Notice
ユーザー名	USER_NAME	Windows の場合 : Control Manager サービスのアカウント (デフォルト : SYSTEM)
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI /SERVERCONDUCTOR /SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
事象種別	OCCURRENCE	END
終了時刻	END_TIME	サービスの終了時刻
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(16) イベント ID : 00011813 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	JP1 イベントサービスとの接続再開
イベント ID	-	0x00011813
メッセージ	-	KASN913G0-I JP1 イベントサービスとの接続が再開しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI / SERVERCONDUCTOR / SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
事象種別	OCCURRENCE	RESTART
開始時刻	START_TIME	JP1 イベントサービスへの再接続の時刻
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(17) イベント ID : 00011814 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	MAC アドレス変更
イベント ID	-	0x00011814
メッセージ	-	KASN914G0-I MAC アドレスが変更されました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(18) イベント ID : 00011815 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	パーティション確定
イベント ID	-	0x00011815
メッセージ	-	KASN915G0-I パーティションが確定しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI / SERVERCONDUCTOR / SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	BLADE
オブジェクト名	OBJECT_NAME	スロット番号 (プライマリーのスロット番号)
登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	CHASSIS
登録名	ROOT_OBJECT_NAME	シャーシ ID
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子
シャーシ ID	CHASSIS	シャーシ ID
スロット番号	SLOT	スロット番号・・・(複数)

(19) イベント ID : 00011816 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	パーティション未確定
イベント ID	-	0x00011816
メッセージ	-	KASN916G0-I パーティションが未確定になりました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	BLADE
オブジェクト名	OBJECT_NAME	スロット番号
登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	CHASSIS
登録名	ROOT_OBJECT_NAME	シャーシ ID
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(20) イベント ID : 00011818 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	リストアの失敗
イベント ID	-	0x00011818
メッセージ	-	<p>DPM シナリオの実行に失敗した場合、次に示すメッセージのうち、複数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KASN918G0-E リストアが失敗しました。 • KASN919G0-E サービスパック適用が失敗しました。 • KASN920G0-E バックアップが失敗しました。 • KASN921G0-E ハードウェア設定が失敗しました。 • KASN922G0-E OS インストールが失敗しました。
重大度	SEVERITY	Error
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI / SERVERCONDUCTOR / SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	EXCEPTION
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(21) イベント ID : 00011819 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	サービスバック適用の失敗
イベント ID	-	0x00011819
メッセージ	-	<p>DPM シナリオの実行に失敗した場合、次に示すメッセージのうち、複数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KASN918G0-E リストアが失敗しました。 • KASN919G0-E サービスバック適用が失敗しました。 • KASN920G0-E バックアップが失敗しました。 • KASN921G0-E ハードウェア設定が失敗しました。 • KASN922G0-E OS インストールが失敗しました。
重大度	SEVERITY	Error
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	EXCEPTION
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(22) イベント ID : 0001181D の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	バックアップの完了
イベント ID	-	0x0001181D
メッセージ	-	<p>DPM シナリオの実行に成功した場合、次に示すメッセージのうち、複数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KASN906G0-I リストアが完了しました。 • KASN907G0-I サービスパック適用が完了しました。 • KASN91DG0-I バックアップが完了しました。 • KASN91EG0-I ハードウェア設定が完了しました。 • KASN91FG0-I OS インストールが完了しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI / SERVERCONDUCTOR / SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	DEPLOYED
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(23) イベント ID : 0001181E の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	ハードウェア設定の完了
イベント ID	-	0x0001181E
メッセージ	-	<p>DPM シナリオの実行に成功した場合、次に示すメッセージのうち、複数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KASN906G0-I リストアが完了しました。 • KASN907G0-I サービスパック適用が完了しました。 • KASN91DG0-I バックアップが完了しました。 • KASN91EG0-I ハードウェア設定が完了しました。 • KASN91FG0-I OS インストールが完了しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	DEPLOYED
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(24) イベント ID : 0001181F の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	OS インストールの完了
イベント ID	-	0x0001181F
メッセージ	-	<p>DPM シナリオの実行に成功した場合、次に示すメッセージのうち、複数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KASN906G0-I リストアが完了しました。 • KASN907G0-I サービスパック適用が完了しました。 • KASN91DG0-I バックアップが完了しました。 • KASN91EG0-I ハードウェア設定が完了しました。 • KASN91FG0-I OS インストールが完了しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI / SERVERCONDUCTOR / SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	DEPLOYED
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(25) イベント ID : 00011820 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	バックアップの失敗
イベント ID	-	0x00011820
メッセージ	-	<p>DPM シナリオの実行に失敗した場合、次に示すメッセージのうち、複数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KASN918G0-E リストアが失敗しました。 • KASN919G0-E サービスパック適用が失敗しました。 • KASN920G0-E バックアップが失敗しました。 • KASN921G0-E ハードウェア設定が失敗しました。 • KASN922G0-E OS インストールが失敗しました。
重大度	SEVERITY	Error
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	EXCEPTION
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(26) イベント ID : 00011821 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	ハードウェア設定の失敗
イベント ID	-	0x00011821
メッセージ	-	<p>DPM シナリオの実行に失敗した場合、次に示すメッセージのうち、複数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KASN918G0-E リストアが失敗しました。 • KASN919G0-E サービスパック適用が失敗しました。 • KASN920G0-E バックアップが失敗しました。 • KASN921G0-E ハードウェア設定が失敗しました。 • KASN922G0-E OS インストールが失敗しました。
重大度	SEVERITY	Error
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI / SERVERCONDUCTOR / SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	EXCEPTION
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(27) イベント ID : 00011822 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	OS インストールの失敗
イベント ID	-	0x00011822
メッセージ	-	KASN922G0-E OS インストールが失敗しました。
重大度	SEVERITY	Error
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	EXCEPTION
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子

(28) イベント ID : 00011823 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	N+1 コールドスタンバイ 手動切替 成功
イベント ID	-	0x00011823
メッセージ	-	KASN923G0-I N+1 コールドスタン バイ 手動切替 に成功しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI / SERVERCONDUCTOR / SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス (切り替え先)
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン 名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子
MAC アドレス	MAC	MAC アドレス (切り替え元)

注

BSM の N+1 コールドスタンバイ自動切り替え機能を実行した場合も、「N+1 コールドスタンバイ手動切替」が実行されたことを知らせるイベントが通知されます。

(29) イベント ID : 00011824 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	N+1 コールドスタンバイ 手動切替 失敗
イベント ID	-	0x00011824
メッセージ	-	KASN924G0-E N+1 コールドスタン バイ 手動切替 に失敗しました。
重大度	SEVERITY	Error
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス (切り替え先)
事象種別	OCCURRENCE	EXCEPTION
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン 名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子
MAC アドレス	MAC	MAC アドレス (切り替え元)

注

BSM の N+1 コールドスタンバイ自動切り替え機能を実行した場合も、「N+1 コールドスタンバイ手動切替」が実行されたことを知らせるイベントが通知されます。

(30) イベント ID : 00011825 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	N+1 コールドスタンバイ 現用復帰成功
イベント ID	-	0x00011825
メッセージ	-	KASN925G0-I N+1 コールドスタンバイ 現用復帰に成功しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI / SERVERCONDUCTOR / SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス (切り替え先)
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子
MAC アドレス	MAC	MAC アドレス (切り替え元)

(31) イベント ID : 00011826 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	N+1 コールドスタンバイ 現用復帰失敗
イベント ID	-	0x00011826
メッセージ	-	KASN926G0-E N+1 コールドスタンバイ 現用復帰に失敗しました。
重大度	SEVERITY	Error
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	MAC アドレス (切り替え先)
事象種別	OCCURRENCE	EXCEPTION
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子
MAC アドレス	MAC	MAC アドレス (切り替え元)

(32) イベント ID : 00011827 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化成功
イベント ID	-	0x00011827
メッセージ	-	KASN927G0-I N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化に成功しました。
重大度	SEVERITY	Notice
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI / SERVERCONDUCTOR / SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	切り替え先 (現用化対象の予備系) の MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	MODIFY
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子
MAC アドレス	MAC	切り替え元の現用系の MAC アドレス

(33) イベント ID : 00011828 の詳細

項目	属性名	内容
発行契機	-	N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化失敗
イベント ID	-	0x00011828
メッセージ	-	KASN928G0-E N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化に失敗しました。
重大度	SEVERITY	Error
プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/SERVERCONDUCTOR/ SERVERMANAGER
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVER
オブジェクト名	OBJECT_NAME	切り替え先（現用化対象の予備系） の MAC アドレス
事象種別	OCCURRENCE	EXCEPTION
イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	Control Manager サーバのホスト名
イベント発行元ホスト IP	EVENT_HOST_IP	Control Manager サーバの IP
イベント発行元ドメイン名	EVENT_DOMAIN_NAME	Control Manager サーバのドメイン 名
統合管理イベント	JP1_HC_EVENT	構成変更イベントの識別子
MAC アドレス	MAC	切り替え元の現用系の MAC アドレ ス

注意事項

- Control Manager が通知する JP1 イベントの詳細情報を JP1/IM -M または JP1/IM - CC で表示するには、Control Manager が提供する拡張属性定義ファイルを JP1/IM -M または JP1/IM - CC のフォルダにコピーする必要があります。
JP1/IM - M または JP1/IM - CC の設定方法については、「3.8.4 JP1/IM - M または JP1/IM - CC の設定」を参照してください。
- 次に示す JP1 イベントは、JP1 イベント通知時に内部エラーが発生した場合、JP1 イベントが通知されません。
本来、通知されるはずの JP1 イベントが通知されない場合、次に示す対応表を参照して管理対象サーバの状態変化を確認してください。

表 8-7 Control Manager イベントと BSM アラートの対応

イベント ID	Control Manager のイベントメッセージ	発生条件
アラート ID	BSM のアラートメッセージ	
0x00011804	KASN904G0-I ディスクの割り当てが完了しました。	Control Manager 内部のデータベースの更新に失敗した場合

イベント ID	Control Manager のイベントメッセージ	発生条件
アラート ID	BSM のアラートメッセージ	
0x3705	サーバモジュールに LU が接続されました。	
0x00011805	KASN905G0-I ディスクの割り当てが解除されました。	Control Manager 内部のデータベースの更新に失敗した場合
0x3706	サーバモジュールに LU が接続解除されました。	
0x00011805	KASN90BG0-I OS が起動しました。	Control Manager 内部のデータベースの更新に失敗した場合、または BSM から取得できるインベントリ情報の取得に失敗した場合
0x3101	エージェントが起動しました。	
0x0001180C	KASN90CG0-I N+1 コールドスタンバイが発生しました。	イベント ID:0x0001180B が通知されない場合、かつ前回の OS 起動イベントから NIC の数が増えた場合
0x3701	N+1 コールドスタンバイ切り替えを開始しました。	
0x00011814	KASN914G0-I MAC アドレスが変更されました。	Control Manager 内部のデータベースの更新に失敗した場合または BSM から取得できるインベントリ情報の取得に失敗した場合
該当無し	該当無し	
0x00011815	KASN915G0-I パーティションが確定しました。	Control Manager 内部のデータベースの更新に失敗した場合
0x3715	パーティション情報が更新されました。	
0x00011816	KASN916G0-I パーティションが未確定になりました。	Control Manager 内部のデータベースの更新に失敗した場合
0x3715	パーティション情報が更新されました。	
0x00011823	KASN923G0-I N+1 コールドスタンバイ手動切替 ¹ に成功しました。	Control Manager 内部のデータベースの更新に失敗した場合または BSM から取得できるインベントリ情報の取得に失敗した場合
0x3707	N+1 コールドスタンバイの切り替えを実行しました。	
0x00011824	KASN924G0-E N+1 コールドスタンバイ手動切替 ¹ に失敗しました。	BSM から取得できるインベントリ情報の取得に失敗した場合
0x3709	N+1 コールドスタンバイの切り替えに失敗しました。 (N+1 グループ名, 現用ホスト名, 予備シャーシ ID) ... ²	

8. JP1/IM - CM と連携した管理対象サーバの情報管理

イベント ID	Control Manager のイベントメッセージ	発生条件
アラート ID	BSM のアラートメッセージ	
0x00011825	KASN925G0-I N+1 コールドスタンバイ現用復帰に成功しました。	Control Manager 内部のデータベースの更新に失敗した場合または BSM から取得できるインベントリ情報の取得に失敗した場合
0x370C	N+1 コールドスタンバイ中のサーバモジュールに対して復帰実行しました。 (N+1 グループ名, 現用ホスト名, 予備シャーシ ID) ...	
0x00011826	KASN926G0-E N+1 コールドスタンバイ現用復帰に失敗しました。	
0x370D	N+1 コールドスタンバイで実行中のサーバモジュールに対して復帰に失敗しました。 (N+1 グループ名, 現用ホスト名, 予備シャーシ ID (全て)) ... ²	BSM から取得できるインベントリ情報の取得に失敗した場合
0x00011827	KASN927G0-I N+1 コールドスタンバイ予備系サーバの現用化に成功しました。	
該当無し	該当無し	
0x00011828	KASN928G0-E N+1 コールドスタンバイ 予備系サーバの現用化に失敗しました。	BSM から取得できるインベントリ情報の取得に失敗した場合
0x3711	N+1 コールドスタンバイで実行中のサーバモジュールに対する解除が失敗しました。	

注 1

BSM の N+1 コールドスタンバイ自動切り替え機能を実行した場合も、「N+1 コールドスタンバイ手動切替」が実行されたことを知らせるイベントが通知されます。

注 2

BSM のアラートメッセージは、エラーの原因によって異なるメッセージが表示される場合があります。

9

DPM と連携したデプロイメント制御

Control Manager は DPM と連携し、Control Manager の管理対象サーバに対してデプロイメント制御ができます。この章では、DPM と連携して Control Manager の Web コンソールからデプロイメント制御をする方法について説明します。なお、Control Manager のコマンドを使用してデプロイメント制御することもできます。Control Manager のコマンドについては、「11. 運用コマンド」を参照してください。

-
- 9.1 DPM と Control Manager との連携の仕組み
 - 9.2 Control Manager から実行できる DPM シナリオの種類
 - 9.3 DPM と連携したデプロイメント制御を使用する前に
 - 9.4 Control Manager で DPM シナリオを実行するまでの流れ
 - 9.5 DPM シナリオの実行
 - 9.6 DPM 連携時のエラーコードと対処方法
-

9.1 DPM と Control Manager との連携の仕組み

DPM は、JP1/ServerConductor で構成した複数の管理対象サーバに対してデプロイメント制御ができるソフトウェアです。管理対象サーバに対して OS やソフトウェアをインストールしたり、サービスパックを適用したりできます。また、障害対策として、ハードディスクのディスクイメージをバックアップし、必要に応じてディスクイメージをリストアしたりもできます。

DPM では、上記のデプロイ操作の手順を「DPM シナリオ」と呼ばれるファイルに記述しておきます。DPM から DPM シナリオを実行するだけで、複雑なデプロイ操作を自動的に実行できます。

注

マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」では「シナリオ」と表記していますが、このマニュアルでは「DPM シナリオ」と呼びます。

ここでは、DPM と連携したデプロイメント制御の流れについて説明します。また、SAN ブート構成のシステムに対して DPM シナリオを実行する場合の制御の流れについて説明します。

注意事項

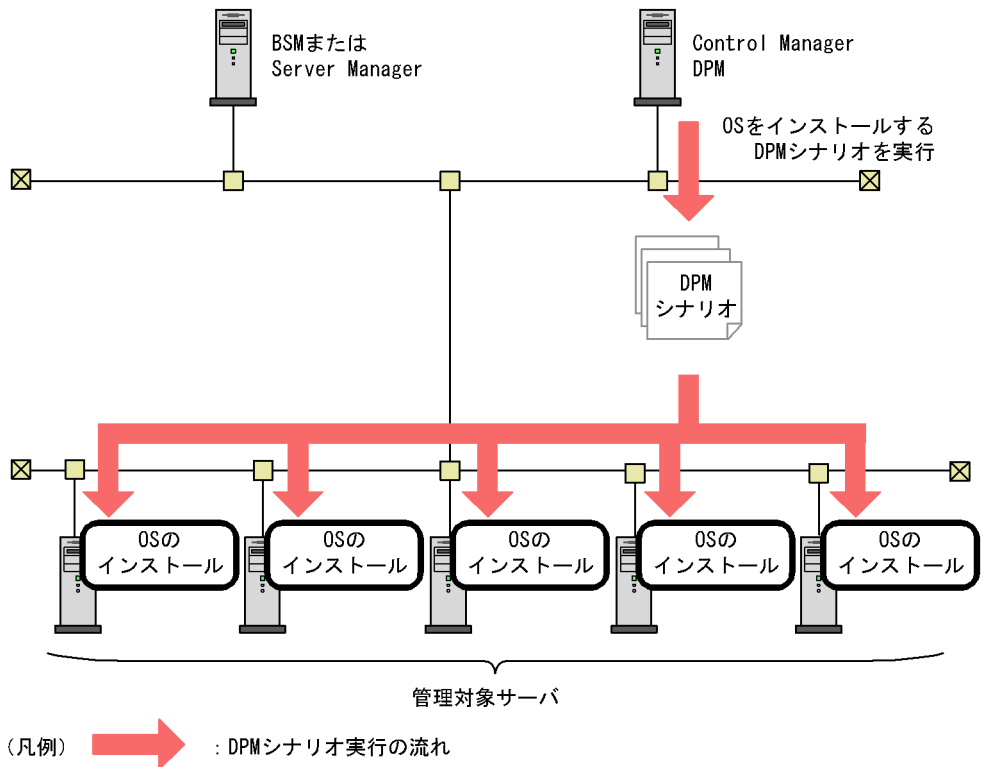
LPAR モードの物理パーティションに対してはデプロイメント制御ができません。

9.1.1 DPM と連携したデプロイメント制御

Control Manager が管理するシステムでは、DPM に登録されている DPM シナリオを Control Manager の Web コンソールから実行できます。

DPM と連携したデプロイメント制御の概念を次に示します。

図 9-1 DPM と連携したデプロイメント制御の概念図



9.1.2 SAN ブート構成のシステムに対する DPM シナリオの実行

SAN ブート構成のシステムでは、DPM シナリオのうち、OS のインストール、バックアップおよびリストアをする場合、管理対象サーバの LU 接続を、一つの LU (LDEV) にして、かつアクセスできるパスを一つ (1LU : 1 パス) にする必要があります。一つの LU (LDEV) にして、かつアクセスできるパスを一つにすることをディスク割り当ての一時解除、元の状態に戻すことをディスク割り当ての復帰と呼びます。

Control Manager では、コマンドを使用することで、ディスク割り当ての一時解除、およびディスク割り当ての復帰を実行できます。

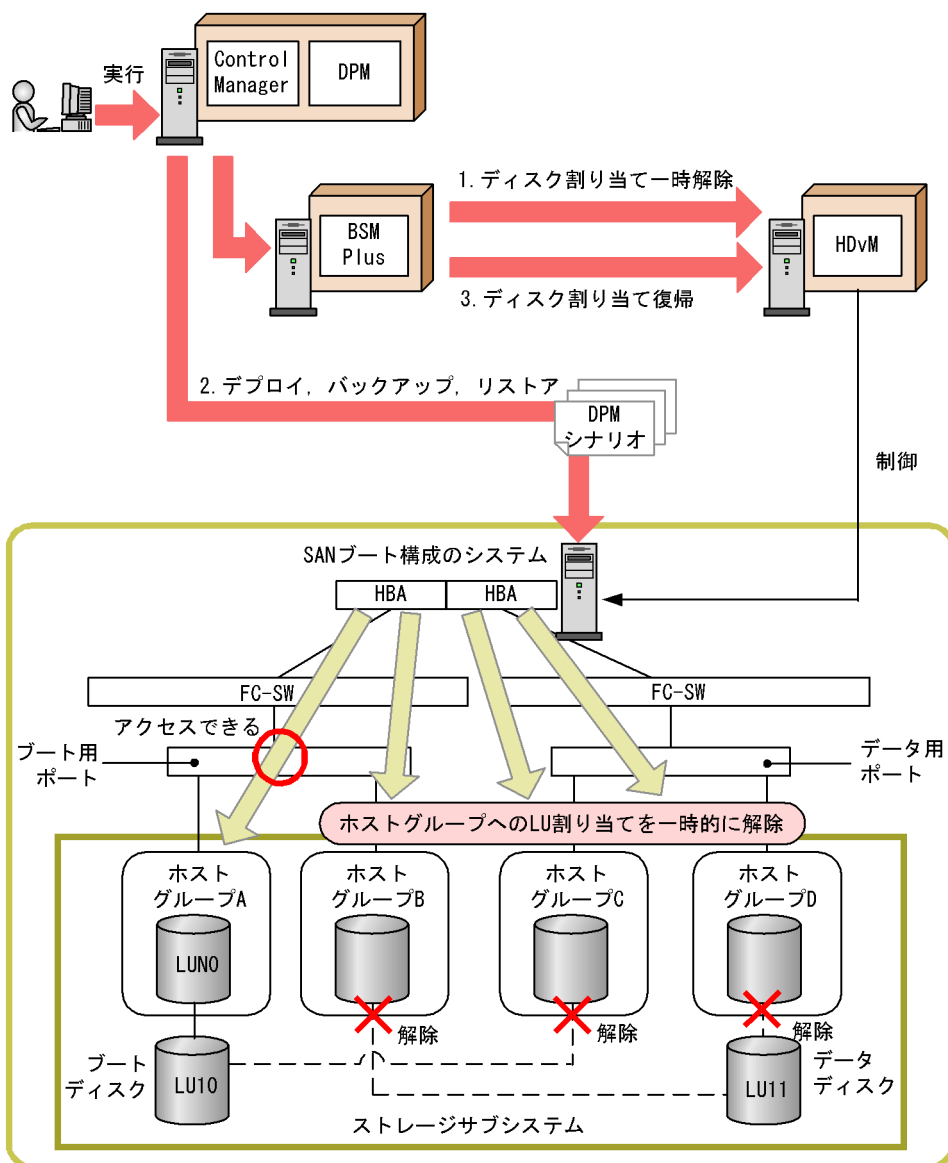
注意事項

ディスクパスの操作に対応したバージョンの DPM をお使いの場合は、DPM からディスクパスの操作を実施することを推奨します。ディスクパスの操作に対応した DPM をお使いの場合、Control Manager からディスクパスの操作を実施するためには DPM での設定が必要です。

DPM シナリオ実行の流れ、および DPM シナリオ実行時の処理の流れを次の図に示しま

す。

図 9-2 DPM シナリオの実行と実行時の処理の流れ (SAN ブート構成)



(凡例)

HBA : Host Bus Adapter



: 運用コマンド実行の流れ

FC-SW : ファイバチャネルスイッチ



: SAN ブート構成のシステムでの処理の流れ

ディスク割り当ての一時解除および復帰のコマンドを使用する場合の注意事項については、「11. 運用コマンド」の jscmdetachdisk および jscmattachdisk の説明を参照してください。

9.2 Control Manager から実行できる DPM シナリオの種類

Control Manager では、管理対象サーバに対して次の DPM シナリオを実行できます。

OS のクリアインストール

管理対象サーバに対して OS のインストールを実行できます。

サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルの適用

管理対象サーバに対してサービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルを適用できます。

インストール後のサーバとアプリケーションの設定

通常、OS をインストールしたあと、サーバやアプリケーションを設定します。その設定作業をスクリプトファイルにしておくと、スクリプトを実行するだけで自動的にサーバやアプリケーションを設定できます。Control Manager では、そのスクリプトファイルを実行できます。

バックアップ

管理対象サーバに対して障害復旧のためのバックアップを実行できます。

リストア

障害復旧、サーバのスケールアウト、スケールインなどに備えてバックアップしておいたディスクイメージをリストアできます。

ディスク複製による OS インストール

バックアップおよびリストアを利用して、OS を含めたソフトウェアのディスクイメージをバックアップし、必要に応じてリストアできます。多数のサーバに OS、ミドルウェア、アプリケーションなどをインストール・セットアップする作業を大幅に軽減できます。

9.3 DPM と連携したデプロイメント制御を使用する前に

DPM と連携したデプロイメント制御を使用する前に、次の内容を確認してください。

設定

- DPM と連携したデプロイメント制御を使用する場合、DPM のサーバ設定で「クライアントサービス for DPM を用いた運用を行う」のチェックボックスにチェックを入れる必要があります。
- 実行する DPM シナリオによっては、クライアントサービス for DPM を管理対象サーバにインストールする必要があります。クライアントサービス for DPM が必要となる DPM シナリオについては、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。
- デプロイメント機能を使用する場合、Deployment Manager Adaptor をインストールしておく必要があります。Deployment Manager Adaptor をインストールしていない場合、次の操作をしたときにエラーとなります。
 - 「シナリオ一覧」を選択した場合
 - シナリオ実行ウィザードでシナリオ種別を選択して [次へ] ボタンをクリックした場合

表示されるエラーメッセージを次に示します。

「DPM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。」

管理対象サーバ

同一の管理対象サーバを、複数の Deployment Manager で管理しないようにしてください。同一の管理対象サーバの情報を複数の Deployment Manager から取得するとエラーが発生します。

DPM シナリオ名

デプロイメント機能を使用する場合、DPM シナリオ名に全角文字または半角かなを含まないようにしてください。全角文字または半角かなを含むシナリオ名をすでに登録している場合は、同一の内容のシナリオを別途作成し、全角文字または半角かなを含むシナリオを削除してください。

次節では、DPM シナリオの処理を Control Manager で実行するまでの作業の流れについて説明します。

9.4 Control Manager で DPM シナリオを実行するまでの流れ

ここでは、前節で紹介した DPM シナリオを Control Manager で実行するまでの流れについて説明します。

9.4.1 OS のクリアインストールの流れ

OS のクリアインストールの流れについて説明します。

対象 OS

- Windows
- Linux

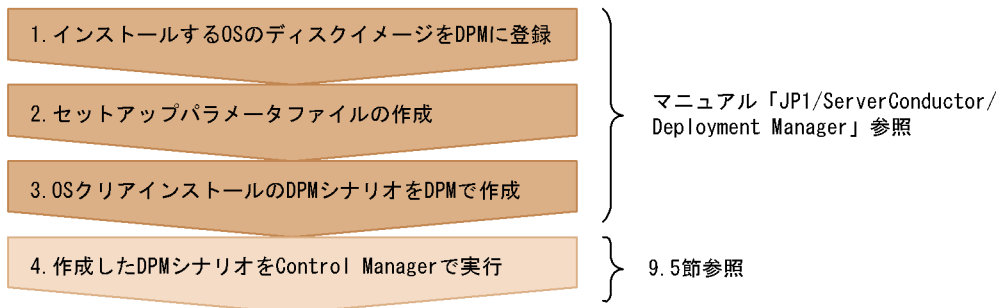
Windows および Linux のバージョンについては、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

なお、対象 OS が Windows の場合と Linux の場合で手順が異なりますので、分けて説明します。

(1) Windows の場合

Windows のクリアインストールは、次の図に示す流れで実行します。手順 1 ~ 3 の操作の詳細については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

図 9-3 OS クリアインストールの流れ (Windows の場合)



(凡例)

 : DPMでの作業  : Control Managerでの作業

1. クリアインストールする OS のディスクイメージを DPM に登録する
2. セットアップパラメータファイルを作成する

セットアップパラメータファイルとは、OS のセットアップ時にサーバごとに設定する項目（ホスト名など）を記述したファイルです。セットアップパラメータファイルを作成しておくことで、各サーバに OS をインストールするときに必要な設定項目が、自動的に設定されます。

3. OS クリアインストールの DPM シナリオを作成する

登録した OS のディスクイメージのインストールおよびセットアップパラメータファイルを管理対象サーバに配布する DPM シナリオを、作成します。

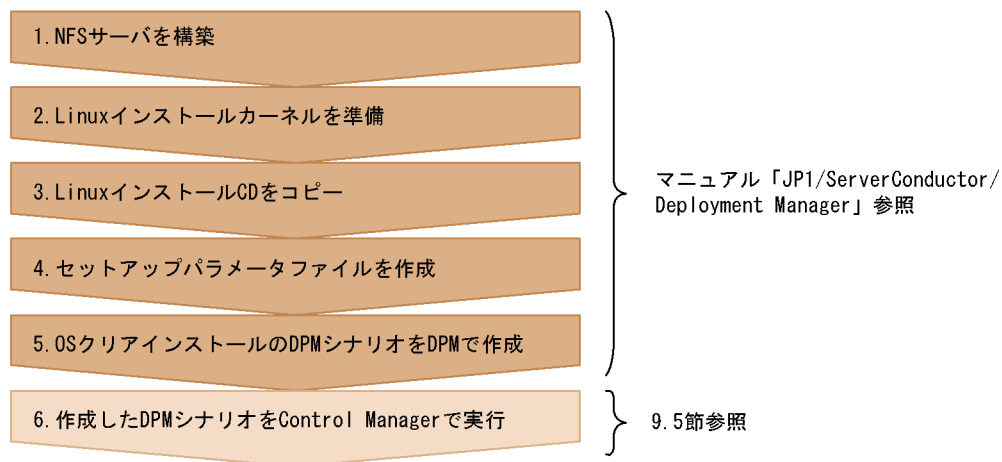
ここまでで、DPM での作業は完了です。

4. 作成した DPM シナリオを Control Manager で実行する

（2）Linux の場合

Linux のクリアインストールは、次の図に示す流れで実行します。手順 1 ～ 5 の操作の詳細については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

図 9-4 OS クリアインストールの流れ（Linux の場合）



（凡例）



1. NFS サーバを構築する

2. Linux インストールカーネルを準備する

3. Linux インストール CD をコピーする

4. セットアップパラメータファイルを作成する

セットアップパラメータファイルとは、OS のセットアップ時にサーバごとに設定す

る項目（ホスト名など）を記述したファイルです。セットアップパラメータファイルを作成しておくことで、各ホストに OS をインストールするときに必要な設定項目が、自動的に設定されます。

5. OS クリアインストールの DPM シナリオを作成する

登録した OS のディスクイメージのインストールおよびセットアップパラメータファイルを、管理対象サーバに配布する DPM シナリオを作成します。
ここまでで、DPM での作業は完了です。

6. 作成した DPM シナリオを Control Manager で実行する

9.4.2 サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルの適用の流れ

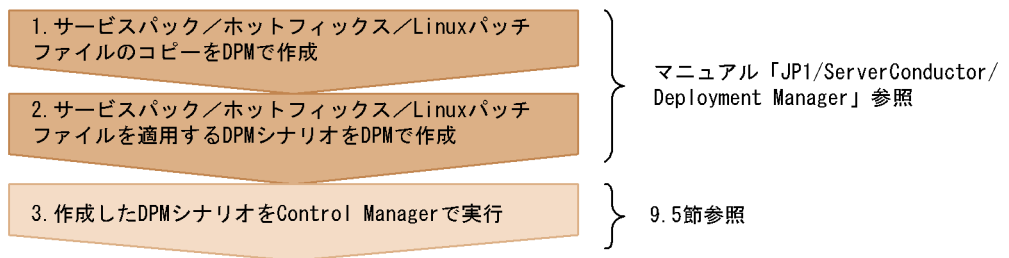
サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルは、次の図に示す流れで適用します。手順 1 ~ 2 の操作の詳細については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

対象 OS

- Windows
- Linux

Windows および Linux のバージョンについては、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

図 9-5 サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイル適用の流れ



（凡例）



1. サービスパック，ホットフィックス，または Linux パッチファイルのコピーを作成する
2. サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルを適用する DPM シナリオを作成する

登録したサービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルを管理対象サーバに適用する DPM シナリオを作成します。

ここまでで、DPM での作業は完了です。

3. 作成した DPM シナリオを Control Manager で実行する

9.4.3 インストール後のサーバとアプリケーション設定の流れ

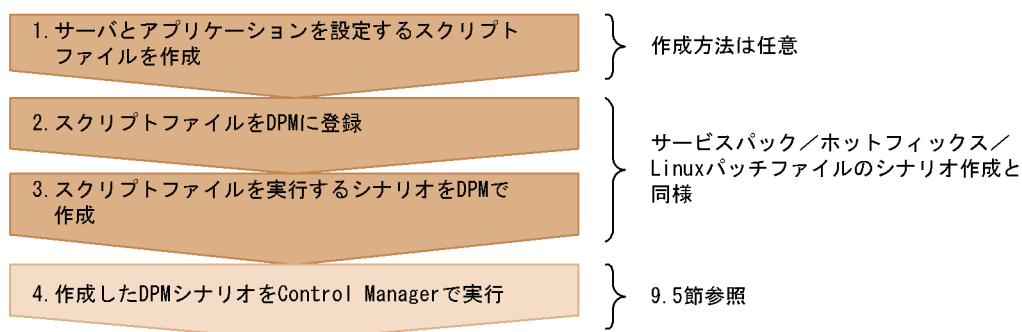
インストール後のサーバおよびアプリケーションの設定は、次の図に示す流れで実行します。

対象 OS

- Windows
- Linux

Windows および Linux のバージョンについては、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

図 9-6 サーバとアプリケーションの設定の流れ



(凡例)



1. サーバとアプリケーションを設定するスクリプトファイルを作成する
2. スクリプトファイルを DPM に登録する
スクリプトファイルは、サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルのコピーを作成するダイアログボックスで登録します。
3. スクリプトファイルを実行する DPM シナリオを作成する
登録したスクリプトファイルを管理対象サーバで実行させる DPM シナリオを作成します。

ここまでで、DPM での作業は完了です。

4. 作成した DPM シナリオを Control Manager で実行する

9.4.4 バックアップの流れ

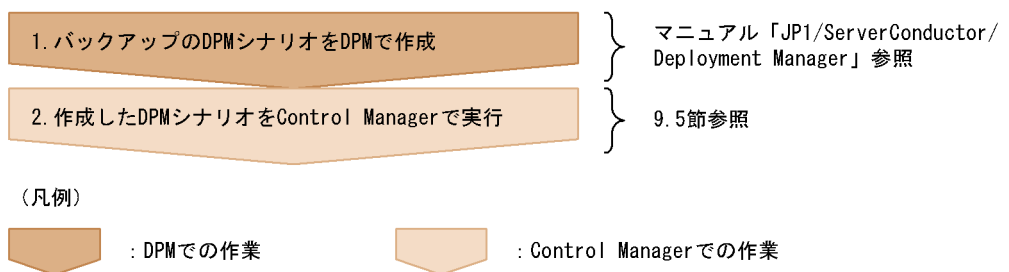
バックアップは次の図に示す流れで実行します。手順 1 の操作の詳細については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

対象 OS

- Windows
- Linux

Windows および Linux のバージョンについては、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

図 9-7 バックアップの流れ



1. バックアップの DPM シナリオを作成する

管理対象サーバのディスクイメージをバックアップする DPM シナリオを作成します。

ここまでで、DPM での作業は完了です。

2. 作成した DPM シナリオを Control Manager で実行する

9.4.5 リストアの流れ

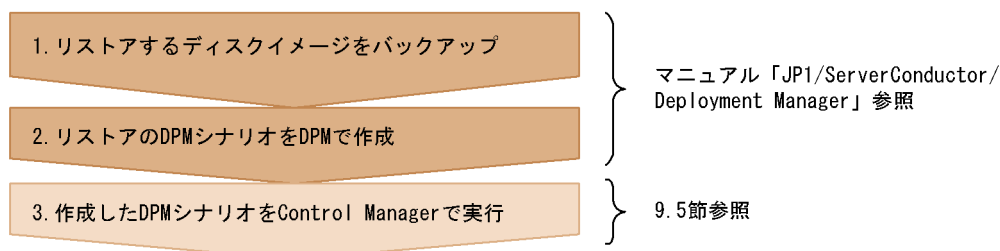
リストアは次の図に示す流れで実行します。手順 1 ~ 2 の操作の詳細については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

対象 OS

- Windows
- Linux

Windows および Linux のバージョンについては、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

図 9-8 リストアの流れ



(凡例)



1. リストアするディスクイメージをバックアップしておく
リストアするディスクイメージをあらかじめバックアップしておきます。
2. リストアの DPM シナリオを作成する
バックアップしておいたディスクイメージを管理対象サーバに配布する DPM シナリオを作成します。
ここまでで、DPM での作業は完了です。
3. 作成した DPM シナリオを Control Manager で実行する

注意事項

Control Manager からリストアを実行する場合、セットアップパラメータファイル、およびディスク複製用情報ファイルを必ず作成しておく必要があります。管理対象サーバが Windows Server 2008 の場合は、ディスク複製用情報ファイルのみ作成しておく必要があります。またバックアップ元のサーバとリストア先のサーバが異なる場合、バックアップ元、およびリストア先の各サーバについてセットアップパラメータファイル、およびディスク複製用情報ファイルを作成しておく必要があります。

9.4.6 ディスク複製による OS インストールの流れ

ディスク複製による OS インストールの流れを次に示します。

対象 OS

- Windows
- Linux

Windows および Linux のバージョンについては、マニユアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

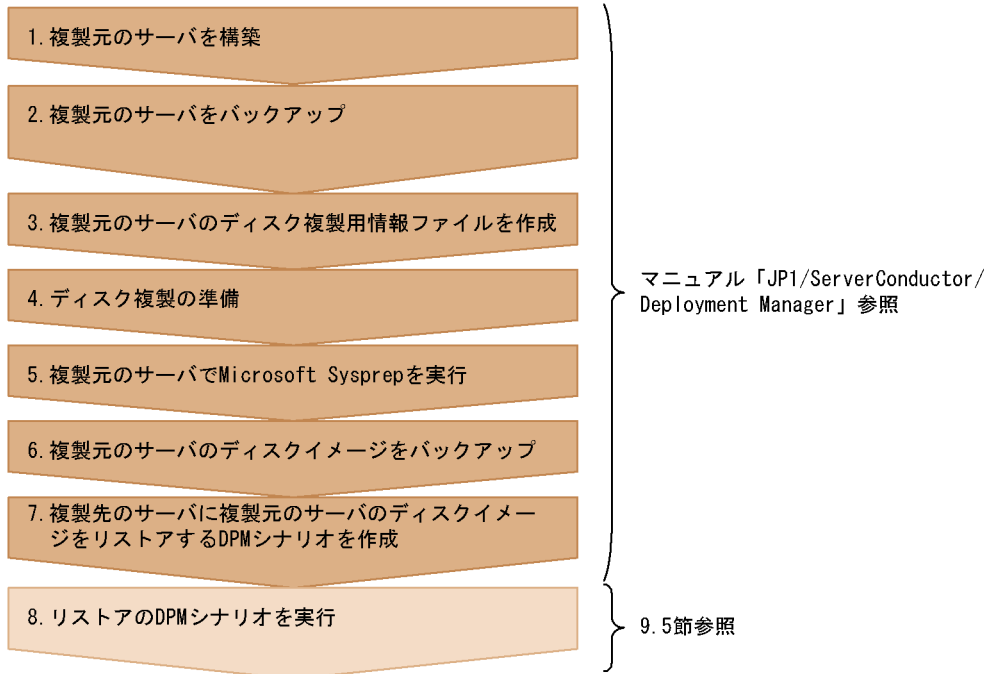
なお、対象 OS が Windows の場合と Linux の場合で手順が異なりますので、分けて説明

します。

(1) Windows の場合

Windows のディスク複製による OS インストールは、次の流れで実行します。手順 1 ~ 7 の操作の詳細については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

図 9-9 ディスク複製による OS インストールの流れ (Windows の場合)



(凡例)

 : DPMでの作業  : Control Managerでの作業

- 複製元のサーバに OS をインストール，サービスパック / ホットフィックスの適用，およびサーバとアプリケーションの設定をして，複製のモデルとなるサーバを完成させる
- バックアップの DPM シナリオを実行して，複製元のサーバのディスクイメージをバックアップする
このあとの手順 6 でも複製元サーバをバックアップしますが，ここでは手順 5 の Microsoft Sysprep の実行中にエラーが発生し，サーバの情報が削除されてしまった場合の復旧用としてバックアップしておきます。
- 複製元のサーバのディスク複製用情報ファイルを作成する
ディスク複製用情報ファイルとは，ホスト名，Administrator のパスワード，ドメイン

ンの情報などのセットアップ情報を保存したものです。複製元のサーバは、手順 5 で Microsoft Sysprep を実行すると、手順 6 で再セットアップされます。再セットアップを正常に実行させるために、ディスク複製用情報ファイルを作成しておきます。

4. ディスク複製の準備をする

複製元のサーバで DPM の CD-ROM を起動し、ディスクイメージの複製に必要なモジュールをダウンロードしたり、複製元のサーバにインストールされている OS の Microsoft Sysprep をダウンロードしたりします。

5. ダウンロードしておいた Microsoft Sysprep を複製元のサーバで実行する

複製元のサーバは、Microsoft Sysprep を実行したあとシャットダウンします。

6. バックアップの DPM シナリオを実行して、複製元のサーバのディスクイメージをバックアップする

バックアップ終了後、自動的にサーバが再起動し、複製元のサーバの再セットアップが開始されます。

7. リストアの DPM シナリオを作成する

複製先のサーバのセットアップパラメータファイル、ディスク複製用情報ファイル、およびリストアの DPM シナリオを作成します。

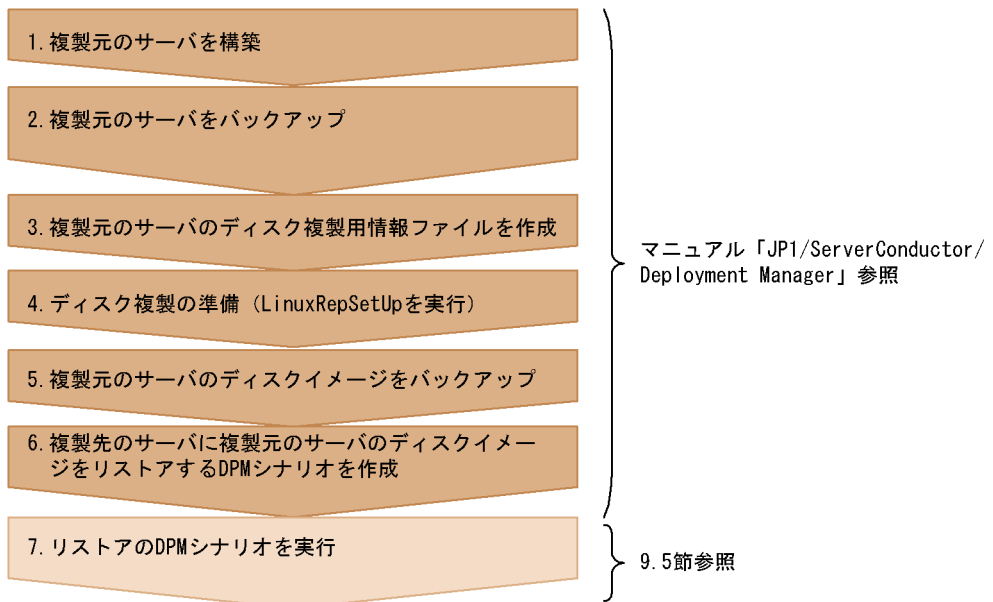
ここまでで、DPM での作業は完了です。

8. 作成したリストアの DPM シナリオを Control Manager で実行する

(2) Linux の場合

Linux のディスク複製による OS インストールは、次の流れで実行します。手順 1 ~ 6 の操作の詳細については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

図 9-10 ディスク複製による OS インストールの流れ (Linux の場合)



(凡例)

□ : DPMでの作業 □ : Control Managerでの作業

- 複製元のサーバを構築する
複製元のサーバに OS をインストールし、各種ドライバのインストールや RPM のアップデートを実行して、複製のモデルとなるサーバを完成させます。
- バックアップの DPM シナリオを実行して、複製元のサーバのディスクイメージをバックアップする
ここでは、手順 5 で複製元のサーバを再セットアップする際に必要となるディスクイメージをバックアップしておきます。
- 複製元のサーバのディスク複製用情報ファイルを作成する
ディスク複製用情報ファイルとは、ホスト名、ドメインの情報などのセットアップ情報を保存したものです。複製元のサーバは、手順 5 で再起動すると個別設定情報の適用ツールが実行されます。個別設定情報の適用ツールを正常に実行させるために、ディスク複製用情報ファイルを作成しておきます。
- ディスク複製の準備をする
複製元サーバで、DPM が提供している LinuxRepSetUp を実行します。
- バックアップの DPM シナリオを実行して、複製元のサーバのディスクイメージをバックアップする
バックアップ終了後、自動的にサーバが再起動し、個別設定情報の適用ツールが実行されます。手順 3 で作成したディスク複製用情報ファイルを基に、個別設定情報を設

定してください。

6. リストアの DPM シナリオを作成する

複製先のサーバのセットアップパラメータファイル，ディスク複製用情報ファイル，およびリストアの DPM シナリオを作成します。

ここまでで，DPM での作業は完了です。

7. 作成したリストアの DPM シナリオを Control Manager で実行する

注意事項

- ディスク複製による OS インストールを Control Manager から実行すると，複製先のサーバのディスク複製用情報ファイルが Control Manager で設定した情報に上書きされます。ディスク複製による OS インストールの DPM シナリオを，Control Manager および DPM の両方で実行する環境で，DPM からディスク複製によるリストアを実行するときには，ディスク複製用情報ファイルの内容を確認してから実行するようにしてください。
- Control Manager からディスク複製による OS インストールを実行する場合，セットアップパラメータファイル，およびディスク複製用情報ファイルを必ず作成しておく必要があります。またバックアップ元のサーバとリストア先のサーバが異なる場合，バックアップ元，およびリストア先の各サーバについてセットアップパラメータファイル，およびディスク複製用情報ファイルを作成しておく必要があります。

9.5 DPM シナリオの実行

ここでは、DPM に登録した DPM シナリオを Control Manager で実行する手順および注意事項について説明します。

9.5.1 DPM シナリオ実行の手順

ここでは、DPM に登録した DPM シナリオを Control Manager で実行する手順について説明します。

注意事項

DPM シナリオを Control Manager で実行する場合、DPM の Web コンソールで、管理サーバのアクセスモードを更新モードにしないでください。アクセスモードを更新モードにしている場合、Control Manager で DPM シナリオを操作したり実行したりするとエラーになることがあります。

1. メインウィンドウで、DPM シナリオをデプロイするサーバを選択する
メインウィンドウの右側に選択したサーバのホスト名、MAC アドレス、および IP アドレスが表示されます。
2. メインウィンドウの右側の画面にある [シナリオ実行] をクリックする
[シナリオ実行ウィザード - Step1 of 4] ダイアログボックスが表示されます。

9. DPM と連携したデプロイメント制御

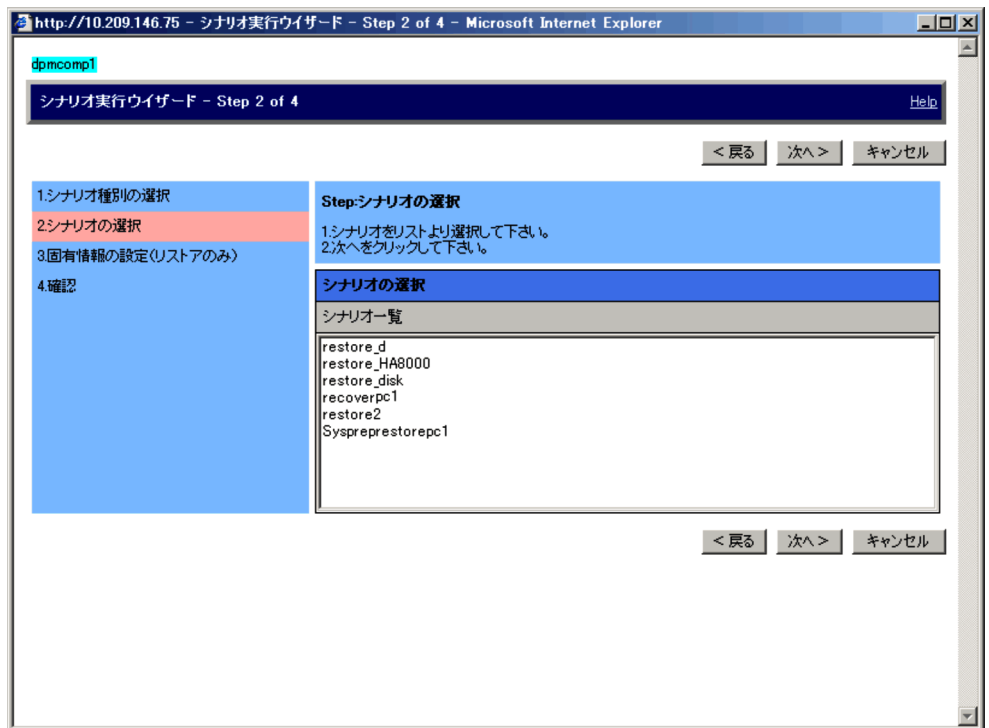


実行する DPM シナリオによって、次のシナリオ種別を選択します。

シナリオ種別	DPM シナリオを実行する目的
OS のクリーンインストール	OS のクリーンインストール
OS パッチ	サービスパック / ホットフィックスの適用
	インストール後のサーバとアプリケーションの設定
バックアップ	バックアップ
リストア	リストア
	ディスク複製による OS インストール

3. DPM シナリオの種別を選択して [次へ] ボタンをクリックする

[シナリオ実行ウィザード - Step2 of 4] ダイアログボックスが表示されます。



注意事項

DPM シナリオの種別を選択して [次へ] ボタンをクリックしてから、DPM シナリオの一覧が表示されるまで時間が掛かることがあります。例えば、DPM の管理対象サーバが 10 台、DPM シナリオが 10 個登録してある環境では 1 分程度の時間が掛かります (Intel Xeon 3.2GHz の CPU で実行した場合)。

4. 目的の DPM シナリオを選択して [次へ] ボタンをクリックする

DPM シナリオの種別でリストアを選択した場合、[シナリオ実行ウィザード - Step3 of 4] ダイアログボックスが表示されます。

リストア以外を選択した場合は、[シナリオ実行ウィザード - Step4 of 4] ダイアログボックスが表示されます。手順 6 に進んでください。

5. [シナリオ実行ウィザード - Step3 of 4] ダイアログボックスで、次の入力規則に従ってリストア先のサーバ情報を入力する

ホスト名（必須）

1 ～ 32 文字の半角英数字および「-」で入力してください。

パスワード（必須）

6 ～ 32 文字で、半角英数字および「-」で入力してください。

MAC アドレス（必須）

xx:xx:xx:xx:xx:xx の形式で入力してください。

IP アドレス（必須）・サブネットマスク（必須）・デフォルトゲートウェイ（必須）

xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力してください。

[シナリオ実行ウィザード - Step3 of 4] ダイアログボックスに入力する場合は、次の点に注意してください。

- MAC アドレス、IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイは最大四つ指定できます。複数指定する場合は「,」（コンマ）で区切ってください。
- IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイは、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力してください。xxx は、0 ～ 255 の整数が指定できます。なお、「010」のように 0 から始まる場合は、「10」のように最初の 0 を省略し

てください。ただし,0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。さらにサブネットマスクの場合は,連続したビット列である必要があります。

- デフォルトゲートウェイについては設定しないことができます。設定しない場合は,デフォルトゲートウェイに "-" (ハイフン) を指定してください。
- リストア先のサーバのネットワーク情報 (MAC アドレス, IP アドレス, サブネットマスク, およびデフォルトゲートウェイ) を指定する場合, DPM に登録されている MAC アドレスを必ず指定してください。

6. [次へ] ボタンをクリックする

[シナリオ実行ウィザード - Step4 of 4] ダイアログボックスが表示されます。

確認内容	
サーバ名	dpmcomp1
シナリオ種別	リストア
シナリオ名	Sysprestorepc1
固有情報	
ホスト名	server01
パスワード	password
MACアドレス	00:00:e2:39:d6:e3
IPアドレス	10.209.146.90
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	10.209.146.1

7. [シナリオ実行ウィザード - Step4 of 4] ダイアログボックスで, 指定したサーバ名, DPM シナリオ種別, および DPM シナリオ名を確認し, [完了] ボタンをクリックする

DPM シナリオが実行され, メインウィンドウのサーバ情報にシナリオの実行状況が表示されます。実行状況は次のように表示されます。

- DPM シナリオ実行中に表示されるメッセージ
DPM シナリオ: 「"DPM シナリオ名"」 実行中。(進捗状況 %)
注 進捗状況は 0 ~ 99 の整数で表されます。
- DPM シナリオが正常終了した場合に表示されるメッセージ

DPM シナリオ : 「"DPM シナリオ名"」は正常終了しました。

- DPM シナリオが異常終了した場合に表示されるメッセージ

DPM シナリオ : 「"DPM シナリオ名"」は異常終了しました。

または

DPM シナリオ : 「"DPM シナリオ名"」は異常終了しました。(エラーコード :
nnnnn)

注 エラーコードについては、「9.6 DPM 連携時のエラーコードと対処方法」
を参照してください。

- DPM シナリオがタイムアウトした場合に表示されるメッセージ

DPM シナリオ : 「"DPM シナリオ名"」はタイムアウトしました。

異常終了した場合の対処方法については Control Manager の Web コンソールに表示
されますが、詳細については DPM の Web コンソールで確認してください。DPM の
Web コンソールで対処方法を確認する方法は、マニュアル「JP1/ServerConductor/
Deployment Manager」を参照してください。

注意事項

- DPM シナリオの実行状況は、実際の状況と一致しない場合があります。Control Manager で表示される実行状況は目安として使用してください。
- Control Manager から実行した DPM シナリオを DPM の Web コンソールから中断しないようにしてください。中断した場合、DPM および Deployment Manager Adaptor のサービスを再起動するまでの間、DPM シナリオの実行を中断した管理対象サーバに対して Control Manager から DPM シナリオが実行できなくなります。
- OS のクリアインストール、またはディスク複製による OS インストールを使用してネットワークを設定する場合、IP アドレス、サブネットマスクおよびデフォルトゲートウェイを正しく設定しないと、指定したネットワーク設定が反映されないことがあります。また、DPM との通信ができないようなネットワークに設定すると Control Manager に DPM シナリオの実行完了が通知されないで、タイムアウトすることがあります。

9.5.2 DPM シナリオ実行時の注意事項

ここでは、DPM に登録した DPM シナリオを Control Manager で実行する場合の注意事項について説明します。

DPM シナリオ実行の異常終了

DPM シナリオの実行が異常終了した場合、エラーコードに対応した対処をしてください。エラーコードについては、「9.6 DPM 連携時のエラーコードと対処方法」を参照してください。

DPM シナリオ

- DPM シナリオの実行は、種類によって実行時間が掛かることがあります。
- DPM シナリオは、LPAR モードの物理パーティションに対して実行できません。このため、Web コンソールから LPAR モードの物理パーティションを選択した場合は、詳細メニューに [シナリオ実行] アンカーおよび [シナリオ一覧] アンカーが表示されません。

電源

OS がインストールされていないか、または電源が OFF の状態のサーバモジュールに対して DPM シナリオを実行する場合、対象のサーバを WOL で起動できない時は、DPM シナリオを実行したときにサーバモジュールの電源を手動で ON にする必要があります。

シナリオテンプレートを使用するなど、手動での電源操作ができない場合は、次の状態で実行してください。

- OS およびクライアントサービス for DPM をインストールしておく。
- DPM シナリオを実行する管理対象サーバを起動しておく。
- DPM シナリオのオプションで「実行前に再起動の強制実行を行う」にチェックを入れる。

コマンド

jscmdeploy (deploy) コマンド、jscmbbackup (backup) コマンドおよび jscmrestore (restore) コマンドは、ほかのコマンドと同時に実行しないでください。

Web コンソール

- Web コンソールからのシナリオ実行、シナリオ一覧取得、jscmdeploy コマンド、jscmbbackup (backup) コマンド、jscmrestore (restore) コマンド、および jscmgetproperty コマンドは、各操作を実行中に同時に実行しないでください。
- jscmbbackup (backup) コマンド、jscmdeploy (deploy) コマンド、および jscmrestore (restore) コマンドで実行された DPM シナリオの進捗状況は Web コンソールに反映されません。

JP1 イベント

DPM シナリオの作成時にハードウェアの設定、オペレーティングシステム、アップデートおよびバックアップ/リストアを設定すると、DPM シナリオを実行するごとに、複数の JP1 イベントが通知されます。

次に DPM シナリオの実行に成功した場合に通知される JP1 イベントのメッセージ、および失敗した場合に通知される JP1 イベントのメッセージを示します。

DPM シナリオの実行に成功した場合に通知される JP1 イベントのメッセージ

- KASN906G0-I リストアが完了しました。
- KASN907G0-I サービスパック適用が完了しました。

9. DPM と連携したデプロイメント制御

- KASN91DG0-I バックアップが完了しました。
- KASN91EG0-I ハードウェア設定が完了しました。
- KASN91FG0-I OS インストールが完了しました。

DPM シナリオの実行に失敗した場合に通知される JP1 イベントのメッセージ

- KASN918G0-E リストアが失敗しました。
- KASN919G0-E サービスパック適用が失敗しました。
- KASN920G0-E バックアップが失敗しました。
- KASN921G0-E ハードウェア設定が失敗しました。
- KASN922G0-E OS インストールが失敗しました。

反映時間

DPM と連携したデプロイメント制御では、DPM で操作した内容が Control Manager に反映されるまでに最大 1 分間待つ必要があります。

実行時間を要する DPM シナリオ

OS のクリアインストールなど時間を要する DPM シナリオを実行する場合は、必要に応じて、Control Manager のタイマ値を変更してください。タイマ値を変更する場合は、次のディレクトリに格納してある cmdpm.properties ファイルを変更してください。

< CM パス > %conf%\cmdpm.properties

Control Manager のタイマ値の設定内容を次に示します。

表 9-1 Control Manager のタイマ値の設定

設定内容	意味	設定範囲 < デフォルト値 > (分)
cm.dpm.keeptime	Web コンソールで DPM シナリオの実行完了状態 (正常終了 / 異常終了 / タイムアウト) を保存しておく時間です。	0 ~ 720[分] < 60 >
cm.dpm.timeout	DPM シナリオの実行を監視する時間です (DPM シナリオのタイムアウト時間)。	30 ~ 1440[分] < 120 >

設定範囲外の値を設定した場合は、デフォルト値が有効となります。

DPM シナリオが表示される順番

DPM シナリオの表示順は DPM 管理サーバがインストールされているディスクのファイルシステムによって異なります。

- 管理サーバが NTFS 上にインストールされた場合
アルファベット順 (辞書順)
- 管理サーバが FAT 上にインストールされた場合
FAT でのエントリ順

9.6 DPM 連携時のエラーコードと対処方法

DPM 連携時に出力されるエラーコードと対処方法を次の表に示します。

表 9-2 DPM 連携時のエラーコードと対処方法

コード	説明	対処方法
21001	オペレーションが未サポートである。	保守員に連絡してください。
21002	オペレーションの引数が不正である。	保守員に連絡してください。
21003	ほかのオペレーションが実行中のため、実行できない。	直前に実行した操作の完了を待ってから、再度実行してください。
21006	DPM のパスワード変更処理が失敗した。	保守員に連絡してください。
21007	すでにシナリオ適用中のため、シナリオ適用処理が失敗した。	シナリオが完了するまで待ってから、再度実行してください。
22031	入力されたパラメーターが不正。	保守員に連絡してください。
22032	初期化に失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
22033	動的メモリの取得に失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> 不要なアプリケーションを終了させてください。 メモリー容量を増やしてください。
24034	内部エラー。	保守員に連絡してください。
24001	入力されたパラメーターが不正。	保守員に連絡してください。
24002	動的メモリの取得に失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> 不要なアプリケーションを終了させてから、再度実行してください。 メモリー容量を増やし、再度実行してください。
24003	ファイルのアクセスに失敗した。	保守員に連絡してください。
24004	内部エラー、WindowsAPI でのエラー、動作環境の不正。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 保守員に連絡してください。
24005	管理サーバでエラーが発生している。	<ul style="list-style-type: none"> DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態を確認してください。 保守員に連絡してください。
24006	タイムアウトエラー。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。

9. DPM と連携したデプロイメント制御

コード	説明	対処方法
24007	WEB サーバが見つからない。	<ul style="list-style-type: none"> • Web サーバ for DPM の起動状態を確認してください。 • ネットワークが正常か確認してください。
24008	WEB サーバはすでに登録されている。	保守員に連絡してください。
24009	WEB サーバは登録されていない。	保守員に連絡してください。
24010	管理サーバが見つからない。	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 • DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24011	管理サーバの一覧が取れない。	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 • DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24012	管理サーバの情報が取れない。	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 • DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24013	ターゲットマシンが見つからない。	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 • DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24014	ターゲットの一覧が取得できない。	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 • DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24015	ターゲットの情報が取得できない。	<ul style="list-style-type: none"> • 時間を空けてから再度実行してください。 • ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 • DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24016	シナリオが見つからない。	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 • DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24017	シナリオの割り当てができない。	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 • DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。

コード	説明	対処方法
24018	シナリオの実行に失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24019	シナリオ実行状況の取得に失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24020	シナリオの中断に失敗した。	保守員に連絡してください。
24021	パラメーターファイルが見つからない。	セットアップパラメータファイル、およびディスク複製用情報ファイルを確認してください。
24022	パラメーターファイルの作成に失敗した。	セットアップパラメータファイル、およびディスク複製用情報ファイルを確認してください。
24023	管理サーバの更新権の取得に失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> DPM の Web コンソールが更新モードの場合は参照モードに変更してください。 ネットワークが正常か確認してください。 DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24024	ターゲットマシンとシナリオ名の管理サーバが不一致。	保守員に連絡してください。
24025	ターゲットマシン電源 ON に失敗した。	保守員に連絡してください。
24026	ターゲットシャットダウンに失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> ほかのオペレーションが実行中でないか確認してください。 保守員に連絡してください。
24027	ターゲットの再起動に失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> ほかのオペレーションが実行中でないか確認してください。 保守員に連絡してください。
24028	シナリオ実行完了が通知できない(シナリオ実行中に、DPM からの応答がない場合、および DPM プロバイダ自身のプロセスが異常終了する場合)。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークが正常か確認し、再度実行してください。 DPM, Deployment Manager Adaptor の設定、サービスの起動状態などを確認してください。
24029	削除 / 参照時に指定したレジストリが見つからない。	保守員に連絡してください。
24030	参照したレジストリの値が不正。	保守員に連絡してください。
24034	内部エラー。	保守員に連絡してください。
24035	暗号化 / 復号化に失敗した。	保守員に連絡してください。

9. DPM と連携したデプロイメント制御

コード	説明	対処方法
22036	シナリオの実行が中断された。	<ul style="list-style-type: none">• DPM でシナリオを中断していないか確認してください。• 保守員に連絡してください。

10 JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携したシステムの自動運用

Control Manager は、JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携することで、複雑なミドルウェアの環境構築や障害復旧などの運用作業を自動化することができます。この章では、JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携してシステムの自動運用を行う方法、および運用事例について説明します。

-
- 10.1 JP1/AJS2 - Scenario Operation とは
 - 10.2 JP1/AJS2 - Scenario Operation と Control Manager との連携の仕組み
 - 10.3 Control Manager が提供するシナリオテンプレート
 - 10.4 シナリオテンプレート定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込む
 - 10.5 シナリオテンプレートを利用したシナリオ実行までの流れ
-

10.1 JP1/AJS2 - Scenario Operation とは

JP1/AJS2 - Scenario Operation は、システム設計者が行っているシステム運用の手順を「シナリオ」と呼ばれるファイルに記述し、そのシナリオを実行することでシステム運用を自動化できるソフトウェアです。シナリオとは、システム運用の手順を定義したファイルです。例えば、OS インストールのコマンドを実行する手順、およびコマンドを「どのサーバに実行するか」といった変動する運用環境（以降、シナリオ変数と呼びます）を定義しています。このシナリオを JP1/AJS2 - Manager に登録し、実行することによって、システム運用を自動化できます。

さらに、シナリオテンプレートと呼ばれるシナリオの部品を作成しておけば、シナリオを作成する時間を軽減できます。シナリオテンプレートには、システム運用で利用するコマンドを実行する手順がすでに定義されています。シナリオテンプレートを作成しておけば、あとはシナリオ変数を定義するだけでシナリオを作成できます。

次節では、JP1/AJS2 - Scenario Operation と Control Manager との連携の仕組みを説明します。

10.2 JP1/AJS2 - Scenario Operation と Control Manager との連携の仕組み

Control Manager は JP1/AJS2 - Scenario Operation に、管理対象サーバの情報を収集したり、管理対象サーバに OS やサービスパックをデプロイしたりできるシナリオテンプレートを提供しています。これによって、JP1/AJS2 - Scenario Operation 側では、シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義するだけでシナリオを実行できます。

なお、Control Manager の管理対象サーバに OS のインストール、バックアップ、リストアを実行するシナリオ、および情報収集を実行するシナリオでホットフィックスの情報を収集する場合は、DPM が必要です。DPM と連携し、OS のインストール、バックアップ、リストアを実行するために必要な設定については、「9. DPM と連携したデプロイメント制御」を参照してください。

デプロイ、バックアップ、およびリストア以外のシナリオを実行する場合は、DPM シナリオの作成および登録は必要ありません。Control Manager から実行できるシナリオの種類については、「10.3 Control Manager が提供するシナリオテンプレート」を参照してください。

さらに、Control Manager が提供するシナリオテンプレート、および Cosminexus が提供するシナリオテンプレートを組み合わせると、JP1/AJS2 - Scenario Operation で次のシナリオを作成でき、複雑なミドルウェアの環境構築や障害復旧作業を大幅に軽減できます。

- アプリケーションサーバのスケールアウト、スケールイン
- アプリケーションサーバのローリングアップデート
- バックアップ用ディスクイメージからの障害復旧

アプリケーションサーバのスケールアウト、スケールイン

スケールアウトとは、システム内で同じ処理を実行するアプリケーションサーバの数を増やして、システムとしての処理性能を上げることです。スケールインとは、処理要件の変更などに応じてシステム内で同じ処理を実行しているアプリケーションサーバの数を減らして、規模を縮小することです。

これらのシナリオを実行することで、システムの処理内容や処理量の変化に柔軟に対応できるシステムを構築、運用できます。

アプリケーションサーバのローリングアップデート

ローリングアップデートとは、動作中のアプリケーションサーバに対してサービスパックやホットフィックスを適用してアップデートするときに、同じ処理を実行しているアプリケーションサーバを順番に停止してアップデートしていくことです。このシナリオを実行することで、アプリケーションサーバがクライアントに提供しているサービスを停止しないで、サービスパックやホットフィックスを適用できるようになります。

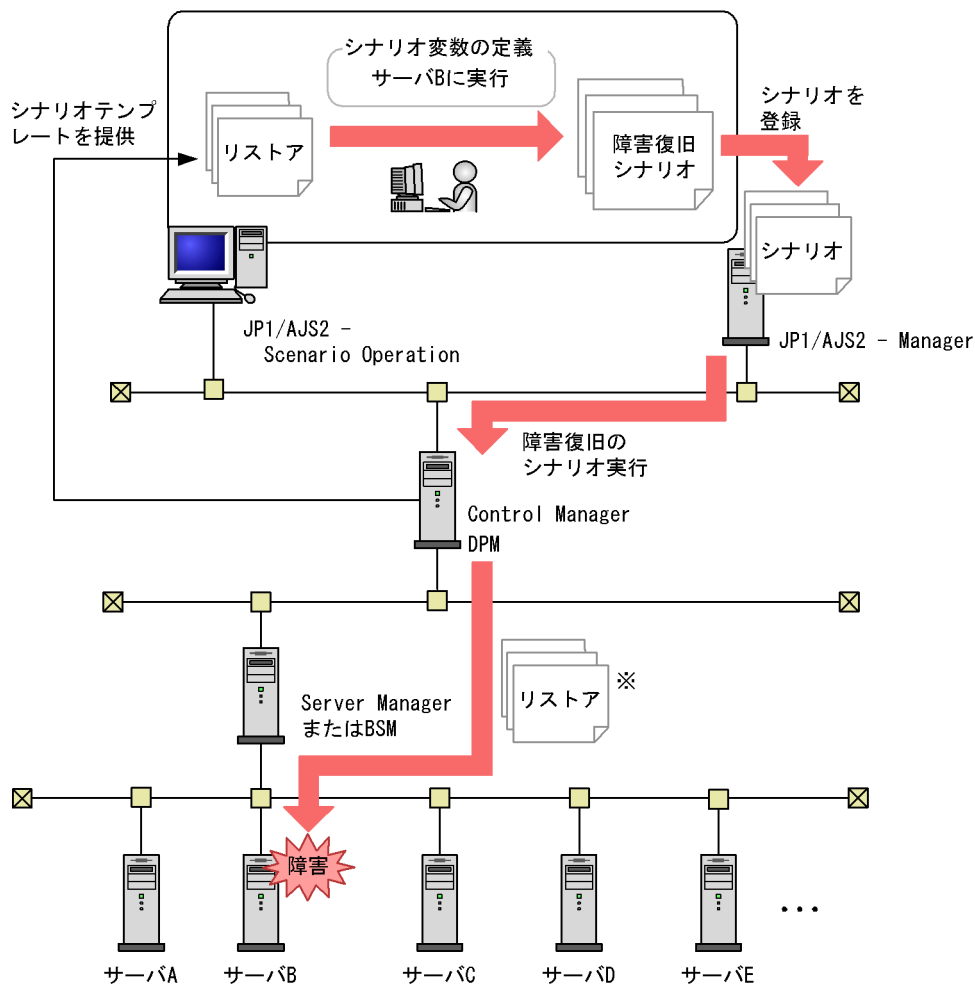
バックアップ用ディスクイメージからの障害復旧


サーバに障害が発生した場合に、あらかじめ用意しておいたバックアップ用のディスクイメージからリストアします。

このシナリオを実行することで、障害復旧に掛かる時間を短縮できます。

シナリオテンプレートを利用してシナリオを作成し、実行するまでのデータの流れは次の図のようになります。

図 10-1 JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携したシナリオ実行の流れ



(凡例)  : シナリオ実行の流れ

注※

デプロイ、バックアップ、またはリストアのシナリオを実行する場合は、DPMに登録されたDPMシナリオを指定します。

デプロイ、バックアップ、またはリストア以外のシナリオを実行する場合は、DPMにDPMシナリオを登録しておく必要ありません。

注意事項

シナリオテンプレートを利用する場合には、次に示すシナリオテンプレート定義ファイルを、JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込む必要があります。なお、シナリオテンプレート定義ファイルの説明については、シナリオテンプレート定義ファイルと同一フォルダにある「Readme.txt」を参照してください。

<シナリオテンプレート定義ファイル>

<CMパス>¥ScenarioTemplate¥JP1SCControlManager.sjis.xml

10.3 Control Manager が提供するシナリオテンプレート

Control Manager は、JP1/AJS2 - Scenario Operation に次の表に示すシナリオテンプレートを提供しています。このシナリオテンプレートからシナリオを作成することで、Control Manager が管理するサーバの情報を収集したり、管理対象サーバをデプロイしたりできます。

なお Control Manager では MAC アドレス指定または IP アドレスでサーバを指定するシナリオテンプレートと、IP アドレスでサーバシャーシを指定するシナリオテンプレートを提供しています。

表 10-1 Control Manager が提供するシナリオテンプレート一覧

項番	シナリオテンプレート	コマンドとの対応	シナリオテンプレートの内容
1	stateF	jscmstate (state)	Control Manager が管理するサーバの動的情報（管理対象サーバの筐体、電源、CPU およびメモリのその時点での状態を示す情報） ¹ をファイルに出力します。
2	getpropertyF	jscmgetproperty (getproperty)	Control Manager が管理するサーバの CPU 情報、メモリ情報、総ディスク容量、OS 種別、パーティションタイプ、サーバ構成情報、および設置情報をファイルに出力します。また条件に合うサーバの絞り込み結果をファイルに出力します。
3	start_server	jscmstartserver (start_server)	Control Manager が管理するサーバを起動します。
4	stop_server	jscmstopserver (stop_server)	Control Manager が管理するサーバの電源を強制的に停止します。
5	stop_os	jscmstopos (stop_os)	Control Manager が管理するサーバの OS を停止します。 ²
6	deploy	jscmdeploy (deploy)	Control Manager が管理するサーバに、OS のクリアインストール、サービスバック/ホットフィックスの適用、および OS インストール後のサーバとアプリケーションの設定を実行します。 deploy は DPM と連携して実行します。DPM と連携するためには、あらかじめ DPM シナリオを DPM に登録しておく必要があります。詳細は、「10.5.2 デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ」を参照してください。

項番	シナリオテンプレート	コマンドとの対応	シナリオテンプレートの内容
7	backup	jscmbackup (backup)	Control Manager が管理するサーバのディスクイメージをバックアップします。 backup は DPM と連携して実行します。DPM と連携するためには、あらかじめ DPM シナリオを DPM に登録しておく必要があります。詳細は、「10.5.3 バックアップを実行する場合のシナリオ実行までの流れ」を参照してください。
8	restore	jscmrestore (restore)	Control Manager が管理するサーバに対して、あらかじめバックアップしておいたディスクイメージをリストアします。 restore は DPM と連携して実行します。DPM と連携するためには、あらかじめ DPM シナリオを DPM に登録しておく必要があります。詳細は、「10.5.4 リストアを実行する場合のシナリオ実行までの流れ」を参照してください。
9	reboot	jscmstopos (stop_os)	Control Manager が管理するサーバを再起動します。
10	switch_np_server	jscmnpswitch	現用系サーバの手動切り替えを行います。
11	recover_np_server	jscmnprecover	予備系サーバに対応する現用系サーバの復帰を行います。
12	activate_np_server	jscmnpactivate	予備系サーバを現用系にします。
13	detach_disk	jscmdetachdisk	サーバに割り当てられたブートディスク以外のディスク割り当てを一時解除します。
14	attach_disk	jscmattachdisk	一時解除されたディスク割り当てを復帰します。
15	getslotinfoF	jscmgetslotinfo	Control Manager が管理するサーバシャーシにスロット情報をファイルに出力します。
16	smp_new	jscmsmp-new	Control Manager が管理するサーバシャーシにパーティションを作成します。
17	smp_del	jscmsmp-del	Control Manager が管理するサーバシャーシのパーティションを削除します。
18	smp_getF	jscmsmp-get	Control Manager が管理するサーバシャーシのパーティション詳細情報をファイルに出力します。

注 1

次のような情報が該当します。

- ・ ServerConductor/Agent の状態
- ・ 筐体の温度およびファンの状態
- ・ 電源ユニットおよび電源の状態
- ・ CPU の温度およびファンの状態
- ・ メモリの状態

注 2

管理対象サーバの OS が Linux の場合は、機種によって電源 OFF しない場合があります。

10.3.1 LPAR 上で稼働しているサーバおよび LPAR モードの物理パーティションにシナリオを実行するときの制限事項

LPAR 上で稼働しているサーバ、または LPAR モードの物理パーティションに対応していないシナリオを実行すると、シナリオがエラー終了します。LPAR 上で稼働しているサーバ、または LPAR モードの物理パーティションに対して制限されるシナリオを次の表に示します。

シナリオテンプレート	LPAR 上で稼働しているサーバ	LPAR モードの物理パーティション
start_server		×
stop_server		×
stop_os		×
deploy		×
backup		×
restore		×
reboot		×
switch_np_server	×	×
recover_np_server	×	×
activate_np_server	×	×
detach_disk	×	×
attach_disk	×	×

(凡例)

：シナリオを実行できます。

×：シナリオを実行できません。

10.4 シナリオテンプレート定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込む

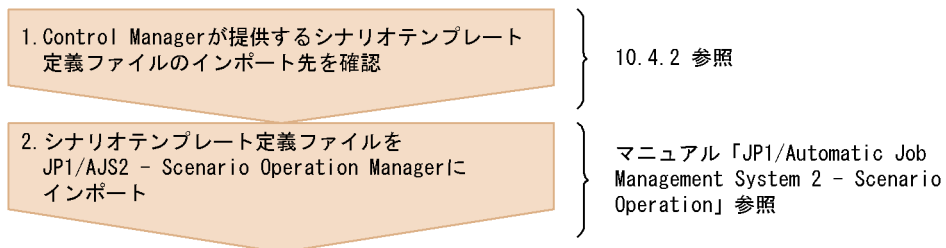
Control Manager が提供するシナリオテンプレートを利用する前に、シナリオテンプレートの定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込んでおく必要があります。

ここでは、シナリオテンプレートの定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込むまでの流れについて説明します。

10.4.1 シナリオテンプレート定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込むまでの流れ

次の図に示す流れで、シナリオテンプレート定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込みます。

図 10-2 シナリオテンプレート定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager に組み込む流れ



- Control Manager が提供するシナリオテンプレート定義ファイルのインポート先を確認する
Control Manager が提供しているシナリオテンプレートは、JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager のシナリオライブラリと呼ばれるディレクトリにインポートします。Control Manager のインストール先ディレクトリに格納された readme.txt で、シナリオテンプレートのインポート先ライブラリを確認しておきます。
- シナリオテンプレート定義ファイルを JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager にインポートする
JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager がインストールされたサーバに、Control Manager のインストール先ディレクトリに格納されているシナリオテンプレートをインポートします。jpsimport コマンドを利用します。jpsimport コマンドの詳細

についてはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation」を参照してください。

10.4.2 シナリオテンプレート定義ファイルの格納先

シナリオテンプレート定義ファイル (JP1SCControlManger.sjis.xml) は、Control Manager のインストール先ディレクトリに格納されています。

シナリオテンプレート定義ファイル (JP1SCControlManger.sjis.xml) を JP1/AJS2 - Scenario Operation Manager にインポートするに当たり、インポート先シナリオライブラリのディレクトリ名を確認しておく必要があります。インポート先のライブラリは、シナリオテンプレート定義ファイル格納先ディレクトリにある readme.txt に記載されています。

シナリオテンプレート定義ファイルの格納先ディレクトリの構成を次に示します。

```
< CMパス >
  ScenarioTemplate
    JP1SCControlManger.sjis.xml
    readme.txt
```

10.5 シナリオテンプレートを利用したシナリオ実行までの流れ

ここでは、Control Manager が提供するシナリオテンプレートを使用して、JP1/AJS2 - Scenario Operation でシナリオを作成し、実行するまでの流れを説明します。

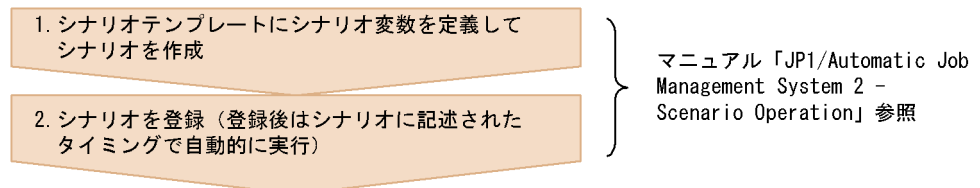
10.5.1 電源制御，ディスク割り当て，N+1 / N+M コールドスタンバイおよび SMP 構成管理機能を実行する場合のシナリオ実行までの流れ

ここでは、電源制御，ディスク割り当て，N+1 / N+M コールドスタンバイおよび SMP 構成管理機能を実行する場合のシナリオテンプレートを使用して JP1/AJS2 - Scenario Operation でシナリオを作成し、シナリオを実行するまでの流れを説明します。

シナリオテンプレート

- stateF
- getpropertyF
- start_server
- stop_server
- stop_os
- reboot
- switch_np_server
- recover_np_server
- activate_np_server
- detach_disk
- attach_disk
- getslotinfoF
- smp_new
- smp_del
- smp_getF

図 10-3 電源制御，ディスク割り当て，N+1 / N+M コールドスタンバイおよび SMP 構成管理機能を実行する場合のシナリオ実行までの流れ



1. シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成する
JP1/AJS2 - Scenario Operation のコンソールで、シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成します。
2. 作成したシナリオを JP1/AJS2 - Manager に登録する
JP1/AJS2 - Scenario Operation で作成したシナリオは、シナリオを実行するソフトウェアである JP1/AJS2 - Manager に登録します。
これで、シナリオ実行までの準備は完了です。シナリオに定義されている時間や JP1 イベントの発行を契機に、シナリオが実行されます。

10.5.2 デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ

デプロイは DPM と連携して実行します。そのため、JP1/AJS2 - Scenario Operation でシナリオを作成する前に、DPM を自動実行させるためのシナリオを DPM に登録しておく必要があります。

シナリオテンプレート
deploy

デプロイを実行するシナリオには次の種類があります。

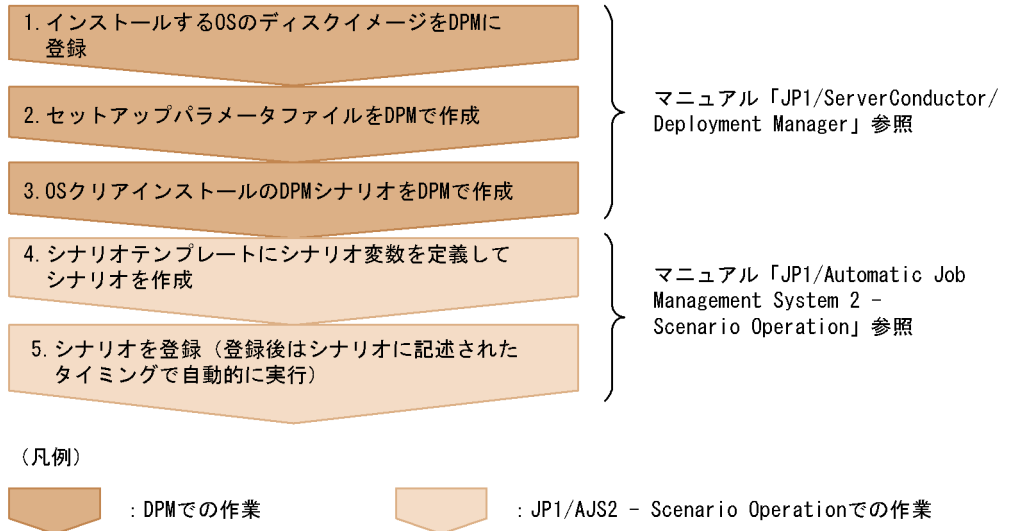
- OS クリアインストール
- サービスバック / ホットフィックス / Linux パッチファイルの適用
- インストール後のサーバとアプリケーションの設定

対象 OS は Windows と Linux です。Windows および Linux のバージョンについては、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

デプロイを実行するシナリオの種類によって DPM 側での準備が異なります。ここでは、デプロイを実行するシナリオに必要な DPM 側の準備を含め、シナリオを実行するまでの流れについて、デプロイを実行するシナリオの種類ごとに説明します。

(1) OS クリアインストール (Windows の場合)

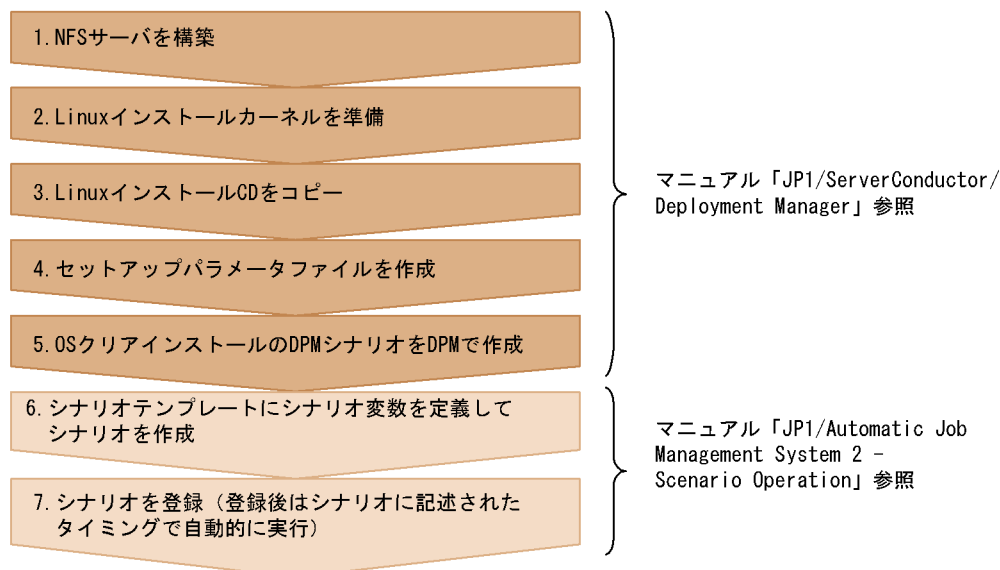
図 10-4 デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ (OS クリアインストール (Windows))



1. クリアインストールする OS のディスクイメージを DPM に登録する
2. セットアップパラメータファイルを作成する
セットアップパラメータファイルとは、OS のセットアップ時にサーバごとに設定する項目（ホスト名など）を記述したファイルです。セットアップパラメータファイルを作成しておくことで、各サーバに OS をインストールしたときと同じ内容で、自動的に項目が設定されます。
3. OS クリアインストールの DPM シナリオを作成する
登録した OS のディスクイメージのインストールおよびセットアップパラメータファイルを管理対象サーバに配布する DPM シナリオを作成します。
ここまでで、DPM での作業は完了です。
4. シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成する
JP1/AJS2 - Scenario Operation のコンソールで、シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成します。
5. 作成したシナリオを JP1/AJS2 - Manager に登録する
JP1/AJS2 - Scenario Operation で作成したシナリオは、シナリオを実行するソフトウェアである JP1/AJS2 - Manager に登録します。
これで、シナリオ実行までの準備は完了です。シナリオに定義されている時間や JP1 イベントの発行を契機に、シナリオが実行されます。

(2) OS クリアインストール (Linux の場合)

図 10-5 デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ (OS クリアインストール (Linux))



(凡例)



1. NFS サーバを構築する

2. Linux インストールカーネルを準備する

3. Linux インストール CD をコピーする

4. セットアップパラメータファイルを作成する

セットアップパラメータファイルとは、OSのセットアップ時にホストごとに設定する項目（ホスト名など）を記述したファイルです。セットアップパラメータファイルを作成しておくことで、各ホストにOSをインストールしたときと同じ内容で、自動的に項目が設定されます。

5. OS クリアインストールの DPM シナリオを作成する

登録したOSのディスクイメージのインストールおよびセットアップパラメータファイルを、管理対象サーバに配布するDPMシナリオを作成します。

ここまでで、DPMでの作業は完了です。

6. シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成する

JP1/AJS2 - Scenario Operation のコンソールで、シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成します。

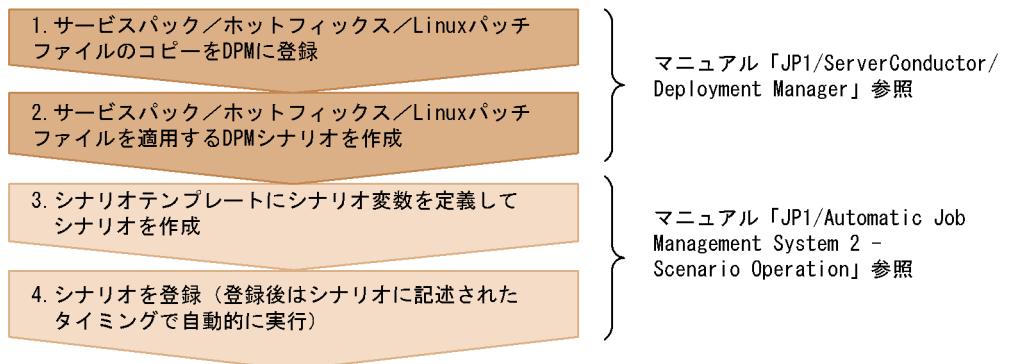
- 作成したシナリオを JP1/AJS2 - Manager に登録する。

JP1/AJS2 - Scenario Operation で作成したシナリオは、シナリオを実行するソフトウェアである JP1/AJS2 - Manager に登録します。

これで、シナリオ実行までの準備は完了です。シナリオに定義されている時間や JP1 イベントの発行を契機に、シナリオが実行されます。

(3) サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルの適用

図 10-6 デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ (サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルの適用)



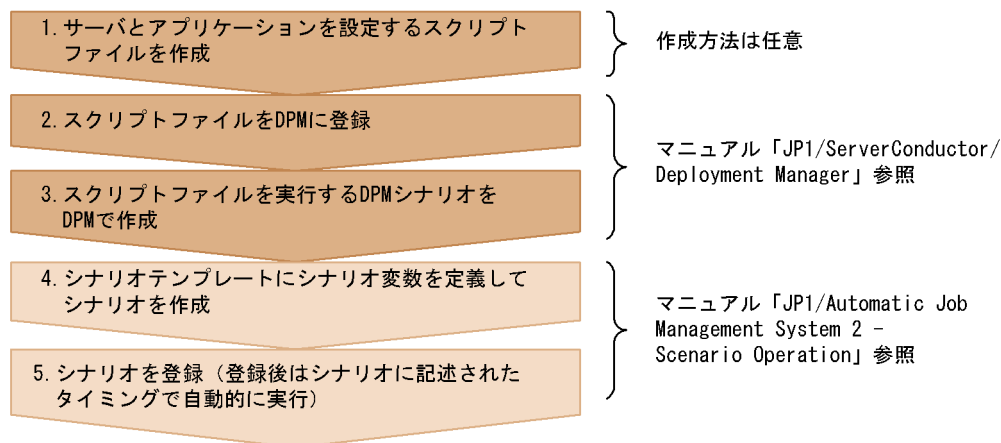
(凡例)



- サービスパック、ホットフィックス、または Linux パッチファイルのコピーを作成する
- サービスパック、ホットフィックス、または Linux パッチファイルを適用する DPM シナリオを作成する
登録したサービスパック、ホットフィックス、または Linux パッチファイルを管理対象サーバに適用する DPM シナリオを作成します。
ここまでで、DPM での作業は完了です。
- シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成する
JP1/AJS2 - Scenario Operation のコンソールで、シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成します。
- 作成したシナリオを JP1/AJS2 - Manager に登録する
JP1/AJS2 - Scenario Operation で作成したシナリオは、シナリオを実行するソフトウェアである JP1/AJS2 - Manager に登録します。
これで、シナリオ実行までの準備は完了です。シナリオに定義されている時間や JP1 イベントの発行を契機に、シナリオが実行されます。

(4) インストール後のサーバとアプリケーションの設定

図 10-7 デプロイを実行する場合のシナリオ実行までの流れ（サーバとアプリケーションの設定）



(凡例)



1. サーバとアプリケーションを設定するスクリプトファイルを作成する
2. スクリプトファイルを DPM に登録する
スクリプトファイルは、サービスパック / ホットフィックス / Linux パッチファイルのコピーを作成するダイアログボックスで登録します。
3. スクリプトファイルを実行する DPM シナリオを作成する
登録したスクリプトファイルを管理対象サーバで実行させる DPM シナリオを作成します。
ここまでで、DPM での作業は完了です。
4. シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成する
JP1/AJS2 - Scenario Operation のコンソールで、シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成します。
5. 作成したシナリオを JP1/AJS2 - Manager に登録する
JP1/AJS2 - Scenario Operation で作成したシナリオは、シナリオを実行するソフトウェアである JP1/AJS2 - Manager に登録します。
これで、シナリオ実行までの準備は完了です。シナリオに定義されている時間や JP1 イベントの発行を契機に、シナリオが実行されます。

10.5.3 バックアップを実行する場合のシナリオ実行までの流れ

バックアップは DPM と連携して実行します。そのため、JP1/AJS2 - Scenario Operation でシナリオを作成する前に、DPM シナリオを DPM に登録しておく必要があります。ここでは、バックアップに必要な DPM 側の準備を含め、シナリオを実行するまでの流れについて説明します。

シナリオテンプレート

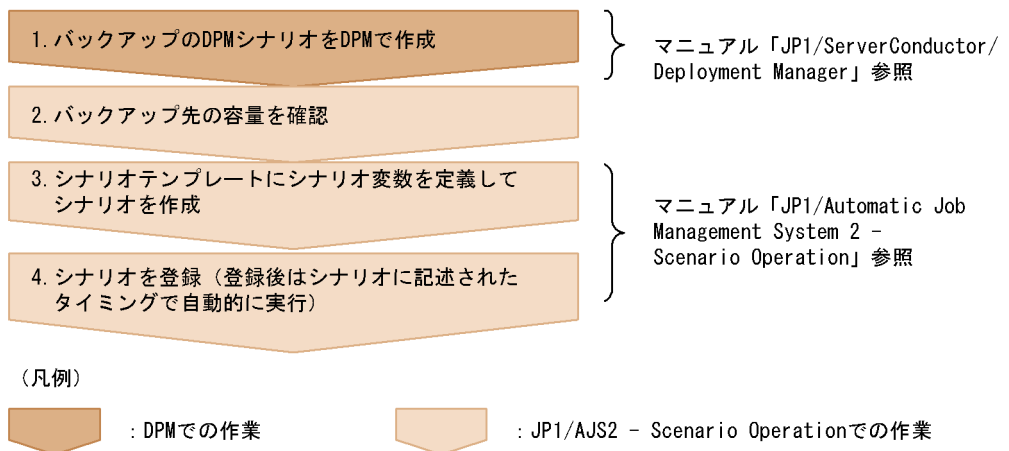
backup

対象 OS

- Windows
- Linux

Windows および Linux のバージョンについては、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

図 10-8 バックアップを実行する場合のシナリオ実行までの流れ



1. バックアップの DPM シナリオを作成する

管理対象サーバのディスクイメージをバックアップする DPM シナリオを作成します。

ここまでで、DPM での作業は完了です。

2. バックアップ先の容量を確認する

3. シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成する

JP1/AJS2 - Scenario Operation のコンソールで、シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成します。

4. 作成したシナリオを JP1/AJS2 - Manager に登録する

JP1/AJS2 - Scenario Operation で作成したシナリオは、シナリオを実行するソフトウェアである JP1/AJS2 - Manager に登録します。

これで、シナリオ実行までの準備は完了です。シナリオに定義されている時間や JP1 イベントの発行を契機に、シナリオが実行されます。

10.5.4 リストアを実行する場合のシナリオ実行までの流れ

リストアは DPM と連携して実行します。そのため、JP1/AJS2 - Scenario Operation でシナリオを作成する前に、DPM シナリオを DPM に登録しておく必要があります。ここでは、リストアに必要な DPM 側の準備を含め、シナリオを実行するまでの流れについて説明します。

シナリオテンプレート

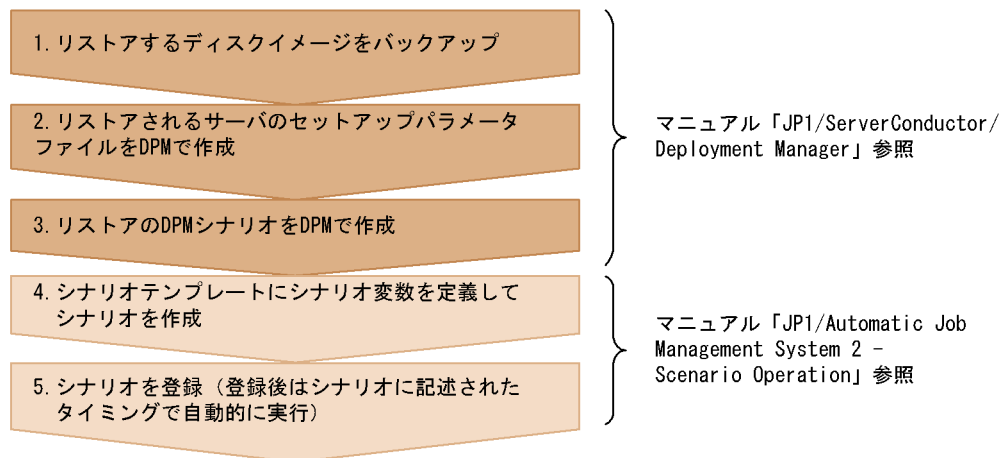
restore

対象 OS

- Windows
- Linux

Windows および Linux のバージョンについては、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

図 10-9 リストアを実行する場合のシナリオ実行までの流れ



（凡例）



: DPMでの作業



: JP1/AJS2 - Scenario Operationでの作業

1. リストアするディスクイメージをバックアップしておく

バックアップのシナリオを使用して、リストアするディスクイメージをあらかじめ

バックアップしておきます。

2. リストアされるサーバのセットアップパラメータファイルを DPM で作成する
セットアップパラメータファイルとは、OS のセットアップ時にサーバごとに設定する項目（ホスト名など）を記述したファイルです。セットアップパラメータファイルを作成しておくことで、各サーバに OS をインストールしたときと同じ内容で、自動的に項目が設定されます。
3. リストアの DPM シナリオを作成する
バックアップしておいたディスクイメージを管理対象サーバに配布する DPM シナリオを作成します。
ここまでで、DPM での作業は完了です。
4. シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成する
JP1/AJS2 - Scenario Operation のコンソールで、シナリオテンプレートにシナリオ変数を定義して、シナリオを作成します。
5. 作成したシナリオを JP1/AJS2 - Manager に登録する
JP1/AJS2 - Scenario Operation で作成したシナリオは、シナリオを実行するソフトウェアである JP1/AJS2 - Manager に登録します。
これで、シナリオ実行までの準備は完了です。シナリオに定義されている時間や JP1 イベントの発行を契機に、シナリオが実行されます。

11 運用コマンド

この章では、Control Manager で使用できる運用コマンドについて説明します。

コマンドの記述形式

コマンドのデータ形式

運用コマンド一覧

OS ごとの運用コマンド一覧

コマンドの同時実行可否一覧

運用コマンド使用時の注意事項

jscmattachdisk

jscmbackup (backup)

jscmdeploy (deploy)

jscmdetachdisk

jscmgetproperty (getproperty)

jscmgetslotinfo

jscmnpactivate

jscmnprecover

jscmnpswitch

jscmsmp -del (パーティションの削除)

jscmsmp -get (パーティション詳細情報の取得)

jscmsmp -new (パーティションの作成)

jscmrestore (restore)

jscmstartserver (start_server)

jscmstate (state)

jscmstopos (stop_os)

jscmstopserver (stop_server)

コマンドの記述形式

コマンドの説明中のゴシック部分は、可変値を意味します。

なお、コマンドの説明で使用する記号を次のように定義します。

表 11-1 コマンドの説明で使用する記号

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を表します。 例 「A B C」は、「A, B, または C」を意味します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず 1 組の項目を選択します。項目の区切りは で示します。 例 { A B C } は「A, B, または C のどれかを指定する」を意味します。
[]	この記号で囲まれている項目は任意に指定できます (省略できます)。 複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択します。 例 [A] は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを意味します。 [B C] は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを意味します。
... (点線)	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できます。 例 「A, B, ...」は「A のあとに B を必要個数指定する」ことを意味します。
<u> </u> (下線)	括弧内のすべてを省略したときに、システムが取る標準値を表します。標準値がない場合は、指定した項目だけが有効です。 例 [A B] はこの項目を指定しなかった場合に、A を選択したとみなすことを意味します。

コマンドのデータ形式

コマンドで使用する MAC アドレスおよび IP アドレスのデータ形式を次に示します。

表 11-2 コマンドで使用する MAC アドレスおよび IP アドレスのデータ形式

MAC アドレス	<ul style="list-style-type: none">• XX:XX:XX:XX:XX:XX で指定します。 (XX は 00 ~ FF の 16 進数で、必ず 2 桁ずつ指定します)• 入力できる文字は半角だけです。 例) 01:23:45:67:89:AB
IP アドレス (サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを含む)	<ul style="list-style-type: none">• n.n.n.n で指定します。 (n は 0 ~ 255 までの整数で、01 や 001などを指定するとエラーになります)• 入力できる文字は半角だけです。 例) 192.168.0.1

運用コマンド一覧

Control Manager で使用できる運用コマンドの一覧を次に示します。

表 11-3 管理対象サーバの情報取得および BSM 連携に関するコマンド

コマンド名	機能概要
jscmgetproperty (getproperty)	<ul style="list-style-type: none"> 静的情報を取得します。 条件を設定しサーバの一覧を検索します。
jscmstate (state)	動的情報を取得します。
jscmstartserver (start_server)	指定したサーバを起動します。
jscmstopserver (stop_server)	指定したサーバを強制停止します。
jscmstopos (stop_os)	指定したサーバの OS をシャットダウンまたは再起動します。
jscmnpswitch	指定した現用系サーバの手動切り替えを実行します。
jscmnprecover	指定した予備系サーバを対応する現用系サーバへ復帰を実行します。
jscmnpactivate	指定した予備系サーバを現用系にします。
jscmdetachdisk	指定したサーバに割り当てられたブートディスク以外のディスク割り当てを解除します。
jscmattachdisk	指定したサーバの一時解除されたブートディスク以外のディスク割り当てを復帰します。
jscmgetslotinfo	指定したサーバシャーシのスロット情報を取得します。
jscmsmp -del	指定したサーバシャーシのパーティションを削除します。
jscmsmp -get	指定したサーバシャーシのパーティション詳細情報を取得します。
jscmsmp -new	指定したサーバシャーシにパーティションを作成します。

表 11-4 DPM 連携に関するコマンド

コマンド名	機能概要
jscmdeploy (deploy)	次の DPM シナリオを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> OS のクリアインストール パッチの適用 スクリプトの実行
jscmbackup (backup)	次の DPM シナリオを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> バックアップ
jscmrestore (restore)	次の DPM シナリオを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> リストア

「jscm」で始まるコマンド名のほかに、括弧で囲まれたコマンド名がある場合は、どちらのコマンド名も使用できます。

なお，以降のコマンドの説明では，アルファベット順にコマンドが記載されています。
また，コマンドの形式や機能では，すべて「jscm」で始まるコマンド名で説明しています。
「jscm」が付かないコマンドを使用する場合は，適宜読み替えてください。

OS ごとの運用コマンド一覧

Control Manager で使用できる運用コマンドの一覧を OS 別に示します。

なお , jscmgetslotinfo コマンドおよび jscmsmp コマンドは OS に依存しません。

表 11-5 Control Manager で使用できる運用コマンド (OS 別)

コマンド名		管理対象サーバ							
		BladeServer						Server	
		Basic モード			LPAR モード (LPAR 上で稼働しているサーバ)		LPAR モード の物理パーティション	Basic モード	
		Windows	Linux	HP-UX	Windows	Linux	2	Windows	Linux
情報の取得 ¹	jscmgetproperty (getproperty)								
	jscmstate (state)								
電源管理機能 ³	jscmstartserver (start_server)			4			x		
	jscmstopos (stop_os)		5				x		5
	jscmstopserver (stop_server)						x		
デプロイメント制御機能 ⁶	jscmbackup (backup)			x			x		

コマンド名		管理対象サーバ							
		BladeServer						Server	
		Basic モード			LPAR モード (LPAR 上で稼働しているサーバ)		LPAR モード の物理パーティション	Basic モード	
		Windows	Linux	HP-UX	Windows	Linux	2	Windows	Linux
	jscmdeploy (deploy)			×			×		
	jscmrestore (restore)			×			×		
N+1 コールドスタンバイ機能	jscmnpactivate			7	×	×	×	×	×
	jscmnprecover			7	×	×	×	×	×
	jscmnpswitch			7	×	×	×	×	×
ディスク割り当て制御機能	jscmat tachdisk				×	×	×	×	×
	jscmdetachdisk				×	×	×	×	×

(凡例)

: 機能に対応しているコマンドです。

×: 機能に対応していないコマンドです。

注 1

このコマンドは、プラットフォームによって取得できない情報があります。

注 2

LPAR モードの物理パーティションには、OS が存在しません。

注 3

SVP/BMC エージェントサービスを使用した電源管理をする場合は Advanced Agent が必要です。

注 4

このコマンドを使用する場合は Advanced Agent が必要です。

注 5

Linux の設定によって、OS をシャットダウンしても電源が OFF にならない場合があります。

注 6

DPM のサポート状況によって実行できない場合があります。DPM については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」を参照してください。

注 7

このコマンドを使用して N+M コールドスタンバイは使用できません。N+M コールドスタンバイについては、マニュアル「JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド」を参照してください。

コマンドの同時実行可否一覧

Control Manager で使用する運用コマンドの同時実行可否を次の表に示します。

表 11-6 コマンドの同時実行可否一覧

項番	コマンド名	BSM 連携時のコマンドとの同時実行	DPM 連携時のコマンドとの同時実行	jscmgetproperty (getproperty) コマンドとの同時実行
1	静的情報取得時のコマンド		×	
2	BSM 連携時のコマンド	×		
3		×		
4		×		
5		×		
6		×		
7		×		
8		×		
9		×		
10		×		
11		×		
12		×		
13	DPM 連携時のコマンド		×	×
14			×	×
15			×	×

(凡例)

- ：コマンドを同時に実行できます。
- ×：コマンドを同時に実行できません。

上記のコマンドは、カレントフォルダの場所に関係なく実行できます。また、次に示すレジストリキーに対して、フルアクセスの権限があるユーザーだけがコマンドを実行できます。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Hitachi

運用コマンド使用時の注意事項

実行権限

Control Manager の運用コマンドを使用する場合、OS へのログインユーザーには Administrators グループ権限が必要です。

Windows Server 2008 で ControlManager のコマンドを使用する場合は、管理者権限のあるプログラムからコマンドを実行してください。例えば、管理者として実行したコマンドプロンプトからコマンドを実行してください。管理者権限がない場合、コマンドを実行した後に [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスが表示される場合があります。このダイアログボックスが表示された場合 [キャンセル] ボタンをクリックして処理を終了してください。その後、管理者権限のあるプログラムから実行し直してください。

タイムアウト時間

運用コマンドにはタイムアウト時間が設定されているものがあります。タイムアウト時間には、コマンドの実行可否を判定する処理時間に対するタイムアウト時間と連携プログラムとの通信でのタイムアウト時間があります。タイムアウト時間の設定値は次のとおりです。なお、タイムアウト時間の設定値は目安であり、実際のタイムアウト時間はシステムの状態によって増加する場合があります。また、BSM のタイムアウト時間の設定によっては、Control Manager のタイムアウト時間の設定よりも早くタイムアウトになる場合があります。

表 11-7 コマンドのタイムアウトの設定値

コマンド	コマンド実行可否タイムアウト時間	通信タイムアウト時間	連携プログラム
jscmgetproperty (getproperty)	なし	なし	なし
jscmstartserver (start_server), jscmstopserver (stop_server), jscmstopos (stop_os)	300[秒]	120[秒]	BSM
jscmstate (state)	なし	120[秒]	BSM
jscmbackup (backup), jscmdeploy (deploy), jscmrestore (restore)	300[秒]	120[分]	可否：BSM 通信：DPM
jscmattachdisk, jscmdetachdisk	300[秒]	540[秒]	BSM
jscmgetslotinfo, jscmsmp	なし	300[秒]	BSM

注

設定値を変更できます。変更する場合は、次に示すディレクトリに格納してある cmdpm.properties ファイルを変更してください。

< CM パス > ¥conf¥cmdpm.properties

< CM パス > は、インストールしたディレクトリで置き換えてください。

タイムアウト時間の設定値については、「9.5 DPM シナリオの実行」を参照してください。

その他注意事項

- コマンド実行中に、[Ctrl] + [C] キーでコマンドを強制終了したり、サービスの「Hitachi Control Manager」を停止したりした場合、Control Manager のコマンドが終了しても連携しているプログラムの処理が継続される場合があります。
- Control Manager の運用コマンドは、複数のコマンドを同時に実行できません。
- Control Manager の運用コマンドは、バッチファイルです。バッチファイルに運用コマンドを記述する場合は、「call jscmxxxxx」と記述してください。

なお、「jscmxxxxx」は Control Manager の運用コマンド名です。

各コマンドは、次の戻り値およびメッセージを表示する場合があります。この場合は、次の対策を実行してください。それでも問題が解決しない場合は保守員に連絡してください。

- (1) コマンドの形式が間違っていないか確認。
- (2) コマンドの引数で指定したシャーシまたはサーバは、管理対象として Control Manager に登録されているか確認。
- (3) (1) および (2) が正しい場合、Hitach Control Manager サービスを再起動。
- (4) コマンドを再度実行する。

戻り値	メッセージ ID	メッセージ
0 以外	KASN2xxxx-E	各コマンドの KASN2FFFF-E または KASN215G0-E の場合と同じ文言

xxxx は 0 ~ 9 , A ~ F の値で 4 文字。

jscmattachdisk

形式

```
jscmattachdisk { -i IPアドレス | -m MACアドレス }
```

機能

一時解除されたブートディスク以外のディスク割り当てを復帰します。

引数

-i IP アドレス

ディスク割り当てを一時解除されたサーバの IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

-m MAC アドレス

ディスク割り当てを一時解除されたサーバの MAC アドレスを指定します。

注意事項

このコマンドは、Control Manager に IP アドレスが登録されていない状態では、**-i** で指定しても **-m** で指定してもエラーになります。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN2000A-E	パラメーター指定エラーです
11	KASN2000B-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN2000C-E	IP アドレスが不正です
15	KASN2FFFF-E	内部プログラムエラー（CLI）です
21	KASN207D0-E	DB 制御アクセスエラーです
24	KASN20BAE-E	内部プログラムエラーです

戻り 値	メッセージ ID	意味
30	KASN20BCC-E	BSM 連携エラーです
	KASN20BCD-E	
	KASN20BD2-E	
	KASN20BDB-E	
	KASN20BD9-E	
31	KASN20BE0-E	BSM 連携エラー（情報取得失敗）です
32	KASN203ED-E	内部プログラムエラー（BSM 制御）です
	KASN203F3-E	
	KASN20BBA-E	
	KASN20BD1-E	
33	KASN203F0-E	Hitachi Control Manager Service エラーです
	KASN203F4-E	
	KASN20BDA-E	
37	KASN203EF-E	指定サーバなしエラーです
	KASN20BBF-E	
	KASN20BDC-E	
	KASN20E10-E	
50	KASN20BD0-E	ほかのオペレーションが実行中です
51	KASN20BCF-E	JP1/HiCommand Device Manager アクセスエラーです
54	KASN20DAC-E	ディスク割り当て一時解除 / 復帰エラーです
	KASN20DAD-E	
	KASN20DAE-E	
	KASN20DAF-E	
	KASN20DB0-E	
	KASN20DB1-E	
	KASN20DB2-E	
	KASN20DB3-E	
	KASN20DB4-E	
	KASN20DB5-E	
55	KASN20BDF-E	実行対象外エラーです
60	KASN203F2-E	BSM アクセスタイムアウトエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ（KASN2nnnn）」を参照してください。

jscmbbackup (backup)

形式

```
jscmbbackup {-i IPアドレス | -m MACアドレス}  
            -img DPMシナリオ名
```

機能

IP アドレスまたは MAC アドレスで指定したサーバに、DPM シナリオを実行して、完全バックアップを実行します。

引数

-i IP アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ MAC アドレスを指定します。

-img DPM シナリオ名

DPM で実行する DPM シナリオ名を指定します。このコマンドで指定する DPM シナリオは、バックアップを実行するシナリオでなければなりません。

注意事項

- 次のコマンド実行中に、このコマンドを実行しないでください。また、次のコマンドと同時に実行もしないでください。
 - jscmdeploy
 - jscmgetproperty
 - jscmrestore
- DPM シナリオを Control Manager で実行する場合、DPM の Web コンソールで、管理サーバのアクセスモードを更新モードにしないでください。アクセスモードを更新モードにしている場合、Control Manager で DPM シナリオを操作したり実行したりするとエラーになります。
- Control Manager の Web コンソールから DPM シナリオ関連の操作または DPM シナリオを実行している間は、このコマンドを実行しないでください。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN210G0-E	パラメーターが不正です
11	KASN211G0-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN212G0-E	IP アドレスが不正です
15	KASN215G0-E	内部プログラムエラー（CMD 制御）が発生しました
21	KASN221G0-E	データベースへの接続に失敗しました
22	KASN222G0-E	SQL 実行エラーが発生しました
23	KASN223G0-E	該当データがありません
24	KASN224G0-E	内部プログラムエラー（DB 制御）が発生しました
31	KASN20BE0-E	BSM 連携エラー（情報取得失敗）です
37	KASN20E10-E	指定された管理対象サーバの情報が BSM から取得できませんでした
41	KASN241G0-E	Deployment Manager 連携エラーが発生しました
42	KASN242G0-E	Deployment Manager 連携エラー（情報取得失敗）が発生しました
43	KASN243G0-E	指定された管理対象サーバの情報が Deployment Manager から取得できませんでした
45	KASN245G0-E	指定された DPM シナリオがありません
46	KASN246G0-E	タイムアウトエラーが発生しました
47	KASN247G0-E	DPM シナリオ実行エラーが発生しました
49	KASN249G0-E	DPM シナリオが実行中です
50	KASN250G0-E	他のオペレーションが実行中です
55	KASN20037-E	指定されたサーバ情報が不正です
	KASN20BDF-E	
61	KASN261G0-E	Deployment Manager Adaptor がインストールされていない場合に発生するエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

jscmdeploy (deploy)

形式

```
jscmdeploy {-i IPアドレス | -m MACアドレス}  
            -img DPMシナリオ名
```

機能

IP アドレスまたは MAC アドレスで指定したサーバに、DPM シナリオを実行し、OS の
クリアインストール、パッチ適用、スクリプトの実行を行います。

引数

-i IP アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ IP アドレスを指定します。OS が未配布または OS が未起動状態のサーバに対しては、MAC アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ MAC アドレスを指定します。

-img DPM シナリオ名

DPM で実行する DPM シナリオ名を指定します。

注意事項

- 次のコマンド実行中に、このコマンドを実行しないでください。また、次のコマンドと同時に実行もしないでください。
 - jscmbackup
 - jscmgetproperty
 - jscmrestore
- DPM シナリオを Control Manager で実行する場合、DPM の Web コンソールで、管理サーバのアクセスモードを更新モードにしないでください。アクセスモードを更新モードにしている場合、Control Manager で DPM シナリオを操作したり実行したりするとエラーになります。
- このコマンドでは、H/W 設定だけのシナリオは実行できません。
- Control Manager の Web コンソールから DPM シナリオ関連の操作または DPM シナリオを実行している間は、このコマンドを実行しないでください。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN210G0-E	パラメーターが不正です
11	KASN211G0-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN212G0-E	IP アドレスが不正です
15	KASN215G0-E	内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました
21	KASN221G0-E	データベースへの接続に失敗しました
22	KASN222G0-E	SQL 実行エラーが発生しました
23	KASN223G0-E	該当データがありません
24	KASN224G0-E	内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました
31	KASN20BE0-E	BSM 連携エラー (情報取得失敗) です
37	KASN20E10-E	指定サーバなしエラーです
41	KASN241G0-E	Deployment Manager 連携エラーが発生しました
42	KASN242G0-E	Deployment Manager 連携エラー (情報取得失敗) が発生しました
43	KASN243G0-E	指定された管理対象サーバの情報が Deployment Manager から取得できませんでした
45	KASN245G0-E	指定された DPM シナリオがありません
46	KASN246G0-E	タイムアウトエラーが発生しました
47	KASN247G0-E	DPM シナリオ実行エラーが発生しました
49	KASN249G0-E	DPM シナリオが実行中です
50	KASN250G0-E	他のオペレーションが実行中です
55	KASN20037-E	実行対象外エラーです
	KASN20BDF-E	
61	KASN261G0-E	Deployment Manager Adaptor がインストールされていない場合に発生するエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

jscmdetachdisk

形式

```
jscmdetachdisk { -i IPアドレス | -m MACアドレス }
```

機能

指定したサーバに割り当てられたブートディスク以外のディスク割り当てを解除します。

引数

-i IP アドレス

ディスク割り当てを一時解除するサーバの IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

-m MAC アドレス

ディスク割り当てを一時解除するサーバの MAC アドレスを指定します。

実行条件

このコマンドを実行する前に次の条件を満たしているか確認してください。

- ストレージサブシステムのブート用ポートに属するブート用 LU (LDEV) が割り当てられているホストグループは、BSM のストレージ運用支援機能のホストグループ割り当て定義ファイルでブート識別子を「1」に設定していること。
- ブート用 LU (LDEV) の LUN を「0」に設定していること。
- ホストグループを共有するすべてのサーバの電源が OFF であること。
サーバ間で共有するホストグループが存在する場合、該当するホストグループを割り当てたサーバに対して DPM 支援機能を利用すると、該当するホストグループを共有するほかのすべてのホストから、ディスクアクセスできなくなるためです。

注意事項

SAN ブート環境のシステムで、BSM のストレージ運用支援機能のホストグループ割り当て定義ファイルと実際のシステムの状態が異なる状況で、このコマンドとデプロイメント制御機能の各コマンドを組み合わせ実行した場合、システムを破壊する恐れがあります。SAN ブート環境でこのコマンドおよびデプロイメント制御機能の各コマンドを利用する場合は、実際のシステムとホストグループ割り当て定義ファイルの内容を一致させてください。

このコマンドを実行してから、jscmattachdisk コマンドを実行するまでの間に BSM を操作した場合、次のエラーメッセージが表示されることがあります。この場合はエラーコードに対応した対処を実行してください。

エラーコード：

KASM 510AF

メッセージ：

ディスク割り当て一時解除中のパーティションに対して、ホストグループの割当定義を変更しようとして失敗しました。

ホストグループの割当定義を変更したい場合は、ディスク割り当ての復帰を行ってから再実行してください。

原因：

ディスク割り当て一時解除を実行中に、ホストグループの割り当て状態を変更しようとして失敗しました。

対処：

Control Manager がディスク割り当て一時解除を実行した、または実行中の可能性があります。

ホストグループの割り当て定義を変更したい場合は、jscmattachdisk コマンドを使用しディスク割り当てを復帰してから再実行してください。

エラーコード：

KASM 510B0

メッセージ：

ディスク割り当て一時解除中のパーティションに対して、N+1 コールドスタンバイの切り替えをしようとして失敗しました。

N+1 コールドスタンバイの切り替えを行ないたい場合は、ディスク割り当ての復帰を行ってから再実行してください。

原因：

ディスク割り当て一時解除を実行中に、N+1 コールドスタンバイの切り替えを行なおうとして失敗しました。

対処：

Control Manager がディスク割り当て一時解除を実行した、または実行中の可能性があります。

N+1 コールドスタンバイの切り替えをしたい場合は、jscmattachdisk コマンドを使用し、ディスク割り当てを復帰してから再実行してください。

エラーコード：

KASM 510B1

メッセージ：

ディスク割り当て一時解除中のパーティションに対して、N+1 コールドスタンバイの復帰を実行しようとして失敗しました。

N+1 コールドスタンバイの復帰を行ないたい場合は、ディスク割り当ての復帰を行なってから再実行してください。

原因：

ディスク割り当て一時解除を実行中に、N+1 コールドスタンバイの復帰を行なおうとしました。

対処：

Control Manager がディスク割り当て一時解除を実行した、または実行中の可能性があります。

N+1 コールドスタンバイの復帰をしたい場合は、jscmattachdisk コマンドを使用し、ディスク割り当てを復帰してから再実行してください。

このコマンドは、Control Manager に IP アドレスが登録されていない状態では、-i で指定しても -m で指定してもエラーになります。

このコマンドでディスク割り当てを一時解除している状態で、そのサーバを管理する BSM の登録を Control Manager から解除しないでください。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN2000A-E	パラメーター指定エラーです
11	KASN2000B-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN2000C-E	IP アドレスが不正です
15	KASN2FFFF-E	内部プログラムエラー（CLI）です
21	KASN207D0-E	DB 制御アクセスエラーです
24	KASN20BAE-E	内部プログラムエラーです
30	KASN20BCC-E	BSM 連携エラーです
	KASN20BCD-E	
	KASN20BD2-E	
	KASN20BDB-E	
	KASN20BD9-E	
31	KASN20BE-E	BSM 連携エラー（情報取得失敗）です

戻り値	メッセージ ID	意味
32	KASN203ED-E	内部プログラムエラー（BSM 制御）です
	KASN203F3-E	
	KASN20BBA-E	
	KASN20BD1-E	
33	KASN203F0-E	Hitachi Control Manager Service エラーです
	KASN203F4-E	
	KASN20BDA-E	
37	KASN203EF-E	指定サーバなしエラーです
	KASN20BBF-E	
	KASN20BDC-E	
	KASN20E10-E	
50	KASN20BD0-E	ほかのオペレーションが実行中です
51	KASN20BCF-E	JP1/HiCommand Device Manager アクセスエラーです
54	KASN20D48-E	ディスク割り当て一時解除 / 復帰エラーです
	KASN20D49-E	
	KASN20D4A-E	
	KASN20D4B-E	
	KASN20D4C-E	
	KASN20D4D-E	
	KASN20D4E-E	
	KASN20D4F-E	
	KASN20D50-E	
	KASN20D51-E	
	KASN20D52-E	
55	KASN20037-E	実行対象外エラーです
	KASN20BDF-E	
60	KASN203F2-E	BSM アクセスタイムアウトエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

jscmgetproperty (getproperty)

形式

静的情報検索の場合

```
jscmgetproperty {-i IPアドレス | -m MACアドレス}
```

絞り込み検索の場合

```
jscmgetproperty -sr [キー {EQ|NE|LE|GE} 値]
```

機能

静的情報検索の場合

Control Manager の管理対象サーバが持つ IP アドレスまたは MAC アドレスを指定して、その管理対象サーバの静的情報を取得します。

絞り込み検索の場合

静的情報から条件を設定して、条件に合う MAC アドレスの一覧を取得します。条件を指定しない場合はすべてのサーバの一覧を取得します。

引数

静的情報検索の場合

-i IP アドレス

Control Manager の管理対象サーバの IP アドレスを指定して、静的情報検索を実行します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

Control Manager の管理対象サーバの MAC アドレスを指定して、静的情報検索を実行します。

絞り込み検索の場合

```
-sr [キー {EQ|NE|LE|GE} 値]
```

絞り込み検索を実行します。-sr のあとに何も指定しなかった場合は、Control Manager が管理するすべてのサーバの一覧を取得します。

「-sr」のあとに設定するキーについて、その機能内容、条件、意味、および用例を次に示

します。

機能内容	キー	条件	意味	用例
指定された条件を満たす IP アドレスを持つサーバー一覧を取得します。	ip_list	EQ NE	EQ : 指定された IP アドレスを含むサーバ NE : 指定された IP アドレスを含まないサーバ	10.10.10.10 の IP アドレスを持つサーバの検索方法 jscmgetproperty -sr ip_list EQ "10.10.10.10"
指定された条件を満たすサーバパックに属するサーバー一覧を取得します。	pack	EQ NE	EQ : 指定されたサーバパックに属するサーバ NE : 指定されたサーバパックに属さないサーバ	サーバパック名 "serverpack001" に属するサーバの検索方法 jscmgetproperty -sr pack EQ "serverpack001"
指定された条件を満たす CPU アーキテクチャ情報を持つサーバー一覧を取得します。 ¹	cpu_arch	EQ NE	EQ : 指定された CPU アーキテクチャ情報を含むサーバ NE : 指定された CPU アーキテクチャ情報を含まないサーバ	CPU アーキテクチャ情報が "IA32 Module Server" である CPU を持つサーバの検索方法 jscmgetproperty -sr cpu_arch EQ "IA32 Module Server"
指定された条件を満たすプロセッサ最大速度 (MHz (メガヘルツ)) を持つサーバー一覧を取得します。 ¹ ²	cpu_clock	EQ NE LE GE	EQ : 指定されたプロセッサ最大速度を持つ CPU を含むサーバ NE : 指定されたプロセッサ最大速度を持つ CPU を含まないサーバ LE : 指定されたプロセッサ最大速度以下の CPU を含むサーバ GE : 指定されたプロセッサ最大速度以上の CPU を含むサーバ	プロセッサ最大速度が 1,600MHz (メガヘルツ) 以上のサーバの検索方法 jscmgetproperty -sr cpu_clock GE 1600

機能内容	キー	条件	意味	用例
<p>指定された条件を満たす総メモリサイズ (MB) を持つサーバー一覧を取得します。 ²</p> <p>対象サーバーでの総容量で検索します。</p>	mem_size	EQ NE LE GE	<p>EQ: 指定された総メモリサイズを持つサーバー</p> <p>NE: 指定された総メモリサイズに当てはまらないサーバー</p> <p>LE: 指定された総メモリサイズ以下のメモリサイズを持つサーバー</p> <p>GE: 指定された総メモリサイズ以上のメモリサイズを持つサーバー</p>	<p>総メモリサイズが 2,048MB 以上のサーバーの検索方法</p> <pre>jscmgetproperty -sr mem_size GE 2048</pre>
<p>指定された条件を満たす総ディスクサイズ (MB) を持つサーバー一覧を取得します。 ²</p> <p>対象サーバーでの総容量で検索します。</p>	disk_size	EQ NE LE GE	<p>EQ: 指定された総ディスクサイズを持つサーバー</p> <p>NE: 指定された総ディスクサイズに当てはまらないサーバー</p> <p>LE: 指定された総ディスクサイズ以下のディスクサイズを持つサーバー</p> <p>GE: 指定された総ディスクサイズ以上のディスクサイズを持つサーバー</p>	<p>総ディスクサイズが 160,000MB 以上のサーバーの検索方法</p> <pre>jscmgetproperty -sr disk_size GE 160000</pre>
<p>指定された条件を満たす OS 名を持つサーバー一覧を取得します。</p>	os_name	EQ NE	<p>EQ: 指定された OS 名のサーバー</p> <p>NE: 指定された OS 名以外のサーバー</p>	<p>OS が Windows(R)2000 であるサーバーの検索方法</p> <pre>jscmgetproperty -sr os_name EQ "Windows(R) 2000"</pre>

機能内容	キー	条件	意味	用例
<p>指定された条件を満たす Hotfix を持つサーバー一覧を取得します。</p> <p>Windows 以外の OS を使用しているサーバー (OS 不明も含む) は検索対象となりません。</p>	hotfix	EQ NE	<p>EQ : 指定された Hotfix を含むサーバ</p> <p>NE : 指定された Hotfix を含まないサーバ</p>	<p>"Windows 2000 ホットフィックス - KB329115" が対策されていないサーバの検索方法</p> <pre>jscmgetproperty -sr hotfix NE " Windows 2000 ホットフィックス - KB329115"</pre>
<p>指定された条件を満たすサービスパックを持つサーバー一覧を取得します。</p> <p>サービスパックは最新のバージョンを検索対象とします。 "Service Pack 3" と指定した場合, "Service Pack 2" は検索されません。</p>	os_sp	EQ NE	<p>EQ : 指定されたサービスパックのサーバ</p> <p>NE : 指定されたサービスパック以外のサーバ</p>	<p>サービスパックが "Service Pack 4" になっているサーバの検索方法</p> <pre>jscmgetproperty -sr os_sp EQ "Service Pack 4"</pre>
<p>指定された条件を満たすシャーシ ID を持つサーバー一覧を取得します。</p> <p>BladeServer だけを検索対象とします。</p>	chassis	EQ NE	<p>EQ : 指定されたシャーシ ID のサーバシャーシ内にあるサーバ</p> <p>NE : 指定されたシャーシ ID のサーバシャーシ内にないサーバ</p>	<p>シャーシ ID "EBS##00" のサーバシャーシ内にあるサーバの検索方法</p> <pre>jscmgetproperty -sr chassis EQ "EBS##00"</pre>
<p>指定された条件を満たすディスク設定を持つサーバー一覧を取得します。</p> <p>値には "ALLOCATED" だけ指定できます。</p>	allocation_disk	EQ NE	<p>EQ : ディスクが割り当てられているサーバ</p> <p>NE : ディスクが割り当てられていないサーバ</p>	<p>ディスクが割り当てられているサーバの検索方法</p> <pre>jscmgetproperty -sr allocation_disk EQ "ALLOCATED"</pre>

注 1

検索は CPU ごとに実行されますが、複数の CPU で構成されるサーバは、すべて同一の CPU で構成されるため、一部の CPU だけが指定条件を満たすことはありません。

ん。

注 2

使用できる数値は $0 \leq n \leq 10^{15}-1$ の整数です。

注意事項

- 次のコマンド実行中に、このコマンドを実行しないでください。また、次のコマンドと同時に実行もしないでください。
 - jscmbackup
 - jscmdeploy
 - jscmrestore
- 絞り込み検索で指定した検索条件の情報が取得できていないサーバについては絞り込み検索の対象としません。
- Control Manager の Web コンソールから DPM シナリオ関連の操作または DPM シナリオを実行している間は、このコマンドを実行しないでください。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN210G0-E	パラメーターが不正です
11	KASN211G0-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN212G0-E	IP アドレスが不正です
15	KASN215G0-E	内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました
21	KASN221G0-E	データベースへの接続に失敗しました
22	KASN222G0-E	SQL 実行エラーが発生しました
23	KASN223G0-E	該当データがありません
24	KASN224G0-E	内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました
32	KASN232G0-E	内部プログラムエラー (BSM 制御) が発生しました
37	KASN237G0-E	指定された管理対象サーバの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

出力データ

静的情報検索の場合

出力結果の書式を以下に示します。静的情報が取得できなかった場合は空文字を表示します。

出力データ	意味
MAC_LIST = MAC アドレス 1[,MAC アドレス 2...]	MAC アドレス
IP_LIST = [IP アドレス 1[,IP アドレス 2...]]	IP アドレス
HOST = [ホスト名]	ホスト名
PACK = [サーバパック 1[,サーバパック 2...]]	サーバパック名
PRODUCT = [プロダクト名]	プロダクト名
CPU_ARCH = [CPU アーキテクチャ 1[,CPU アーキテクチャ 2...]]	CPU アーキテクチャ情報
CPU_NAME = [プロセッサ名 1[,プロセッサ名 2...]]	プロセッサ名
CPU_NUM = [プロセッサ数]	プロセッサ数
CPU_CLOCK = [CPU 最大速度 1[,CPU 最大速度 2...]]	プロセッサ最大速度 [MHz (メガヘルツ)]
CPU_STATE = [CPU 装着状態 1[,CPU 装着状態 2...]] 0 : 未装着状態 , 1 : 装着状態	CPU 装着状態
MEM_SIZE = [総メモリサイズ]	総メモリサイズ [MB]
DISK_SIZE = [ディスクサイズ 1[, ディスクサイズ 2...]]	ディスクサイズ [MB] (ドライブごと)
OS_NAME = [OS 名]	OS 名
OS_VER = [OS バージョン]	OS バージョン
HOTFIX =[ホットフィックス 1[, ホットフィックス 2...]]	ホットフィックス ¹
OS_SP = [サービスパック]	サービスパック
PAR_TYPE = [パーティションタイプ 1[, パーティションタイプ 2...]]	パーティションタイプ (ディスク)
SERIAL_NUM = [シリアル番号]	シリアル番号
SVP_IP = [SVP ボードの IP アドレスまたは HVM IP アドレス]	SVP ボードの IP アドレスまたは HVM IP アドレス ²
CHASSIS = [シャーシ ID]	シャーシ ID
SLOT = [スロット番号 1[, スロット番号 2...]]	スロット番号
PARTITION = [パーティション番号]	パーティション番号

出力データ	意味
ALLOCATION_DISK = [ALLOCATED NOT ALLOCATED] "ALLOCATED" : ディスク割り当て済み "NOT ALLOCATED" : ディスク未割り当て	ディスク設定
N_1_GROUP = [N+1 グループ名]	N+1 グループ名 ³
N_1_STATUS = [N+1 現用系 / 予備系] 0 : 現用系サーバ 1 : 予備系サーバ	N+1 現用系 / 予備系
MODEL_NAME = [機種名]	機種名
VENDOR_NAME = [ベンダ名]	ベンダ名
LPAR_ID = [LPAR の識別子]	LPAR 識別子
PAR_Tech_KIND = [分割技術種別] 0 : Basic 1 : LPAR	論理分割技術の種類 ⁴
PAR_Tech_Mode = [分割技術モード] 0 : Basic モード 1 : LPAR モード	OS モード
PARENT_SYSTEM_MAC = [LPAR モードの物理パーティションの MAC アドレス]	MAC アドレス

注 1

ホットフィックス情報は、レジストリの以下の項目が空文字になっている場合、空文字で表示されることがあります。

```
¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥WindowsNT¥CurrentVersion
¥HotFix¥(ホットフィックス番号)¥Fix Description
```

注 2

SVP ボードとは日立アドバンストサーバ HA8000 および BladeSymphony に搭載され、本体装置の電源制御、およびスケジューリング機能を提供するオプションボードのことです。

注 3

Control Manager で表示する N+1 グループ名はグループ名のあとに BSM Plus の IP アドレスが表示されます。表示例を次に示します。

(例)

```
N_1_GROUP=N1GROUPNAME[10.10.10.10],...
```

注 4

Agent , Advanced Agent のバージョンが 07-xx 以前の場合は、0 が表示されます。

絞り込み検索の場合
出力結果の書式を以下に示します。条件が一致するサーバが見つからない場合は表示されません。

出力データ	意味
[MAC = MAC アドレス 1[,MAC アドレス 2...]]	MAC アドレス

出力例

静的情報検索を実行した場合の出力結果を次に示します。

```
MAC_LIST=00:00:87:62:26:64, 00:00:87:62:26:65, IP_LIST=10. 208. 175. 195. , HOST=IPF-WIN-5, PACK=, PRODUCT=BladeSymphony (GVxA6xA2), CPU_ARCH=IPF Server Module (0x04), IPF Server Module (0x04), CPU_NAME=Itanium(tm) processor, Itanium(tm) processor, CPU_NUM=2, CPU_CLOCK=1600, 1600, CPU_STATE=1, 1, MEM_SIZE=3957, DISK_SIZE=9169, OS_NAME=Windows Server (TM) 2003 (64bit), OS_VER=5. 2, HOTFIX=, OS_SP=Service Pack 1, PAR_TYPE=NTFS, SERIAL_NUM=, SVP_IP=10. 208. 176. 230, CHASSIS=EBS#15, SLOT=0, PARTITION=0, ALLOCATION_DISK=ALLOCATED, N_1_GROUP=1 [10. 209. 146. 154], N_1_STATUS=0, MODEL_NAME=BladeSymphony (GVxA6xA2), VENDOR_NAME=HITACHI, LPAR_ID=, PAR_TECH_KIND=0, PAR_TECH_MODE=0, PARENT_SYSTEM_MAC=,
```

jscmgetslotinfo

形式

指定したサーバシャーシのすべてのスロット情報を取得する場合

```
jscmgetslotinfo -svpip SVPのIPアドレス [-bsmip BSMのIPアドレス]
```

指定したスロットのスロット情報を取得する場合

```
jscmgetslotinfo -svpip SVPのIPアドレス
                  -sno スロット番号 [-bsmip BSMのIPアドレス]
```

指定した引数の値だけを表示する場合

```
jscmgetslotinfo -svpip SVPのIPアドレス
                  -sno スロット番号
                  {-pno | -mtp | -allo | -n_1 | -clk}
                  [-bsmip BSMのIPアドレス]
```

機能

指定したサーバシャーシのすべてのスロット情報を取得する場合

引数で指定したサーバシャーシのすべてのスロット情報を取得し、一覧で表示します。

指定したスロットのスロット情報を取得する場合

引数で指定したサーバシャーシのすべてのスロット情報を取得し、指定したスロットの情報だけを1行で表示します。

指定した引数の値だけを表示する場合

引数で指定したサーバシャーシのすべてのスロット情報を取得し、指定したスロットの指定した項目の値だけを表示します。

引数

-svpip SVP の IP アドレス

サーバシャーシの SVP モジュールの IP アドレスを指定します。指定範囲は 0 ~ 255 の半角数字です。ただし、0.0.0.0 または 255.255.255.255 は使用できません。

-sno スロット番号

一つのスロット番号の情報だけを表示する場合に指定します。スロット番号の指定範囲は、0 ~ 254 の半角数字です。「010」のように 0 から始まる場合は、「10」のように最初の 0 を省略してください。

-bsmip BSM の IP アドレス

指定したサーバシャーシを管理している BSM の IP アドレスを指定します。指定範囲は、0 ~ 255 の半角数字です。ただし、0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。

ん。BSM の IP アドレスを指定した場合は、指定した BSM から対象のサーバシャーシを検索します。したがって、コマンドの応答時間が短縮されます。BSM の IP アドレスを指定しない場合は、Control Manager に登録されているすべての BSM から対象のサーバシャーシを検索します。

-pno

スロットのパーティション番号だけを表示する場合に指定します。

-mtp

スロットのモジュールタイプだけを表示する場合に指定します。

-allo

スロットのホストグループ割り当て状態だけを表示する場合に指定します。

-n_1

スロットの N+1 グループの登録状態だけを表示する場合に指定します。

-clk

CPU のクロック周波数だけを表示する場合に指定します。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN2000A-E	パラメーターが不正です
	KASN20385-E	
	KASN20EDA-E	
12	KASN2000C-E	IP アドレスが不正です
15	KASN2FFFF-E	内部プログラムエラー（CMD 制御）が発生しました
21	KASN207D0-E	データベースへの接続に失敗しました
23	KASN209C4-E	該当データがありません
24	KASN207DA-E	内部プログラムエラー（DB 制御）が発生しました
	KASN20B54-E	
	KASN20BAE-E	
30	KASN20BD2-E	BSM 連携エラーです
	KASN20BCC-E	
	KASN20BDB-E	
32	KASN20BBA-E	内部プログラムエラー（BSM 制御）です

戻り値	メッセージ ID	意味
	KASN203ED-E	
	KASN20BD1-E	
33	KASN203F0-E	Hitachi Control Manager Service エラーです
	KASN203F4-E	
	KASN20BDA-E	
37	KASN20ED9-E	指定された管理対象サーバの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした
50	KASN20BD0-E	ほかのオペレーションが実行中です
57	KASN20EDB-E	コマンドの実行に失敗しました
	KASN20EDD-E	
60	KASN203F2-E	BSM アクセスタイムアウトエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

出力データ

出力結果の書式を次に示します。一つの項目を限定して表示する場合に指定するオプション名を「限定表示」に示します。

なお、指定した引数の値だけを表示する場合、出力結果には値だけが出力されます。「SLOT_NO =」、「PARTITION_NO =」などの出力データの項目名は出力されません。出力結果については、出力例を参照してください。

出力データ	意味	限定表示
SLOT_NO = スロット番号	スロット番号	なし
PARTITION_NO = パーティション番号 -1: 取得不可, -9: 構成しているパーティションがない	現在スロットが構成しているパーティション番号	-pno
MODULE_TYPE = モジュールタイプ -1: 取得不可	モジュールタイプ	-mtp
ALLOCATION = ホストグループ割り当て 0: 割り当てなし, 1: 割り当て済み, -1: 取得不可	BSM のホストグループ割り当て状態	-allo

出力データ	意味	限定表示
N ₁ = N+1 登録状態 0 : 登録されていない , 1 : 登録されている , -1 : 取得不可	スロットの N+1 グループ登録状態	-n ₁
CPU_CLOCK = CPU クロック周波数 1[CPU クロック周波数 2...]	CPU クロック周波数 (単位 : MHz)	-clk
-1 : 取得不可 , -9 : CPU 未搭載		

注

SVP の内部異常時は , 出力データを取得できず取得不可を示す場合と , コマンドがエラーリターンする場合があります。

出力例

このコマンドの出力例を次に示します。

指定したサーバシャーシのすべてのスロット情報を取得する場合

```

SLOT_NO=0, PARTITION_NO=0, MODULE_TYPE=IPF Server
Module (0x04) , N_1=0, ALLOCATION=0, CPU_CLOCK=1400. 1400,
SLOT_NO=1, PARTITION_NO=0, MODULE_TYPE=IPF Server
Module (0x04) , N_1=0, ALLOCATION=0, CPU_CLOCK=1400. 1400,
SLOT_NO=2, PARTITION_NO=2, MODULE_TYPE=IPF Server
Module (0x04) , N_1=0, ALLOCATION=0, CPU_CLOCK=1400. 1400,
SLOT_NO=3, PARTITION_NO=3, MODULE_TYPE=Don't
Care (0x00) , N_1=0, ALLOCATION=0, CPU_CLOCK=-9,
SLOT_NO=4, PARTITION_NO=4, MODULE_TYPE=IA32 Server
Module (0x80) , N_1=0, ALLOCATION=0, CPU_CLOCK=3200. 3200,
SLOT_NO=5, PARTITION_NO=-9, MODULE_TYPE=IA32 Server
Module (0x80) , N_1=0, ALLOCATION=0, CPU_CLOCK=3200. 3200,
SLOT_NO=6, PARTITION_NO=6, MODULE_TYPE=IA32 Server
Module (0x80) , N_1=1, ALLOCATION=1, CPU_CLOCK=3200. 3200,
SLOT_NO=7, PARTITION_NO=7, MODULE_TYPE=IA32 Server
Module (0x80) , N_1=1, ALLOCATION=1, CPU_CLOCK=3200. 3200,

```

指定したスロットのスロット情報を取得する場合

```

SLOT_NO=0, PARTITION_NO=0, MODULE_TYPE=IPF Server
Module (0x04) , N_1=0, ALLOCATION=0, CPU_CLOCK=1400. 1400,

```

指定した引数の値だけを表示する場合

jscmgetslotinfo

0

jscmnpactivate

形式

```
jscmnpactivate { -i IPアドレス | -m MACアドレス } [-force]
```

機能

指定した IP アドレスまたは MAC アドレスの予備系サーバを現用系にします。予備系サーバとは、現用系サーバでの障害発生によって、切り替わった予備系サーバのことです。

引数

-i IP アドレス

現用系にする予備系サーバの IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

現用系にする予備系サーバの MAC アドレスを指定します。

-force

予備系サーバを運用中に、パーティションの削除やサーバモジュールの抜去によって予備系サーバが「コールドスタンバイ警告」になる場合、条件によっては **-force** 引数を指定することで予備系サーバを現用系サーバにできます。また、予備系サーバに対応する現用系サーバを N+1 コールドスタンバイから解除できます。

なお、**-force** が実行できる条件については、注意事項を参照してください。

注意事項

- N+1 コールドスタンバイを制御するコマンドを実行し、制御に成功したあと、切り替え後のサーバが起動されるまでの間に、そのサーバに、次に示すコマンドを実行するとエラーになります。
 - jscmstartserver
 - jscmstopserver
 - jscmstopos
 - jscmstate
- このコマンドは、N+1 コールドスタンバイの冗長化構成に対応していません。

- サーバモジュール抜去後、モジュールタイプが異なるサーバモジュールを挿入した場合には、`-force` を指定してもこのコマンドの実行に失敗します。なお、モジュールタイプが異なるサーバモジュールを挿入する場合とは、IA32 サーバモジュールを抜去して IPF サーバモジュールを挿入する場合や、IPF サーバモジュールを抜去して IA32 サーバモジュールを挿入する場合の事です。
- このコマンドは、Control Manager に IP アドレスが登録されていない状態では、`-i` で指定しても `-m` で指定してもエラーになります。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN2000A-E	パラメーター指定エラーです
11	KASN2000B-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN2000C-E	IP アドレスが不正です
15	KASN2FFFF-E	内部プログラムエラー（CLI）です
21	KASN207D0-E	DB 制御アクセスエラーです
24	KASN20BAE-E	内部プログラムエラー（DB 制御）です
30	KASN20BCC-E	BSM 連携エラーです
	KASN20BCD-E	
	KASN20BCE-E	
	KASN20BD2-E	
	KASN20BDB-E	
31	KASN20BD3-E	BSM 連携エラー（情報取得失敗）です
	KASN20BD4-E	
32	KASN203ED-E	内部プログラムエラー（BSM 制御）です
	KASN203F3-E	
	KASN20BBA-E	
	KASN20BD1-E	
33	KASN203F0-E	Hitachi Control Manager Service エラーです
	KASN203F4-E	
	KASN20BDA-E	
37	KASN203EF-E	指定サーバなしエラーです
	KASN20BBF-E	
	KASN20BDC-E	
	KASN20CE4-E	
50	KASN20BD0-E	ほかのオペレーションが実行中です

戻り 値	メッセージ ID	意味
51	KASN20BCF-E	JP1/HiCommand Device Manager アクセスエラーです
53	KASN20BD8-E	N+1 コールドスタンバイ実行エラーです
	KASN20CE5-E	
	KASN20CE6-E	
	KASN20CE7-E	
	KASN20CE8-E	
	KASN20CE9-E	
	KASN20CEA-E	
60	KASN203F2-E	BSM アクセスタイムアウトエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

jscmnprecover

形式

```
jscmnprecover { -i IPアドレス | -m MACアドレス } [-power { on | off }] [-force]
```

機能

指定した IP アドレスまたは MAC アドレスの予備系サーバに対応する現用系サーバの復帰を実行します。予備系サーバとは、現用系サーバでの障害発生によって、切り替わった予備系サーバのことです。

引数

-i IP アドレス

復帰する予備系サーバの IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

復帰する予備系サーバの MAC アドレスを指定します。

-power { on | off }

復帰完了後、復帰された現用系サーバの電源制御を指定します。

- on : 電源を ON にする。
- off : 電源を ON にしない。

指定を省略した場合、「on」が指定されたものとして動作します。

-force

予備系サーバを運用中に、一時的な障害によって予備系サーバから現用系サーバへの復帰を実行できない場合、条件によっては -force を指定することで予備系サーバから現用系サーバへ復帰できます。

-force が実行できる条件については、注意事項を参照してください。

注意事項

- N+1 コールドスタンバイを制御するコマンドを実行し、制御が成功したあと、切り替え後のサーバが起動されるまでの間にそのサーバに、次に示すコマンドを実行すると

エラーになります。

- jscmstartserver
 - jscmstopserver
 - jscmstopos
 - jscmstate
- このコマンドは、N+1 コールドスタンバイの冗長化構成に対応していません。
 - -power off を指定してこのコマンドを実行し、切り替えに成功した場合、jscmstartserver コマンドを使用したサーバの起動はできません。サーバを起動するためには SVP のコマンドまたは手で電源を入れてください。
 - -force を指定したときに実行できる条件
 予備系サーバで運用中に、一時的な障害によって予備系サーバから現用系サーバへの復帰を実行できない場合、-force 引数を指定することで予備系サーバから現用系サーバへ復帰できます。
 次に -force 引数を指定することで復帰が実行できる条件を示します。

1. BSM のコンソールサービスで現用系サーバの状態が「エラー検知」と表示された場合

予備系サーバで運用中に、現用系サーバの状態が「エラー検知」と表示された場合、-force 引数を指定すると復帰を実行できます。ただし、次の条件の場合は -force 引数を指定しても実行できません。

- (i) 現用系サーバのパーティションが変更された。
- (ii) 現用系サーバのサーバモジュールを抜去して、抜去する前と異なるモジュールタイプのサーバモジュールを挿入した（IA32 サーバモジュールを抜去して、IPF サーバモジュール挿入する場合や、IPF サーバモジュールを抜去して、IA32 サーバモジュールを挿入する場合）。

これらの理由で復帰が実行できない場合、次の操作を実行すると復帰できます。

- (i) 変更したパーティションを変更前の状態に戻し、-force 引数を指定して実行する。
- (ii) 抜去した現用系サーバのサーバモジュールと同じモジュールタイプのサーバモジュールを挿入し、-force 引数を指定して実行する。

注意

BSM のコンソールサービスで現用系サーバの状態が「エラー検知」と表示され、予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ警告」と表示された場合は、条件 2. を参照してください。また、現用系サーバの状態が「エラー検知」と表示され、予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ失敗」と表示された場合、条件 3. も参照してください。

2. BSM のコンソールサービスで予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ警告」と表示された場合

予備系サーバで運用中に、予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ警告」と表示された場合、この引数を指定すると復帰を実行できます。ただし、予備系サーバのパーティションを変更している場合は、-force 引数を指定しても実行できません。-force 引数を実行できない場合は、変更したパーティション

を変更前の状態に戻すと復帰を実行できます。

3. 現用系サーバへの復帰に失敗する場合

現用系サーバへの復帰に失敗すると、BSM のコンソールサービスで現用系サーバの状態が「エラー検知」と表示されます。また、予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ失敗」と表示されます。この状態で `-force` 引数を指定すると復帰を実行できます。ただし、復帰を再実行する場合、あらかじめ復帰に失敗した要因を取り除いておいてください。

また、サーバモジュールの抜去によって、予備系サーバのパーティションが未確定になった場合は、手動でサーバを起動してください。

復帰に失敗した要因を取り除いても、再度失敗する場合は、「JP1/

ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド」に記載されている手順に従って環境を回復してください。

次に復帰に失敗する例を示します。

- ・ネットワークの断線、またはネットワーク負荷などによって HDvM へのアクセスに失敗し、BSM のコンソールサービスで予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ失敗」と表示された場合。
- ・現用系サーバの電源制御に失敗し、BSM のコンソールサービスで予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ失敗」と表示された場合。
- ・ハードウェア装置の変更や、スイッチ & マネジメントモジュールのパスワード変更などによって、現用系サーバへの復帰が失敗し、BSM のコンソールサービスで予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ失敗」と表示された場合。

なお、N+1 / N+M コールドスタンバイについては、マニュアル「JP1/

ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド」を参照してください。

- ・このコマンドは、Control Manager に IP アドレスが登録されていない状態では、`-i` で指定しても `-m` で指定してもエラーになります。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN2000A-E	パラメーター指定エラーです
11	KASN2000B-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN2000C-E	IP アドレスが不正です
15	KASN2FFFF-E	内部プログラムエラー（CLI）です
21	KASN207D0-E	DB 制御アクセスエラーです
24	KASN20BAE-E	内部プログラムエラー（DB 制御）です

戻り値	メッセージ ID	意味
30	KASN20BCC-E	BSM 連携エラーです
	KASN20BCD-E	
	KASN20BCE-E	
	KASN20BD2-E	
	KASN20BDB-E	
31	KASN20BD3-E	BSM 連携エラー（情報取得失敗）です
	KASN20BD4-E	
32	KASN203ED-E	内部プログラムエラー（BSM 制御）です
	KASN203F3-E	
	KASN20BBA-E	
	KASN20BD1-E	
33	KASN203F0-E	Hitachi Control Manager Service エラーです
	KASN203F4-E	
	KASN20BDA-E	
37	KASN203EF-E	指定サーバなしエラーです
	KASN20BBF-E	
	KASN20BDC-E	
	KASN20C80-E	
50	KASN20BD0-E	ほかのオペレーションが実行中です
51	KASN20BCF-E	JP1/HiCommand Device Manager アクセスエラーです
53	KASN20BD5-E	N+1 コールドスタンバイ実行エラーです
	KASN20BD6-E	
	KASN20BD7-E	
	KASN20BD8-E	
	KASN20BDD-E	
	KASN20BDE-E	
	KASN20C81-E	
	KASN20C82-E	
	KASN20C83-E	
	KASN20C84-E	
	KASN20C85-E	
	KASN20C86-E	
	KASN20C87-E	
	KASN20C88-E	
60	KASN203F2-E	BSM アクセスタイムアウトエラーです

戻り値	メッセージ ID	意味
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

jscmnpswitch

形式

```
jscmnpswitch { -i IPアドレス | -m MACアドレス } [-power { on | off }] [-force]
```

機能

指定した IP アドレスまたは MAC アドレスの現用系サーバの手動切り替えを実行します。

引数

-i IP アドレス

切り替え元となる現用系サーバの IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

切り替え元となる現用系サーバの MAC アドレスを指定します。

-power { on | off }

切り替え完了後、切り替わった予備系サーバの電源制御を指定します。

- on：電源を ON にする。
- off：電源を ON にしない。

指定を省略した場合、「on」が指定されたものとして動作します。

-force

現用系サーバで運用中に、一時的な障害によって現用系サーバから予備系サーバへの切り替えが実行できない場合、条件によっては -force 引数を指定することで切り替えを実行できます。

なお、-force が実行できる条件については、注意事項を参照してください。

注意事項

- N+1 コールドスタンバイ制御のコマンドを実行し、制御に成功したあと、切り替え後のサーバが起動されるまでの間に、そのサーバへ次のコマンドを実行するとエラーになります。

- jscmstartserver
- jscmstopserver
- jscmstopos
- jscmstate

- このコマンドは、N+1 コールドスタンバイの冗長化構成に対応していません。
- -power off を指定してこのコマンドを実行し、切り替えに成功した場合、jscmstartserver コマンドを使用したサーバの起動はできません。サーバを起動するためには、SVP のコマンドまたは手動で電源を ON にしてください。
- -force を指定したときに実行できる条件

現用系サーバで運用中に、一時的な障害によって現用系サーバから予備系サーバへの切り替えが実行できない場合、-force を指定することで現用系サーバから予備系サーバへ切り替えできます。

次に -force を指定すると切り替えが実行できる条件を示します。

現用系サーバから予備系サーバへの切り替えに失敗すると、現用系サーバの状態が「エラー検知」、予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ失敗」になります。この状態で現用系サーバを 2 台以上登録している場合、現用系サーバの状態が「正常」または「障害発生」のサーバに -force を指定することで切り替えできます。一つの N+1 グループに現用系サーバが 1 台だけ登録されている場合、-force を指定しても切り替えできません。この場合、N+1 グループから現用系サーバ、予備系サーバのサーバモジュールを再登録してください。

なお、-force を指定して手動切り替えを再実行する前に、あらかじめ切り替えに失敗した要因を取り除いておいてください。

予備系サーバのサーバモジュールが「コールドスタンバイ警告」の場合、-force を指定しても実行できません。この場合、警告の要因を取り除いたあと、予備系サーバのサーバモジュールを再登録してください。

また、パーティションが削除されたりサーバモジュールが抜去されたりなど、現用系サーバのパーティションが未確定になった場合は、手動でサーバを起動してください。もし、切り替えに失敗した要因を取り除いても再度失敗する場合は、マニュアル「JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド」に記載されている手順に従って環境を回復してください。

次に切り替えに失敗する例を示します。

- ネットワークの断線、またはネットワーク負荷などによって HDvM へのアクセスに失敗し、予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ失敗」になった場合。
- 予備系サーバモジュールの電源制御に失敗し、予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ失敗」になった場合。
- ハードウェア装置の変更や、スイッチ & マネジメントモジュールのパスワード変更などによって、予備系サーバのサーバモジュールへの手動切り替えが失敗し、予備系サーバのサーバモジュールの状態が「コールドスタンバイ失敗」になった場合。
- このコマンドは、Control Manager に IP アドレスが登録されていない状態では、-i で指定しても -m で指定してもエラーになります。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN2000A-E	パラメーター指定エラーです
11	KASN2000B-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN2000C-E	IP アドレスが不正です
15	KASN2FFFF-E	内部プログラムエラー（CLI）です
21	KASN207D0-E	DB 制御アクセスエラーです
24	KASN20BAE-E	内部プログラムエラー（DB 制御）です
30	KASN20BCC-E	BSM 連携エラーです
	KASN20BCD-E	
	KASN20BCE-E	
	KASN20BD2-E	
	KASN20BDB-E	
31	KASN20BD3-E	BSM 連携エラー（情報取得失敗）です
	KASN20BD4-E	
32	KASN203ED-E	内部プログラムエラー（BSM 制御）です
	KASN203F3-E	
	KASN20BBA-E	
	KASN20BD1-E	
33	KASN203F0-E	Hitachi Control Manager Service エラーです
	KASN203F4-E	
	KASN20BDA-E	
37	KASN203EF-E	指定サーバなしエラーです
	KASN20BBF-E	
	KASN20BDC-E	
	KASN20C1C-E	
	KASN20C20-E	
50	KASN20BD0-E	ほかのオペレーションが実行中です
51	KASN20BCF-E	JP1/HiCommand Device Manager アクセスエラーです

戻り値	メッセージ ID	意味
53	KASN20BD5-E	N+1 コールドスタンバイ実行エラーです
	KASN20BD6-E	
	KASN20BD7-E	
	KASN20BD8-E	
	KASN20BDD-E	
	KASN20BDE-E	
	KASN20C1D-E	
	KASN20C1E-E	
	KASN20C1F-E	
	KASN20C25-E	
	KASN20C26-E	
	KASN20C27-E	
	KASN20C28-E	
	KASN20C29-E	
55	KASN20C2A-E	実行対象外エラーです
60	KASN203F2-E	BSM アクセスタイムアウトエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

jscmsmp -del (パーティションの削除)

形式

```
jscmsmp -del -svpip SVPのIPアドレス -pno パーティション番号
[-bsmip BSMのIPアドレス]
```

機能

指定したパーティションを削除します。

引数

-del

指定したパーティションを削除します。

-svpip SVP の IP アドレス

サーバシャーシの SVP モジュールの IP アドレスを指定します。指定範囲は 0 ~ 255 の半角数字です。ただし、0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。

-pno パーティション番号

削除するパーティション番号を指定します。パーティション番号の指定範囲は、0 ~ 254 の半角数字です。「010」のように 0 から始まる場合は、「10」のように最初の 0 を省略してください。

-bsmip BSM の IP アドレス

指定したサーバシャーシを管理している BSM の IP アドレスを指定します。指定範囲は、0 ~ 255 の半角数字です。ただし、0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。BSM の IP アドレスを指定した場合は、指定した BSM から対象のサーバシャーシを検索します。したがって、コマンドの応答時間が短縮されます。BSM の IP アドレスを指定しない場合は、Control Manager に登録されているすべての BSM から対象のサーバシャーシを検索します。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN2000A-E	パラメーター指定エラーです
	KASN20384-E	
	KASN20E79-E	
12	KASN2000C-E	IP アドレスが不正です
15	KASN2FFFF-E	内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました

戻り値	メッセージ ID	意味
21	KASN207D0-E	DB 制御アクセスエラーです
23	KASN209C4-E	該当データがありません
24	KASN207DA-E	内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました
	KASN20B54-E	
	KASN20BAE-E	
30	KASN20BCC-E	BSM 連携エラーです
	KASN20BCD-E	
	KASN20BD2-E	
	KASN20BDB-E	
32	KASN20BBA-E	内部プログラムエラー (BSM 制御) です
	KASN203ED-E	
	KASN20BD1-E	
33	KASN203F0-E	Hitachi Control Manager Service エラーです
	KASN203F4-E	
	KASN20BDA-E	
37	KASN20E76-E	指定された管理対象サーバの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした
50	KASN20BD0-E	ほかのオペレーションが実行中です
56	KASN20BDE-E	コマンドの実行に失敗しました
	KASN20E77-E	
	KASN20E78-E	
	KASN20E7A-E	
	KASN20E7C-E	
	KASN20E89-E	
58	KASN20E7D-E	指定したパーティションのパーティション情報ステータスが無し (0x00) のためコマンドを実行できませんでした
60	KASN203F2-E	BSM アクセスタイムアウトエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

注意事項

- このコマンドの実行時に BSM のコンソールサービスの更新モードで BSM にアクセスしないでください。
- このコマンドを実行中は、SMP 構成を変更しているおそれがあるため、[Ctrl] + [C] キーでコマンドの強制終了、または Hitachi Control Manager Service を停止しないでください。

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

jscmsmp -get (パーティション詳細情報の取得)

形式

指定したサーバシャーシのすべてのパーティション詳細情報を取得する場合

```
jscmsmp -get
      -svpip SVPのIPアドレス
      [-bsmip BSMのIPアドレス]
```

指定したパーティションのパーティション詳細情報を取得する場合

```
jscmsmp -get
      -svpip SVPのIPアドレス
      -pno パーティション番号 [-bsmip BSMのIPアドレス]
```

指定した引数の値だけを表示する場合

```
jscmsmp -get
      -svpip SVPのIPアドレス
      -pno パーティション番号
      {-pstate | -sno | -slist | -os | -td | -pow | -prec | -ht
      | -hdd | -agt | -hvmip}
      [-bsmip BSMのIPアドレス]
```

機能

指定したサーバシャーシのすべてのパーティション詳細情報を取得する場合

引数で指定したサーバシャーシのすべてのパーティション詳細情報を取得し、取得したすべての情報を一覧で表示します。

指定したパーティションのパーティション詳細情報を取得する場合

引数で指定したサーバシャーシのすべてのパーティション詳細情報を取得し、指定したパーティションの情報だけを一行で表示します。

指定した引数の値だけを表示する場合

引数で指定したサーバシャーシのすべてのパーティション詳細情報を取得し、指定したパーティションの指定した項目の値だけを表示します。

引数

-get

Control Manager で管理されているサーバシャーシ内のパーティション詳細情報を取得する場合に指定します。

-svpip SVP の IP アドレス

サーバシャーシの SVP モジュールの IP アドレスを指定します。指定範囲は 0 ~ 255 の半角数字です。ただし、0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。

-pno パーティション番号

表示したいパーティション番号を指定します。パーティション番号の指定範囲は 0 ~ 254 の半角数字です。「010」のように 0 から始まる場合は、「10」のように最初の 0 を省略してください。

-bsmip BSM の IP アドレス

指定したサーバシャーシを管理している BSM の IP アドレスを指定します。指定範囲は、0 ~ 255 の半角数字です。ただし、0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。BSM の IP アドレスを指定した場合は、指定した BSM から対象のサーバシャーシを検索します。したがって、コマンドの応答時間が短縮されます。BSM の IP アドレスを指定しない場合は、Control Manager に登録されているすべての BSM から対象のサーバシャーシを検索します。

-pstate

パーティション情報ステータスだけを表示する場合に指定します。

-sno

パーティション構成のスロット番号リストだけを表示する場合に指定します。

-slist

パーティションを構成できるスロット番号リストだけを表示する場合に指定します。

-os

OS 種類だけを表示する場合に指定します。

-td

SVP-BMC 時刻差だけを表示する場合に指定します。

-pow

パネルスイッチ連動機能の有無だけを表示する場合に指定します。

-prec

Pre-Configure 機能の有無だけを表示する場合に指定します。

-ht

Hyper-Threading 機能の無効指定だけを表示する場合に指定します。

-hdd

HDD の容量だけを表示する場合に指定します。

-agt

Agent のインストール状態だけを表示する場合に指定します。

-hvmip

HVM IP アドレスだけを表示する場合に指定します。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN2000A-E	パラメーター指定エラーです
	KASN20384-E	
	KASN20E79-E	
12	KASN2000C-E	IP アドレスが不正です
15	KASN2FFFF-E	内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました
21	KASN207D0-E	DB 制御アクセスエラーです
23	KASN209C4-E	該当データがありません
24	KASN207DA-E	内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました
	KASN20B54-E	
	KASN20BAE-E	
30	KASN20BCC-E	BSM 連携エラーです
	KASN20BD2-E	
	KASN20BDB-E	
32	KASN203ED-E	内部プログラムエラー (BSM 制御) です
	KASN20BBA-E	
	KASN20BD1-E	
33	KASN203F0-E	Hitachi Control Manager Service エラーです
	KASN203F4-E	
	KASN20BDA-E	
37	KASN20E76-E	指定された管理対象サーバの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした
50	KASN20BD0-E	ほかのオペレーションが実行中です
56	KASN20E88-E	コマンドの実行に失敗しました
59	KASN20E7A-E	シャーシ状態遷移中のため情報取得不可
60	KASN203F2-E	BSM アクセスタイムアウトエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

- HVM_IP の値は、パーティション作成後に電源 ON をし HVM の初期化が完了してから情報が更新されます。情報更新前は、次の条件により表示される内容が変わります。
 - (1) BSM に該当パーティションの HVM の登録がある場合
情報更新前の HVM の IP アドレスが表示されます
 - (2) BSM に該当パーティションの HVM の登録がない場合
-1 が表示されます
ただし、BSM から HVM の登録を削除した後、Control Manager を再起動していない場合は (1) の値が表示されます。
- 同一シャーン内にパーティション初期化中または削除中のパーティションがある場合、メッセージ ID が KASN20E7A-E、戻り値が 59 でエラーリターンします。この場合は、しばらく待ってからコマンドを再度実行してください。ただし、Pre-Configure 実行中はコマンドが正常終了し、取得値のパーティション情報ステータスが状態遷移中 (0x01) となります。
- HDD 容量は次のどちらかの条件を満たす場合、0 が表示されます。
 - (1) シャーンが BS1000 であり、該当パーティションに HDD モジュールがない場合
 - (2) シャーンが BS320 であり、該当パーティションの HDD Interface の設定値が unknown である場合

出力データ

出力結果の書式を次に示します。一つの項目を限定して表示する場合に指定するオプション名を「限定表示」に示します。-pno オプションを指定しない場合にその項目が表示されるかどうかを「-pno なし」に示します。

なお、指定した引数の値だけを表示する場合、出力結果には値だけが出力されます。「PARTITION_NO =」、「PARTITION_STATE =」などの出力データの項目名は出力されません。出力結果については、出力例を参照してください。

出力データ	意味	限定表示	-pno なし
PARTITION_NO = パーティション番号	パーティション番号	なし	
PARTITION_STATE = パーティション情報ステータス 0: なし, 1: 状態遷移中, 2: 作成済み使用不可, 3: 作成済み使用可, -1: 取得不可	現在のパーティション情報ステータス	-pstate	
SLOT_NO = スロット番号 1[.スロット番号 2...] -1: 取得不可, -9: パーティションを構成するスロットがない	現在パーティションを構成しているスロット番号のリスト	-sno	

出力データ	意味	限定表示	-pno なし
SMP_LIST = スロット番号 1[.スロット番号 2...] -1 : 取得不可	パーティション 作成時に最大 SMP 構成を組む ことができるス ロット番号リス ト	-slist	
OS_KIND = OS 種類 0 : Don't Care , 1 : Windows , 2 : Linux , 3 : HP-UX , 4 : HVM , -1 : 取得不可	OS 種類	-os	×
TIME_DIFF = SVP-BMC 時刻差 -999 : 取得不可	SVP-BMC 時刻 差	-td	×
COLLECTIVE_POW = パネルスイッチ連動機能 0 : Enable , 1 : Disable , -1 : 取得不可	パネルスイッチ 連動機能	-pow	×
PRE_CONF = Pre-Configure 機能 0 : Disable , 1 : Enable , -1 : 取得不可	Pre-Configure 機能	-prec	×
HYPER_THREADING = Hyper-Threading 機能 0 : Processor Default , 1 : Hyper Thread Disable , -1 : 取得不可	Hyper-Threading 機能	-ht	×
HDD = HDD 容量 -1 : 取得不可	HDD 容量	-hdd	×
AGT_INST = Agent インストール 0 : Not Installed , 1 : Installed , -1 : 取得不可	Agent インス トール	-agt	×
HVM_IP = HVM IP アドレス -1 : 取得不可	HVM IP アドレ ス	-hvmip	×

(凡例)

: 表示されます。

× : 表示されません。

情報取得の可否

パーティションの状態によって取得できる項目の一覧を次に示します。

項目	パーティションの状態			
	無し	状態遷移中	作成済み 使用不可	作成済み 使用可
パーティション番号				
パーティション情報ステータス				
パーティション構成スロット番号	-	×	×	
構成可能スロット番号		×	×	
OS 種類	×	×	×	
SVP・BMC 時刻差	×	×	×	
Pre-Configure 機能	×	×	×	
パネルスイッチ連動機能	×	×	×	
Hyper-Threading 無効指定	×	×	×	
HDD 容量設定	×	×	×	
Agent インストール	×	×	×	

(凡例)

- : 取得できます。
- × : 取得できません。
- : データがありません。

出力例

このコマンドの出力例を次に示します。

指定したサーバシャーシのすべてのパーティション詳細情報を取得する場合

```

PARTITION_NO=0, PARTITION_STATE=3, SLOT_NO=0. 1, SMP_LIST=0. 1. 2. 3,
PARTITION_NO=1, PARTITION_STATE=0, SLOT_NO=-9, SMP_LIST=1,
PARTITION_NO=2, PARTITION_STATE=3, SLOT_NO=2, SMP_LIST=2. 3,
PARTITION_NO=3, PARTITION_STATE=3, SLOT_NO=3, SMP_LIST=3,
PARTITION_NO=4, PARTITION_STATE=0, SLOT_NO=-9, SMP_LIST=4. 5. 6. 7,
PARTITION_NO=5, PARTITION_STATE=3, SLOT_NO=5, SMP_LIST=5,
PARTITION_NO=6, PARTITION_STATE=1, SLOT_NO=-1, SMP_LIST=-1,
PARTITION_NO=7, PARTITION_STATE=3, SLOT_NO=7, SMP_LIST=7,

```

指定したパーティションのパーティション詳細情報を取得する場合

```

PARTITION_NO=0, PARTITION_STATE=3, SLOT_NO=0. 1, SMP_LIST=0. 1. 2. 3,
OS_KIND=3, TIME_DIFF=-540, COLLECTIVE_POW=0, PRE_CONF=0, HYPER_TH
READING=0, HDD=0, AGT_INST=1, HVM_IP=0. 0. 0. 0,

```

指定した引数の値だけを表示する場合

3

jscmsmp -new (パーティションの作成)

形式

OS 種類に HVM を指定しないでパーティションを作成する場合

```
jscmsmp -new
-svipip SVPのIPアドレス
-sno スロット番号リスト
[-bsmip BSMのIPアドレス] [-os OS種類]
[-td SVP-BMC時刻差] [-pow パネルスイッチ連動機能]
[-prec Pre-Configure機能] [-ht Hyper-Threading無効指定]
[-hdd HDD容量] [-agt Agentインストール] [-ccn ccNuma機能]
```

OS 種類に HVM を指定してパーティションを作成する場合

```
jscmsmp -new
-svipip SVPのIPアドレス
-sno スロット番号リスト
[-bsmip BSMのIPアドレス]
-os HVM
-hvmip HVM IPアドレス
[-pow パネルスイッチ連動機能] [-prec Pre-Configure機能]
```

機能

OS 種類に HVM を指定しないでパーティションを作成する場合

HVM 以外の OS 種類を使用してパーティションを作成します。パーティション作成時は、指定した値を使用してパーティション詳細情報を設定します。

OS 種類に HVM を指定してパーティションを作成する場合

OS 種類を HVM に指定してパーティションを作成します。パーティション作成時は、指定した値を使用してパーティション詳細情報を設定します。OS 種類が HVM の場合は HVM IP アドレスを設定してください。SVP-BMC 時刻差、Hyper-Threading 無効指定、HDD 容量、Agent インストール、および ccNuma 機能は指定できません。

なお、IA32 では、複数の BladeServer を指定したパーティションを作成できません。

引数

-new

指定したスロットを使用してパーティションを作成します。パーティション作成時は、次に示す引数を使用してパーティション詳細情報を設定します。なお、指定できる引数は、OS 種類によって異なります。

- -sno スロット番号リスト
- -os OS 種類
- -td SVP-BMC 時刻差

- -pow パネルスイッチ連動機能
- -prec Pre-Configure 機能
- -ht Hyper-Threading 無効指定
- -hdd HDD 容量
- -agt Agent インストール
- -ccn ccNuma 機能
- -hvmip HVM IP アドレス

-svpip SVP の IP アドレス

サーバシャーシの SVP モジュールの IP アドレスを指定します。指定範囲は 0 ~ 255 の半角数字です。ただし、0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。

-sno スロット番号リスト

パーティションを構成するスロット番号を ", "(コンマ) で区切って指定します。スロット番号の指定範囲は、0 ~ 254 の半角数字です。「010」のように 0 から始まる場合は、「10」のように最初の 0 を省略してください。リストは、昇順で連続した数値を指定してください。

-bsmip BSM の IP アドレス

指定したサーバシャーシを管理している BSM の IP アドレスを指定します。指定範囲は、0 ~ 255 の半角数字です。ただし、0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。BSM の IP アドレスを指定した場合は、指定した BSM から対象のサーバシャーシを検索します。したがって、コマンドの応答時間が短縮されます。BSM の IP アドレスを指定しない場合は、Control Manager に登録されているすべての BSM から対象のサーバシャーシを検索します。

-os OS 種類 { 0 | 1 | 2 | 3 | 4 }

パーティションで動作する OS の種類を指定します。なお、指定を省略した場合は、「Don't Care」が指定されたものとして動作します。

- 0 : Don't Care
- 1 : Windows
- 2 : Linux
- 3 : HP-UX
- 4 : HVM

-td SVP-BMC 時刻差 { -nnn | [+]nnn }

SVP と BMC の時刻差 (単位: 分) を設定します。この引数は、OS 種類が HP-UX の場合だけ使用できます。指定範囲はマイナス (-) の場合は 1 ~ 719 です。プラス (+) の場合は 0 ~ 720 です。「010」のように 0 から始まる場合は、「10」のように最初の 0 を省略してください。記号はプラス (+) の場合だけ省略できます。指定を省略した場

合は、0 (単位：分) が指定されたものとして動作します。なお、OS 種類に HVM が設定されている場合は、0 (単位：分) に固定されます。

-pow パネルスイッチ連動機能 { 0 | 1 }

パネルスイッチ連動機能の有効または無効を設定します。なお、指定を省略した場合は、「Enable」が指定されたものとして動作します。

- 0 : Enable
- 1 : Disable

-prec Pre-Configure 機能 { 0 | 1 }

Pre-Configure 機能の有効または無効を設定します。なお、指定を省略した場合は、「Disable」が指定されたものとして動作します。

- 0 : Disable
- 1 : Enable

-ht Hyper-Threading 無効指定 { 0 | 1 }

Hyper-Threading を無効指定します。指定を省略した場合は、「Processor Default」が指定されたものとして動作します。なお、OS 種類に HVM が設定されている場合は、「Hyper Thread Disable」に固定されます。

- 0 : Processor Default
- 1 : Hyper Thread Disable

-hdd HDD 容量

HDD の容量 (単位：GB) を設定します。指定範囲は 0 ~ 4294967295 の半角数字です。「010」のように 0 から始まる場合は、「10」のように最初の 0 を省略してください。指定を省略した場合は、0 (単位：GB) が指定されたものとして動作します。なお、OS 種類に HVM が設定されている場合は、0 に固定されます。

-agt Agent インストール { 0 | 1 }

Agent インストールの有効または無効を設定します。指定を省略した場合は、「Installed」が指定されたものとして動作します。なお、OS 種類に HVM が設定されている場合は、「Installed」に固定されます。

- 0 : Not Installed
- 1 : Installed

-ccn ccNuma 機能 { 0 | 1 }

ccNuma 機能の有効または無効を指定します。指定を省略した場合は、「Enable」が指定されたものとして動作します。なお、OS 種類に HVM が設定されている場合は、「Disable」に固定されます。

- 0 : Disable
- 1 : Enable

-hvmip HVM IP アドレス

HVM IP アドレスを指定します。指定範囲は 0 ~ 255 の半角数字です。ただし、0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。

OS 種類によって指定できる項目

OS 種類によって指定できる項目を次に示します。

項目	OS 種類				
	Don't Care	Windows	Linux	HP-UX	HVM
SVP-BMC 時刻差					×
Pre-Configure 機能					
パネルスイッチ連動機能					
Hyper-Threading 無効指定					×
HDD 容量設定					×
Agent インストール					×
ccNuma 機能					×
HVM IP アドレス	×	×	×	×	

(凡例)

：指定できます。

×：指定できません。

注

OS 種類が HVM の場合は、コマンドの引数で HVM IP アドレスを必ず指定してください。指定しなかった場合はエラーが表示されます。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN2000A-E	パラメーター指定エラーです
	KASN20385-E	
	KASN20386-E	
	KASN20387-E	
	KASN20388-E	

戻り 値	メッセージ ID	意味
	KASN20389-E	
	KASN2038A-E	
	KASN2038B-E	
	KASN2038C-E	
	KASN2038D-E	
	KASN20E79-E	
12	KASN2000C-E	IP アドレスが不正です
	KASN20E80-E	
15	KASN2FFFF-E	内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました
21	KASN207D0-E	DB 制御アクセスエラーです
23	KASN209C4-E	該当データがありません
24	KASN207DA-E	内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました
	KASN20B54-E	
	KASN20BAE-E	
30	KASN20BCC-E	BSM 連携エラーです
	KASN20BCD-E	
	KASN20BD2-E	
	KASN20BDB-E	
32	KASN20BBA-E	内部プログラムエラー (BSM 制御) です
	KASN203ED-E	
	KASN20BD1-E	
33	KASN203F0-E	Hitachi Control Manager Service エラーです
	KASN203F4-E	
	KASN20BDA-E	
37	KASN20E76-E	指定された管理対象サーバの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした
50	KASN20BD0-E	ほかのオペレーションが実行中です
56	KASN20BDE-E	コマンドの実行に失敗しました
	KASN20E77-E	
	KASN20E78-E	
	KASN20E7A-E	
	KASN20E7B-E	
	KASN20E7C-E	
	KASN20E7E-E	

戻り 値	メッセージ ID	意味
	KASN20E7F-E	
	KASN20E81-E	
	KASN20E82-E	
	KASN20E83-E	
	KASN20E84-E	
	KASN20E85-E	
	KASN20E86-E	
	KASN20E87-E	
	KASN20E8A-E	
60	KASN203F2-E	BSM アクセスタイムアウトエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

注意事項

- このコマンドの実行時に BSM のコンソールサービスの更新モードで BSM にアクセスしないでください。
- このコマンドを実行中は、SMP 構成を変更しているおそれがあるため、[Ctrl] + [C] キーでコマンドの強制終了、または Hitachi Control Manager Service を停止しないでください。
- OS 種類に HVM を指定した場合、HVM の設定項目は最後に HVM スクリーンで保存した内容が反映されます。
- OS 種類に HVM を指定した場合、パーティション作成後、Control Manager を利用しての電源操作が出来なくなります。
- OS 種類に HVM を指定した場合でも、LPAR の作成や設定変更は Control Manager の提供コマンドでは出来ません。
- -hdd オプションは指定せずに使用してください。この場合、該当パーティションの HDD 容量の設定項目がある機種では 0 が設定されます。0 が設定された場合でも、該当パーティションでの OS 動作に問題は発生しません。
- BS320 のパーティションを作成した場合、SVP コンソールの PR コマンドで設定可能な HDD Interface の設定項目がある機種では、unknown が設定されます。unknown が設定された場合でも、該当パーティションでの OS 動作に問題は発生しません。

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

jscmrestore (restore)

形式

```
jscmrestore {-i IPアドレス | -m MACアドレス}
             -img DPMシナリオ名
             -dhost ホスト名
             -dpw パスワード
             -dmac MACアドレス1[,MACアドレス2...]
             -dip IPアドレス1[,IPアドレス2...]
             -dsm サブネットマスク1 [,サブネットマスク2...]
             -dgw デフォルトゲートウェイ1[,デフォルトゲートウェイ2...]
```

機能

DPM シナリオを実行し、リストアを実行します。

引数

-i IP アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ MAC アドレスを指定します。

-img DPM シナリオ名

DPM で実行する DPM シナリオ名を指定します。指定する DPM シナリオは、リストアを実行するシナリオでなければなりません。

-dhost ホスト名

管理対象サーバに設定するホスト名を指定します。スケールアウトでの複製用マスタのリストア（スケールアウト）で使用します。

指定できるホスト名は、1 ～ 32 文字の半角英数字および「-」（半角ハイフン）で設定してください。

この引数が不要な DPM シナリオを実行する場合、仮の情報を指定してください。

< 例 > -dhost dummyhost

-dpw パスワード

管理対象サーバに設定するパスワードを指定します。スケールアウトでの複製用マスタのリストア（スケールアウト）で使用します。

指定できるパスワードは 6 ～ 32 文字の半角文字とし、指定できる文字は ASCII コードの 0x21 から 0x7E とします。ただし、以下の文字は使用できません。

「¥」、「/」、「:」、「.」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」

この引数が不要な DPM シナリオを実行する場合、仮の情報を指定してください。

< 例 > -dpw dummyspassword

-dmac MAC アドレス 1 [,MAC アドレス 2...]

管理対象サーバに接続されている NIC の MAC アドレスを指定します。スケールアウトでの複製用マスタのリストア（スケールアウト）で使用します。MAC アドレスは四つまで指定できます。

-dmac で指定する MAC アドレスのうち、少なくとも一つは DPM に登録されている MAC アドレスを指定してください。

この引数が不要な DPM シナリオを実行する場合、仮の情報を指定してください。ただし、この引数が不要な場合でも DPM に登録されている MAC アドレスを必ず一つは指定してください。

< 例 > -dmac 00:00:00:00:00:01

-dip IP アドレス 1 [,IP アドレス 2...]

管理対象サーバに接続されている NIC に設定する IP アドレスを指定します。IP アドレスの指定順は -dmac で指定した MAC アドレスの指定順と対応させる必要があります。一つの NIC に複数の IP アドレスを割り当てる場合は、-dmac で同一の MAC アドレスを複数回指定してください。スケールアウトでの複製用マスタのリストア（スケールアウト）で使用します。IP アドレスは四つまで指定できます。

この引数が不要な DPM シナリオを実行する場合、仮の情報を指定してください。

< 例 > -dip 1.1.1.1

-dsm サブネットマスク 1 [, サブネットマスク 2...]

管理対象サーバに設定する IP アドレスに対応したサブネットマスクを指定します。サブネットマスクの指定順は、-dip で指定した IP アドレスの指定順と対応させる必要があります。スケールアウトでの複製用マスタのリストア（スケールアウト）で使用します。サブネットマスクは四つまで指定できます。

この引数が不要な DPM シナリオを実行する場合、仮の情報を指定してください。

<例> -dsm 255.255.255.0

-dgw デフォルトゲートウェイ 1[, デフォルトゲートウェイ 2...]

管理対象サーバに設定する IP アドレスに対応したデフォルトゲートウェイを指定します。デフォルトゲートウェイの指定順は、-dip で指定した IP アドレスの指定順と対応させる必要があります。スケールアウトでの複製用マスタのリストア（スケールアウト）で使います。デフォルトゲートウェイは四つまで指定できます。

デフォルトゲートウェイを設定しない場合は、デフォルトゲートウェイに "-"（ハイフン）を指定してください。

この引数が不要な DPM シナリオを実行する場合、仮の情報を指定してください。

<例> -dgw 0.0.0.1

注意事項

- 次のコマンド実行中に、このコマンドを実行しないでください。また、次のコマンドと同時に実行もしないでください。
 - jscmbackup
 - jscmdeploy
 - jscmgetproperty
- DPM シナリオを Control Manager で実行する場合、DPM の Web コンソールで、管理サーバのアクセスモードを更新モードにしないでください。アクセスモードを更新モードにしている場合、Control Manager で DPM シナリオを操作したり実行したりするとエラーになります。
- IP アドレス、サブネットマスクおよびデフォルトゲートウェイに 0.0.0.0 または 255.255.255.255 を指定するとエラーになります。さらにサブネットマスクの場合は、連続したビット列を指定しないとエラーになります。
- Control Manager の Web コンソールから DPM シナリオ関連の操作または DPM シナリオを実行している間は、このコマンドを実行しないでください。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN210G0-E	パラメーターが不正です
11	KASN211G0-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN212G0-E	IP アドレスが不正です
15	KASN215G0-E	内部プログラムエラー（CMD 制御）が発生しました
21	KASN221G0-E	データベースへの接続に失敗しました
22	KASN222G0-E	SQL 実行エラーが発生しました
23	KASN223G0-E	該当データがありません

戻り値	メッセージ ID	意味
24	KASN224G0-E	内部プログラムエラー（DB 制御）が発生しました
31	KASN20BE0-E	BSM 連携エラー（情報取得失敗）です
37	KASN20E10-E	指定サーバなしエラーです
41	KASN241G0-E	Deployment Manager 連携エラーが発生しました
42	KASN242G0-E	Deployment Manager 連携エラー（情報取得失敗）が発生しました
43	KASN243G0-E	指定された管理対象サーバの情報が Deployment Manager から取得できませんでした
45	KASN245G0-E	指定された DPM シナリオがありません
46	KASN246G0-E	タイムアウトエラーが発生しました
47	KASN247G0-E	DPM シナリオ実行エラーが発生しました
49	KASN249G0-E	DPM シナリオが実行中です
50	KASN250G0-E	他のオペレーションが実行中です
55	KASN20037-E	実行対象外エラーです
	KASN20BDF-E	
61	KASN261G0-E	Deployment Manager Adaptor がインストールされていない場合に発生するエラーです
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

jscmstartserver (start_server)

形式

jscmstartserver { -i IPアドレス | -m MACアドレス }

機能

指定されたサーバを起動します。

引数

-i IP アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ MAC アドレスを指定します。

注意事項

- 管理対象サーバの OS が HP-UX の場合、Advanced Agent がインストールされていないサーバモジュールに対してこのコマンドを実行するとエラーになります。
- BSM に Agent が登録されていないサーバモジュールに対してこのコマンドを実行するとエラーになります。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN210G0-E	パラメーターが不正です
11	KASN211G0-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN212G0-E	IP アドレスが不正です
15	KASN215G0-E	内部プログラムエラー（CMD 制御）が発生しました
21	KASN221G0-E	データベースへの接続に失敗しました
22	KASN222G0-E	SQL 実行エラーが発生しました
24	KASN224G0-E	内部プログラムエラー（DB 制御）が発生しました

戻り値	メッセージ ID	意味
31	KASN231G0-E	Blade Server Manager 連携エラー（情報取得失敗）が発生しました
	KASN20BE0-E	
32	KASN232G0-E	内部プログラムエラー（BSM 制御）が発生しました
36	KASN236G0-E	電源 ON に失敗しました
37	KASN237G0-E	指定された管理対象サーバの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした
	KASN20E10-E	
50	KASN250G0-E	他のオペレーションが実行中です
55	KASN20037-E	実行対象外エラーです
	KASN20BDF-E	
60	KASN260G0-E	タイムアウトエラーが発生しました
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ（KASN2nnnn）」を参照してください。

jscmstate (state)

形式

```
jscmstate {-i IPアドレス | -m MACアドレス}
```

機能

動的情報を取得します。

引数

-i IP アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ MAC アドレスを指定します。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN210G0-E	パラメーターが不正です
11	KASN211G0-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN212G0-E	IP アドレスが不正です
15	KASN215G0-E	内部プログラムエラー（CMD 制御）が発生しました
21	KASN221G0-E	データベースへの接続に失敗しました
22	KASN222G0-E	SQL 実行エラーが発生しました
23	KASN223G0-E	該当データがありません
24	KASN224G0-E	内部プログラムエラー（DB 制御）が発生しました
31	KASN231G0-E	Blade Server Manager 連携エラー（情報取得失敗）が発生しました
32	KASN232G0-E	内部プログラムエラー（BSM 制御）が発生しました
37	KASN237G0-E	指定された管理対象サーバの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした

戻り値	メッセージ ID	意味
38	KASN238G0-E	Blade Server Manager 連携エラー (SVP 情報取得失敗) が発生しました
60	KASN260G0-E	タイムアウトエラーが発生しました
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

出力データ

このコマンドを実行した場合の出力データとその意味について次に示します。

データが取得できない場合は「-1」、情報データがない場合は「-9」と出力されます。ただし、POWERUNIT_VOLTAGE のデータが取得できない場合は「9999999.99」、情報データがない場合は「-9999999.99」と出力されます。

JP1/ServerConductor/Agent が起動していない場合、データが取得できません。

出力データ	意味
MODULE_POWER_STATE	サーバの電源状態：ON:0/OFF:1 ¹
AGT_STATE	Agent の状態：Alive:0/Dead:1
CHASSIS_TEMP	筐体温度状態：正常:0/異常:1
CHASSIS_FAN_NO	筐体ファン個数
CHASSIS_FAN_STATE	筐体ファンの状態：正常:0/異常:1 ²
POWERUNIT_NO	電源ユニット数
POWERUNIT_STATE	電源ユニットの状態：正常:0/異常:1
POWERUNIT_VOLTAGE	電源の電圧：(単位：V)
CPU_TMP	CPU の温度状態：正常:0/異常:1 ³
CPU_FAN_STATE	CPU のファン状態：正常:0/異常:1
MEMORY_STATE	メモリの状態：正常:0/異常:1 ⁴
MEMORY_ECC	メモリの ECC1 ビットの誤り訂正回数 ⁵

注 1
HA8000 の場合「-9」が表示されます。

注 2
BladeSymphony の場合「-9」が表示されます。

注 3
HP-UX の場合、CPU 数に関係なく、一つだけ表示されます。

jscmstate (state)

注 4

HP-UX の場合「-1」が 8 個分表示されます。

注 5

HP-UX の場合「-9」が表示されます。

出力例

このコマンドの出力例を次に示します。

データの取得ができた場合

```
MODULE_POWER_STATE=0, AGT_STATE=0, CHASSIS_TEMP=0, CHASSIS_FAN_NO=0,  
CHASSIS_FAN_STATE=-9, POWERUNIT_NO=0, POWERUNIT_STATE=-9,  
POWERUNIT_VOLTAGE=1.31, 3.18, 5.04, 5.15, 3.32, 3.33, -12.84, 12.12, 1.24,  
2.49, 1.51, 1.49, 1.21, 1.37, 1.37, CPU_TMP=0, 0, CPU_FAN_STATE=-1, -1,  
MEMORY_STATE=0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, MEMORY_ECC=0,
```

データの取得ができなかった場合

```
MODULE_POWER_STATE=1, AGT_STATE=1, CHASSIS_TEMP=-9, CHASSIS_FAN_NO=-9  
, CHASSIS_FAN_STATE=-9, POWERUNIT_NO=-9, POWERUNIT_STATE=-9, POWERUNIT  
_VOLTAGE=-9999999.99, CPU_TMP=-9, CPU_FAN_STATE=-9, MEMORY_STATE=-9, M  
EMORY_ECC=-9,
```


jscmstopos (stop_os)

形式

```
jscmstopos {-i IPアドレス | -m MACアドレス | -ir IPアドレス | -mr MACアドレス}
```

機能

OS をシャットダウンします。ただし、OS が Linux の場合は機種によって電源 OFF しない場合があります。

{-ir | -mr} オプションで OS をリブートします。

引数

-i IP アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ MAC アドレスを指定します。

-ir IP アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ IP アドレスを指定します。

-mr MAC アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ MAC アドレスを指定します。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN210G0-E	パラメーターが不正です
11	KASN211G0-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN212G0-E	IP アドレス不正
15	KASN215G0-E	内部プログラムエラー（CMD 制御）が発生しました
21	KASN221G0-E	データベースへの接続に失敗しました

戻り値	メッセージ ID	意味
22	KASN222G0-E	SQL 実行エラーが発生しました
24	KASN224G0-E	内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました
31	KASN231G0-E	Blade Server Manager 連携エラー (情報取得失敗) が発生しました
	KASN20BE0-E	
32	KASN232G0-E	内部プログラムエラー (BSM 制御) が発生しました
35	KASN235G0-E	シャットダウンに失敗しました
37	KASN237G0-E	指定された管理対象サーバの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした
	KASN20E10-E	
39	KASN239G0-E	リブートに失敗しました
50	KASN250G0-E	他のオペレーションが実行中です
55	KASN20037-E	実行対象外エラーです
	KASN20BDF-E	
60	KASN260G0-E	タイムアウトエラーが発生しました
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

jscmstopserver (stop_server)

形式

```
jscmstopserver {-i IPアドレス | -m MACアドレス}
```

機能

サーバを強制停止します。

引数

-i IP アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ IP アドレスを指定します。ただし、次の IP アドレスは指定できません。

- OS がインストールされていないサーバの IP アドレス。
- OS が一度も起動されていないために Control Manager に IP アドレスが登録されていないサーバの IP アドレス。

この場合、MAC アドレスで管理対象サーバを指定してください。

-m MAC アドレス

Control Manager の管理対象サーバが持つ MAC アドレスを指定します。

戻り値

戻り値	メッセージ ID	意味
0	-	正常終了
10	KASN210G0-E	パラメーターが不正です
11	KASN211G0-E	MAC アドレスが不正です
12	KASN212G0-E	IP アドレスが不正です
15	KASN215G0-E	内部プログラムエラー（CMD 制御）が発生しました
21	KASN221G0-E	データベースへの接続に失敗しました
22	KASN222G0-E	SQL 実行エラーが発生しました
24	KASN224G0-E	内部プログラムエラー（DB 制御）が発生しました
31	KASN231G0-E	Blade Server Manager 連携エラー（情報取得失敗）が発生しました
	KASN20BE0-E	
32	KASN232G0-E	内部プログラムエラー（BSM 制御）が発生しました
34	KASN234G0-E	電源 OFF に失敗しました
37	KASN237G0-E	指定された管理対象サーバの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした
	KASN20E10-E	

戻り値	メッセージ ID	意味
50	KASN250G0-E	他のオペレーションが実行中です
55	KASN20037-E	実行対象外エラーです
	KASN20BDF-E	
60	KASN260G0-E	タイムアウトエラーが発生しました
99	KASN299G0-E	ユーザーの実行権限を確認できませんでした

エラー時のメッセージの説明および対処方法については、「付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)」を参照してください。

12

トラブルシューティング

この章では、Control Manager でトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

12.1 対処の手順

12.2 トレースログの採取

12.3 トラブルへの対処方法

12.1 対処の手順

Control Manager でトラブルが発生した場合の対処の手順を次に示します。

(1) 現象の確認

トラブルが発生したときの現象を確認してください。メッセージが出力されている場合は、メッセージの内容を確認してください。各メッセージの要因と対処方法については、「付録 C メッセージ」を参照してください。

(2) 資料の採取

トラブルの要因を調べるために資料の採取が必要です。次に示す情報のフォルダ下のフォルダ、ファイルをすべて採取してください。

Control Manager のログ情報

< CM パス > ¥log

このフォルダには、システムの稼働情報やエラー処理に関するトレースログなどが出力されます。トレースログについては、「12.2 トレースログの採取」を参照してください。

Control Manager が使用するプログラムのログ情報

< CM パス > ¥bin¥log

< Hitachi Web Server 格納フォルダ >

¥CC¥web¥containers¥ControlManager¥logs

データベースシステム格納フォルダ ¥SPOOL

このフォルダには、Control Manager が使用するプログラムの情報が出力されます。

BSM のログ情報

< BSM インストール先フォルダ > ¥log

このフォルダには、BSM の稼働状況やエラー処理に関する情報が出力されます。

ワトソン博士で出力されたログ情報

Windows 2000 の場合

< システムドライブ > ¥Documents and Settings¥All

Users¥Documents¥DrWatson¥drwtsn32.log

Windows Server 2003、Windows Server 2003 R2 の場合

< システムドライブ > ¥Documents and Settings¥All Users¥Application

Data¥Microsoft¥Dr Watson¥drwtsn32.log

Windows Server 2008 の場合

このログは取得できません。

このファイルには、問題のあるプログラム、トラブルの要因の詳細な説明およびトラブルの解決法が出力されます。トラブルの要因を調べるために、ワトソン博士を使用できるように設定しておいてください。また、ワトソン博士のログファイルが出力されるように、ワトソン博士のオプションの [既存のログファイルに追加] チェックボックスをチェックしておいてください。ワトソン博士の使用方法については、OS 付属のマニュアルなどを確認してください。

イベントログ情報

次に示す情報をすべて採取してください。

- アプリケーションログ
- システムログ

これらの資料は次の二つの形式で採取してください。

- テキスト形式または CSV 形式
- イベントログ形式 (.evt または .evtx)

イベントログの採取方法を次に示します。

【Window 2000 の場合】

1. イベントビューアを起動する
2. 左ペインの [アプリケーションログ] を選択して右クリックする
3. [ログファイルの名前を付けて保存] を選択する
4. [ファイルの種類] でテキスト形式または CSV 形式を選択して保存する
5. もう一度 , [ログファイルの名前を付けて保存] を選択する
6. [ファイルの種類] でイベントログ形式を選択して保存する
7. 左ペインの [システムログ] を選択して右クリックする
8. [ログファイルの名前を付けて保存] を選択する
9. [ファイルの種類] でテキスト形式または CSV 形式を選択して保存する
10. もう一度 , [ログファイルの名前を付けて保存] を選択する
11. [ファイルの種類] でイベントログ形式を選択して保存する

【Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 の場合】

1. イベントビューアを起動する
2. 左ペインの [アプリケーション] を選択して右クリックする
3. [ログファイルの名前を付けて保存] を選択する
4. [ファイルの種類] でテキスト形式または CSV 形式を選択して保存する
5. もう一度 , [ログファイルの名前を付けて保存] を選択する
6. [ファイルの種類] でイベントログ形式を選択して保存する
7. 左ペインの [システム] を選択して右クリックする
8. [ログファイルの名前を付けて保存] を選択する
9. [ファイルの種類] でテキスト形式または CSV 形式を選択して保存する
10. もう一度 , [ログファイルの名前を付けて保存] を選択する
11. [ファイルの種類] でイベントログ形式を選択して保存する

【Windows Server 2008 の場合】

1. イベントビューアを起動する
2. 左ペインの [Windows ログ] のツリーを展開し , [アプリケーション] を選択して右クリックする
3. [イベントに名前を付けて保存] を選択する
4. [ファイルの種類] でテキスト形式または CSV 形式を選択して保存する
5. もう一度 , [イベントに名前を付けて保存] を選択する
6. [ファイルの種類] でイベントログ形式を選択して保存する
7. [表示情報] ダイアログボックス (設定はデフォルトのまま) で [OK] ボタンをクリックする
8. 左ペインの [Windows ログ] のツリーを展開し , [システム] を選択して右クリックする
9. [イベントに名前を付けて保存] を選択する
10. [ファイルの種類] でテキスト形式または CSV 形式を選択して保存する
11. もう一度 , [イベントに名前を付けて保存] を選択する
12. [ファイルの種類] でイベントログ形式を選択して保存する
13. [表示情報] ダイアログボックス (設定はデフォルトのまま) で [OK] ボタンをクリックする

12.2 トレースログの採取

トレースログとは、各プログラムが出力するトレース情報を、統合トレース機能（HNTRLib2）を通じて、一つの出力先ファイルにまとめて採取するログ情報のことです。ここでは、トレースログの採取方法および出力先フォルダ、またトレース出力レベルの変更方法について説明します。

12.2.1 トレースログの採取方法

採取するトレースログの種類および出力先フォルダ、ファイル名を次に示します。

表 12-1 Control Manager のトレースログ

トレースログの種類	出力先フォルダ、ファイル名	最大値
JP1 連携用ログ	< CM パス > ¥log¥@spmcmd@{1 2 3 4 5 ...}.log	ファイルサイズ：1,048,576 バイト ファイル数：16
BSM 連携用ログ	< CM パス > ¥log¥@spmbsm@{1 2 3 4 5 ...}.log	ファイルサイズ：1,048,576 バイト ファイル数：16

トレース情報は、ASCII 文字列の MS-DOS 形式プレーンテキストファイルで出力されます。出力ファイルは複数個のファイルで構成し、それらを交替して使用されます。

12.2.2 トレース出力レベル

トレース出力レベルを指定することで、統合トレース機能に対するトレースログの出力内容、情報量を変更できます。

（１）トレース出力レベルの一覧

トレース出力レベルと出力内容を次の表に示します。

表 12-2 トレース出力レベルの一覧

指定値	意味	出力内容
0	ユーザーの操作を把握できるレベル	システム的なエラー処理およびシステム稼働情報が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・デモンやサービスの起動・終了 ・重要な例外発生情報
10	ほかのプログラムとの入出力が把握できるレベル	他プログラムとの境界の入出力情報が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスの起動・終了 ・JP1/IM-CM からの入出力情報 ・BSM からの入出力情報 ・DPM からの入出力情報

指定値	意味	出力内容
20	プログラムの動作シーケンスを把握できるレベル	プロセス間の入出力情報が出力されます。 • プロセス間での送受信情報
30	プログラムの動作が完全に把握できるレベル	主要メソッドの入出力情報が出力されます。 • 主要メソッドの開始・終了位置の情報

トレース出力レベルのデフォルトは 30 です。

(2) トレース出力レベルの変更方法

ここではトレース出力レベルの変更方法について説明します。通常、このトレース出力レベルを変更する必要はありません。

JP1 連携用ログおよび BSM 連携用ログで分けて説明します。

JP1 連携用ログの場合

- トレース出力レベルの設定ファイルの格納先
 < CM パス > ¥conf
- トレース出力レベルの設定ファイル名
 spmlog.properties
- トレース出力レベルのキー名
 spm.log.level

キー "spm.log.level" の値を、変更したいトレース出力レベルに設定してください。デフォルトでは spm.log.level=30 に設定されています。設定できる値はトレース出力レベルに合わせて、0, 10, 20, 30 だけです。これ以外の値が指定された場合は、デフォルト値が指定されます。

BSM 連携用ログの場合

- トレース出力レベルの設定ファイルの格納先
 < CM パス > ¥conf
- トレース出力レベルの設定ファイル名
 spmlog.ini
- トレース出力レベルのキー名
 Level

キー "Level" の値を、変更したいトレース出力レベルに設定してください。デフォルトでは Level=30 に設定されています。設定できる値はトレース出力レベルに合わせて、0, 10, 20, 30 だけです。これ以外の値が指定された場合は、デフォルト値が指定されます。

12.3 トラブルへの対処方法

Control Manager を使用しているときに発生したトラブルの対処方法を説明します。

- (1) Control Manager のデータベースのセットアップ時、OS 起動時または運用中にアプリケーションエラーが表示される、または、アプリケーションの異常終了が頻繁に発生する

Control Manager のデータベースのセットアップ時、OS 起動時または運用中に「アプリケーションを正しく初期化できませんでした。」という内容のアプリケーションエラーが表示された場合、または、アプリケーションの異常終了が頻繁に発生する場合、OS のデスクトップヒープが不足しているおそれがあります。

デスクトップヒープの値を変更する手順を次に示します。なお、デスクトップヒープの値を変更するときは、レジストリを操作します。レジストリエディターは、使い方を誤ると問題が発生することがあるため、十分注意して変更してください。

- Control Manager のすべてのサービスを停止する。
- レジストリエディターを使用して、非対話型デスクトップ（サービス）のデスクトップヒープのレジストリ値にある SharedSection パラメーターの値を修正する。
 - レジストリキー
`HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥SubSystems¥Windows`
 - SharedSection の指定形式
`SharedSection=xxxx,yyyy,zzzz`

デスクトップヒープの値は、SharedSection の 3 番目のパラメーター（zzzz）です。3 番目のパラメーターが省略されている場合は、2 番目のパラメーターの値（yyyy）がデスクトップヒープに割り当てられます。動作するサービスやアプリケーションに応じて、デスクトップヒープの設定を調整してください。なお、デスクトップヒープの値は、システム全体で最大 48 メガバイトです。大きな値を指定すると、ほかのプログラムが起動しなくなるおそれがあります。

注

必要となるデスクトップヒープの量を簡単に調べることができないため、使用している環境に合わせて調整してください。

- OS を再起動する。

付録

付録 A Control Manager で使用するファイル , ディレクトリー一覧およびプロセス一覧

付録 B ポート番号の変更

付録 C メッセージ

付録 D 障害対策

付録 E 用語解説

付録 A Control Manager で使用するファイル，ディレクトリー一覧およびプロセス一覧

Control Manager で使用するファイル名およびディレクトリー名を示します。

「デフォルトのファイル名・ディレクトリー名」には，Control Manager をデフォルトでインストールした場合のディレクトリー，設定ファイル，およびログファイルをフルパスで記載しています。また，クラスタシステムを運用する場合の「デフォルトのファイル名・フォルダ名」には，共有フォルダのファイル名をフルパスで記載しています。

なお，次のパスについては短縮して表記します。

表 A-1 パスの短縮表記

パス	短縮表記
C:¥Program Files¥Hitachi	< Hitachi パス >
Hitachi パス¥ServerConductor¥ControlManager	< CM パス >

注

ドライブレターは OS の環境に依存します。

(1) Control Manager で使用するファイルおよびディレクトリー一覧

表 A-2 Control Manager で使用するファイルおよびディレクトリー一覧

内容	デフォルトのファイル名・フォルダ名
Hitachi Web Server 格納フォルダ	< Hitachi パス > ¥ServerConductor¥CMCosmi
Cosminexus インストールディレクトリ	
データベースシステム格納フォルダ	< Hitachi パス > ¥DB_SC{0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}
データベースデータ格納フォルダ	< Hitachi パス > ¥DB_SC{0}¥Area
データベースデータ格納フォルダ (クラスタシステム構築時)	クラスタ共有ディレクトリ ¥DB_SC{1 2 3 4 5 6 7 8 9}¥Area
コマンド / 実行プログラム格納フォルダ	< CM パス > ¥bin
ログレベル設定ファイル 1	< CM パス > ¥conf¥spmllog.ini
ログレベル設定ファイル 2	< CM パス > ¥conf¥spmllog.properties
アダプタコマンド設定ファイル	< CM パス > ¥data¥Adapter_HITACHI_SERVERCONDUCTOR_SERVEMANAGER.conf

内容	デフォルトのファイル名・フォルダ名
ログ格納フォルダ	< CM パス > \log
データ格納フォルダ	< CM パス > \data

注

クラスタシステムの構成時に指定したディレクトリに格納されるため、表に示したとおりのディレクトリ構成になるとは限りません。

(2) プロセス一覧

Windows のタスクマネージャのプロセスに表示されるプロセス名を次に示します。

プロセスは、プロセス名のアルファベット順に記載しています。

Control Manager の各プロセスのプロセス名とその機能を、コンポーネント単位に次の表に示します。

表 A-3 Control Manager のプロセス名と機能

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能	コンポーネント名
<ul style="list-style-type: none"> cmstarter.exe 	Control Manager を構成する各サービス、プロセスの起動、監視および停止	<ul style="list-style-type: none"> cmd.exe cjstartweb.exe cjstopweb.exe cprfstart.exe cprfstop.exe 	<ul style="list-style-type: none"> コマンド実行 Web コンテナサーバ開始 Web コンテナサーバ停止 ログデーモン開始 ログデーモン停止 	起動 / 監視 / 停止サービス
<ul style="list-style-type: none"> cmd.exe 		<ul style="list-style-type: none"> pdstart.exe pdstop.exe pdls.exe 	<ul style="list-style-type: none"> DB 開始 DB 停止 DB 監視 	
<ul style="list-style-type: none"> cjstartweb.exe 		<ul style="list-style-type: none"> cprfd.exe 	<ul style="list-style-type: none"> ログデーモン 	
httpsd.exe	Web コンソール	httpsd.exe	Web コンソール	Web コンソールサービス
<ul style="list-style-type: none"> pdservice.exe 	データベース	<ul style="list-style-type: none"> pdprcd.exe 	<ul style="list-style-type: none"> プロセス管理 	データベース

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能	コンポーネント名
<ul style="list-style-type: none"> pdprcd.exe 		<ul style="list-style-type: none"> pdrsvre.exe pdmlgd.exe pdrmd.exe pdstds.exe pdsdcd.exe pdtrnd.exe pdtrnrvd.exe pdlogd.exe pd_buf_dfw.exe pd_rcv_rd.exe pdlogswd.exe pdsds.exe 	<ul style="list-style-type: none"> 後処理プロセス メッセージ出力制御 起動・停止制御 接続ユーザ管理 I/O 制御 トランザクション割付け トランザクション制御 トランザクション回復 ログ制御 バックグラウンドライト DB の前進復帰 ログスワップ SQL 処理 	
pdsha.exe	クラスタ構成時の DB 起動	-	-	データベース (クラスタ構成)
hntr2srv.exe	トレース取得	hntr2mon.exe	統合トレース情報採取プロセス	トレース共通ライブラリ
SpmSvmComController.exe	BSM 連携，DPM 連携など，Control Manager のメイン処理	-	-	Control Manager 制御サービス

(凡例)

- : 該当しません。

インストール時，アンインストール時，または Control Manager 提供のコマンド実行時のみ実行されるプロセスについては記述していません。

付録 B ポート番号の変更

Control Manager のプログラムをインストールすると、次のポート番号がデフォルトで使用されます。使用するプロトコルは TCP/IP です。

表 B-1 Control Manager で使用するポート番号一覧

ポート番号	説明
22315/tcp 22316/tcp	Hitachi Control Manager Service で使用します。
22318/tcp ランダム	データベースで使用します。
22317/tcp 22319/tcp 24044/tcp	Cosminexus (Hitachi Web Server) で使用します。

注

OS が自動で割り当てるポート番号（デフォルトでは 1024 ~ 5000）を、ランダムに複数使用します。

ポート番号は、ほかのプログラムと重複しないことを確認し、次に示す範囲で指定してください。

表 B-2 ポート番号の指定可能な範囲

ポート	デフォルト値	指定可能な値
CM 内部通信ポート (Hitachi Control Manager Service が使用するポート 1)	22315	1024 から 65535 まで
BSM 連携ポート (Hitachi Control Manager Service が使用するポート 2)	22316	1024 から 65535 まで
データベース通信ポート (固定値 1)	22318	5001 から 65534 まで
データベース通信ポート (不定値 2)	1024 から 5000	5001 から 49151 まで
Cosminexus ポート 1	22317	1024 から 65535 まで
Cosminexus ポート 2	22319	1024 から 65535 まで
Hitachi Web Server 通信ポート	24044	80 または 1024 から 65535 まで

注 1

常に同じポート番号で通信するという意味の固定値という表現です。変更可能です。

注 2

示した範囲の中から複数のポート番号をランダムに使用します。

ポート番号を変更するには、設定ファイルを次のように変更します。

(1) Hitachi Control Manager Service のポート番号変更

次の手順で変更してください。

1. %SYSTEMROOT%\system32\drivers\etc\services の次の各値を変更する。

```
spm_com_port      22315/tcp
spm_bsm_port      22316/tcp
```

2. OS を再起動する。

(2) データベースのポート番号変更

次の手順で変更してください。

1. DB の設定を変更する。

(a) HiRDB.ini

- ファイルの格納先
 <データベースシステム格納フォルダ>%CONF%\emb\HiRDB.ini
- 変更箇所 (値はデフォルト値でインストールした場合)

```
PDNAMEPORT=22318
```

(b) pdsys

- ファイルの格納先
 <データベースシステム格納フォルダ>%CONF%\pdsys
- 変更箇所 (値はデフォルト値でインストールした場合)

```
set pd_name_port =22318
```

2. ODBC の設定を変更する。

- (a) Windows の [管理ツール] から [データソース (ODBC)] を開く。
- (b) ODBC データソースアドミニストレータの [システム DNS] タブを選択する。
- (c) システムデータソースの一覧から SPMHIRDB を選択し、[構成] ボタンを押す。
- (d) 設定項目の PDNAMEPORT を変更する。

3. OS を再起動する。

(3) Cosminexus (Hitachi Web Server) のポート番号変更

次の手順で変更してください。

1. Cosminexus の設定ファイルを次のように変更する。

- < Cosminexus インストールディレクトリ > %CC%\web\redirector にある

workers.properties に定義された worker.ControlManager.port=22319 を変更します。

- < Cosminexus インストールディレクトリ >
¥CC¥web¥containers¥ControlManager¥usrconf にある usrconf.properties に定義された webserver.shutdown.port=22317 および
webserver.connector.ajp13.port=22319 を変更します。
- < Cosminexus インストールディレクトリ > ¥httpsd¥conf にある httpsd.conf に定義された Port 24044 を変更します。
- 次のファイルのプロパティダイアログを表示し、<システムドライブ>
:¥Documents and Settings¥All Users¥ スタート メニュー ¥ プログラム
¥ServerConductor¥Control Manager¥ コンソール URL 欄の "http://
localhost:24044/ControlManager/admin/" の 24044 の部分を、新しく設定した
ポート番号に合わせて変更します。

2. [OK] ボタンをクリックして、プロパティダイアログを閉じる。

JP1/IM・View から Web コンソールを起動する場合、JP1/IM・View の設定も変更する必要があります。詳細はマニュアル「JP1/Integrated Management・Central Information Master システム構築・運用ガイド」または「JP1/Integrated Manager・Central Information Master システム構築・運用ガイド」を参照してください。

3. OS を再起動する。

(4) Deployment Manager Adaptor のポート番号変更

ポート番号の変更方法は、Deployment Manager Adaptor の「README」を参照してください。

(5) データベースがランダムな値で使用するポート番号の変更方法

Control Manager で使用しているデータベースは、通信のために OS が自動で割り当てるポート番号を複数使用します。デフォルトでは 1024 ~ 5000 の範囲のポート番号からランダムで使用します。このポート番号について変更の必要がある場合は、次の手順で使用する範囲を設定してください。

1. Hitachi Control Manager サービスを停止する。
2. HiRDB/EmbeddedEdition_SCx サービスを停止する。(x は 0 ~ 9 のどれかの値)
3. ポート番号の設定を変更する。
pd_registered_port を下記ファイルに追記してください。
データベースの通信で使用するポート番号を、“開始番号：終了番号”の形式で記述します。
この設定をすることで、ランダムに複数使用するポート番号を開始番号から終了番号の範囲の値に限定できます。

(a) ファイルの格納先

<データベースシステム格納フォルダ> ¥CONF ¥pdsys

(b) 設定例 (一部抜粋, 追記が必要な個所は pd_registered_port の設定のみ)

```
set pd_system_id =SC00
set pd_name_port =22318
set pd_mode_conf =MANUAL1
set pd_max_users =8
set pd_max_access_tables =50
set pd_registered_port ="30001:31016"
```

(c) 設定するポート番号に関する注意事項

- ポート数は 1016 個以上必要です。
- 例で示した値が, 他の製品と重複していない保証はありません。環境を確認し設定してください。
- 開始番号 ~ 終了番号の中に, 以下のポート番号を含まないように設定してください。
 - 22318 (データベースの固定値で使用するポート番号として設定した値)
 - %windir%¥system32 ¥drivers ¥etc ¥services に登録されているポート番号。
 - 他のプログラムで使用しているポート番号。

付録 C メッセージ

Control Manager が出力するメッセージについて説明します。

付録 C.1 メッセージの形式

(1) メッセージの出力形式

メッセージはメッセージ ID と、それに続くメッセージテキストで構成されています。出力されるメッセージの形式を次に示します。

KASNnnnnnn-Z メッセージテキスト

KASN

Control Manager が出力するメッセージであることを示します。

nnnnnn

メッセージの通し番号であることを示します。

Z

メッセージの種類を表します。

E：エラーメッセージを示します。処理は中断されます。

W：警告メッセージを示します。メッセージ出力後、処理は続行されます。

I：通知メッセージを示します。ユーザーに情報を知らせます。

メッセージテキスト

メッセージの内容を示します。

(2) メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を次に示します。

メッセージ ID

メッセージテキスト

メッセージの説明文

(O)

警告およびエラーメッセージが出力されたときに、オペレーターの取る処置を示します。

付録 C.2 メッセージの分類

Control Manager が出力するメッセージは、次の八つに分類されます。

表 C-1 メッセージの分類

メッセージ ID	メッセージの分類
KASN1nnnn	Control Manager の Web コンソールに関するメッセージです。
KASN2nnnn	コマンド制御に関するメッセージです。
KASN3nnnn	Control Manager のサーバ制御に関するメッセージです。
KASN4nnnn	デプロイ制御に関するメッセージです。
KASN5nnnn	DB 制御に関するメッセージです。
KASN6nnnn	ユーザー管理に関するメッセージです。
KASN7nnnn , KASNAnnnn	イベントログに出力されるメッセージです。
KASN7nnnn	SVMCOM 制御に関するメッセージです。
KASN9nnnn	JP1 イベントに関するメッセージです。

この分類別にメッセージの一覧を示します。

付録 C.3 Web コンソールに関するメッセージ (KASN1nnnn)

KASN10111-E

ユーザー名が入力されていません。

ユーザー名が入力されていません。

(O)

ユーザー名を入力してください。

KASN10122-I

シャーシが見つかりませんでした。

サーバ制御から取得したシャーシ情報がありません。

KASN10199-W

一部の DPM シナリオが表示できません。(メッセージ ID)

全角または半角文字が含まれた DPM シナリオ名が登録されていますが、シナリオ一覧には表示されませんでした。

KASN101CC-W

一部の DPM シナリオが表示できません。(メッセージ ID)

全角または半角文字が含まれた DPM シナリオ名が登録されていますが、シナリオ一覧には表示されませんでした。

KASN10211-E

ユーザー名またはパスワードが不正です。

ユーザー名またはパスワードが不正です。

(O)

正しいユーザー名およびパスワードを入力してください。

KASN10233-I

サーバが見つかりませんでした。

サーバ制御から取得したサーバ情報がありません。

KASN10311-E

パスワードが入力されていません。

パスワードが入力されていません。

(O)

パスワードを入力してください。

KASN10322-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(サーバ制御 BladeServer シャーシ / スロットー覧情報 (シャーシ ID) 不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報のシャーシ ID が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN10344-I

スロットが見つかりませんでした。

サーバ制御から取得したシャーシ情報がありません。

KASN10411-E

ユーザー名またはパスワードが不正です。

ユーザー名またはパスワードが不正です。

(O)

正しいユーザー名およびパスワードを入力してください。

KASN10466-I

指定されたサーバが見つかりませんでした。

サーバ制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報がありません。

KASN10511-E

ユーザー名またはパスワードが不正です。

ユーザー名またはパスワードが不正です。

(O)

正しいユーザー名およびパスワードを入力してください。

KASN10577-I

イベントフィルタリング情報が見つかりませんでした。

サーバ制御から MAC アドレス指定で取得したサーバのイベントフィルタリング情報がありません。

KASN10622-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(サーバ制御 BladeServer シャーシ / スロット一覧情報 (MAC 情報) 不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報の MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN10666-E

指定されたシャーシ ID のサーバ構成が更新されています。(メッセージ ID)

サーバ制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のシャーシ ID が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10677-I

イベントフィルタリングを変更しました。

イベントフィルタリングを変更しました。

KASN10766-E

指定されたスロット番号のサーバ構成が更新されています。(メッセージ ID)

サーバ制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のスロット番号が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10799-I

DPM シナリオが見つかりませんでした。

デプロイ制御から MAC アドレス指定で取得したサーバの DPM シナリオ情報（タイプ指定）がありません。

KASN10866-E

指定されたホスト名のサーバ構成が更新されています。（メッセージ ID）

BSM 制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のホスト名が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10877-E

指定されたサーバの構成が更新されています。（メッセージ ID）

BSM 制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のホスト名が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10888-E

指定されたサーバの構成が更新されています。（メッセージ ID）

BSM 制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のホスト名が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10899-E

指定されたサーバの構成が更新されています。（メッセージ ID）

BSM 制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のホスト名が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN108AA-E

指定されたサーバの構成が更新されています。（メッセージ ID）

サーバ制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のホスト名が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN108BB-E

指定されたサーバの構成が更新されています。(メッセージ ID)

サーバ制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のホスト名が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN108BB-I

DPM シナリオを実行しました。

DPM シナリオを実行しました。

KASN108CC-E

指定されたサーバの構成が更新されています。(メッセージ ID)

サーバ制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のホスト名が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10966-E

指定されたサーバの構成が更新されています。(メッセージ ID)

BSM 制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報は、スロットではありません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10999-E

指定されたサーバは、実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、実行対象として有効であることを確認してください。(メッセージ ID)

指定されたサーバが LPAR モードの物理サーバであるため、処理を実行できません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN109BB-E

指定されたサーバは、実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、実行対象として有効であることを確認してください。(メッセージ ID)

指定されたサーバが LPAR モードの物理サーバであるため、処理を実行できません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN109CC-E

指定されたサーバは、実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、実行対象として有効であることを確認してください。(メッセージ ID)

指定されたサーバが LPAR モードの物理パーティションであるため、処理を実行できません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN109CC-I

DPM シナリオが見つかりませんでした。

DPM シナリオが見つかりませんでした。

KASN10A66-E

指定されたサーバの構成が更新されています。(メッセージ ID)

BSM 制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報は、LPAR ではありません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10AAA-E

ホスト名が未入力です。

ホスト名が入力されていません。

(O)

ホスト名を入力してください。

KASN10ADD-I

サーバが見つかりませんでした。

サーバ制御から取得したサーバ情報がありません。

KASN10AFF-I

指定されたサーバが見つかりませんでした。

サーバ制御から取得したサーバ情報がありません。

KASN10B66-E

指定されたサーバの構成が更新されています。(メッセージ ID)

BSM 制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報は、Server ではありません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10BAA-E

ホスト名が不正です。

ホスト名に不正な文字が入力されています。

(O)

正しいホスト名を入力してください。

KASN10C66-E

指定されたシャーシ ID のサーバ構成が更新されています。(メッセージ ID)

BSM 制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のシャーシ ID が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10CAA-E

パスワードが未入力です。

パスワードが入力されていません。

(O)

パスワードを入力してください。

KASN10D66-E

指定されたスロット番号のサーバ構成が更新されています。(メッセージ ID)

BSM 制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報のスロット番号が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10DAA-E

パスワードが不正です。

パスワードが 5 文字以下、または不正な文字が入力されています。

(O)

正しいパスワードを入力してください。

KASN10E66-E

指定された LPAR 識別子のサーバ構成が更新されています。(メッセージ ID)

BSM 制御から MAC アドレス指定で取得したサーバ情報の LPAR 識別子が一致していません。

(O)

ツリー表示フレームの [更新] アンカーを選択し、情報を再読み込みしてください。

KASN10EAA-E

MAC アドレスが未入力です。

MAC アドレスが入力されていません。

(O)

MAC アドレスを入力してください。

KASN10F66-E

指定されたサーバは LPAR モードの物理パーティションのため、アクセスは禁止されています。

JP1/IM - CM から LPAR モードの物理パーティションへアクセスできません。

(O)

JP1/IM - CM から LPAR モードの物理パーティションへアクセスしないでください。

KASN10FAA-E

MAC アドレスの最大設定可能数を超えています。

MAC アドレスが五つ以上入力されています。

(O)

MAC アドレスは五つ以上入力しないでください。

KASN10GAA-E

MAC アドレスが不正です。

xx:xx:xx:xx:xx:xx の形式で入力してください (x は、0 ~ 9 または a ~ f)。

考えられる原因は次のとおりです。

- MAC アドレスに不正な文字が入力されています。
- 入力形式が不正です。

(O)

xx:xx:xx:xx:xx:xx の形式で入力してください (x は、0 ~ 9 または a ~ f)。

KASN10HAA-E

IP アドレスが未入力です。

IP アドレスが入力されていません。

(O)

IP アドレスを入力してください。

KASN10IAA-E

入力された MAC アドレスの数と IP アドレスの数的一致していません。

入力された MAC アドレスの数と IP アドレスの数的一致していません。

(O)

入力された MAC アドレスの数と IP アドレスの数を一致させてください。

KASN10JAA-E

IP アドレスの最大設定可能数を超えています。

IP アドレスが五つ以上入力されています。

(O)

IP アドレスは五つ以上入力しないでください。

KASN10KAA-E

IP アドレスが不正です。

nnn.nnn.nnn.nnn の形式で入力してください。(nnn は、0 ~ 255。ただし 0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。)

- IP アドレスに不正な文字が入力されています。
- 入力形式が不正です。
- 0.0.0.0 および 255.255.255.255 が入力されました。

(O)

nnn.nnn.nnn.nnn の形式で入力してください (nnn は、0 ~ 255。ただし 0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません)。

KASN10LAA-E

サブネットマスクが未入力です。

サブネットマスクが入力されていません。

(O)

サブネットマスクを入力してください。

KASN10MAA-E

入力された IP アドレスの数とサブネットマスクまたはデフォルトゲートウェイの数が一致しません。

入力されたサブネットマスクの数と IP アドレスの数が一致していません。

(O)

入力されたサブネットマスクの数と IP アドレスの数が一致していません。

KASN10NAA-E

サブネットマスクが不正です。

nnn.nnn.nnn.nnn の形式で入力してください。(nnn は、0 ~ 255。ただし 0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。)

- サブネットマスクに不正な文字が入力されています。
- 入力形式が不正です。

- 0.0.0.0 および 255.255.255.255 が入力されました。

(O)

nnn.nnn.nnn.nnn の形式で入力してください (nnn は、0 ~ 255。ただし 0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません)。

KASN10OAA-E

デフォルトゲートウェイが未入力です。

デフォルトゲートウェイが入力されていません。

(O)

デフォルトゲートウェイを入力してください。

KASN10PAA-E

入力された IP アドレスの数とサブネットマスクまたはデフォルトゲートウェイの数が一致しません。

入力されたデフォルトゲートウェイの数と IP アドレスの数が一致していません。

(O)

入力されたデフォルトゲートウェイの数と IP アドレスの数が一致していません。

KASN10QAA-E

デフォルトゲートウェイが不正です。

nnn.nnn.nnn.nnn の形式で入力してください。(nnn は、0 ~ 255。ただし 0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません。)

- デフォルトゲートウェイに不正な文字が入力されています。
- 入力形式が不正です。
- 0.0.0.0 および 255.255.255.255 が入力されました。

(O)

nnn.nnn.nnn.nnn の形式で入力してください (nnn は、0 ~ 255。ただし 0.0.0.0 および 255.255.255.255 は使用できません)。

KASN10RAA-E

入力されたサブネットマスクが無効です。

サブネットマスクは連続した値で入力してください。

入力されたサブネットマスクは連続した値ではありません。

(O)

サブネットマスクには連続した値を入力してください。

KASN10REE-E

起動パラメーターが不正です。

JP1 トークンが指定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN10RFF-E

起動パラメーターが不正です。

MAC アドレスが指定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN10RGG-E

起動パラメーターが不正です。

サーバパック名が指定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S111-E

ユーザー認証処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)

BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S122-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)

BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S133-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)

BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S144-E

内部エラーが発生しました。(シャーシ ID 不正)

内部エラーです。スロット ID がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S155-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)

BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S166-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)

内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S177-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)

内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S188-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)

内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S199-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)

内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S1AA-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)

内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S1BB-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)

内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S1CC-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)

内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S1DD-E

内部エラーが発生しました。(サーバパック名不正)

内部エラーです。サーバパック名がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S1EE-E

ユーザー認証処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)

BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S1FF-E

ユーザー認証処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)

BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S222-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer シャーシ / スロット一覧情報不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報リストの中身がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S233-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 Server サーバー一覧情報不正)
BSM 制御から取得したサーバ情報リストの中身がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S244-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)
BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S266-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)
BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S277-E

イベントフィルタリング情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)
BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S288-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)
内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S299-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ種別不正)
内部エラーです。DPM シナリオ種別が不正です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S2AA-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ種別不正)
内部エラーです。DPM シナリオ種別が不正です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S2BB-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ種別不正)
内部エラーです。DPM シナリオ種別が不正です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S2DD-E

サーババック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)
BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S322-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer シャーシ / スロット一覧情報 (シャーシ ID) 不正)
BSM 制御から取得したシャーシ情報のシャーシ ID が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S333-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 Server サーバ情報 (プライマリ MAC アドレス) 不正)
BSM 制御から取得したサーバ情報のプライマリ MAC アドレスが設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S344-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報不正)

BSM 制御から取得したスロット情報リストの中身がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S366-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (プライマリ MAC アドレス) 不正)
BSM 制御から取得したサーバ情報のプライマリ MAC アドレスが設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S377-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)
内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S388-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ種別不正)
内部エラーです。DPM シナリオ種別が不正です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S399-E

DPM シナリオ実行処理に失敗しました。(DPM 制御 初期化失敗)
DPM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S3AA-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ名不正)
内部エラーです。DPM シナリオ名がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S3BB-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ名不正)
内部エラーです。DPM シナリオ名がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S3DD-E

サーババック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報リストの中身がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S422-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer シャーシ / スロット一覧情報 (プライマリ MAC アドレス) 不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報のプライマリ MAC アドレスが設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S433-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 Server サーバ情報 (MAC 情報未設定) 不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報の MAC 情報リストの中身がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S444-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報 (スロット番号) 不正)

BSM 制御から取得したスロット情報リストのスロット番号が不正です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S466-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (MAC 情報未設定) 不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報の MAC 情報リストの中身がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S477-E

イベントフィルタリング情報更新処理に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)

BSM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S499-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)

内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S4AA-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)

内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S4BB-E

内部エラーが発生しました。(MAC アドレス不正)

内部エラーです。MAC アドレスがありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S4DD-E

サーバパック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバー一覧情報シャーシ不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報のシャーシ ID が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S522-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer シャーシ / スロットー覧情報 (MAC 情報未設定) 不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報の MAC 情報リストの中身がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S533-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 Server サーバ情報 (MAC 情報) 不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報の MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S544-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報 (プライマリ MAC アドレス) 不正)

BSM 制御から取得したスロット情報のプライマリ MAC アドレスが設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S566-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (MAC 情報) 不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報の MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S599-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ種別不正)

内部エラーです。DPM シナリオ種別が不正です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S5AA-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ種別不正)

内部エラーです。DPM シナリオ種別が不正です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S5BB-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ種別不正)

内部エラーです。DPM シナリオ種別が不正です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S5DD-E

サーババック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (プライマリ MAC アドレス) 不正)

BSM 制御から取得したシャージ情報の MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S622-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer シャーシ / スロットー覧情報 (MAC 情報) 不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報の MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S644-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報 (MAC 情報未設定) 不正)

BSM 制御から取得したスロット情報の MAC 情報リストの中身がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S666-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(DPM 制御 初期化失敗)

DPM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S699-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ名不正)

内部エラーです。DPM シナリオ名がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S6AA-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ名不正)

内部エラーです。DPM シナリオ名がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S6BB-E

内部エラーが発生しました。(DPM シナリオ名不正)

内部エラーです。DPM シナリオ名がありません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S6DD-E

サーババック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (MAC 情報未設定) 不正)
BSM 制御から取得したシャーシ情報の MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S722-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer シャーシ / スロット一覧情報 (スロット番号) 不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報のスロット番号が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S744-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報 (MAC 情報) 不正)

BSM 制御から取得したスロット情報リストの MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S766-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (シャーシ ID) 不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報のシャーシ ID が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S799-E

サーバの動作モード情報の取得に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)

BSM 制御の初期化に失敗しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S7BB-E

DPM シナリオ実行処理に失敗しました。(DPM 制御 初期化失敗)

DPM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S7CC-E

DPM シナリオ情報取得処理に失敗しました。(DPM 制御 初期化失敗)

DPM 連携機能のコンストラクタで例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S7DD-E

サーババック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (MAC 情報) 不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報の MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S822-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer シャーシ / スロット一覧情報 (LPAR 識別子) 不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報の LPAR 識別子が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S844-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報 (シャーシ ID) 不正)

BSM 制御から取得したスロット情報リストのシャーシ ID が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S866-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (スロット番号) 不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報のスロット番号が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S8BB-E

サーバの動作モード情報の取得に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)

BSM 制御の初期化に失敗しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S8CC-E

サーバの動作モード情報の取得に失敗しました。(BSM 制御 初期化失敗)

BSM 制御の初期化に失敗しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S8DD-E

サーババック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (プライマリ MAC アドレス) 不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報の MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S922-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer シャーシ / スロット一覧情報 (親サーバ MAC アドレス未設定) 不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報の親サーバの MAC アドレスが設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S944-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報 (LPAR 識別子) 不正)

BSM 制御から取得したスロット情報リストの LPAR 識別子が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S966-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (LPAR 識別子) 不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報の LPAR 識別子が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1S9DD-E

サーバパック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (MAC 情報未設定) 不正)
BSM 制御から取得したサーバ情報の MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SA44-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報 (親サーバ MAC アドレス未設定) 不正)

BSM 制御から取得したスロット情報リストの親サーバ MAC アドレスが設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SA66-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (親サーバ MAC アドレス未設定) 不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報の親サーバの MAC アドレスが設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SADD-E

サーバパック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (MAC 情報) 不正)

BSM 制御から取得したサーバ情報の MAC 情報が設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SB22-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer シャーシ / スロット一覧情報 (例外発生) 不正)

BSM 制御のシャーシ情報取得処理で例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SB66-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (例外発生) 不正)

BSM 制御のサーバ情報取得処理で例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SBDD-E

サーババック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (スロット番号) 不正)
サーバ制御から取得したサーバ情報のスロット番号情報が不正です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SC22-E

サーバ情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer シャーシ / スロットー覧情報 (スロット, LPAR 以外) 不正)

BSM 制御から取得したシャーシ情報が Server です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SC44-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報 (例外発生) 不正)

BSM 制御のスロット情報リスト取得処理で例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SCDD-E

サーババック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (LPAR 識別子) 不正)
サーバ制御から取得したサーバ情報の LPAR 識別子情報が不正です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SD44-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報 (シャーシ ID 不一致) 不正)

BSM 制御から取得したスロット情報リストのシャーシ ID と指定したシャーシ ID が一致していません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SDDD-E

サーバパック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (親サーバ MAC アドレス未設定) 不正)

サーバ制御から取得したサーバ情報の親サーバの MAC アドレスが設定されていません。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SE44-E

BladeServer スロット情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 BladeServer スロット情報 (スロット, LPAR 以外) 不正)

BSM 制御から取得したスロット情報リストが Serever です。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN1SEDD-E

サーバパック情報取得処理に失敗しました。(BSM 制御 サーバ情報 (例外発生) 不正)

サーバ制御から取得したサーバ情報に例外が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

付録 C.4 コマンド制御に関するメッセージ (KASN2nnnn)**KASN2000A-E (jscmattachdisk, jscmdetachdisk, jscmnpactivate, jscmnprecover, jscmnpswitch コマンド実行時)**

無効なパラメーターが指定されています。入力したパラメーターを確認してください。

無効なパラメーターが指定されました。

(O)

指定したパラメータを確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN2000A-E (jcmgetslotinfo, jscmsmp コマンド実行時)

パラメータの形式が不正です。指定したパラメーターの形式を確認してください。

(O)

指定したパラメーターを確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN2000B-E

指定されたサーバの MAC アドレスの形式が不正です。xx:xx:xx:xx:xx:xx (x は 0 ~ 9 または a ~ f, A ~ F) 形式で入力してください。

指定したサーバの MAC アドレスが xx:xx:xx:xx:xx:xx (x は 0 ~ 9 または a ~ f, A ~ F) 形式ではありません。

(O)

入力したサーバの MAC アドレスを確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN2000C-E (jscmattachdisk, jscmdetachdisk, jscmnpactivate, jscmnprecover, jscmnpswitch コマンド実行時)

指定されたサーバの IP アドレスの形式が不正です。nnn.nnn.nnn.nnn (nnn は 0 ~ 255) 形式で入力してください。注意：0.0.0.0 または 255.255.255.255 は指定できません。

指定したサーバの IP アドレスが nnn.nnn.nnn.nnn (nnn は 0 ~ 255) 形式でないか、0.0.0.0 または 255.255.255.255 が入力されました。

(O)

入力したサーバの IP アドレスを確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN2000C-E (jscmgetslotinfo, jscmsmp コマンド実行時)

指定された IP アドレスの形式が不正です。nnn.nnn.nnn.nnn (nnn は 0 ~ 255) 形式で入力してください。注意：0.0.0.0 または 255.255.255.255 は指定できません。

指定した IP アドレスが nnn.nnn.nnn.nnn (nnn は 0 ~ 255) 形式でないか、0.0.0.0 または 255.255.255.255 が入力されました。

(O)

指定した IP アドレスの値を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20037-E (jscmattachdisk コマンド実行時)

指定されたサーバは LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR であるため、本コマンドを実行することはできません。指定されたサーバが本コマンドの実行対象として有効であることを確認してください。

実行したコマンドは、LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR 上で稼働しているサーバに対応していません。

(O)

指定されたサーバが LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR 上で稼働していないことを確認してください。

KASN20037-E (jscmdetachdisk コマンド実行時)

指定されたサーバは、LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR であるため、本コマンドを実行することはできません。指定されたサーバが本コマンドの実行対象として有効であることを確認してください。

実行したコマンドは、LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR 上で稼働しているサーバに対応していません。

(O)

指定されたサーバが LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR 上で稼働していないことを確認してください。

KASN20384-E

指定されたパーティション番号の形式が不正です。有効な形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

無効なパーティション番号の形式が指定されました。

(O)

パーティション番号の形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20385-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時)

指定されたスロット番号の形式が不正です。有効な形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

無効なスロット番号の形式が指定されました。

(O)

スロット番号の形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20385-E (jscmsmp -new コマンド実行時)

指定されたスロット番号リストの形式が不正です。リストは","区切とし、昇順で連続な数値を指定してください。

無効なスロット番号リストの形式が指定されました。

(O)

スロット番号リストの形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20386-E

指定された OS 種類の形式が不正です。有効な形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

無効な OS 種類の形式が指定されました。

(O)

OS 種類の形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20387-E

指定された SVP-BMC 時刻差の形式が不正です。有効な形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

無効な SVP-BMC 時刻差の形式が指定されました。

(O)

SVP-BMC 時刻差の形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20388-E

指定された SW 連動機能の形式が不正です。有効な形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

無効な SW 連動機能の形式が指定されました。

(O)

SW 連動機能の形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20389-E

指定された Pre-Configure の形式が不正です。有効な形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

無効な Pre-Configure の形式が指定されました。

(O)

Pre-Configure の形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN2038A-E

指定された Hyper-Threading の形式が不正です。有効な形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

無効な Hyper-Threading 番号の形式が指定されました。

(O)

Hyper-Threading 番号の形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN2038B-E

指定された HDD 容量の形式が不正です。有効な形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

無効な HDD 容量の形式が指定されました。

(O)

HDD 容量の形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN2038C-E

指定された Agent インストールの形式が不正です。有効な形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

無効な Agent インストールの形式が指定されました。

(O)

Agent インストールの形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN2038D-E

指定された ccNuma の形式が不正です。有効な形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

無効な ccNuma の形式が指定されました。

(O)

ccNuma の形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN203ED-E (jscmattachdisk コマンド実行時)

ディスク割り当て復帰実行中に内部エラーが発生しました。

BSM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203ED-E (jscmdetachdisk コマンド実行時)

ディスク割り当て一時解除実行中に内部エラーが発生しました。

BSM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203ED-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時)

スロット情報取得処理中に内部エラーが発生しました。

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203ED-E (jscmnpactivate コマンド実行時)

予備系サーバの現用化実行中に内部エラーが発生しました。

BSM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203ED-E (jscmnprecover コマンド実行時)

復帰実行中に内部エラーが発生しました。

BSM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203ED-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

手動切り替え実行中に内部エラーが発生しました。

BSM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203ED-E (jscmsmp -del , jscmsmp -new コマンド実行時)

SMP 構成変更処理中に内部エラーが発生しました。

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203ED-E (jscmsmp -get コマンド実行時)

パーティション詳細情報取得処理中に内部エラーが発生しました。

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203EF-E

指定されたサーバは Blade Server Manager に登録されていません。入力したサーバが登録されているか確認してください。

Control Manager に通知されていないサーバを指定しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- 指定したサーバの MAC アドレスまたは IP アドレスを確認してください。
- jscmgetproperty コマンド (オプション -sr) または Control Manager コンソールで指定したサーバが登録されているか確認してください。

KASN203F0-E (jscmattachdisk , jscmdetachdisk , jscmnpactivate , jscmnprecover , jscmnpswitch コマンド実行時)

Hitachi Control Manager Service の接続に失敗しました。Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。

Hitachi Control Manager Service の接続に失敗しました。

(O)

Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。

KASN203F0-E (jscmgetslotinfo , jscmsmp コマンド実行時)

Hitachi Control Manager Service への接続に失敗しました。Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認し、再度コマンドを実行してください。

Hitachi Control Manager Service の接続に失敗しました。

(O)

Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN203F2-E

コマンドがタイムアウトしました。Blade Server Manager コンソールでサーバの状態を確認してください。

コマンドの処理が一定時間を過ぎても正常に終了しませんでした。

(O)

次の対処を実行してください。

- BSM が正常に動作しているか確認してください。
- サーバが正常に動作しているか確認してください。
- ネットワークの状態を確認してください。

KASN203F3-E (jscmattachdisk コマンド実行時)

ディスク割り当て復帰実行中に内部エラーが発生しました。

BSM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203F3-E (jscmdetachdisk コマンド実行時)

ディスク割り当て一時解除実行中に内部エラーが発生しました。

BSM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203F3-E (jscmnpactivate コマンド実行時)

予備系サーバの現用化実行中に内部エラーが発生しました。

BSM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203F3-E (jscmnprecover コマンド実行時)

復帰実行中に内部エラーが発生しました。

BSM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203F3-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

手動切り替え実行中に内部エラーが発生しました。

BSM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN203F4-E (jscmattachdisk , jscmdetachdisk , jscmnpactivate , jscmnprecover , jscmnpswitch コマンド実行時)

コマンド実行中に Hitachi Control Manager Service が終了しました。Hitachi Control Manager Service の起動状態を確認してください。

コマンド実行中に Hitachi Control Manager Service が終了しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。
- コマンドで実行した処理が実行中のおそれがあります。実行した要求が実行中かどうかを BSM のコンソールサービスで確認してください。

KASN203F4-E (jscmgetslotinfo , jscmsmp コマンド実行時)

コマンド実行中に Hitachi Control Manager Service が終了しました。Hitachi Control Manager Service の起動状態を確認し、再度コマンドを実行してください。

コマンド実行中に Hitachi Control Manager Service が終了しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。
- jscmsmp -del または jscmsmp -new コマンドを実行した場合、コマンドで実行した処理が実行中の可能性があります。jscmsmp -get コマンドを使用して、現在の状態を確認してください。
- コマンドの処理が実行されていない場合、再度コマンドを実行してください。

KASN207D0-E

データベースの接続に失敗しました。データベースが正常に動作しているか確認してください。

データベースの接続に失敗しました。

(O)

Control Manager を起動してください。

KASN207DA-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時)

スロット情報取得中に内部エラーが発生しました。

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN207DA-E (jscmsmp コマンド実行時)

内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました。

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN209C4-E

該当データがありません。BSM が CM に登録されているか確認してください。

BSM が Control Manager に登録されていません。

(O)

BSM が Control Manager に登録されているかどうかを確認してください。Control Manager に登録されていない場合は、BSM を登録してください。

KASN20B54-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時)

スロット情報取得中に内部エラーが発生しました。

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20B54-E (jscmsmp コマンド実行時)

内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました。

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BAE-E (jscmattachdisk コマンド実行時)

ディスク割り当て復帰実行中に内部エラーが発生しました。

DB 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BAE-E (jscmdetachdisk コマンド実行時)

ディスク割り当て一時解除実行中に内部エラーが発生しました。

DB 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BAE-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時)

内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました。

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BAE-E (jscmnpactivate コマンド実行時)

予備系サーバの現用化実行中に内部エラーが発生しました。

DB 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BAE-E (jscmnprecover コマンド実行時)

復帰実行中に内部エラーが発生しました。

DB 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BAE-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

手動切り替え実行中に内部エラーが発生しました。

DB 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BAE-E (jscmsmp コマンド実行時)

内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました。

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BBA-E (jscmattachdisk コマンド実行時)

ディスク割り当て復帰実行中に内部エラーが発生しました。

SVMCOM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BBA-E (jscmdetachdisk コマンド実行時)

ディスク割り当て一時解除実行中に内部エラーが発生しました。

SVMCOM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BBA-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時)

スロット情報収集中に内部エラーが発生しました。

スロット情報の収集中に内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BBA-E (jscmnpactivate コマンド実行時)

予備系サーバの現用化実行中に内部エラーが発生しました。

SVMCOM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BBA-E (jscmnprecover コマンド実行時)

復帰実行中に内部エラーが発生しました。

SVMCOM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BBA-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

手動切り替え実行中に内部エラーが発生しました。

SVMCOM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BBA-E (jscmsmp コマンド実行時)

SMP 構成変更開始前に内部エラーが発生しました。

SMP 構成変更の開始前に内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BBA-E (jscmsmp コマンド実行時)

パーティション詳細情報取得中に内部エラーが発生しました。

パーティション詳細情報の取得中に内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BBF-E

指定されたサーバは Blade Server Manager に登録されていません。入力したサーバが登録されているか確認してください。

BSM に登録されていないサーバを指定しました。

(O)

BSM のコンソールサービスで入力したサーバの IP アドレス , MAC アドレスを確認し , 再度コマンドを実行してください。

KASN20BCC-E

Blade Server Manager で通信エラーが発生しました。ネットワークおよび Blade Server Manager が正常に動作しているか確認してください。

- BSM との接続に失敗しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- BSM との間のネットワークに異常がないか確認してください。
- BSM が正常に動作しているか確認してください。

KASN20BCD-E (jscmattachdisk コマンド実行時)

Blade Server Manager が更新モードで動作しているため、ディスク割り当て復帰が実行できません。Blade Server Manager コンソールが更新モードになっていないか確認してください。

BSM のコンソールサービスが更新モードで動作しています。

(O)

起動しているすべての BSM のコンソールサービスを参照モードに変更してから , 再度コマンドを実行してください。

KASN20BCD-E (jscmdetachdisk コマンド実行時)

Blade Server Manager が更新モードで動作しているため、ディスク割り当て一時解除が実行できません。Blade Server Manager コンソールが更新モードになっていないか確認してください。

BSM のコンソールサービスが更新モードで動作しています。

(O)

起動しているすべての BSM のコンソールサービスを参照モードに変更してから , 再度コマンドを実行してください。

KASN20BCD-E (jscmnpactivate コマンド実行時)

Blade Server Manager が更新モードで動作しているため、予備系サーバの現用化が実行できません。Blade Server Manager コンソールが更新モードになっていないか確認してください。

BSM のコンソールサービスが更新モードで動作しています。

(O)

起動しているすべての BSM のコンソールサービスを参照モードに変更してから、再度コマンドを実行してください。

KASN20BCD-E (jscmnprecover コマンド実行時)

Blade Server Manager が更新モードで動作しているため、復帰が実行できません。Blade Server Manager コンソールが更新モードになっていないか確認してください。

BSM のコンソールサービスが更新モードで動作しています。

(O)

起動しているすべての BSM のコンソールサービスを参照モードに変更してから、再度コマンドを実行してください。

KASN20BCD-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

Blade Server Manager が更新モードで動作しているため、手動切り替えが実行できません。起動中のすべての Blade Server Manager コンソールを参照モードに変更してから、再度コマンドを実行してください。

BSM のコンソールサービスが更新モードで動作しています。

(O)

起動しているすべての BSM のコンソールサービスを参照モードに変更してから、再度コマンドを実行してください。

KASN20BCD-E (jscmsmp コマンド実行時)

Blade Server Manager が更新モードで動作しているため、コマンドが実行できませんでした。起動中のすべての Blade Server Manager コンソールを参照モードに変更してから、再度コマンドを実行してください。

BSM のコンソールサービスが更新モードで動作しています。

(O)

起動しているすべての BSM のコンソールサービスを参照モードに変更してから、再度コマンドを実行してください。

KASN20BCE-E

Blade Server Manager の N+1 コールドスタンバイ機能が有効になっていません。Blade Server Manager コンソールに N+1 コールドスタンバイ機能を有効にしてください。

BSM の N+1 コールドスタンバイ機能が有効になっていません。

(O)

BSM のコンソールサービスで N+1 コールドスタンバイ機能を有効にしてください。

KASN20BCF-E

JP1/HiCommand Device Manager のアクセスに失敗しました。JP1/HiCommand Device Manager との接続ができているか確認してください。

- JP1/HiCommand Device Manager 接続用の IP アドレス，ポート番号，またはパスワードが間違っています。
- JP1/HiCommand Device Manager が正常に動作していません。
- JP1/HiCommand Device Manager でストレージサブシステムのリフレッシュを実行していません。
- JP1/HiCommand Device Manager でサーバに割り当てられていたディスクが解除されたため，ディスクの割り当て状態に不一致が発生しました。

(O)

- BSM のコンソールサービスのストレージ運用支援機能で JP1/HiCommand Device Manager と接続できているかどうか確認してください。
- JP1/HiCommand Device Manager が正常に動作しているかどうか確認してください。
- JP1/HiCommand Device Manager でストレージサブシステムのリフレッシュを実行してください。
- ディスクの割り当て状態に不一致が発生している場合，JP1/HiCommand Device Manager を操作して，処理対象のパーティションの LU を BSM のコンソールサービスの表示と同じになるように戻してください。そして，BSM のコンソールサービスのストレージ設定機能から，今まで使っていたホストグループ割り当て定義ファイルの中から，一時解除対象の行を削除したファイルをインポートしてください。最後に，一時解除対象の行を再び追加したファイルをインポートしてください。

KASN20BD0-E

他のコマンドが実行中です。コマンドが実行されていないか確認してください。

同一マシンで，ほかのコマンドが実行されています。

(O)

ほかのコマンド終了後，再度コマンドを実行してください。

KASN20BD1-E (jscmattachdisk , jscmdetachdisk , jscmnpactivate , jscmnprecover , jscmnpswitch コマンド実行時)

Hitachi Control Manager Service の内部状態が不正です。Hitachi Control Manager を再起動してください。

Hitachi Control Manager Service サービスの内部状態が不正です。

(O)

Hitachi Control Manager サービスを再起動し、再度コマンドを実行してください。

KASN20BD1-E (jscmgetslotinfo , jscmsmp コマンド実行時)

Hitachi Control Manager Service の内部状態が不正です。Hitachi Control Manager を再起動し、再度コマンドを実行してください。

Hitachi Control Manager Service サービスの内部状態が不正です。

(O)

Hitachi Control Manager サービスを再起動し、再度コマンドを実行してください。

KASN20BD2-E (jscmattachdisk , jscmdetachdisk , jscmgetslotinfo , jscmnpactivate , jscmnprecover , jscmnpswitch コマンド実行時)

指定されたサーバを管理する Blade Server Manager には Blade Server Manager Plus がインストールされていません。Blade Server Manager の動作環境を確認してください。

指定したサーバを管理する BSM には BSM Plus がインストールされていません。

(O)

BSM Plus をインストールし、再度コマンドを実行してください。

KASN20BD2-E (jscmsmp コマンド実行時)

指定されたシャーシを管理する Blade Server Manager には Blade Server Manager Plus がインストールされていません。Blade Server Manager の動作環境を確認してください。

指定したシャーシを管理する BSM には BSM Plus がインストールされていません。

(O)

BSM Plus をインストールし、再度コマンドを実行してください。

KASN20BD3-E

指定されたサーバの状態が不明です。Blade Server Manager コンソールでサーバの状態を確認してください。

指定したサーバの状態が不明です。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態を確認してください。

KASN20BD3-E (jscmnpactivate コマンド実行時)

解除対象の現用系サーバの状態が不明です。Blade Server Manager コンソールでサーバの状態を確認してください。

指定した現用系サーバの状態が不明です。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態を確認してください。

KASN20BD3-E (jscmnprecover コマンド実行時)

復帰対象の現用系サーバの状態が不明です。Blade Server Manager コンソールでサーバの状態を確認してください。

復帰対象の現用系サーバの状態が不明です。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態を確認してください。

KASN20BD4-E

指定されたサーバの N+1 グループ情報の取得に失敗しました。Blade Server Manager が正常に動作しているか確認してください。

指定したサーバの N+1 グループ情報の取得に失敗しました。

(O)

BSM が正常に動作しているか確認してください。

KASN20BD5-E (jscmnprecover コマンド実行時)

指定されたサーバが所属する N+1 グループ内の現用系、予備系サーバにディスクが割り当てられていません。Blade Server Manager コンソールおよび JP1/HiCommand Device Manager で N+1 グループ内の現用系、予備系サーバにディスクが割り当てられているか確認してください。

指定されたサーバが所属する N+1 グループ内の現用系、予備系サーバにディスクが割り当てられていません。

(O)

BSM のコンソールサービスおよび JP1/HiCommand Device Manager で N+1 グループ内の現用系、予備系サーバにディスクが割り当てられているか確認してください。

KASN20BD5-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

指定されたサーバが所属する N+1 グループ内の現用系、予備系サーバのディスク割り当て状態が不正です。Blade Server Manager コンソールおよび JP1/HiCommand Device Manager で N+1 グループ内の現用系サーバにブートディスクが割り当てられていること、および予備系サーバにディスクが割り当てられていないことを確認してください。

指定されたサーバにディスクが割り当てられていません。または、切り替え先の予備系サーバにディスクが割り当てられています。

(O)

BSM のコンソールサービスおよび JP1/HiCommand Device Manager で N+1 グループ内の現用系サーバにディスクが割り当てられていること、および予備系サーバにディスクが割り当てられていないことを確認してください。

KASN20BD6-E

指定されたサーバが所属する N+1 グループ内のサーバのパーティションが変更されました。
N+1 グループ内のサーバのパーティション状態を確認し、N+1 グループを再設定してください。
パーティションの変更が実行されました。

(O)

N+1 グループ内のサーバのパーティション状態を確認し、N+1 グループを再設定してください。

KASN20BD7-E (jscmnprecover コマンド実行時)

指定されたサーバまたは復帰対象のサーバの電源が ON になっています。N+1 グループ内の現用系および予備系サーバの電源を OFF にし、再度コマンドを実行してください。

指定されたサーバまたは復帰対象のサーバの電源が ON になっています。

(O)

N+1 グループ内の現用系および予備系サーバの電源を OFF にし、再度コマンドを実行してください。

KASN20BD7-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

指定されたサーバまたは予備系サーバの電源が ON になっています。N+1 グループ内の現用系および予備系サーバの電源を OFF にし、再度コマンドを実行してください。

指定されたサーバまたは予備系サーバの電源が ON になっています。

(O)

N+1 グループ内の現用系サーバおよび予備系サーバの電源を OFF にし、再度コマンドを実行してください。

KASN20BD8-E

指定されたサーバと N+1 グループ内の予備系サーバのハードウェア構成が異なります。Blade Server Manager コンソールで N+1 グループ内の現用系および予備系サーバのハードウェア構成を確認してください。

指定したサーバと N+1 グループ内の予備系サーバのハードウェア構成が異なります。

(O)

BSM のコンソールサービスで N+1 グループ内の現用系サーバおよび予備系サーバのハードウェア構成を確認してください。

KASN20BD9-E

Blade Server Manager のストレージ運用支援機能が有効になっていません。Blade Server Manager コンソールのストレージ運用支援機能を有効にしてください。

BSM のストレージ運用支援機能が有効になっていません。

(O)

BSM のコンソールサービスで、ストレージ運用支援機能を有効にしてください。

KASN20BDA-E

Hitachi Control Manager Service が起動処理中です。しばらく待ってから、再度コマンドを実行してください。

Hitachi Control Manager Service が起動処理中です。

(O)

しばらく待ってから、再度コマンドを実行してください。

KASN20BDB-E (jscmattachdisk コマンド実行時)

指定されたサーバを管理する Blade Server Manager Plus は本機能を支援していません。Blade Server Manager Plus のバージョンを確認してください。

指定したサーバを管理する BSM Plus ではこの機能をサポートしていません。

(O)

指定したサーバを管理する BSM Plus のバージョンがストレージ運用支援機能をサポートしているかどうかを確認してください。

KASN20BDB-E (jscmdetachdisk コマンド実行時)

指定されたサーバを管理する Blade Server Manager Plus は本機能を支援していません。Blade Server Manager Plus のバージョンを確認してください。

指定したサーバを管理する BSM Plus ではこの機能をサポートしていません。

(O)

指定したサーバを管理する BSM Plus のバージョンが N+1 コールドスタンバイ機能をサポートしているかどうかを確認してください。

KASN20BDB-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時)

指定されたシャーシを管理する Blade Server Manager Plus は本機能を支援していません。

Blade Server Manager Plus のバージョンを確認してください。

指定したサーバシャーシを管理する BSM Plus ではこの機能をサポートしていません。

(O)

指定したサーバシャーシを管理する BSM Plus のバージョンを確認してください。
SMP 構成管理機能をサポートしているバージョンにアップデートしたあと、再度コマンドを実行してください。

KASN20BDB-E (jscmnpactivate コマンド実行時)

指定されたサーバを管理する Blade Server Manager Plus は本機能を支援していません。Blade Server Manager Plus のバージョンを確認してください。

指定したサーバを管理する BSM Plus ではこの機能をサポートしていません。

(O)

指定したサーバを管理する BSM Plus のバージョンが N+1 コールドスタンバイ機能をサポートしているかどうかを確認してください。

KASN20BDB-E (jscmnprecover コマンド実行時)

指定されたサーバを管理する Blade Server Manager Plus は本機能を支援していません。Blade Server Manager Plus のバージョンを確認してください。

指定したサーバを管理する BSM Plus ではこの機能をサポートしていません。

(O)

指定したサーバを管理する BSM Plus のバージョンが N+1 コールドスタンバイ機能をサポートしているかどうかを確認してください。

KASN20BDB-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

指定されたサーバを管理する Blade Server Manager Plus は本機能を支援していません。Blade Server Manager Plus のバージョンを確認してください。

指定したサーバを管理する BSM Plus ではこの機能をサポートしていません。

(O)

指定したサーバを管理する BSM Plus のバージョンが N+1 コールドスタンバイ機能をサポートしているかどうかを確認してください。

KASN20BDB-E (jscmsmp コマンド実行時)

指定されたシャーシを管理する Blade Server Manager Plus は本機能を支援していません。

Blade Server Manager Plus のバージョンを確認してください。

指定したサーバシャーシを管理する BSM Plus ではこの機能をサポートしていません。

(O)

指定したサーバシャーシを管理する BSM Plus のバージョンを確認してください。
SMP 構成管理機能をサポートしているバージョンにアップデートしたあと、再度コマンドを実行してください。

KASN20BDC-E

指定されたサーバは BladeServer ではないため、コマンドを実行できません。Control Manager コンソールで入力したサーバが BladeServer か確認してください。

BladeServer ではないサーバを指定しました。

(O)

Control Manager コンソールで入力したサーバが BladeServer かどうかを確認してください。

KASN20BDC-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

指定されたサーバは BladeServer ではないため、コマンドを実行できません。Control Manager コンソールで入力したサーバが BladeServer か確認してください。

BladeServer ではないサーバを指定しました。

(O)

指定したサーバが Blade Server かどうかを BSM のコンソールサービスで確認してください。

KASN20BDE-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時)

SVP ファームウェアでサポートされていない機能を利用しようとしたため、コマンドが実行できませんでした。

SVP ファームウェアでサポートされていない機能を利用しようとしたため、コマンドの実行に失敗しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BDE-E (jscmnprecover コマンド実行時)

SVP ファームウェアでサポートされていない機能を利用しようとしたため、復歸に失敗しました。

SVP ファームウェアでサポートされていない機能を利用しようとしたため、復歸に失敗しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BDE-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

SVP ファームウェアでサポートされていない機能を利用しようとしたため、手動切り替えに失敗しました。

SVP ファームウェアでサポートされていない機能を利用しようとしたため、手動切り替えに失敗しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BDE-E (jscmsmp コマンド実行時)

SVP ファームウェアでサポートされていない機能を利用しようとしたため、コマンドが実行できませんでした。

SVP ファームウェアでサポートされていない機能を利用しようとしたため、コマンドの実行に失敗しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN20BDF-E (jscmattachdisk コマンド実行時)

指定されたサーバは、本コマンドの実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、本コマンドの実行対象として有効であることを確認してください。

指定されたサーバが LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR です。

(O)

指定されたサーバが LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR でないことを確認してください。

KASN20BDF-E (jscmdetachdisk コマンド実行時)

指定されたサーバは、本コマンドの実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、本コマンドの実行対象として有効であることを確認してください。

指定されたサーバの情報が不正です。

(O)

次の対処を実行してください。

- 対象のサーバが、BladeServer の Basic モードまたは LPAR の物理パーティション上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x00 ~ 0x04 であることを確認してください。
- 対象のサーバが、LPAR 上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x04 であることを確認してください。

KASN20BDF-E (jscmbackup コマンド実行時)

指定されたサーバは、本コマンドの実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、本コマンドの実行対象として有効であることを確認してください。

指定されたサーバの情報が不正です。

(O)

次の対処を実行してください。

- 対象のサーバが、BladeServer の Basic モードまたは LPAR の物理パーティション上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x00 ~ 0x04 であることを確認してください。
- 対象のサーバが、LPAR 上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x04 であることを確認してください。

KASN20BDF-E (jscmdeploy コマンド実行時)

指定されたサーバは、本コマンドの実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、本コマンドの実行対象として有効であることを確認してください。

指定されたサーバの情報が不正です。

(O)

次の対処を実行してください。

- 対象のサーバが、BladeServer の Basic モードまたは LPAR の物理パーティション上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x00 ~ 0x04 であることを確認してください。
- 対象のサーバが、LPAR 上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x04 であることを確認してください。

KASN20BDF-E (jscmrestore コマンド実行時)

指定されたサーバは、本コマンドの実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、本コマンドの実行対象として有効であることを確認してください。

指定されたサーバの情報が不正です。

(O)

次の対処を実行してください。

- 対象のサーバが、BladeServer の Basic モードまたは LPAR の物理パーティション上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x00 ~ 0x04 であることを確認してください。
- 対象のサーバが、LPAR 上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x04 であることを確認してください。

KASN20BDF-E (jscmstartserver コマンド実行時)

指定されたサーバは、本コマンドの実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、本コマンドの実行対象として有効であることを確認してください。

指定されたサーバの情報が不正です。

(O)

次の対処を実行してください。

- 対象のサーバが、BladeServer の Basic モードまたは LPAR の物理パーティション上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x00 ~ 0x04 であることを確認してください。

- 対象のサーバが、LPAR 上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x04 であることを確認してください。

KASN20BDF-E (jscmstopos コマンド実行時)

指定されたサーバは、本コマンドの実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、本コマンドの実行対象として有効であることを確認してください。

指定されたサーバの情報が不正です。

(O)

次の対処を実行してください。

- 対象のサーバが、BladeServer の Basic モードまたは LPAR の物理パーティション上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x00 ~ 0x04 であることを確認してください。
- 対象のサーバが、LPAR 上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x04 であることを確認してください。

KASN20BDF-E (jscmstopserver コマンド実行時)

指定されたサーバは、本コマンドの実行対象として有効ではありません。指定されたサーバが、本コマンドの実行対象として有効であることを確認してください。

指定されたサーバの情報が不正です。

(O)

次の対処を実行してください。

- 対象のサーバが、BladeServer の Basic モードまたは LPAR の物理パーティション上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x00 ~ 0x04 であることを確認してください。
- 対象のサーバが、LPAR 上で稼働している場合、BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示される OS 種類の値が、0x04 であることを確認してください。

KASN20BE0-E

指定されたサーバの内蔵 Gigabit Ether の情報が Blade Server Manager から取得できませんでした。指定されたサーバの内部 Gigabit Ether の情報が Blade Server Manager 上で正しく認識されているか確認してください。

指定されたサーバの内部 Gigabit Ether の情報が BSM 上で正しく認識されていません。

(O)

BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報で表示される Gigabit Ether の MAC アドレス情報が正しく表示されているか確認してください。

KASN20BE1-E

指定されたサーバの物理パーティションが未確定です。指定されたサーバの物理パーティションを確定させてから、再度コマンドを実行してください。

指定されたサーバのパーティションが未確定です。

(O)

BSM のコンソールサービスで [ホスト管理] メニューから [サーバシャーシインベントリ] を開き、対象サーバのパーティション情報に表示されるパーティション情報ステータスの値が、0x03 であることを確認してください。

KASN20C1C-E

指定されたサーバは現用系ではありません。jscmgetproperty コマンドで入力したサーバが現用系か確認してください。

指定したサーバは現用系サーバでないか、無効化された現用系サーバです。

(O)

jscmgetproperty (getproperty) コマンド、BSM のコンソールサービスで入力したサーバが現用系であるかどうか確認してください。

KASN20C1D-E

指定されたサーバが所属する N+1 グループに切り替え可能な予備系サーバがありません。Blade Server Manager コンソールで N+1 グループに切り替え可能な予備系サーバが存在しているか確認してください。

指定されたサーバが所属する N+1 グループに予備系サーバが登録されていないか、切り替え可能な予備系サーバがありません。

(O)

BSM のコンソールサービスで N+1 グループに切り替え可能な予備系サーバが存在しているか確認してください。

KASN20C1E-E

指定されたサーバのディスクに対して一時解除が実行されています。

ディスクの一時解除が行われている状態で jscmnpswitch コマンドが実行されました。

(O)

ディスク割り当ての復帰を実行してから、再度コマンドを実行してください。

KASN20C1F-E

指定されたサーバがエラー検知状態のため、手動切り替えが実行できません。

指定されたサーバの状態が不正です。

(O)

BSM のコンソールサービスで指定したサーバの状態を確認してください。

KASN20C20-E

指定されたサーバは切り替え完了状態です。Blade Server Manager コンソールで N+1 コールドスタンバイ構成を確認してください。

切り替え済みのサーバに対して、jscmnpswitch コマンドが実行されました。または、手動切り替えに必要な情報が取得できていません。

(O)

BSM のコンソールサービスで指定したサーバの N+1 コールドスタンバイ構成を確認してください。その結果、指定したサーバが切り替えられていない場合、サーバの OS を再起動後、電源を OFF にしてから、再度コマンドを実行してください。

KASN20C25-E

指定されたサーバが所属する N+1 グループ内に切り替え可能な状態の予備系サーバがありません。Blade Server Manager コンソールで N+1 グループ内の予備系サーバの状態を確認してください。

予備系モジュールの状態が、次に示すどれかの状態であるため、切り替えを実行できません。

- コールドスタンバイ切り替え中
- コールドスタンバイ実行
- コールドスタンバイ警告
- サーバモジュール障害
- 不明（バージョンアップによりホスト状態のステータスが追加され、このバージョンでは認識ができない）

(O)

BSM のコンソールサービスで N+1 グループ内の予備系サーバの状態を確認してください。

KASN20C26-E

N+1 コールドスタンバイ切り替え中のため、手動切り替えが実行できません。

指定したサーバは N+1 コールドスタンバイ切り替え中です。

(O)

N+1 コールドスタンバイ切り替えの完了を待って、再度コマンドを実行してください。

KASN20C27-E

指定されたサーバは切り替え完了状態です。Blade Server Manager コンソールで N+1 コールドスタンバイ構成を確認してください。

指定したサーバは N+1 コールドスタンバイ切り替え済みです。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態を確認してください。

KASN20C28-E

指定されたサーバが所属する N+1 グループ内の予備系サーバがコールドスタンバイ失敗状態のため、切り替えに失敗しました。強制的に切り替えを実行する場合、コールドスタンバイ失敗状態になった要因を取り除いてから「-force」オプションを指定して実行してください。

指定したサーバが所属する N+1 グループ内の予備系サーバで切り替え失敗エラーが発生しています。

(O)

BSM のコンソールサービスで N+1 グループ内の予備系サーバの状態を確認してください。強制的に切り替えを実行する場合、「-force」オプションを指定してください。

KASN20C29-E

手動切り替えに失敗しました。サーバの状態、Blade Server Manager の動作状態およびストレージ、ネットワークなどの環境を確認してください。

指定したサーバの現用系サーバへの手動切り替えに失敗しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態および BSM の動作状態を確認してください。

KASN20C2A-E

指定されたサーバは LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR であるため、本コマンドを実行することはできません。指定されたサーバが本コマンドの実行対象として有効あることを確認してください。

指定されたサーバが、LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR です。

(O)

指定されたサーバが、LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR ではないことを確認してください。

KASN20C80-E

指定されたサーバは現用系から切り替わった予備系サーバではありません。Blade Server Manager コンソールで指定されたサーバが現用系から切り替わった予備系サーバか確認してください。

指定されたサーバは予備系ではありません。

(O)

BSM のコンソールサービスで入力したサーバが予備系かどうかを確認してください。

KASN20C81-E

指定されたサーバの状態が不正なため、復帰が実行できません。Blade Server Manager コンソールで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

予備系モジュールの状態が、次に示すどれかの状態であるため、切り替えを実行できません。

の状態であるため、復帰を実行できません。

- コールドスタンバイ中
- コールドスタンバイ切り替え中
- 不明（バージョンアップによりホスト状態のステータスが追加され、このバージョンでは認識ができない）

(O)

BSM のコンソールサービスで N+1 グループ内の予備系サーバの状態を確認してください。

KASN20C82-E

現用系サーバのスロットが挿入されていません。Blade Server Manager コンソールで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

指定した現用系サーバのスロットが挿入されていません。

(O)

BSM のコンソールサービスで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

KASN20C83-E

N+1 コールドスタンバイ切り替え中のため、復帰が実行できません。

指定したサーバは N+1 コールドスタンバイ切り替え中です。

(O)

N+1 コールドスタンバイ切り替えの完了を待って、再度コマンドを実行してください。

KASN20C84-E

指定されたサーバのディスクに対して一時解除が実行されています。

ディスクの一時解除が行われている状態で jscmnprecover コマンドが実行されました。

(O)

ディスク割り当ての復帰を実行してから、再度コマンドを実行してください。

KASN20C85-E

指定されたサーバがコールドスタンバイ失敗状態のため、復帰が実行できません。強制的に復帰を実行する場合、コールドスタンバイ失敗状態になった要因を取り除いてから「-force」オプションを指定して実行してください。

一時的な障害などによって予備系サーバから現用系サーバへの復帰が失敗しました。

(O)

BSM のコンソールサービスで N+1 グループ内の予備系サーバの状態を確認してください。強制的に復帰を実行する場合、コールドスタンバイ失敗状態になった要因を取り除いてから「-force」オプションを指定して実行してください。失敗した要因を取り除いても再度失敗する場合、マニュアル「JP1/ServerConductor/ Server Manager 系 システム管理者ガイド」に従って環境を回復してください。

KASN20C86-E

予備系サーバへの切り替えが実行されていません。Blade Server Manager コンソールで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

指定した現用系サーバは稼働中です。

(O)

BSM のコンソールサービスで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

KASN20C87-E

復帰の実行に失敗しました。サーバの状態、Blade Server Manager の動作状態およびストレージ、ネットワークなどの環境を確認してください。

指定したサーバの現用系サーバへの復帰に失敗しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態および BSM の動作状態を確認してください。

KASN20C88-E

復帰対象の現用系サーバがエラー検知状態のため、復帰が実行できません。Blade Server Manager コンソールで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

復帰対象の現用系サーバの状態が不正なため、復帰が実行できません。

(O)

BSM のコンソールサービスで N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

KASN20CE4-E

指定されたサーバは現用系から切り替わった予備系サーバではありません。Blade Server Manager コンソールで指定されたサーバが現用系から切り替わった予備系サーバか確認してください。

指定したサーバは予備系サーバではありません。

(O)

BSM のコンソールサービスで入力したサーバが予備系か確認してください。

KASN20CE5-E

指定されたサーバの状態が不正なため、現用化が実行できません。Blade Server Manager コンソールで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

予備系モジュールの状態が、次に示すどれかの状態であるため、切り替えを実行できません。

の状態であるため、現用化を実行できません。

- コールドスタンバイ中
- コールドスタンバイ切り替え中
- コールドスタンバイ失敗
- コールドスタンバイ警告
- サーバモジュール障害
- 不明（バージョンアップによりホスト状態のステータスが追加され、このバージョンでは認識ができない）

(O)

BSM のコンソールサービスで N+1 グループ内の予備系サーバの状態を確認してください。

KASN20CE6-E

N+1 コールドスタンバイ切り替え中のため、予備系サーバの現用化が実行できません。

指定したサーバは N+1 コールドスタンバイ切り替え中です。

(O)

N+1 コールドスタンバイ切り替えの完了を待って、再度コマンドを実行してください。

KASN20CE7-E

予備系サーバへの切り替えが実行されていません。Blade Server Manager コンソールで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

解除対象の現用系サーバは稼働中です。

(O)

BSM のコンソールサービスで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

KASN20CE8-E

予備系サーバの現用化の実行に失敗しました。サーバの状態、Blade Server Manager の動作状態およびストレージ、ネットワークなどの環境を確認してください。

指定した予備系サーバの現用系サーバへの切り替えに失敗しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態および BSM の動作状態を確認してください。

KASN20CE9-E

解除対象の現用系サーバがエラー検知状態のため、予備系サーバの現用化に失敗しました。Blade Server Manager コンソールで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

指定した現用系サーバが無効化されています。

(O)

BSM のコンソールサービスで入力したサーバの状態を確認してください。

KASN20CEA-E

現用系サーバまたは予備系サーバのスロットが挿入されていません。Blade Server Manager コンソールで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

解除対象の現用系サーバのスロットが挿入されていません。

(O)

BSM のコンソールサービスで、N+1 グループ内の各サーバの状態を確認してください。

KASN20D48-E

指定されたサーバのディスクはすでに一時解除実行済みです。

指定したサーバのディスクはすでに一時解除実行済みです。

(O)

次の対処を実行してください。

- デプロイ処理を続行してください。
- ディスク割り当ての復帰を実行してください。

KASN20D49-E

指定されたサーバはディスク構成が変更されています。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

JP1/HiCommand Device Manager の操作によってサーバに割り当てられていたディスクが解除または削除されたため、割り当て構成に不一致が発生しています。

(O)

BSM のコンソールサービスでディスクの割り当て状況を確認し、JP1/Hicommand Device Manager を操作することで、処理対象のパーティションの LU およびディスク割り当て状況が BSM のコンソールサービスの表示と同じになるように戻してください。

その後、BSM のコンソールサービスのストレージ設定機能で、今まで使っていたホストグループ割り当て定義ファイルの中から、一時解除対象の行を削除したファイルをインポートしてください。最後に、一時解除対象の行を再び追加したファイルをインポートしてください。

KASN20D4A-E

指定されたサーバはディスクが割り当てられていません。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

指定したサーバはディスクが割り当てられていません。

(O)

BSM のコンソールサービスでディスクの割り当て状態を確認してください。

KASN20D4B-E

指定されたサーバはブートディスクが複数存在するため、ディスクの一時割り当て解除が実行できません。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

指定したサーバは起動用ディスクが複数存在します。

(O)

BSM のコンソールサービスでディスクの割り当て状態を確認してください。

KASN20D4C-E

指定されたサーバはブートディスクの構成が不正です。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

指定したサーバに割り当てられた起動用ディスクの構成が不正です。

(O)

BSM のコンソールサービスでディスクの割り当て状態を確認してください。

KASN20D4D-E

指定されたサーバはディスク割り当て処理中です。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

指定したサーバはディスク割り当て処理中です。

(O)

BSM のコンソールサービスでディスクの割り当て状態を確認してください。

KASN20D4E-E

指定されたサーバは N+1 コールドスタンバイ切り替えまたは復帰処理中です。サーバの状態を確認してください。

指定したサーバは N+1 コールドスタンバイ切り替えまたは復帰処理中です。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態を確認してください。

KASN20D4F-E

指定されたサーバの電源が ON になっているためディスク割り当て一時解除が実行できません。電源を OFF にしてから再度実行してください。

指定したサーバの電源が ON になっているため、ディスク割り当て一時解除が実行できません。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態を確認し、電源を OFF にしてから再度コマンドを実行してください。

KASN20D50-E

指定されたサーバはディスク構成が変更されています。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

ディスク割り当て構成が JP1/HiCommand Device Manager で変更された状態で jscmdetachdisk コマンドが実行されました。

(O)

JP1/HiCommand Device Manager を操作して、処理対象のパーティションの LU を BSM のコンソールサービスの表示と同じになるように戻してください。

そして、BSM のコンソールサービスのストレージ設定機能で、今まで使っていたホストグループ割り当て定義ファイルの中から、一時解除対象の行を削除したファイルをインポートしてください。最後に、一時解除対象の行を再び追加したファイルをインポートしてください。

KASN20D51-E

ディスク割り当て一時解除の実行に失敗しました。サーバの状態、Blade Server Manager の動作状態およびストレージ、ネットワークなどの環境を確認してください。

指定したサーバに対してディスク割り当て一時解除の実行に失敗しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態および BSM の動作状態を確認してください。

KASN20D52-E

指定されたサーバはディスク構成が変更されています。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

JP1/HiCommand Device Manager でサーバに割り当てられていたディスクが解除されたため、ディスクの割り当て状態に不一致が発生しました。

(O)

JP1/HiCommand Device Manager を操作して、処理対象のパーティションの LU を BSM のコンソールサービスの表示と同じになるように戻してください。

そして、BSM のコンソールサービスのストレージ設定機能から、今まで使っていたホストグループ割り当て定義ファイルの中から、一時解除対象の行を削除したファイルをインポートしてください。最後に、一時解除対象の行を再び追加したファイルをインポートしてください。

KASN20DAC-E

指定されたサーバのディスクは一時解除が実行されていません。

指定されたサーバのディスクは一時解除が実行されていません。

(O)

JP1/HiCommand Device Manager でディスクの割り当て状態を確認してください。

KASN20DAD-E

指定されたサーバはディスク構成が変更されています。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

指定されたサーバはディスク構成が変更されています。

(O)

次の手順で対処してください。

- BSM のコンソールサービスでディスクの割り当て状態を確認し、JP1/HiCommand Device Manager を操作することで、処理対象パーティションの LU を BSM のコンソールサービスの表示と同様になるように戻します。
- BSM のコンソールサービスのストレージ設定機能で、今まで使っていたホストグループ割り当て定義ファイルの中から一時解除対象の行を削除したファイルをインポートします。
- 再び一時解除対象の行を追加したファイルをインポートします。

KASN20DAE-E

指定されたサーバはディスク割り当て処理中です。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

指定されたサーバはディスク割り当て処理中です。

(O)

BSM のコンソールサービスでディスクの割り当て状態を確認してください。

KASN20DAF-E

指定されたサーバは N+1 コールドスタンバイ切り替えまたは復帰処理中です。サーバの状態を確認してください。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態を確認してください。

KASN20DB0-E

指定されたサーバの電源が ON になっているためディスク割り当ての復帰が実行できません。電源を OFF にしてから再度実行してください。

指定されたサーバの電源が ON になっているためディスク割り当ての復帰が実行できません。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態を確認し、電源を OFF にしてから再度コマンドを実行してください。

KASN20DB1-E

指定されたサーバはディスク構成が変更されています。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

JP1/HiCommand Device Manager の操作によってサーバに LU が割り当てられたため、Blade Server Manager と JP1/HiCommand Device Manager とのディスク割り当て構成に不一致が発生しています。

(O)

BSM のコンソールサービスでディスクの割り当て状況を確認し、JP1/Hicommand Device Manager を操作することで、処理対象のパーティションのディスク割り当て状況が BSM のコンソールサービスの表示と同じになるように戻してください。

その後、BSM のコンソールサービスのストレージ設定機能で、今まで使っていたホストグループ割り当て定義ファイルの中から一時解除対象の行を削除したファイルをインポートしてください。最後に、一時解除対象の行を再び追加したファイルをインポートしてください。

KASN20DB2-E

指定されたサーバはブートディスクの構成が不正です。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

ブートディスクが割り当てられていない状態で jscmattachdisk コマンドが実行されました。

(O)

BSM のコンソールサービスでディスクの割り当て状態を確認してください。

KASN20DB3-E

ディスク割り当て復帰の実行に失敗しました。サーバの状態、Blade Server Manager の動作状態およびストレージ、ネットワークなどの環境を確認してください。

ディスク割り当て復帰の実行に失敗しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバの状態および BSM の動作状態を確認してください。

KASN20DB4-E

指定されたサーバはブートディスクが複数存在するため、ディスクの一時割り当て復帰が実行できません。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

ブートディスクが複数割り当たっている状態で jscmattachdisk コマンドが実行されました。

(O)

BSM のコンソールサービスでディスクの割り当て状態を確認してください。

KASN20DB5-E

指定されたサーバはディスク構成が変更されています。サーバのディスク割り当て状態を確認してください。

JP1/HiCommand Device Manager でサーバに割り当てられていたディスクが解除されたため、ディスクの割り当て状態に不一致が発生しました。

(O)

JP1/HiCommand Device Manager を操作して、処理対象のパーティションの LU を BSM のコンソールサービスの表示と同じになるよう戻します。そして、BSM のコンソールサービスのストレージ設定機能で、今まで使っていたホストグループ割り当て定義ファイルの中から一時解除対象の行を削除したファイルをインポートしてください。最後に、一時解除対象の行を再び追加したファイルをインポートしてください。

KASN20E10-E

指定されたサーバの情報が、Control Manager と Blade Server Manager の間で一致していません。Blade Server Manager に該当シャーシを再登録し、Control Manager 内部の情報を最新の状態にしてください。

指定されたサーバで Control Manager と Blade Server Manager との情報が一致しません。

(O)

BSM のコンソールサービス上で、指定されたサーバが搭載されているサーバシャーシを再登録してください。

KASN20E76-E

指定されたシャーシの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした。

指定されたサーバシャーシが BSM の管理下にありません。

(O)

BSM のコンソールサービス上で指定したサーバシャーシが BSM で管理下にあるかどうかを確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E77-E

ストレージ運用支援に設定されているスロットが含まれているためコマンドを実行できませんでした。スロットのホスト割当て状態を確認してください。

指定されたスロットまたはパーティションがストレージ運用支援に設定されています。

(O)

インポートしているストレージ運用支援のホストグループ割り当て定義ファイルから、該当するスロットを削除してください。その後、修正したホストグループ割り当て定義ファイルをインポートし、再度コマンドを実行してください。

KASN20E78-E

N+1 グループに登録されているスロットが含まれているため、コマンドを実行できませんでした。スロットの N+ 1 グループ登録状態を確認してください。

N+1 グループに登録されているスロットまたはパーティションが指定されました。

(O)

N+1 グループからスロットを解除し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E79-E

パラメータの形式が不正です。指定したパラメータの形式を確認してください。

無効なパラメーターの形式が指定されました。

(O)

入力したパラメーターを確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E7A-E (jscmsmp -del , jscmsmp -new コマンド実行時)

パーティション情報ステータスが状態遷移中 (0x01) のためコマンドを実行できませんでした。パーティション情報ステータスが状態遷移中ではなくなってから、再度コマンドを実行してください。

パーティション情報ステータスが状態遷移中のパーティションに、コマンドが実行されました。

(O)

パーティション情報ステータスの状態を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E7A-E (jscmsmp -get コマンド実行時)

指定したサーバシャーシのパーティションのどれかに構成変更中のパーティションが存在するため、情報を取得することができませんでした。

- 指定したサーバシャーシに BMC 初期化中のブレードが存在する。
- 指定したサーバシャーシにパーティション構成変更中のパーティションが存在する。
- サーバシャーシにブレードを挿した直後の状態でコマンドを実行した。

(O)

サーバシャーシに状態遷移中のパーティションがなくなったあと、再度コマンドを実行してください。

KASN20E7B-E

指定したスロットを含むパーティションがすでに存在しているためコマンドを実行できませんでした。

すでに別のパーティションに含まれているスロットに対してパーティション構成を操作しようとした。

(O)

指定したスロットがすでにほかのパーティションに含まれていないかどうかを確認してください。指定したスロットがすでにほかのパーティションに含まれている場合は、パーティションを削除し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E7C-E

スロットの電源が ON になっているためコマンドを実行できませんでした。スロットの電源を OFF にした後、再度コマンドを実行してください。

スロットの電源が ON になっています。

(O)

スロットの電源を OFF にしたあと、再度コマンドを実行してください。

KASN20E7D-E

指定したパーティションのパーティション情報ステータスが無し (0x00) のためコマンドを実行できませんでした。

パーティション情報ステータスが無しのパーティションに対して、パーティション削除が実行されました。

(O)

パーティション構成を確認してください。正しくパーティションが構成されている場合は、そのまま利用してください。

KASN20E7E-E

許可されたサーバモジュールタイプではないため、コマンドを実行できませんでした。指定したスロットのサーバモジュールが許可されたモジュールタイプか確認してください。

考えられる原因は次のとおりです。

- モジュールタイプが IA32 Server Module のスロットに対して、複数のモジュール間でコマンドが実行されました。
- モジュールタイプが Don't Care または Unkown Device に対して、コマンドが実行されました。

(O)

指定したスロットのサーバモジュールが許可されたモジュールタイプかどうかを確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E7F-E

指定されたスロットの構成では SMP 構成が組めません。パーティション構成可能スロット番号を確認してください。

許可されていない SMP 構成でスロットを指定しました。

(O)

SMP 構成ができるスロットかどうかを確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E80-E

指定した HVM IP アドレスが不正です。IP アドレスを変更し、再度コマンドを実行してください。

考えられる原因は次のとおりです。

- SVP の IP アドレスと異なるネットワークグループの HVM IP アドレスが指定されました。
- SVP の IP アドレス、BMC の IP アドレスまたは SNMP の IP アドレスと同じ IP アドレスが指定されました。

(O)

IP アドレスを変更し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E81-E

SMP 構成を組もうとしたスロット間でブレードのハードウェア構成が異なっているため、コマンドが実行できませんでした。

指定したスロットに異なるプロセッサ周波数、プロセッサステッピング、またはボードレビジョンのサーバモジュールが混在しています。

(O)

次の対処を実行してください。

- プロセッサの周波数が等しいことを確認し、再度コマンドを実行してください。
- 保守員に連絡してください。

KASN20E82-E

許可されたサーバモジュールではないため、コマンドを実行できませんでした。指定したスロットのサーバモジュールが許可されたモジュールタイプが確認してください。

考えられる原因は次のとおりです。

- 指定したスロットに IA32 と IPF のサーバモジュールが混在しています。
- 指定したスロットに HDD モジュールと IPF のサーバモジュールが混在しています。

(O)

指定したスロットのサーバモジュールが許可されたモジュールタイプかどうかを確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E83-E

プライマリスロットに CPU が未搭載、または拡張 IO モジュールの位置が不正のため、コマンドが実行できませんでした。

考えられる原因は次のとおりです。

- プライマリスロットのサーバモジュールに CPU が搭載されていません。
- 拡張 IO モジュールの位置が不正です。

(O)

スロットの状態を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E84-E

プライマリスロットにサーバモジュールが挿入されていないため、コマンドを実行できませんでした。

指定した構成のプライマリスロットにサーバモジュールが挿入されていません。

(O)

指定した構成のプライマリスロットにサーバモジュールを挿入し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E85-E

ccNuma に対応していないサーバモジュールが含まれています。

指定したスロットに ccNuma に対応していないサーバモジュールがあります。

(O)

指定したスロットのサーバモジュールを確認してください。ccNuma に対応していないサーバモジュールの場合は、ccNuma に Disable を指定し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E86-E

指定した OS 種類に対応していないサーバモジュールが含まれています。指定した OS 種類に対応したサーバモジュールが確認してください。

OS 種類に対応していないサーバモジュールが指定されました。

(O)

指定した OS 種類に対応したサーバモジュールかどうかを確認し、再度コマンドを実行してください。

サーバモジュールが対応している OS 種類については、SVP のコマンドでは確認できませんのでご注意ください。

KASN20E87-E

指定したオプションにハードウェアの仕様上許されない構成が含まれているためコマンドが実行できませんでした。

Pre-Configure 機能がサポートされていないスロットに対して、Pre-Configure を Enable に指定してコマンドが実行されました。

(O)

Pre-Configure 機能を Disable に指定し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E88-E

パーティション詳細情報の取得に失敗しました。シャーシの状態、Blade Server Manager の動作状態およびストレージ、ネットワーク等の環境を確認し、再度コマンドを実行してください。

パーティション詳細情報取得に失敗しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバシャーシの状態および BSM の動作状態を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E89-E

パーティション削除に失敗しました。シャーシの状態、Blade Server Manager の動作状態およびストレージ、ネットワーク等の環境を確認し、再度コマンドを実行してください。

パーティションの削除に失敗しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバシャーシの状態および BSM の動作状態を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20E8A-E

パーティション作成に失敗しました。シャーシの状態、Blade Server Manager の動作状態およびストレージ、ネットワーク等の環境を確認し、再度コマンドを実行してください。

パーティションの作成に失敗しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバシャーシの状態および BSM の動作状態を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20ED9-E

指定されたシャーシの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした。

指定されたサーバシャーシが BSM の管理下にありません。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバシャーシが BSM の管理下にあるかどうかを確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20EDA-E

パラメータの形式が不正です。指定したパラメータの形式を確認してください。

無効なパラメーターの形式が指定されました。

(O)

入力したパラメーターの形式を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN20EDB-E

Blade Server Manager 連携エラー (SVP 情報取得失敗) が発生しました。

SVP からの情報取得に失敗しました。

(O)

SVP が正常であることを確認してください。

KASN20EDD-E

スロット情報取得に失敗しました。シャーシの状態、Blade Server Manager の動作状態およびストレージ、ネットワーク等の環境を確認し、再度コマンドを実行してください。

スロット情報取得に失敗しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバシャーシの状態および BSM の動作状態を確認し、再度コマンドを実行してください。

KASN210G0-E

パラメーターが不正です

指定されたパラメーターが正しくありません。

(O)

正しいパラメーターを入力してください。

KASN211G0-E

MAC アドレスが不正です

入力された MAC アドレスが正しくありません。

(O)

正しい形式で MAC アドレスを入力してください。

KASN212G0-E

IP アドレスが不正です

入力された IP アドレスが正しくありません。

(O)

正しい形式で IP アドレスを入力してください。

KASN215G0-E (jscmbackup コマンド実行時)

内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました

考えられる原因は次のとおりです。

- DMA がインストールされていません。
- Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- DMA がインストールされているかどうか確認してください。
- 保守員に連絡してください。

KASN215G0-E (jscmdeploy コマンド実行時)

内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました

考えられる原因は次のとおりです。

- DMA がインストールされていません。
- Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- DMA がインストールされているかどうか確認してください。
- 保守員に連絡してください。

KASN215G0-E (jscmgetproperty コマンド実行時)

内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN215G0-E (jscmrestore コマンド実行時)

内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました

考えられる原因は次のとおりです。

- DMA がインストールされていません。
- Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- DMA がインストールされているかどうか確認してください。
- 保守員に連絡してください。

KASN215G0-E (jscmstartserver コマンド実行時)

内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN215G0-E (jscmstate コマンド実行時)

内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN215G0-E (jscmstopos コマンド実行時)

内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN215G0-E (jscmstopserver コマンド実行時)

内部プログラムエラー (CMD 制御) が発生しました

Control Manager で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN221G0-E

データベースへの接続に失敗しました

データベースへアクセスできません。

(O)

次の対処を実行してください。

- Hitachi Control Manager サービスが起動していることを確認してください。
- Hitachi Control Manager サービスが停止している場合、再起動してください。
- Hitachi Control Manager サービスを再起動しても Hitachi Control Manager サービスが停止してしまう場合、Control Manager が使用するポート番号をほかのプ

ログラムが使用しているおそれがあります。インストールで指定したポート番号がほかのプログラムで使用されていないかどうかを確認してください。

- 保守員に連絡してください。

KASN222G0-E

SQL 実行エラーが発生しました

SQL 実行エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN223G0-E

該当データがありません

管理対象サーバが登録されていないために、該当するデータがありません。

(O)

次の対処を実行してください。

- 指定したサーバの MAC アドレスまたは IP アドレスが正しいかどうか確認してください。
- BSM が起動しているかどうか確認してください。
- BSM が正しく登録されているかどうか確認してください。

KASN224G0-E

内部プログラムエラー (DB 制御) が発生しました

Control Manager またはデータベースで異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN230G0-E

Blade Server Manager 連携エラーが発生しました

考えられる原因は次のとおりです。

- Hitachi Control Manager が起動処理中です。
- BSM が正常に動作していません。

(O)

次の対処を実行してください。

- しばらく待ったあと、Hitachi Control Manager が正常に起動されているか確認してください。
- BSM との間のネットワークに異常がないか確認してください。
- BSM が正常に動作しているか確認してください。

KASN231G0-E

Blade Server Manager 連携エラー (情報取得失敗) が発生しました

考えられる原因は次のとおりです。

- BSM または Server Manager への接続に失敗しました。
- BSM または Server Manager からの情報取得に失敗しました。
- BSM で異常処理が発生しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- 再度、コマンドを入力してください。
- BSM が起動していることを確認してください。
- BSM が正しく登録されていることを確認してください。
- 指定したサーバが BSM または Server Manager の管理対象であることを確認してください。
- 指定したサーバが N+1 コールドスタンバイの現用系であることを確認してください。

KASN232G0-E

内部プログラムエラー (BSM 制御) が発生しました

考えられる原因は次のとおりです。

- BSM または Server Manager への接続に失敗しました。
- BSM または Server Manager からの情報取得に失敗しました。
- Control Manager または BSM で異常処理が発生しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- Control Manager サービスが起動していることを確認してください。
- 保守員に連絡してください。

KASN233G0-E

Hitachi Control Manager Service への接続に失敗しました

Hitachi Control Manager Service への接続に失敗しました。

(O)

Hitachi Control ManagerService が起動していることを確認してください。

KASN234G0-E

電源 OFF に失敗しました

考えられる原因は次のとおりです。

- BSM へのログインに失敗しました。
- 指定されたサーバが BSM の管理下にありません。

サーバが故障しています。

(O)

次の対処を実行してください。

- BSM が起動しているかどうか確認してください。
- サーバが BSM で管理されているかどうかを BSM のコンソールサービスで確認してください。
- ネットワークの状態を確認してください。
- サーバが故障していないかどうか確認してください。

KASN235G0-E

シャットダウンに失敗しました

管理対象サーバのシャットダウン処理が失敗しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- BSM または Server Manager が起動していることを確認してください。
- 管理対象サーバ上で Agent が起動していることを確認してください。
- ネットワークが正常であることを確認してください。

KASN236G0-E

電源 ON に失敗しました

考えられる原因は次のとおりです。

- BSM へのログインに失敗しました。
- 指定されたサーバが BSM の管理下にありません。
- サーバを起動するために必要な環境が、管理対象サーバ側で整っていません。
- サーバが故障しています。

(O)

次の対処を実行してください。

- BSM が起動しているかどうか確認してください。
- サーバが BSM で管理されているかどうかを BSM のコンソールサービスで確認してください。
- 管理対象サーバの OS が Windows または Linux の場合、BSM Advanced Agent がインストールされていること、または WOL が有効になっていることを確認してください。
- 管理対象サーバの OS が HP-UX の場合、BSM Advanced Agent がインストールされていることを確認してください。
- ネットワークの状態を確認してください。
- サーバが故障していないかどうか確認してください。
- 管理対象サーバに BSM Advanced Agent がインストールされている LPAR の場合、BSM のコンソールサービスで管理対象パーティションが、LPAR が存在するサーバモジュールかどうかを確認してください。

KASN237G0-E

指定された管理対象サーバの情報が Blade Server Manager から取得できませんでした
指定されたサーバが BSM または Server Manager の管理対象サーバではありません。

(O)

次の対処を実行してください。

- 指定したサーバの MAC アドレスまたは IP アドレスを確認してください。
- jscmgetproperty コマンド (オプション -sr) または Control Manager コンソールで指定したサーバが登録されているか確認してください。

KASN238G0-E

Blade Server Manager 連携エラー (SVP 情報取得失敗) が発生しました
SVP からの情報取得に失敗しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- BSM または Server Manager が起動していることを確認してください。
- ネットワークが正常であることを確認してください。
- SVP が正常であることを確認してください。

KASN239G0-E

リポートに失敗しました

考えられる要因は次のとおりです。

- BSM へのログインに失敗しました。
- 指定されたサーバが BSM の管理下にありません。
- サーバが故障しています。

(O)

次の対処を実行してください。

- BSM または ServerManager が起動していることを確認してください。
- BSM のコンソールサービスで、管理対象サーバが BSM で管理されていることを確認してください。
- ネットワークが正常であることを確認してください。
- サーバが故障していないかどうか確認してください。

KASN241G0-E

Deployment Manager 連携エラーが発生しました
DPM への接続に失敗しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- DPM が起動していることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor が起動していることを確認してください。

KASN242G0-E

Deployment Manager 連携エラー (情報取得失敗) が発生しました
DPM からの情報取得 (シナリオ名や進捗状況) に失敗しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- DPM が起動していることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor が起動していることを確認してください。

KASN243G0-E

指定された管理対象サーバの情報が Deployment Manager から取得できませんでした
指定されたサーバが Control Manager または DPM の管理対象サーバではありません。

(O)

次の対処を実行してください。

- 管理サーバ for DPM またはコマンドライン for DPM がインストールされていることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor が正常にインストールされていることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor が起動していることを確認してください。
- Web サーバ for DPM が正常に動作していることを確認してください。
- dpmcnfinfo コマンドで Web サーバ for DPM の情報が正しく登録されていることを確認してください。
- 管理対象サーバが DPM に登録されているか確認してください。
- 管理対象サーバが Control Manager に登録されているか確認してください。
- ほかのオペレーションが実行中でないことを確認してください。

KASN244G0-E

内部プログラムエラー (DPM 制御) が発生しました
Control Manager または DPM で異常処理が発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN245G0-E

指定された DPM シナリオがありません
指定された DPM シナリオが DPM に登録されていません。

(O)

DPM に登録されている DPM シナリオを指定してください。

KASN246G0-E

タイムアウトエラーが発生しました

DPM シナリオ実行中にタイムアウトが発生しました。

(O)

DPM を確認してください。

KASN247G0-E

DPM シナリオ実行エラーが発生しました

DPM シナリオの実行に失敗しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- Deployment Manager Adaptor および DPM が正常に動作していることを確認してください。
- dpmenfinfo で登録した DPM の情報が正しいことを確認してください。
- DPM の Web コンソールが更新モードになっていないか確認してください。
- 実行した DPM シナリオの内容が正しいことを確認してください。

KASN249G0-E

DPM シナリオが実行中です

指定されたサーバは、ほかの DPM シナリオが実行中です。

(O)

シナリオが完了してから再度実行してください。

KASN250G0-E

他のオペレーションが実行中です

同一マシンで、ほかのコマンドが実行されています。

(O)

ほかのコマンドが終了後、再度コマンドを実行してください。

KASN260G0-E

タイムアウトエラーが発生しました

コマンドの処理が一定時間を過ぎても正常に終了しませんでした。

(O)

次の対処を実行してください。

- BSM が正常に動作しているか確認してください。
- サーバが正常に動作しているか確認してください。
- ネットワークの状態を確認してください。

KASN261G0-E

Deployment Manager Adaptor がインストールされていません

- Deployment Manager Adaptor がインストールされていません。
- Deployment Manager Adaptor でインストールされる「wbem.jar」ファイルが見つかりません。

(O)

次の対処を実行してください。

- Deployment Manager Adaptor をインストールしてください。
- Deployment Manager Adaptor をインストールしたフォルダに「wbem.jar」ファイルがあることを確認してください。

KASN299G0-E

ユーザーの実行権限を確認できませんでした

ユーザーの実行権限を確認できませんでした。

(O)

実行しているユーザーの実行権限を確認してください。

KASN2FFFF-E (jscmattachdisk , jscmdetachdisk , jscmgetslotinfo , jscmnpactivate , jscmnprecover , jscmnpswitch , jscmsmp コマンド実行時)

内部エラーが発生しました。

想定外の内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN2FFFF-E (jscmattachdisk コマンド実行時)

ディスク割り当て復帰実行中に内部エラーが発生しました。

コマンド制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN2FFFF-E (jscmdetachdisk コマンド実行時)

ディスク割り当て一時解除実行中に内部エラーが発生しました。

コマンド制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN2FFFF-E (jscmgetslotinfo コマンド実行時)

スロット情報取得処理中に内部エラーが発生しました。

コマンド制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN2FFFF-E (jscmnpactivate コマンド実行時)

予備系サーバの現用化実行中に内部エラーが発生しました。

コマンド制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN2FFFF-E (jscmnprecover コマンド実行時)

復帰実行中に内部エラーが発生しました。

コマンド制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN2FFFF-E (jscmnpswitch コマンド実行時)

手動切り替え実行中に内部エラーが発生しました。

コマンド制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN2FFFF-E (jscmsmp -del , jscmsmp -new コマンド実行時)

SMP 構成変更処理中に内部エラーが発生しました。

コマンド制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN2FFFF-E (jscmsmp -get コマンド実行時)

パーティション詳細情報取得処理中に内部エラーが発生しました。

コマンド制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

付録 C.5 サーバ制御に関するメッセージ (KASN3nnnn)

KASN30197-E

Hitachi Control Manager Service への接続に失敗しました。Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

Hitachi Control Manager Service への接続に失敗しました。

(O)

Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。

KASN301J9-E

指定されたサーバの構成が更新されています。

Control Manager 内の情報に不整合が発生しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバシャーシを再登録してください。管理対象サーバのエージェントを再起動して情報を更新したあと、再度実行してください。

KASN301JB-E

指定されたサーバの構成が更新されています。

Control Manager 内の情報に不整合が発生しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバシャーシを再登録してください。管理対象サーバのエージェントを再起動して情報を更新したあと、再度実行してください。

KASN301JC-E

指定されたサーバの構成が更新されています。

Control Manager 内の情報に不整合が発生しました。

(O)

BSM のコンソールサービスでサーバシャーシを再登録してください。管理対象サーバのエージェントを再起動して情報を更新したあと、再度実行してください。

KASN30297-E

Hitachi Control Manager Service との接続がタイムアウトにより切断されました。

Hitachi Control Manager Service との接続でタイムアウトが発生しました。

(O)

Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。

KASN3S012-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S022-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S033-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S043-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S054-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S065-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S066-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S06F-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S087-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S097-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S0DD-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S0ED-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S0J9-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S0JB-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN3S0JC-E

BSM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

BSM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

付録 C.6 デプロイ制御に関するメッセージ (KASN4nnnn)

KASN40176-E

指定された管理対象サーバの情報が取得できませんでした。Deployment Manager、Deployment Manager Adaptor、管理対象サーバの動作状況および設定、他のオペレーションの実行状態を確認してください。(メッセージ ID)

- Deployment Manager Adaptor への接続に失敗しました。
- Deployment Manager への接続に失敗しました。
- 管理対象サーバが Deployment Manager に登録されていません。
- 管理対象サーバが Control Manager に登録されていません。
- ほかのオペレーションが実行中のため、実行できません。

(O)

次の対処を実行してください。

- 管理サーバ for DPM またはコマンドライン for DPM がインストールされていることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor が正常にインストールされていることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor サービスが実行されているか確認してください。
- Web サーバ for DPM が正常に動作していることを確認してください。
- dpmcnfinfo コマンドで Web サーバ for DPM の情報が正しく登録されていること

を確認してください。

- 管理対象サーバが Deployment Manager に登録されているか確認してください。
- 管理対象サーバが Control Manager に登録されているか確認してください。
- ほかのオペレーションが完了後、再度実行してください。

KASN401A9-E

指定された管理対象サーバの情報が取得できませんでした。Deployment Manager、Deployment Manager Adaptor、管理対象サーバの動作状況および設定を確認してください。(メッセージ ID)

- Deployment Manager Adaptor への接続に失敗しました。
- Deployment Manager への接続に失敗しました。
- 管理対象サーバが Deployment Manager に登録されていません。
- 管理対象サーバが Control Manager に登録されていません。
- ほかのオペレーションが実行中のため、実行できません。

(O)

次の対処を実行してください。

- 管理サーバ for DPM またはコマンドライン for DPM がインストールされていることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor が正常にインストールされていることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor サービスが実行されているか確認してください。
- Web サーバ for DPM が正常に動作していることを確認してください。
- dpmcnfinfo コマンドで Web サーバ for DPM の情報が正しく登録されていることを確認してください。
- 管理対象サーバが Deployment Manager に登録されているか確認してください。
- 管理対象サーバが Control Manager に登録されているか確認してください。
- ほかのオペレーションが完了後、再度実行してください。

KASN401BB-E

指定された管理対象サーバの情報が取得できませんでした。Deployment Manager、Deployment Manager Adaptor、管理対象サーバの動作状況および設定、他のオペレーションの実行状態を確認してください。(メッセージ ID)

- Deployment Manager Adaptor への接続に失敗しました。
- Deployment Manager への接続に失敗しました。
- 管理対象サーバが Deployment Manager に登録されていません。
- 管理対象サーバが Control Manager に登録されていません。
- ほかのオペレーションが実行中のため、実行できません。

(O)

次の対処を実行してください。

- 管理サーバ for DPM またはコマンドライン for DPM がインストールされているこ

とを確認してください。

- Deployment Manager Adaptor が正常にインストールされていることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor サービスが実行されているか確認してください。
- Web サーバ for DPM が正常に動作していることを確認してください。
- dpmcnfinfo コマンドで Web サーバ for DPM の情報が正しく登録されていることを確認してください。
- 管理対象サーバが Deployment Manager に登録されているか確認してください。
- 管理対象サーバが Control Manager に登録されているか確認してください。
- ほかのオペレーションが完了後、再度実行してください。

KASN401CC-E

指定された管理対象サーバの情報が取得できませんでした。Deployment Manager、Deployment Manager Adaptor、管理対象サーバの動作状況および設定を確認してください。(メッセージ ID)

- Deployment Manager Adaptor への接続に失敗しました。
- Deployment Manager への接続に失敗しました。
- 管理対象サーバが Deployment Manager に登録されていません。
- 管理対象サーバが Control Manager に登録されていません。
- ほかのオペレーションが実行中のため、実行できません。

(O)

次の対処を実行してください。

- 管理サーバ for DPM またはコマンドライン for DPM がインストールされていることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor が正常にインストールされていることを確認してください。
- Deployment Manager Adaptor サービスが実行されているか確認してください。
- Web サーバ for DPM が正常に動作していることを確認してください。
- dpmcnfinfo コマンドで Web サーバ for DPM の情報が正しく登録されていることを確認してください。
- 管理対象サーバが Deployment Manager に登録されているか確認してください。
- 管理対象サーバが Control Manager に登録されているか確認してください。
- ほかのオペレーションが完了後、再度実行してください。

KASN402A9-E

Deployment Manager の接続に失敗しました。Deployment Manager が正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

Deployment Manager の接続に失敗しました。

(O)

Deployment Manager が正常に動作しているか確認してください。

KASN402BB-E

Deployment Manager の接続に失敗しました。Deployment Manager が正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

Deployment Manager の接続に失敗しました。

(O)

Deployment Manager が正常に動作しているか確認してください。

KASN402CC-E

Deployment Manager の接続に失敗しました。Deployment Manager が正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

Deployment Manager の接続に失敗しました。

(O)

Deployment Manager が正常に動作しているか確認してください。

KASN403A9-E

Deployment Manager Adaptor をインストールしたホストのアカウントの指定が不正です。正しいアカウントを再度設定してください。(メッセージ ID)

Control Manager に登録されている Deployment Manager Adaptor のアカウントが不正です。

(O)

dpmcnfinfo コマンドで指定した Deployment Manager Adaptor のアカウントが正しいことを確認してください。

KASN403BB-E

Deployment Manager Adaptor をインストールしたホストのアカウントの指定が不正です。正しいアカウントを再度設定してください。(メッセージ ID)

Control Manager に登録されている Deployment Manager Adaptor のアカウントが不正です。

(O)

dpmcnfinfo コマンドで指定した Deployment Manager Adaptor のアカウントが正しいことを確認してください。

KASN403CC-E

Deployment Manager Adaptor をインストールしたホストのアカウントの指定が不正です。正しいアカウントを再度設定してください。(メッセージ ID)

Control Manager に登録されている Deployment Manager Adaptor のアカウントが不正です。

(O)

dpmcnfinfo コマンドで指定した Deployment Manager Adaptor のアカウントが正しいことを確認してください。

KASN404A9-E

Deployment Manager の管理者パスワードの指定、または Deployment Manager Adaptor をインストールしたホストのパスワードの指定が不正です。正しいパスワードを再度設定してください。(メッセージ ID)

Control Manager に登録されている Deployment Manager のパスワードまたは Deployment Manager Adaptor のパスワードが不正です。

(O)

dpmcnfinfo コマンドで指定した Deployment Manager のパスワード、または Deployment Manager Adaptor のパスワードが正しいことを確認してください。

KASN404BB-E

Deployment Manager の管理者パスワードの指定、または Deployment Manager Adaptor をインストールしたホストのパスワードの指定が不正です。正しいパスワードを再度設定してください。(メッセージ ID)

Control Manager に登録されている Deployment Manager のパスワードまたは Deployment Manager Adaptor のパスワードが不正です。

(O)

dpmcnfinfo コマンドで指定した Deployment Manager のパスワード、または Deployment Manager Adaptor のパスワードが正しいことを確認してください。

KASN404CC-E

Deployment Manager の管理者パスワードの指定、または Deployment Manager Adaptor をインストールしたホストのパスワードの指定が不正です。正しいパスワードを再度設定してください。(メッセージ ID)

Control Manager に登録されている Deployment Manager のパスワードまたは Deployment Manager Adaptor のパスワードが不正です。

(O)

dpmcnfinfo コマンドで指定した Deployment Manager のパスワード、または Deployment Manager Adaptor のパスワードが正しいことを確認してください。

KASN405A9-E

Deployment Manager (Web サーバ for DPM) のポート番号の指定が不正です。正しいポート番号を再度設定してください。(メッセージ ID)

Control Manager に登録されている Web サーバ for DPM のポート番号が不正です。

(O)

dpmcnfinfo コマンドで指定した Web サーバ for DPM のポート番号が正しいことを確認してください。

KASN405BB-E

Deployment Manager (Web サーバ for DPM) のポート番号の指定が不正です。正しいポート番号を再度設定してください。(メッセージ ID)

Control Manager に登録されている Web サーバ for DPM のポート番号が不正です。

(O)

dpmcnfinfo コマンドで指定した Web サーバ for DPM のポート番号が正しいことを確認してください。

KASN405CC-E

Deployment Manager (Web サーバ for DPM) のポート番号の指定が不正です。正しいポート番号を再度設定してください。(メッセージ ID)

Control Manager に登録されている Web サーバ for DPM のポート番号が不正です。

(O)

dpmcnfinfo コマンドで指定した Web サーバ for DPM のポート番号が正しいことを確認してください。

KASN406A9-E

Deployment Manager からの情報取得に失敗しました。Deployment Manager または Deployment Manager Adaptor の動作状況および設定、Deployment Manager の Web コンソールが更新モードになっていないことを確認してください。(メッセージ ID)

- Control Manager の DB 制御から Deployment Manager または管理対象サーバの MAC アドレスの取得に失敗しました。
- Deployment Manager からシナリオ名やシナリオ進捗状況などの情報の取得に失敗しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- Deployment Manager または管理対象サーバの情報が Control Manager に登録されていることを確認してください。
- Deployment Adaptor または Deployment Manager が正常に動作していることを確認してください。

KASN406BB-E

Deployment Manager からの情報取得に失敗しました。Deployment Manager または Deployment Manager Adaptor の動作状況および設定、Deployment Manager の Web コンソールが更新モードになっていないことを確認してください。(メッセージ ID)

- Control Manager の DB 制御から Deployment Manager または管理対象サーバの

MAC アドレスの取得に失敗しました。

- Deployment Manager からシナリオ名やシナリオ進捗状況などの情報の取得に失敗しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- Deployment Manager または管理対象サーバの情報が Control Manager に登録されていることを確認してください。
- Deployment Adaptor または Deployment Manager が正常に動作していることを確認してください。

KASN406CC-E

Deployment Manager からの情報取得に失敗しました。Deployment Manager または Deployment Manager Adaptor の動作状況および設定、Deployment Manager の Web コンソールが更新モードになっていないことを確認してください。(メッセージ ID)

- Control Manager の DB 制御から Deployment Manager または管理対象サーバの MAC アドレスの取得に失敗しました。
- Deployment Manager からシナリオ名やシナリオ進捗状況などの情報の取得に失敗しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- Deployment Manager または管理対象サーバの情報が Control Manager に登録されていることを確認してください。
- Deployment Adaptor または Deployment Manager が正常に動作していることを確認してください。

KASN407A9-E

Deployment Manager Adaptor でエラーが発生しました。Deployment Manager Adaptor が正常に動作していることを確認してください。(メッセージ ID)

Deployment Manager Adaptor でエラーが発生しました。

(O)

Deployment Manager Adaptor が正常に動作しているか確認してください。

KASN407BB-E

Deployment Manager Adaptor でエラーが発生しました。Deployment Manager Adaptor が正常に動作していることを確認してください。(メッセージ ID)

Deployment Manager Adaptor でエラーが発生しました。

(O)

Deployment Manager Adaptor が正常に動作しているか確認してください。

KASN407CC-E

Deployment Manager Adaptor でエラーが発生しました。Deployment Manager Adaptor が正常に動作していることを確認してください。(メッセージ ID)

Deployment Manager Adaptor でエラーが発生しました。

(O)

Deployment Manager Adaptor が正常に動作しているか確認してください。

KASN408A9-E

指定された DPM シナリオが Deployment Manager に登録されていません。

DPM シナリオを Deployment Manager に登録後、再度実行してください。(メッセージ ID)

指定された DPM シナリオが Deployment Manager に登録されていません。

(O)

DPM シナリオを Deployment Manager に登録してから、再度実行してください。

KASN408BB-E

指定された DPM シナリオが Deployment Manager に登録されていません。

DPM シナリオを Deployment Manager に登録後、再度実行してください。(メッセージ ID)

指定された DPM シナリオが Deployment Manager に登録されていません。

(O)

DPM シナリオを Deployment Manager に登録してから、再度実行してください。

KASN408CC-E

指定された DPM シナリオが Deployment Manager に登録されていません。

DPM シナリオを Deployment Manager に登録後、再度実行してください。(メッセージ ID)

指定された DPM シナリオが Deployment Manager に登録されていません。

(O)

DPM シナリオを Deployment Manager に登録してから、再度実行してください。

KASN409BB-E

指定されたサーバは、他の DPM シナリオが実行中です。

DPM シナリオが完了してから再度実行してください。

ほかの DPM シナリオが実行中です。

(O)

現在実行中の DPM シナリオ完了後、再度実行してください。

KASN40ABB-E

DPM シナリオの実行がタイムアウトしました。

Deployment Manager および管理対象サーバが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

DPM シナリオの実行がタイムアウトしました。

(O)

Deployment Manager および管理対象サーバが正常に動作しているか確認してください。

KASN40BBB-E

DPM シナリオの実行に失敗しました。

適用した DPM シナリオの内容、Deployment Manager または管理対象サーバの設定、Deployment Manager の Web コンソールが更新モードになっていないことを確認してください。(メッセージ ID)

考えられる原因は次のとおりです。

- DPM シナリオの実行開始に失敗しました。
- DPM シナリオが異常終了しました。

(O)

次の対処を実行してください。

- Deployment Manager Adaptor および Deployment Manager が正常に動作していることを確認してください。
- dpmcnfinfo で登録した Deployment Manager および Deployment Manager Adaptor の情報が正しいことを確認してください。
- Deployment Manager の Web コンソールが更新モードになっていないか確認してください。
- 実行した DPM シナリオの内容が正しいことを確認してください。

KASN40CA9-E

他のオペレーションが実行中です。他のオペレーションが完了後、再度実行してください。

(メッセージ ID)

ほかのオペレーションが実行中のため、実行できません。

(O)

ほかのオペレーションが完了後、再度実行してください。

KASN40CBB-E

他のオペレーションが実行中です。他のオペレーションが完了後、再度実行してください。

(メッセージ ID)

ほかのオペレーションが実行中のため、実行できません。

(O)

ほかのオペレーションが完了後、再度実行してください。

KASN40CCC-E

他のオペレーションが実行中です。他のオペレーションが完了後、再度実行してください。

(メッセージ ID)

ほかのオペレーションが実行中のため、実行できません。

(O)

ほかのオペレーションが完了後、再度実行してください。

KASN40DA9-E

Deployment Manager Adaptor がインストールされていないため、本機能は実行できません。

- Deployment Manager Adaptor がインストールされていません。
- Deployment Manager Adaptor でインストールされる「wbem.jar」ファイルが見つかりません。

(O)

次の対処を実行してください。

- Deployment Manager Adaptor をインストールしてください。
- Deployment Manager Adaptor をインストールしたディレクトリに「wbem.jar」ファイルがあることを確認してください。

KASN40DBB-E

入力された固有情報に誤りがあります。

MAC アドレス、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイが、Deployment Manager で定義した MAC アドレスに対応しているか確認してください。

入力された固有情報 (MAC アドレス、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ) が DPM で定義された MAC アドレスに対応していません。

(O)

入力した MAC アドレス、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイが DPM で定義した MAC アドレスに対応しているか確認してください。

KASN40DCC-E

Deployment Manager Adaptor がインストールされていないため、本機能は実行できません。

- Deployment Manager Adaptor がインストールされていません。
- Deployment Manager Adaptor でインストールされる「wbem.jar」ファイルが見つかりません。

(O)

次の対処を実行してください。

- Deployment Manager Adaptor をインストールしてください。
- Deployment Manager Adaptor をインストールしたディレクトリに「wbem.jar」ファイルがあることを確認してください。

KASN40EBB-E

Deployment Manager Adaptor がインストールされていないため、本機能は実行できません。

- Deployment Manager Adaptor がインストールされていません。
- Deployment Manager Adaptor でインストールされる「wbem.jar」ファイルが見つかりません。

(O)

次の対処を実行してください。

- Deployment Manager Adaptor をインストールしてください。
- Deployment Manager Adaptor をインストールしたディレクトリに「wbem.jar」ファイルがあることを確認してください。

KASN40FBB-E

指定されたサーバに対して、シナリオを実行することはできません。指定されたサーバが実行対象であることを確認してください。

指定されたサーバが LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR です。

(O)

次の対処を実行してください。

指定されたサーバが LPAR モードの物理パーティションまたは LPAR ではないことを確認してください。

KASN4S076-E

DPM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DPM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN4S0A9-E

DPM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DPM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN4S0BB-E

DPM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DPM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN4S0CC-E

DPM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DPM 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

付録 C.7 DB 制御に関するメッセージ (KASN5nnnn)

KASN50112-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN50122-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN50133-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN50143-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN50154-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN50165-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN50166-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN5016F-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN50176-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN50187-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN50197-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN501A9-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN501BB-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN501CC-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN501DD-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)
データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN501ED-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)
データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN501J9-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)
データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN501JB-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)
データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN501JC-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)
データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN5S012-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)
DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S022-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S033-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S043-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S054-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S065-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S066-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S06F-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S076-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S087-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S097-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S0A9-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S0BB-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S0CC-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S0DD-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S0ED-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S0J9-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S0JB-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S0JC-E

DB 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。

DB 制御でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN5S112-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S122-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S133-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S143-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S154-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S165-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S166-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S16F-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S176-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加

後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S187-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S197-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S1A9-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S1BB-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリ追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S1CC-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S1DD-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S1ED-E

実行に必要なメモリーが不足しています。実装されているメモリーを確認してください。

(2900)

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S1J9-E

実行に必要なメモリーが不足しています。

実装されているメモリーを確認してください。

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S1JB-E

実行に必要なメモリーが不足しています。

実装されているメモリーを確認してください。

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

KASN5S1JC-E

実行に必要なメモリーが不足しています。

実装されているメモリーを確認してください。

実行に必要なメモリーが不足しています。

(O)

実装されているメモリーを確認してください。

推奨メモリーを満たしていない場合、メモリーを追加してください。メモリー追加後も同じ現象が発生する場合、保守員に連絡してください。

付録 C.8 ユーザー管理に関するメッセージ (KASN6nnnn)

KASN6S001-E

ユーザー認証処理でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

ユーザー認証処理でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN60111-E

ユーザー名またはパスワードが不正です。

ユーザー名またはパスワードが不正です。

(O)

正しいユーザー名およびパスワードを入力してください。

KASN601FE-E

ログインユーザーが不正です。

ログインユーザーが不正です。

(O)

正しいログインユーザーでログインしてください。

KASN60211-E

ユーザー名またはパスワードが不正です。

ユーザー名またはパスワードが不正です。

(O)

正しいユーザー名およびパスワードを入力してください。

KASN60311-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN603FE-E

データベースの接続に失敗しました。

データベースが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

データベースの接続に失敗しました。

(O)

データベースが正常に動作しているか、確認してください。

KASN60411-E

JP1 Base 認証サーバの接続に失敗しました。

JP1 Base 認証サーバが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

JP1/Base 認証サーバの接続に失敗しました。

(O)

JP1/Base 認証サーバが正常に動作しているか確認してください。

KASN604FE-E

JP1 Base 認証サーバの接続に失敗しました。

JP1 Base 認証サーバが正常に動作しているか確認してください。(メッセージ ID)

JP1/Base 認証サーバの接続に失敗しました。

(O)

JP1/Base 認証サーバが正常に動作しているか確認してください。

KASN6S0FE-E

ユーザー認証処理でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。(エラーコード)

ユーザー認証処理でエラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

付録 C.9 イベントログに出力されるメッセージ (KASN7nnnn , KASNAAnnn)

メッセージについては、「3.10(2) サービス異常時にイベントログに出力されるメッセージ一覧」を参照してください。

付録 C.10 SVMCOM 制御に関するメッセージ (KASN7nnnn)

KASN701J9-E

サーバの動作モード取得処理でタイムアウトが発生しました。

Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。

シナリオ実行ウィザートの SVMCOM 制御のアクセスでタイムアウトが発生しました。

(O)

Hitachi Control Manager Service が正常に起動しているか確認してください。

KASN701JB-E

サーバの動作モード取得処理でタイムアウトが発生しました。

Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。

シナリオ実行ウィザートの SVMCOM 制御のアクセスでタイムアウトが発生しました。

(O)

Hitachi Control Manager Service が正常に起動しているか確認してください。

KASN701JC-E

サーバの動作モード取得処理でタイムアウトが発生しました。

Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。

シナリオ実行ウィザートの SVMCOM 制御のアクセスでタイムアウトが発生しました。

(O)

Hitachi Control Manager Service が正常に起動しているか確認してください。

KASN702J9-E

サーバの動作モード取得処理で通信エラーが発生しました。

Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。

シナリオ実行ウィザートで SVMCOM 制御との接続に失敗したか、または強制的にコネクションが切断されました。

(O)

Hitachi Control Manager Service が正常に起動しているか確認してください。

KASN702JB-E

サーバの動作モード取得処理で通信エラーが発生しました。

Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。

シナリオ実行ウィザードで SVMCOM 制御との接続に失敗したか、または強制的にコネクションが切断されました。

(O)

Hitachi Control Manager Service が正常に起動しているか確認してください。

KASN702JC-E

サーバの動作モード取得処理で通信エラーが発生しました。

Hitachi Control Manager Service が正常に動作しているか確認してください。

シナリオ実行ウィザードで SVMCOM 制御との接続に失敗したか、または強制的にコネクションが切断されました。

(O)

Hitachi Control Manager Service が正常に起動しているか確認してください。

KASN703J9-E

Hitachi Control Manager Service が初期化処理中です。

しばらく待ってから再度実行してください。

Hitachi Control Manager Service が初期化処理中です。

(O)

しばらく待ってからシナリオ実行ウィザードを再度実行してください。

KASN703JB-E

Hitachi Control Manager Service が初期化処理中です。

しばらく待ってから再度実行してください。

Hitachi Control Manager Service が初期化処理中です。

(O)

しばらく待ってからシナリオ実行ウィザードを再度実行してください。

KASN703JC-E

Hitachi Control Manager Service が初期化処理中です。

しばらく待ってから再度実行してください。

Hitachi Control Manager Service が初期化処理中です。

(O)

しばらく待ってからシナリオ実行ウィザードを再度実行してください。

KASN704J9-E

他の処理が実行中のためサーバの動作モードを取得できませんでした。

しばらく待ってから再度実行してください。

ほかの処理が実行中のため、サーバの動作モードを取得できませんでした。

(O)

しばらく待ってからシナリオ実行ウィザードを再度実行してください。

KASN704JB-E

他の処理が実行中のためサーバの動作モードを取得できませんでした。

しばらく待ってから再度実行してください。

ほかの処理が実行中のため、サーバの動作モードを取得できませんでした。

(O)

しばらく待ってからシナリオ実行ウィザードを再度実行してください。

KASN704JC-E

他の処理が実行中のためサーバの動作モードを取得できませんでした。

しばらく待ってから再度実行してください。

ほかの処理が実行中のため、サーバの動作モードを取得できませんでした。

(O)

しばらく待ってからシナリオ実行ウィザードを再度実行してください。

KASN705J9-E

サーバに対応する Blade Server Manager が見つかりません。

bsmcnfinfo コマンドで確認してください。

指定されたサーバに対応する BSM が見つかりませんでした。

(O)

bsmcnfinfo コマンドで、対応する BSM が登録されているか確認してください。

KASN705JB-E

サーバに対応する Blade Server Manager が見つかりません。

bsmcnfinfo コマンドで確認してください。

指定されたサーバに対応する BSM が見つかりませんでした。

(O)

bsmcnfinfo コマンドで、対応する BSM が登録されているか確認してください。

KASN705JC-E

サーバに対応する Blade Server Manager が見つかりません。

bsmcnfinfo コマンドで確認してください。

指定されたサーバに対応する BSM が見つかりませんでした。

(O)

bsmcnfinfo コマンドで、対応する BSM が登録されているか確認してください。

KASN706J9-E

サーバに対応する Blade Server Manager との接続に失敗しました。

Blade Server Manager の動作状態を確認してください。

指定されたサーバに対応する BSM と接続できませんでした。

(O)

対応する BSM が正常に機能しているか確認してください。

KASN706JB-E

サーバに対応する Blade Server Manager との接続に失敗しました。

Blade Server Manager の動作状態を確認してください。

指定されたサーバに対応する BSM と接続できませんでした。

(O)

対応する BSM が正常に機能しているか確認してください。

KASN706JC-E

サーバに対応する Blade Server Manager との接続に失敗しました。

Blade Server Manager の動作状態を確認してください。

指定されたサーバに対応する BSM と接続できませんでした。

(O)

対応する BSM が正常に機能しているか確認してください。

KASN707J9-E

サーバの内蔵 Gigabit Ether MAC アドレスが不正または一致していません。

サーバの動作状態を確認してください。

Control Manager 内の情報と、BSM の持つ MAC アドレスの情報が一致していません。

(O)

管理対象サーバのエージェントを再起動し、情報を更新してから再度実行してください。

KASN707JB-E

サーバの内蔵 Gigabit Ether MAC アドレスが不正または一致していません。

サーバの動作状態を確認してください。

Control Manager 内の情報と、BSM の持つ MAC アドレスの情報が一致していません。

(O)

管理対象サーバのエージェントを再起動し、情報を更新してから再度実行してください。

KASN707JC-E

サーバの内蔵 Gigabit Ether MAC アドレスが不正または一致していません。

サーバの動作状態を確認してください。

Control Manager 内の情報と、BSM の持つ MAC アドレスの情報が一致していません。

(O)

管理対象サーバのエージェントを再起動し、情報を更新してから再度実行してください。

KASN708J9-E

指定されたサーバの物理パーティションが未確定です。

指定されたサーバの物理パーティションを確定させてから、再度実行してください。

指定されたサーバの物理パーティションが未確定です。

(O)

管理対象サーバのパーティションを確定させてから再度実行してください。

KASN708JB-E

指定されたサーバの物理パーティションが未確定です。

指定されたサーバの物理パーティションを確定させてから、再度実行してください。

指定されたサーバの物理パーティションが未確定です。

(O)

管理対象サーバのパーティションを確定させてから再度実行してください。

KASN708JC-E

指定されたサーバの物理パーティションが未確定です。

指定されたサーバの物理パーティションを確定させてから、再度実行してください。

指定されたサーバの物理パーティションが未確定です。

(O)

管理対象サーバのパーティションを確定させてから再度実行してください。

KASN7S0J9-E

SVMCOM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。

SVCOM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN7S0JB-E

SVMCOM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。

SVCOM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

KASN7S0JC-E

SVMCOM 制御でエラーが発生しました。保守員に連絡してください。

SVCOM 制御で内部エラーが発生しました。

(O)

保守員に連絡してください。

付録 C.11 JP1 イベントに関するメッセージ (KASN9nnnn)

メッセージについては、「8.4.7 Control Manager が通知する JP1 イベントの詳細」を参照してください。

付録 D 障害対策

Control Manager は、障害が発生した場合に回復できるように、Control Manager が利用する DB をバックアップし、障害発生時にリストアできるコマンドを提供しています。ここでは、Control Manager が利用する DB をバックアップし、必要に応じてリストアするコマンドについて説明します。

注意

ここで説明するコマンドは障害の回復目的で使用するコマンドです。データの移行目的では利用できません。

付録 D.1 DB のバックアップを実行する

Control Manager で使用する DB のバックアップを作成するために、次のコマンドが用意されています。

形式

CMDBBackup

DB格納先ディレクトリ名（絶対パス）
バックアップファイル名（絶対パス）
バックアップ実行結果ファイル名（絶対パス）

機能

DB のバックアップファイルを作成します。

引数

DB 格納先ディレクトリ名（絶対パス）

インストール時に指定する DB 格納先ディレクトリ名を絶対パスで指定します。空白を含む場合は、絶対パス全体を「"」で囲んでください。

バックアップファイル名（絶対パス）

DB のバックアップデータを格納するファイル名を絶対パスで指定します。空白を含む場合は、絶対パス全体を「"」で囲んでください。

バックアップ実行結果ファイル名（絶対パス）

バックアップの実行結果を格納するファイル名を絶対パスで指定します。空白を含む場合は、絶対パス全体を「"」で囲んでください。

出力例

```

C:\¥Documents and Settings¥Administrator>cmdbbackup "c:\¥program
files¥hitachi¥db_
sc0¥area" "c:\¥temp¥backup002" "c:\¥temp¥backup002.txt"
4744 08:51:46 unt1 _rdm      KFPS01841-I HiRDB unit unt1 terminated. mode = NORM
AL
4744 08:51:46 unt1 _rdm      KFPS01850-I HiRDB system terminated. mode = NORMAL
9420 08:52:21 unt1 _rdm      KFPS05110-I HiRDB unit unt1 initialization process
complete
9420 08:52:21 unt1 _rdm      KFPS05219-I HiRDB initialization process complete;
only for pdrstr and pdcopy
5040 08:52:34 unt1 _pd0copy KFPR00754-I Pdcopy started
4732 08:52:38 unt1 0bcpy00 KFPR26109-I Backup completed, file=c:/temp/backup00
2
5040 08:52:34 unt1 _pd0copy KFPR26022-I Output result of pdcopy to c:/temp/back
up002.txt
5040 08:52:38 unt1 _pd0copy KFPR00756-I Pdcopy terminated, return code=0
=====
D Bのバックアップが正常終了しました。
=====
9420 08:52:38 unt1 _rdm      KFPS01841-I HiRDB unit unt1 terminated. mode = NORM
AL
9420 08:52:38 unt1 _rdm      KFPS01850-I HiRDB system terminated. mode = NORMAL
3804 08:53:27 unt1 _rdm      KFPS05210-I HiRDB system initialization process com
plete

```

注意事項

- このコマンドを実行する前に、Control Manager のサービス（表示名：Hitachi Control Manager）を停止してください。またバックアップの実行が完了したあとで、Control Manager のサービスを再実行してください。
- このコマンドは、クラスタ構成には対応していません。
- コマンド実行時に途中でキャンセルしないでください。エラーが発生する場合があります。
- コマンドの実行中にエラーメッセージが表示される場合がありますが、「D B バックアップが正常終了しました。」と表示されれば問題ありません。エラーメッセージは無視してください。

付録 D.2 DB のリストアを実行する

Control Manager で使用する DB の障害を回復するために次のコマンドが用意されています。

形式

CMDBRestore

DB格納先ディレクトリ名（絶対パス）
 バックアップファイル名（絶対パス）
 リストアファイル名（絶対パス）

機能

DB のバックアップをリストアして、DB の障害を回復します。

引数

DB 格納先ディレクトリ名 (絶対パス)

インストール時に指定する DB 格納先ディレクトリ名を絶対パスで指定します。
空白を含む場合は、絶対パス全体を「"」で囲んでください。

バックアップファイル名 (絶対パス)

DB のバックアップデータを格納するファイル名を絶対パスで指定します。空白を含む場合は、絶対パス全体を「"」で囲んでください。

リストア実行結果ファイル名 (絶対パス)

リストアの実行結果を格納するファイル名を絶対パスで指定します。空白を含む場合は、絶対パス全体を「"」で囲んでください。

出力例

```
C:\¥Documents and Settings¥Administrator>cmdbrestore "c:\¥program
files¥hitachi¥db
_sc0¥area" c:\¥temp¥backup002 c:\¥temp¥restore002.txt
604 08:59:57 unt1 KFPS05040-E Unable to start command due to HiRDB st
atus off line
8236 09:00:32 unt1 _rdm KFPS05110-I HiRDB unit unt1 initialization process
complete
8236 09:00:32 unt1 _rdm KFPS05219-I HiRDB initialization process complete;
only for pdrstr and pdcopy
1128 09:00:45 unt1 _pd0rstr KFPR00764-I Pdrstr started
4728 09:00:52 unt1 0rrstr0 KFPR00766-I Recovery of "RDMAST" ended normally
4728 09:00:52 unt1 0rrstr0 KFPR00766-I Recovery of "RDDIRT" ended normally
4728 09:00:52 unt1 0rrstr0 KFPR00766-I Recovery of "RDDICT" ended normally
4728 09:00:52 unt1 0rrstr0 KFPR00766-I Recovery of "DIC_RTN_SRC" ended normall
Y
4728 09:00:52 unt1 0rrstr0 KFPR00766-I Recovery of "DIC_RTN_OBJ" ended normall
Y
4728 09:00:52 unt1 0rrstr0 KFPR00766-I Recovery of "RDDATA10" ended normally
4728 09:00:52 unt1 0rrstr0 KFPR00766-I Recovery of "RDINDX10" ended normally
4728 09:00:52 unt1 0rrstr0 KFPR00766-I Recovery of "RLOB1" ended normally
1128 09:00:52 unt1 _pd0rstr KFPR26222-I Output result of pdrstr to c:/temp/rest
ore002.txt
1128 09:00:52 unt1 _pd0rstr KFPR00765-I Pdrstr terminated, return code=0
=====
DBのリストアが正常終了しました。
=====
8236 09:00:52 unt1 _rdm KFPS01841-I HiRDB unit unt1 terminated. mode = NORM
AL
8236 09:00:52 unt1 _rdm KFPS01850-I HiRDB system terminated. mode = NORMAL
3944 09:01:41 unt1 _rdm KFPS05210-I HiRDB system initialization process com
plete
7168 09:01:52 unt1 sds01 KFPH00130-I RDAREA released, RDAREA = "RDDICT"
7168 09:01:53 unt1 sds01 KFPH00130-I RDAREA released, RDAREA = "RDDIRT"
7168 09:01:53 unt1 sds01 KFPH00130-I RDAREA released, RDAREA = "DIC_RTN_SRC"
7168 09:01:53 unt1 sds01 KFPH00130-I RDAREA released, RDAREA = "DIC_RTN_OBJ"
7168 09:01:53 unt1 sds01 KFPH00130-I RDAREA released, RDAREA = "RDDATA10"
7168 09:01:53 unt1 sds01 KFPH00130-I RDAREA released, RDAREA = "RDINDX10"
7168 09:01:53 unt1 sds01 KFPH00130-I RDAREA released, RDAREA = "RLOB1"
7168 09:01:53 unt1 sds01 KFPH00110-I pdrels command completed
```

注意事項

- このコマンドを実行する前に、Control Manager のサービス（表示名：Hitachi Control Manager）を停止してください。またリストアの実行が完了したあとで、Control Manager のサービスを再実行してください。
- このコマンドは、クラスタ構成には対応していません。
- コマンド実行時に途中でキャンセルしないでください。エラーが発生する場合があります。
- コマンドの実行中にエラーメッセージが表示される場合がありますが、「DB のリストアが正常終了しました。」と表示されれば問題ありません。エラーメッセージは無視してください。
- リストアする Control Manager のインストールパスの設定は、バックアップファイル取得時の Control Manager の設定と同一にしてください。

付録 E 用語解説

(英字)

Basic モード

日立サーバ仮想化機構が稼働していないサーバモジュールです。

BSM

JP1/ServerConductor/Blade Server Manager の略で、BladeServer に対する運用管理を一括して実行するためのソフトウェアです。サーバシャーシの資産情報を一元管理したり、障害管理、電源制御などの運用操作をまとめて実行したりできます。

Control Manager

JP1/ServerConductor で構築されたシステムを統合運用管理するためのソフトウェアです。JP1/IM - CM や JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携するための基盤機能も提供します。

Cosminexus Application Server

アプリケーションサーバを構築・運用するためのソフトウェアです。

DPM

JP1/ServerConductor/Deployment Manager の略で、Server Manager または BSM で管理している複数の管理対象サーバに対して、デプロイメント制御を実行するためのソフトウェアです。OS を含めたソフトウェアのインストールやアップデートを実行したり、障害時に備えてハードディスク内に格納されているデータをバックアップ・リストアしたりする作業を実行できます。

DPM シナリオ

OS をインストールするコマンドやサーバやアプリケーションの設定をするスクリプトファイルを組み合わせて実行順に並べることによって、システム運用の手順を定義したものです。DPM で作成します。

なお、マニュアル「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」では「シナリオ」と呼んでいますが、このマニュアルでは「DPM シナリオ」と呼びます。

JP1/AJS2

業務を自動的に運用するためのソフトウェアです。処理を順序づけて定期的に行ったり、特定の事象が発生したときに処理を開始したりできます。

JP1/AJS2 - Scenario Operation

システム設計者が実行している運用手順やノウハウをシナリオとして定義するソフトウェアです。JP1/AJS2 - Manager および JP1/AJS2 - Agent と組み合わせて使用することで、作成したシナリオを自動実行できます。

Control Manager では、JP1/AJS2 - Scenario Operation で実行するためのシナリオテンプレートを提供しています。

JP1/Base

イベントサービス機能を提供するソフトウェアです。サービスの起動順序を制御したり、JP1 イベ

ントを送受信したりできます。また、JP1/Base は、JP1/IM や JP1/AJS2 の前提ソフトウェアです。JP1/IM・CM や JP1/AJS2・Scenario Operation と連携する場合、Control Manager をインストールしたホストに JP1/Base をインストールする必要があります。

JP1/IM - CM

業務システムを構成する各種リソースやシステム管理についての情報を集約して管理する機能を持つソフトウェアです。Control Manager と JP1/IM・CM を連携することで、JP1/ServerConductor の管理対象サーバの情報を JP1/IM・CM でまとめて管理できるようになります。

JP1/IM - M または JP1/IM - CC

JP1/IM・CM の前提ソフトウェアであり、統合コンソールのマネージャー機能を提供するプログラムです。システムで発生した事象を JP1 イベントによって集中管理することで、システムを統合管理します。

Control Manager は JP1/IM・M または JP1/IM・CC に JP1 イベントを通知しています。

JP1/IM - View

JP1/IM の監視・操作画面を提供するためのプログラムです。JP1/IM・CM に接続して、システム構成の管理・運用作業をします。

JP1/ServerConductor

ネットワーク上のシステムの資産管理、運用管理、障害管理などのシステム管理作業の効率化および自動化を実現することで、システム管理に掛かるコストや負荷を軽減しながら、安定したシステム管理を実現するためのソフトウェア群です。Control Manager、Server Manager、BSM および DPM が含まれます。

JP1 イベント

JP1 が、統合管理するシステムで発生した事象を管理するための情報です。JP1 イベントは、JP1/Base のイベントサービス機能で管理され、データベースに記録されています。Control Manager の管理対象サーバ内で発生した事象は、JP1/Base を経由して JP1/IM・CM に通知されます。

Link & Launch

JP1/IM・View から JP1/IM・CM と連携するプログラムを起動する機能です。JP1/IM・CM を基点としてプラットフォームの設定、ハードウェアの設定などができます。

LPAR

日立サーバ仮想化機構で仮想化されたサーバ（サーバモジュール）を構成する論理パーティションのことです。

LPAR モード

日立サーバ仮想化機構で仮想化されたサーバが稼働する状態のことです。

LPAR モードの物理パーティション

日立サーバ仮想化機構が稼働する物理パーティションのことです。

MSCS

Microsoft Cluster Service の略です。Windows に組み込まれているクラスタ機能の一つです。デバイスやリソースを共有し、クラスタ内のサーバに障害が発生した場合に、代替サーバに処理を引き

続きます。

Control Manager はこの MSCS に対応し、システムの高可用性を実現します。

N+1 コールドスタンバイ

サーバモジュール障害が発生した場合に、予備サーバモジュールにパスを切り替える、BSM Plus の機能です。現用サーバモジュールと障害時に処理を引き継ぐ予備サーバモジュールが 1:1 のフェイルオーバーとは異なり、複数の現用サーバモジュールが一つの予備サーバモジュールを共有して処理を引き継ぐことができます。この機能によって、サーバモジュールの交換などの回復作業を待たないで業務を再開することができます。

SAN

ディスク装置およびテープ装置などのストレージとサーバ間を接続する専用の高速ネットワークです。ストレージへの高速アクセス、一元管理、データ共用、データコピーおよびバックアップなどのシステム性能、拡張性、および耐障害性を高めます。

SAN ブート

サーバ筐体内部のハードディスクではなく外部の SANRISE シリーズに、OS やソフトウェアなど業務に必要なソフトウェアを格納しておき、そこから業務システムを起動させることです。

Server Manager

JPI/ServerConductor/Server Manager の略で、複数の管理対象サーバに対する運用管理を一括して実行するためのソフトウェアです。さまざまなタイプのマシンで動作するサーバの資産情報を一元管理したり、障害管理、電源制御などの運用操作をまとめて実行したりできます。

Web コンソール

Control Manager による管理対象サーバの監視および管理対象サーバへのデプロイメント操作を実行するための画面です。

(ア行)

アプリケーションサーバ

業務アプリケーションの実行基盤となるサーバです。Cosminexus Application Server によって構築できます。

Control Manager で実行できる DPM のコマンドを利用すると、アプリケーションサーバのスケールインやスケールアウトが実行できます。

(カ行)

管理対象サーバ

Control Manager による運用管理およびデプロイメント管理の対象になるサーバの総称です。

ServerConductor/Agent をインストールしておく必要があります。

構成情報

管理対象サーバのハードウェア構成やソフトウェア構成などの情報です。

次の情報が該当します。

- サーバ情報
- CPU 情報
- メモリ情報
- ディスク容量
- SVP 情報
- OS 種類
- CPU ブレード情報
- サーバ構成
- 装置情報
- N+1 コールドスタンバイ

(サ行)

サーバパック

JP1/IM・CM でのリソースパックに含まれる資源（サーバ、ディスク、ネットワーク装置）のうちサーバだけを管理の対象とする Control Manager での単位です。

シナリオ

システム運用の手順を定義したファイルです。OS インストールのコマンドを実行する手順、およびコマンドを「どのサーバに実行するか」といった変動する運用環境（シナリオ変数）を定義しています。シナリオを実行することで、システム運用の作業を自動的に実行できます。シナリオは、JP1/AJS2・Scenario Operation で作成します。

シナリオテンプレート

Control Manager が JP1/AJS2・Scenario Operation に提供している、シナリオの部品となるファイルのことをいいます。シナリオテンプレートには、システム運用で利用するコマンドを実行する手順がすでに定義されているため、あとはシナリオ変数を定義するだけでシナリオを作成できます。

シナリオ変数

シナリオに定義された変数です。「どのサーバに実行するか」といった変動する運用環境のことを指します。

スケールアウト

システム内で同じ処理を実行するアプリケーションサーバの数を増やして、システムとしての処理性能を上げることです。
SMP 構成管理機能では、システムの負荷を分散するために同じ処理を実行するパーティションの数を増やすことを示します。

スケールアップ

システム内で同じ処理を実行するアプリケーションサーバの CPU やメモリーなどの機能を強化して、システムとしての処理性能を上げることです。
SMP 構成管理機能では、パーティションにサーバモジュールを追加することで高い処理能力を維持することを示します。

スケールイン

処理要件の変更などに応じてシステム内で同じ処理を実行しているアプリケーションサーバの数を

減らして、規模を縮小することです。

(タ行)

デプロイメント制御

管理対象サーバを利用可能な状態にして制御することです。

DPM を利用したデプロイメント管理では、次の操作を一括して実行できます。

- OS を含めたソフトウェアのインストール
- サービスパックまたはホットフィックスの適用
- ハードディスク内に格納されているデータのバックアップとリストア

動的情報

管理対象サーバの筐体、電源、CPU およびメモリのその時点での状態を示す情報です。

次の情報が該当します。

- ServerConductor/Agent の状態
- 筐体の温度およびファンの状態
- 電源ユニットおよび電源の状態
- CPU の温度およびファンの状態
- メモリの状態

(ハ行)

パーティション

電源を ON/OFF にする単位のことです。IA32 サーバモジュールでは、ブレード一枚がパーティションに相当し、IPF サーバモジュールでは、SMP 構成の一単位がパーティションに相当します。

パーティション確定

Control Manager で管理するサーバモジュールが登録された状態のことです。BSM のコンソールサービスから [サーバシャーシインベントリ] ウィンドウの [パーティション情報ステータス] に「Configuration validate(0x03)」が表示された場合が、パーティション確定を示します。

パーティション未確定

Control Manager に登録されている管理対象サーバを管理中に、パーティションが削除されたり、サーバモジュールが抜去されたりした状態のことです。BSM のコンソールサービスから [サーバシャーシインベントリ] ウィンドウの [パーティション情報ステータス] に次の内容が表示された場合が、パーティション未確定を示します。

- Unknown Status(0x00)
- Data Invalidated & 電源投入抑止中 (0x02)

フェイルオーバー

サーバに障害が発生した場合に、代替サーバが処理やデータを引き継ぐ機能のことです。

フェイルバック

障害が発生していたサーバが障害から回復したときに、障害から回復したサーバの状態を稼働状態にして、サーバを切り替える機能です。

(ラ行)

リソースパック

ユーザーの業務に合わせてユーザーの資源（サーバ、ディスク、ネットワーク装置）を割り当てる JP1/IM・CM の機能です。

ロードバランサ

アプリケーションサーバに対する負荷を分散する機能を持つ装置です。

ローリングアップデート

動作中のアプリケーションサーバに対してサービスパックやホットフィックスを適用してアップデートするときに、同じ処理を実行しているアプリケーションサーバを同時にやめないで順番に停止してアップデートしていくことです。

索引

数字

00011800 の詳細 186
00011801 の詳細 187
00011802 の詳細 188
00011803 の詳細 189
00011804 の詳細 190
00011805 の詳細 191
00011806 の詳細 192
00011807 の詳細 193
00011808 の詳細 194
00011809 の詳細 195
0001180A の詳細 196
0001180B の詳細 197
0001180C の詳細 198
0001180E の詳細 199
0001180F の詳細 200
00011813 の詳細 201
00011814 の詳細 202
00011815 の詳細 203
00011816 の詳細 204
00011818 の詳細 205
00011819 の詳細 206
0001181D の詳細 207
0001181E の詳細 208
0001181F の詳細 209
00011820 の詳細 210
00011821 の詳細 211
00011822 の詳細 212
00011823 の詳細 213
00011824 の詳細 214
00011825 の詳細 215
00011826 の詳細 216
00011827 の詳細 217
00011828 の詳細 218

A

activate_np_server 255
attach_disk 255

B

backup 255
Basic モード〔用語解説〕 475
BSM〔用語解説〕 475
bsmcnfinfo -add 51
bsmcnfinfo -chg 56
bsmcnfinfo -del 53
bsmcnfinfo -list 54
bsmcnfinfo コマンド 51
BSM Plus と連携した SMP 構成管理 151
BSM または Server Manager の削除 53
BSM または Server Manager の設定 51
BSM または Server Manager の設定情報一
覧の表示 54
BSM または Server Manager の設定情報の
変更 55
BSM または Server Manager の登録 51
BSM または Server Manager の変更 54
BSM 連携用ログ 349

C

CMDBBackup 471
CMDBRestore 472
Control Manager〔用語解説〕 475
Control Manager が JP1/IM - CM に提供す
る機能 165
Control Manager が JP1/IM - M または JP1/
IM - CC へ通知する JP1 イベント一覧 176
Control Manager が通知する JP1 イベント
の詳細 186
Control Manager が提供するシナリオテン
プレート一覧 254
Control Managerで使用するサービスの一覧
70
Control Manager で使用するファイル、ディ
レクトリ一覧およびプロセス一覧 354
Control Manager で使用するファイルおよび
ディレクトリ一覧 354
Control Manager のインストール 25

Control Manager の特長 3
Cosminexus Application Server〔用語解説〕
475

D

DB のバックアップ 471
DB のリストア 472
deploy 254
detach_disk 255
DPM〔用語解説〕475
dpmcnfinfo -add 58
dpmcnfinfo -chg 63
dpmcnfinfo -del 60
dpmcnfinfo -list 61
dpmcnfinfo コマンド 58
DPM シナリオ〔用語解説〕475
DPM シナリオの実行 237
DPM シナリオの種類 225
DPM と連携したデプロイメント制御 222
DPM と連携したデプロイメント制御の概念
図 223
DPM の削除 60
DPM の設定 58
DPM の設定情報一覧の表示 61
DPM の設定情報の変更 62
DPM の登録 58
DPM の変更 61
DPM 連携時のエラーコードと対処方法 245

G

getpropertyF 254
getslotinfoF 255

J

JP1/AJS2〔用語解説〕475
JP1/AJS2 - Scenario Operation〔用語解説〕
475
JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携した
システムの自動運用 249
JP1/Base〔用語解説〕475
JP1/IM - CM〔用語解説〕476

JP1/IM - CM からの Control Manager の起
動 168
JP1/IM - CM からの Control Manager の終
了 169
JP1/IM - CM からの起動と終了 168
JP1/IM - CM と Control Manager の連携
164
JP1/IM - CM との連携の概要 164
JP1/IM - CM と連携した管理対象サーバの情
報管理 163
JP1/IM - M または JP1/IM - CC〔用語解説〕
476
JP1/IM - M または JP1/IM - CC の設定 67
JP1/IM - M または JP1/IM - CC へ JP1 イベ
ントを通知する 174
JP1/IM - View 165
JP1/IM - View〔用語解説〕476
JP1/IM - View の設定 67
JP1/ServerConductor〔用語解説〕476
JP1 イベント 13, 174
JP1 イベント〔用語解説〕476
JP1 イベントサービスが停止状態から復旧し
た場合 182
JP1 イベントサービスとの接続再開イベント
182
JP1 イベント通知に関する注意事項 182
JP1 イベントの属性 183
JP1 イベントを JP1/IM - M または JP1/IM -
CC へ通知する 175
JP1 イベントをフィルタリングする 179
JP1 ユーザーの操作権限の設定 66
JP1 連携用ログ 349
jscmattachdisk 282
jscmbackup 284
jscmdeploy 286
jscmdetachdisk 288
jscmgetproperty 292
jscmgetslotinfo 300
jscmnpactivate 305
jscmnprecover 308
jscmnpswitch 313
jcmrestore 332
jcmssmp -del (パーティションの削除) 317

jscmsmp -get (パーティション詳細情報の取得) 319
 jscmsmp -new (パーティションの作成) 326
 jscmstartserver 336
 jscmstate 338
 jscmstopos 341
 jscmstopserver 343

K

KASN1nnnn 362
 KASN2nnnn 387
 KASN3nnnn 438
 KASN4nnnn 441
 KASN5nnnn 452
 KASN6nnnn 463
 KASN7nnnn 465
 KASN7nnnn , KASNAnnn 465
 KASN9nnnn 470

L

Link & Launch [用語解説] 476
 LPAR [用語解説] 476
 LPAR 上で稼働しているサーバおよび LPAR
 モードの物理パーティションにシナリオを実
 行するときの制限事項 256
 LPAR 上で稼働しているサーバの削除 149
 LPAR モード [用語解説] 476
 LPAR モードの物理パーティション [用語解
 説] 476

M

Microsoft Cluster Service 6, 76
 MSCS 76
 MSCS [用語解説] 476

N

N+1/N+M コールドスタンバイでの制限事項
 146
 N+1 コールドスタンバイ [用語解説] 477

O

OS クリアインストール (Windows の場合)
 261
 OS ごとの運用コマンド一覧 275
 OS のクリアインストール 225
 OS のクリアインストールの流れ 227

R

reboot 255
 recover_np_server 255
 restore 255

S

SAN [用語解説] 477
 SAN ブート [用語解説] 477
 SAN ブート構成のシステムに対する DPM
 シナリオの実行 223
 Server Manager [用語解説] 477
 smp_del 255
 smp_getF 255
 smp_new 255
 SMP 構成管理機能で使用するコマンド 155
 SMP 構成管理機能の概要 152
 start_server 254
 stateF 254
 stop_os 254
 stop_server 254
 SVP ボード 167
 svrenfinfo コマンド 46
 switch_np_server 255

U

userenfinfo -chg 32

W

Web コンソール [用語解説] 477

あ

アダプタコマンド設定ファイル 66
 アプリケーションサーバ [用語解説] 477

アンインストールする前の確認事項 33

い

イベントフィルタリングの設定方法 181
 イベントレベルの種類 180
 インストール後のサーバとアプリケーション
 設定の流れ 230
 インストールされるプログラム 25
 インストールの種類 25
 インストール前の確認事項 25
 インストールまたはアンインストールでエ
 ラーが発生した場合の対処方法 36

う

運用コマンド 269
 運用コマンド一覧 273
 運用コマンドおよびコマンドに対応した
 DPM シナリオの制限事項 147
 運用コマンド使用時の注意事項 280

か

各部の名称 102
 仮想化されたサーバを管理する場合の制限事
 項 146
 管理構成 20
 管理構成の全体像 (JP1/IM - CM および
 JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携しな
 い場合) 21
 管理構成の全体像 (JP1/IM - CM または
 JP1/AJS2 - Scenario Operation と連携する
 場合) 23
 管理対象サーバ〔用語解説〕 477
 管理対象サーバが日立アドバンストサーバ
 HA8000 の場合 108
 管理対象サーバに関する注意点 145
 管理対象サーバの一覧を表示する (JP1/IM -
 CM と連携した場合) 170
 管理対象サーバの削除 49
 管理対象サーバの情報管理 111
 管理対象サーバの情報更新 112
 管理対象サーバの情報削除契機 140
 管理対象サーバの情報の再取得 117

管理対象サーバの情報表示 104
 管理対象サーバの設定 46
 管理対象サーバの電源制御 143
 管理対象サーバの登録 46

く

クラスタシステム

DPM, JP1/IM - CM および JP1/
 AJS2 - Scenario Operation と連携す
 る場合の注意事項 95
 インストールおよびセットアップの流
 れ 80
 インストール先 80
 インストール前の確認事項 79
 クラスタシステム運用時の注意事項
 95
 クラスタシステムとは 76
 クラスタシステムの概要 76
 クラスタシステムの構築 75
 クラスタシステムへの Control
 Manager のインストールとセット
 アップ 79
 系切り替えサービスの追加登録 90
 現用系 (実行系) ノード環境への
 Control Manager のインストール 80
 フェイルオーバーまたはフェイルバッ
 ク実行後に引き継がれない処理と対処
 方法 96
 フェイルオーバーまたはフェイルバッ
 ク実行時に, BSM のサーバ情報が更
 新された場合の対処方法 96
 予備系 (待機系) ノード環境への
 Control Manager のインストール 88
 論理 IP アドレスを変更または削除す
 る場合の注意事項 95

け

現用系 77

こ

更新インストール 28
 構成情報〔用語解説〕 477

構成情報の提供 166
 コマンドの記述形式 271
 コマンドのデータ形式 272
 コマンドの同時実行可否一覧 278
 コンソール連携 165

さ

サーバ種別の切り替え 104
 サーバとアプリケーションの設定 264
 サーバパック 166
 サーバパック〔用語解説〕478
 サーバパック（リソースパック）を指定して表示する 171
 サーバを指定して表示する 170
 サービスパック / ホットフィックス / Linux
 パッチファイルの適用の流れ 229
 サービスパック / ホットフィックスの適用
 263
 削除される管理対象サーバの静的情報 140

し

システムの監視 165
 実行系 77
 シナリオ〔用語解説〕478
 シナリオテンプレート 250
 シナリオテンプレート〔用語解説〕478
 シナリオテンプレート定義ファイル 257
 シナリオテンプレート定義ファイルの格納先
 258
 シナリオテンプレート定義ファイルを JP1/
 AJS2 - Scenario Operation Manager に組み
 込むまでの流れ 257
 シナリオテンプレートの定義ファイル 257
 シナリオ変数〔用語解説〕478
 取得できる管理対象サーバの静的情報 113
 詳細情報の表示 106
 詳細メニューの実行 110
 情報更新および BSM との接続監視 129
 情報更新処理結果の通知 118
 情報収集処理のリトライ 137
 新規インストール 26
 シングルサインオン 168

す

スケールアウト 152, 251
 スケールアウト〔用語解説〕478
 スケールアウトとスケールアップ 156
 スケールアウトとスケールアップの自動化
 161
 スケールアウトの流れ 156
 スケールアップ 152
 スケールアップ〔用語解説〕478
 スケールアップの流れ 158
 スケールイン 251
 スケールイン〔用語解説〕478

せ

セットアップの流れ 20
 セットアップパラメータファイル 261
 前提環境 18
 前提ソフトウェア 18
 前提ハードウェア 18

そ

その他の JP1 製品と連携する場合の設定 66

た

待機系 77
 タイマ値の設定 244

て

ディスク複製による OS インストールの流れ
 232
 ディスク割り当ての一時解除 223
 ディスク割り当ての復帰 223
 デプロイメント制御 166
 デプロイメント制御〔用語解説〕479
 デプロイを実行する場合のシナリオ実行ま
 での流れ 260
 電源制御, ディスク割り当て, N+1/N+M
 コールドスタンバイおよび SMP 構成管理機
 能を実行する場合のシナリオ実行ま
 での流れ 259
 電源制御での制限事項 146

と

動的情報〔用語解説〕 479
動的情報の取得での制限事項 146
トラブルシューティング 345
トラブルへの対処方法 351
トレース出力レベル 349
トレース出力レベルの一覧 349
トレース出力レベルの変更方法 350
トレースログの採取 349
トレースログの採取方法 349

は

パーティション〔用語解説〕 479
パーティション確定〔用語解説〕 479
パーティション未確定〔用語解説〕 479
パスワードの変更 30
バックアップの流れ 231
バックアップを実行する場合のシナリオ実行
までの流れ 265

ふ

フィルタリング 174
フェイルオーバー 76
フェイルオーバー〔用語解説〕 479
フェイルバック 76
フェイルバック〔用語解説〕 479
プロセス一覧 355

ほ

ポート番号一覧 357
ポート番号の変更 357
ポート番号変更（Cosminexus のポート番
号） 358
ポート番号変更（DB のポート番号） 358
ポート番号変更（Hitachi Control Manager
Service のポート番号） 358

め

メッセージ 361

よ

用語解説 475
予備系 77

り

リストアの流れ 231
リストアを実行する場合のシナリオ実行ま
での流れ 266
リソースパック 165
リソースパック〔用語解説〕 480

ろ

ロードバランサ〔用語解説〕 480
ローリングアップデート 251
ローリングアップデート〔用語解説〕 480
ログアウト 101
ログイン 100
論理 IP アドレス 77

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しています。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

マニュアル一覧	日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ、マニュアル名称、資料番号のいずれかから検索できます。
CD-ROMマニュアル	日立ソフトウェアマニュアルと製品群別CD-ROMマニュアルの仕様について記載しています。
マニュアルのご購入	マニュアルご購入時のお申し込み方法を記載しています。
オンラインマニュアル	一部製品のマニュアルをインターネットで公開しています。
サポートサービス	ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開サービスを記載しています。
ご意見・お問い合わせ	マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。

2. インターネットでのマニュアル公開

2種類のマニュアル公開サービスを実施しています。

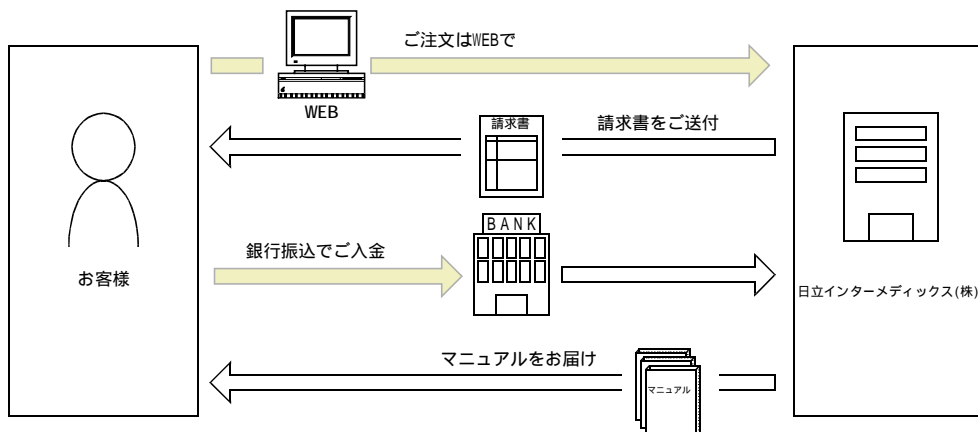
(1) マニュアル情報ホームページ「オンラインマニュアル」での公開

製品をよりご理解いただくためのご参考として、一部製品のマニュアルを公開しています。

(2) ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開

ソフトウェアサポートサービスご契約のお客様向けにマニュアルを公開しています。公開しているマニュアルの一覧、本サービスの対象となる契約の種別などはマニュアル情報ホームページの「サポートサービス」をご参照ください。

3. マニュアルのご注文



マニュアル情報ホームページの「マニュアルのご購入」にアクセスし、お申し込み方法をご確認のうえ WEB からご注文ください。ご注文先は日立インターメディックス(株)となります。

ご注文いただいたマニュアルについて請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。

入金確認後 7 日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。